

# 東田中遺跡 中津川遺跡 2

一般国道6号千代田石岡バイパス  
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)  
事業地内埋蔵文化財調査報告書8

茨城県教育財団文化財調査報告第407集

中東  
津田  
川中  
遺跡  
2跡

公益財団法人茨城県教育財団

平成 28 年 3 月

国土交通省関東地方整備局  
常陸河川国道事務所  
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第407集

ひがし た なか  
東 田 中 遺 跡  
なか つ がわ  
中 津 川 遺 跡 2

一般国道6号千代田石岡バイパス  
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)  
事業地内埋蔵文化財調査報告書8

平成28年3月

国土交通省関東地方整備局  
常陸河川国道事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



縄文時代中期中葉土器集合



古墳時代前期土器集合

## 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所による一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業に伴って実施した、茨城県石岡市東田中遺跡及び中津川遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代中期及び古墳時代前・後期の集落の様子や室町時代の石塔を埋納した遺構などが明らかとなりました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料となると思われます。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、石岡市教育委員会はじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成28年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 鈴木 欣一



# 例 言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成23・25年度に発掘調査を実施した、茨城県石岡市大字東田中字宮脇香取境外857の1番地ほかに所在する東田中遺跡、及び茨城県石岡市大字中津川字下富田100の1番地ほかに所在する中津川遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

東田中遺跡	調査	平成23年7月1日～平成23年11月30日	(2・3区)
		平成25年10月1日～平成26年3月31日	(1・4区)
	整理	平成26年7月1日～平成27年3月31日	
		平成27年6月1日～平成27年8月31日	
中津川遺跡	調査	平成26年2月1日～平成26年2月28日	
	整理	平成27年6月1日～平成27年8月31日	

3 発掘調査は、平成23年度が調査課長櫻村宣行、平成25年度が調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成23年度

首席調査員兼班長	稲田義弘
首席調査員	綿引英樹
主任調査員	舟橋理
調査員	田村雅樹

平成25年度

首席調査員兼班長	綿引英樹
次席調査員	小川貴行
調査員	櫻井二郎

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長後藤一成のもと、以下の者が担当した。

平成26年度

次席調査員	木村光輝
調査員	海老澤稔

平成27年度

調査員	海老澤稔
-----	------

5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

次席調査員	木村光輝	第3章第3節2(1)壓穴建物跡(古墳時代後期)
調査員	海老澤稔	第1章～第3章第3節2(1)壓穴建物跡(古墳時代前期) 第3章第3節2(2)～第4章

6 本書の作成にあたり、縄文土器の地相については、日本考古学協会の齋藤弘道氏にご指導いただいた。

7 当遺跡から出土した板状鉄製品の保存処理については、株式会社吉田生物研究所に委託した。

# 凡 例

- 1 両遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、東田中遺跡がX = + 19.440 m, Y = + 41.960 mの交点、中津川遺跡がX = + 19.280 m, Y = + 40.920 mの交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。





大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j, 西から東へ1, 2, 3, …0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SA - 柱穴 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SF - 道路跡 SH - 方形竪穴遺構  
SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 SX - 整地遺構 SY - 炭焼窯跡  
遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 T - 瓦 TP - 拓本記録土器  
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉		炉・火床面・繊維土器断面						
	貝層・竈部材・粘土範囲・炭化材・黒色処理		煤・油煙・柱あたり						
●	土器	○	土製品	□	石器・石製品	△	金属製品	----	硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位はm, cm, gで示した。なお、現存値は( )を、推定値は[ ]を付して示した。
- (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- (3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

- 7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したものと及び欠番としたものは以下のとおりである。

東田中遺跡

変更 SI 31 → 第1号竪穴遺構, SI 27 → 第2号竪穴遺構, SK309 → SH 1, SK333 → SY 1, SK346 →  
SX 1 P14, SK347 → SX 1 P 9, SK348 → SX 1 P12, SK284 → SA 2 P 1, SK285 → SA 2 P 2,  
SK156 → SA 2 P 3, SK168 → SA 2 P 4, SK175 → SA 2 P 5, SK283 → SA 3 P 1, SK165

→SA 3 P 2, SK173→SA 3 P 3, SK177→SA 3 P 4, SK160→SA 4 P 1, SK164→SA 4 P 2,  
SK166→SA 4 P 3, SK174→SA 4 P 4·SA 6 P 2, SK167→SA 4 P 5, SK179→SA 4 P 6,  
SK74→SA 5 P 1, SK123→SA 5 P 8, SK176→SA 6 P 1

欠番 SI 30, SK15·233·321·334, HG 2, SM 1, SX 3

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	

東田中遺跡・中津川遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 位置と地形	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 東田中遺跡	12
第1節 調査の概要	12
第2節 基本層序	12
第3節 遺構と遺物	14
1 縄文時代の遺構と遺物	14
(1) 竪穴建物跡	14
(2) 竪穴遺構	45
(3) 土坑	47
(4) 遺物包含層	135
2 古墳時代の遺構と遺物	142
(1) 竪穴建物跡	142
(2) 掘立柱建物跡	189
(3) 竪穴遺構	192
(4) 土坑	194
3 平安時代の遺構と遺物	202
(1) 竪穴建物跡	202
(2) 土器集中地点	205
4 鎌倉・室町時代の遺構と遺物	206
(1) 整地遺構	206
(2) 方形竪穴遺構	219
(3) 土坑	220
5 江戸時代以降の遺構と遺物	229
(1) 土坑	229

(2) 道路跡	230
(3) 溝跡	232
(4) 柱穴列	237
6 その他の遺構と遺物	238
(1) 炭焼窯跡	238
(2) 土坑	240
(3) 柱穴列	241
第4節 まとめ	246
第4章 中津川遺跡	261
第1節 調査の概要	261
第2節 基本層序	261
第3節 遺構と遺物	264
1 縄文時代の遺構と遺物	264
土坑	264
2 江戸時代以降の遺構と遺物	264
(1) 道路跡	264
(2) 溝跡	265
3 その他の遺構と遺物	266
(1) 土坑	266
(2) 溝跡	267
(3) 遺構外出土遺物	268
第4節 まとめ	270
写真図版	PL 1～PL38
抄録	
付図 (東田中遺跡遺構全体図)	

## ひがしななか なかつがわ 東田中遺跡・中津川遺跡の概要

### 遺跡の位置と調査の目的

東田中遺跡と中津川遺跡は、石岡市の南東部に位置し、山王川を望む標高 20～25 m の台地中央部から縁辺部にかけて立地しています。一般国道 6 号千代田石岡バイパス建設事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が、平成 23・25 年度に発掘調査を行いました。



### 東田中遺跡の調査と成果

今回の調査で、縄文時代の竪穴建物跡 7 棟、竪穴遺構 1 基、地点貝塚 1 か所、土坑 54 基、遺物包含層 1 か所、古墳時代の竪穴建物跡 12 棟、掘立柱建物跡 3 棟、竪穴遺構 1 基、土坑 10 基、平安時代の竪穴建物跡 2 棟、土器集中地点 1 か所、鎌倉・室町時代の整地遺構 1 か所、方形竪穴遺構 1 基、土坑 16 基、江戸時代以降の道路跡 2 条、溝跡 7 条、柱穴列 1 条などを確認しました。



第 1 号整地遺構 調査状況



調査区全景 北西上空から



袋状土坑から出土した土器（第3号土坑）



割られた状態で出土した土器（第18号竪穴建物跡）



有段式の竪穴建物跡（第15号竪穴建物跡）

縄文時代中期の竪穴建物跡や貯蔵穴と考えられている土坑から、多量の土器が出土しました。これらの土器にはダイナミックな文様が見られ、把手や突起を厚めの隆帯で表現しています。古墳時代前期の竪穴建物跡からは、割られた状態で有段口縁の大形壺が4個体も出土しているのが注目されます。この事例は、建物廃絶時の祭祀行為を示していると思われます。室町時代末期の整地された範囲内の土坑からは、宝篋印塔や五輪塔の部材がまとまって出土しました。当遺跡の人々が先祖を供養した遺構と考えられます。

## 中津川遺跡の調査と成果

今回の調査で、縄文時代の土坑1基、江戸時代以降の道路跡1条、溝跡1条などを確認しました。当調査区は、縄文土器などは出土しましたが、竪穴建物跡などが確認されなかったことから、集落の周辺地域と考えられます。

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所は、かすみがうら市及び石岡市において一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）の道路整備を進めている。

平成10年11月12日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに一般国道6号千代田石岡バイパス事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、路線予定地内の東田中地区について平成11年2月8日～3月3日までの間に現地踏査を、平成12年3月14日、7月18・19日、8月9・11日、10月24日、平成23年1月5～7日、7月1・4日、8月16日及び10月14日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成12年11月21日、平成23年3月1日及び11月14日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに事業地内に東田中遺跡と中津川遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成15年3月10日及び平成25年1月23日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成15年3月12日及び平成25年1月30日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成23年3月3日及び平成25年2月23日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに一般国道6号千代田石岡バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成23年3月22日及び平成25年3月4日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに東田中遺跡と中津川遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成23年7月1日から11月30日まで、及び平成25年10月1日から平成26年3月31日まで東田中遺跡、平成26年2月1日から2月28日まで中津川遺跡の発掘調査をそれぞれ実施した。



## 第2節 調査経過

東田中遺跡の調査は、平成23年7月1日から11月30日までの5か月間と平成25年10月1日から平成26年3月31日までの6か月間を実施した。中津川遺跡の調査は、平成26年2月1日から2月28日までの1か月間実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成23年度

工程	期間	7月	8月	9月	10月	11月
調査準備	調査準備	■				
遺構調査	遺構調査		■	■	■	■
遺物写真	遺物写真		■	■	■	■
撤収	撤収					■

平成25年度

工程	期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備	調査準備	■					
遺構調査	遺構調査		■	■	■	■	■
遺物写真	遺物写真		■	■	■	■	■
撤収	撤収					■	■

■ 東田中遺跡 ■ 中津川遺跡

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

東田中遺跡は、茨城県石岡市大字東田中字宮脇香取境外857の1番地ほか、中津川遺跡は、茨城県石岡市大字中津川字下富田100の1番地ほか

に所在している。石岡市域の地勢は、霞ヶ浦の北西、県中央部に広がる洪積台地を主体としている。筑波山系の加波山に源を発する恋瀬川が、北西から南東方向に流れて霞ヶ浦の高浜入に注ぎ、兩岸には、標高20～30mほどの台地が広がっている。市の北西域は、恋瀬川とその支流によって、高地、台地、低地と起伏に富んだ地形が形成され、恋瀬川上流右岸の台地上は、柿岡地区を中心とした旧八郷市街地が広がっている。南東域は南端の高浜から市域の中央部に位置する龍神山麓まで、約8kmにわたり、幅1.5kmほどの狭長な台地が形成され、恋瀬川と園部川、その間を流れる山王川によって支谷が刻まれている。恋瀬川左岸に位置するこの台地は標高20～30mほどの平坦な地形で石岡台地と呼ばれ、現在は石岡市街地が広がっている。

地質は、未固結の砂を主とする石崎層、浅海性の貝化石を産する海成の砂層である美和層を基盤とし、その上に茨城粘土層（常総粘土層）と呼ばれる層、さらに、褐色の関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐食土層となっている<sup>1)</sup>。

東田中遺跡は、霞ヶ浦の高浜入りに注ぐ山王川とその支谷に開析された標高20～25mの舌状台地の基部に位置している。遺跡から山王川の河口までは、南へ1.5kmである。遺跡の所在する舌状台地は、南北長約750m、東西幅約400mで、西側と東側に幅の狭い支谷が入り込み、その低位面との比高は約12mである。台地は山林や畑地として、沖積低地は水田として利用されている。調査前の現況は、大部分が山林と畑地で、一部が荒地であった。中津川遺跡は、山王川を挟んで東田中遺跡と対峙した位置にある。遺跡間の距離は、約1kmである。遺跡の所在する石岡台地の南側には、恋瀬川の開析する低地が広がっている。遺跡の標高は20～25mで、調査前の状況は、畑地と農道である。

### 第2節 歴史的環境

恋瀬川流域や霞ヶ浦沿岸の石岡市、かすみがうら市、小美玉市には、多くの遺跡が分布している。ここでは、東田中遺跡と中津川遺跡に関連する周辺遺跡を中心に、時代ごとに記述する。

恋瀬川流域や霞ヶ浦沿岸における旧石器時代の様相は、未だ不明な点が多い。東田中遺跡から28kmほど南東に位置する小美玉市館山遺跡<sup>2)</sup>では、縦長剥片を素材としたナイフ形石器、台形棒石器、石核、縦長剥片などが出土している。館山遺跡に隣接する権現平古墳群<sup>3)</sup>や権現山古墳<sup>4)</sup>の調査では、槍先形尖頭器、ナイフ形石器、搔器、削器などが出土している。また、当遺跡から小谷を挟んで東側に位置する大作台遺跡<sup>5)</sup> (1)では、石器集中地点が確認され、石錐、石核、剥片などが出土している。石材は黒色安山岩とチャートが中心である。恋瀬川流域においても当財団の調査によって、田島遺跡（田島下地区）<sup>6)</sup> (58)では頁岩製のナイフ形石器、田島遺跡（三面寺地区）<sup>7)</sup>と中津川遺跡<sup>8)</sup> (2)では頁岩製の縦長剥片がそれぞれ出土している。

縄文時代の遺跡は、草創期から晩期にかけて各時期のものが確認されている。東田中遺跡周辺では、山王川を挟んで対岸に位置する檜堀遺跡<sup>9)</sup> (41)で、早期の炉穴11基、前期の竪穴建物跡11棟、中期の竪穴建物跡

3棟、後期の竪穴建物跡1棟が確認されている。その他、早期・前期の茅山式・関山式土器の遺構が確認された大谷津遺跡<sup>10</sup> (48)、前期の花積下層式の竪穴建物跡が5棟確認された田島遺跡(南光院地区・南光院下地区)<sup>11</sup>、茅山式の竪穴建物跡が3棟、前期の黒浜式の竪穴建物跡7棟、前期の浮島式・諸磯式の竪穴建物跡32棟が確認された外山遺跡<sup>12</sup> (46)、浮島式・諸磯式の竪穴建物跡が15棟確認された新池台遺跡<sup>13</sup> (52)、前期から後期までの竪穴建物跡が確認された中津川遺跡など多くの集落遺跡がある。中期の遺跡では、有段式竪穴遺構や袋状土坑が確認された東大橋原遺跡<sup>14</sup> (75)や大作台遺跡<sup>15</sup>、竪穴建物跡や袋状土坑が確認された三村城跡<sup>16</sup> (35)などがある。特に、東大橋原遺跡は遺物の分布範囲が約80,000m<sup>2</sup>に及ぶ大きな遺跡で、当時期の中心的集落と思われる。後期になると、東田中遺跡周辺の遺跡数は減少するが、東田中遺跡から南東へ2.1kmのところ、部室貝塚<sup>17</sup> (23)が存在する。部室貝塚は、中期から晩期にかけてのもので、斜面貝層3か所、地点貝層14か所が確認されている。斜面貝層はハマグリ、サルボウ、シオフキ、マガキなどの鹹水性の貝種で構成されている。調査によって、中期前葉から後期後葉にかけて形成された斜面貝層の下から加曾貝B式期の土坑及び堀之内式期の竪穴建物跡が、地点貝層の下から堀之内式期の竪穴建物跡がそれぞれ確認されている。晩期になると遺跡数はさらに減少し、部室貝塚など限定された地域にだけ遺跡が展開するようになる。この現象の背景には、当地域における遺跡群に何らかの構造的変化が起きたことが想定される。

弥生時代に入ると、水田耕作が始まり、生活や文化に変化が見られるようになる。東田中遺跡の南側に位置する石川山崎鹿島神社境内では、土器底部に稲作が行われていたことを実証する粃痕がある弥生土器が発見されている。東田中遺跡周辺における集落跡は、新池台遺跡で確認されている。新池台遺跡は中期末葉の集落跡で、ぜんぶ塚古墳群<sup>18</sup> (13)や出口遺跡<sup>19</sup> (21)では、当時期の良好な資料が出土している。後期の遺跡として、山王川を挟んだ東田中遺跡の対岸に中津川遺跡、植堀遺跡が存在し、中津川遺跡では後期中葉の竪穴建物跡が7棟、植堀遺跡では後期中葉から後葉にかけての竪穴建物跡が8棟確認されている。また、東田中遺跡から支谷を挟んだ西側に外山遺跡が存在している。外山遺跡では後期後葉の竪穴建物跡が11棟確認され、上稲古式土器、十玉台式土器、二軒屋式土器が出土している。これらの遺跡は、山王川やその支谷を望む台地端部に位置していることから、入り組んだ谷津の地形を利用して農耕生活を営み、集落を形成していたことをうかがい知ることができる。

古墳時代の社会は、可耕地の拡大や農耕技術の進歩による生産力が格段に向上したことにより、明確な階層社会が成立した時代である。当地域の古墳時代の始まりは方形周溝墓の伝搬から知ることができる。前期初頭のものとして、東田中遺跡から南東へ3.2kmの霞ヶ浦沿岸の台地縁部に権現平2号墳が存在する。権現平2号墳は、周溝の内法が一辺20mほどの方形周溝墓であり、霞ヶ浦沿岸地域では最大級のものである。この周溝からは東海系の壺2点、大形の片口鉢(底部焼成後穿孔)1点、二重口縁壺2点、畿内や東海地方の特徴のある壺1点、東海地方の棒状浮文で装飾された壺や椀、埴、器台などの土器が出土している。これらの土器は供献用<sup>20</sup>として使用された外来系土器であり、東海系の土器が主体を占めることから、権現平2号墳の被葬者は東海地方と所縁のあった人物と思われる。この方形周溝墓は、東田中遺跡から南へ1kmほどの上野遺跡<sup>21</sup> (36)でも確認され、二重口縁を呈する壺形埴輪が2個体出土している。恋瀬川河口から北東へ3.8kmの恋瀬川を望む台地縁部に位置する熊野古墳<sup>22</sup>は、当地域最古の前方後円墳である。全長68mで、前方部が低い前期古墳の特徴をよく示しており、壺形埴輪片などが確認されている。中期になると、恋瀬川流域を支配していることを示すように、河口から1.7kmほどの恋瀬川左岸の台地縁部に全長186mの舟塚山古墳が出現する。舟塚山古墳は県下最大の規模で、当地域における強大な力をもった首長墓とみられる。続いて中期後葉には、中津川遺跡に隣接して全長90mの府中愛宕山古墳が構築されている。舟塚山古墳周辺の遺跡として、

前期のものは田崎遺跡<sup>20</sup> (55)、田島遺跡、楨堀遺跡、外山遺跡で、中期のものは中津川遺跡、楨堀遺跡、三村城跡で集落跡が確認されている。これらの集落の人々が支配者を支え、古墳築造に従事した人々と思われる。後期になると、大型の前方後円墳は、小美玉市玉里地区に多くみられるようになってくる。当遺跡周辺では、円墳や方墳がほとんどで、41基確認されている舟塚山古墳群の多くは、箱式石棺を埋葬施設とする円墳や方墳と思われる。この時期の集落跡は、田崎遺跡、田島遺跡（田島下地区、南光院地区・南光院下地区、三面寺地区）、中津川遺跡などで確認されており、恋瀬川や山王川の低地開発が拡大していったことを裏付けている。

奈良・平安時代になると、律令制により国・郡・里（郷）制がしかれた。石岡市域は茨城郡に属し、常陸国府が置かれた。常陸国衙跡は、東田中遺跡から3.5kmほど北西に位置する現石岡小学校敷地内において継続的な調査<sup>21</sup>が行われた。1町四方の区画内に正殿跡、前殿跡、その東西に整然と配された脇殿跡が確認されたことにより、常陸国衙の中核部である国庁であったことが判明した。平成22年には、常陸国府跡として国史跡に指定されている。常陸国衙を中心として周辺には、常陸国分雷寺、常陸国分尼寺、鹿の子遺跡、次城郡衙跡、茨城廃寺跡が存在しており、現石岡市街地が常陸国の中心地域であったことを知ることができる。東田中遺跡周辺でも、田崎遺跡、田島遺跡（南光院地区・南光院下地区、三面寺地区）、中津川遺跡などで集落跡が確認されている。

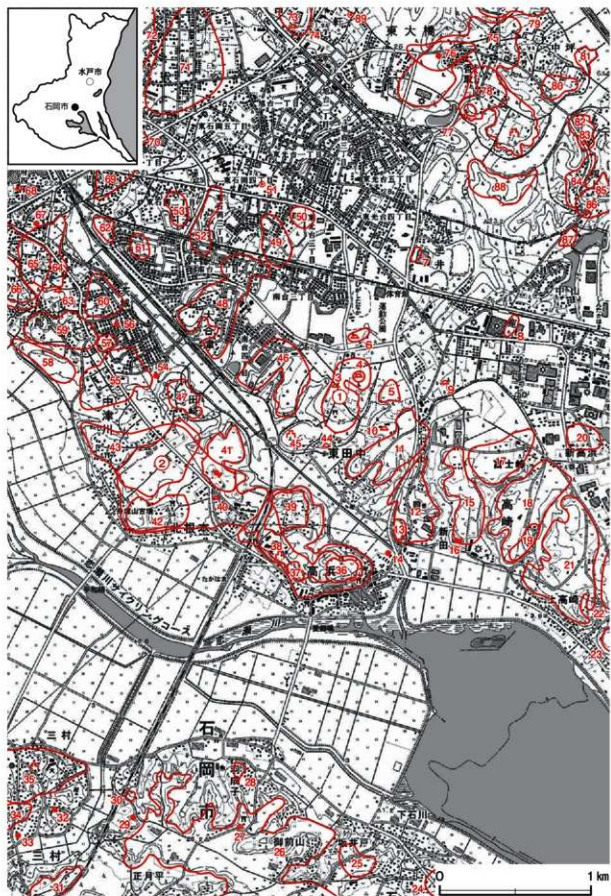
中世になると、武家が台頭して勢力争いが起こり、戦国乱世に流れていく中、各地に城郭が築造されるようになる。石岡市域では、鎌倉時代に常陸国衙において政務を執っていた常陸大掾馬場資幹が外城の地に石岡城を構築した。南北朝時代には、大掾氏と小田氏との間で抗争が激化し、8代詮国は現在の石岡小学校の場所に城を移して府中城とした。これにより石岡城は、府中城の出城としての性格を強めた。高野浜城跡<45>や、三村城跡などは、この時期に築城された出城跡である。中世末期には、再び大掾氏と小田氏や佐竹氏との抗争が起こり、やがて佐竹氏の支配下に入るのである。

徳川家康が江戸に幕府を開いた近世には、佐竹氏が、秋田へ移封される。その後、江戸や城下町に住む将軍や大名、あるいは旗本のような幕藩領主による支配を経て、元禄13年（1700年）、水戸藩主徳川頼房の五男頼隆が府中城の一画に陣屋を置いて統治した。古来から水運に恵まれていた石岡の地は、周辺集落や各地からの物産集散地としての性格を色濃くし、特に酒・醤油などの醸造業を中心とした商人層が活躍した。また、陸路も発達し、江戸から水戸、さらには東北地方へ延びる浜街道が整備され、交通の要衝の地としても繁栄した。

※ 文中の（ ）内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。

## 註

- 1) 石岡市編さん委員会「石岡市史 下巻」石岡市 1985年3月
- 2) 小玉秀成・本田信之「館山遺跡発掘調査報告書-旧石器・縄文・弥生時代編-」玉里村教育委員会 1999年3月
- 3) 伊東重敏「権理平古墳群」『玉里村埋蔵文化財調査報告』第1集 玉里村教育委員会 1994年3月
- 4) 小林三郎編「玉里村権理山古墳発掘調査報告書」玉里村教育委員会 2000年3月
- 5) 小玉秀成・本田信之・川口武彦「大伴台遺跡発掘調査報告」『玉里村史料館報』Vol.6 玉里村史料館 2001年3月
- 6) 飯泉達司「田島遺跡（田島下地区）一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第253集 2006年3月
- 7) 飯田浩彦・大関武・小野政美・齋藤和浩「田島遺跡（三面寺地区）一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第311集 2009年3月
- 8) 櫻井完介・近江屋成隆・大久保隆史「中津川遺跡 一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書5」『茨城県教育財団文化財調査報告』第338集 2011年3月

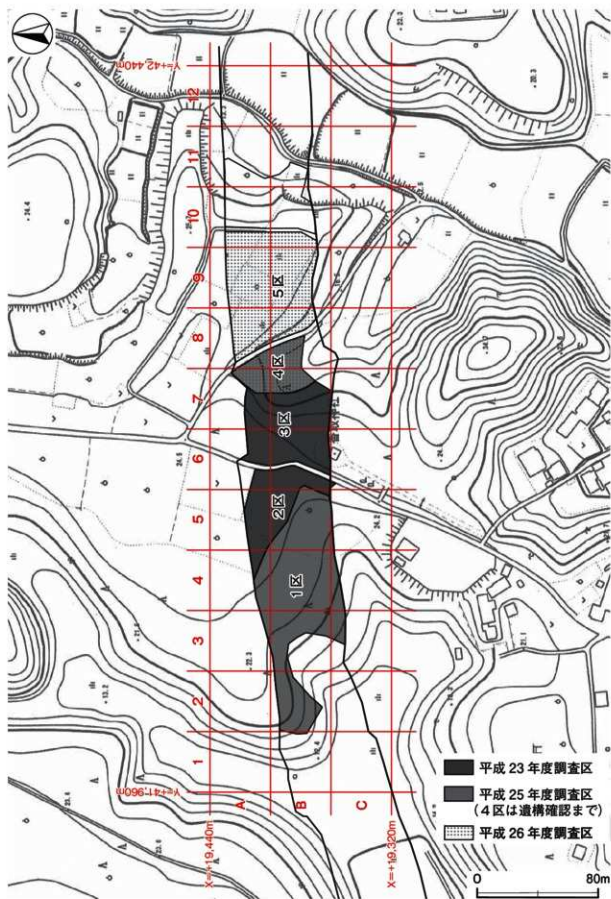


第1図 東田中遺跡・中津川遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「石岡」〔常陸高浜〕）

表1 東田中遺跡・中津川遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	東田中遺跡		○		○	○	○	○	46	外山遺跡		○	○	○		
②	中津川遺跡	○	○	○	○	○	○	○	47	石岡田遺跡	○	○		○		
3	貝柄塚群						○		48	大谷津遺跡	○			○	○	○
4	木戸塚							○	49	六軒遺跡	○			○		
5	柏葉遺跡		○						50	八幡塚群						○
6	十三福荷山塚群							○	51	小川道土壘						○
7	逆井遺跡		○						52	新池台遺跡	○	○				
8	中山南遺跡				○	○			53	駒込遺跡	○					
9	前原塚							○	54	田崎古墳				○		
10	申塚							○	55	田崎遺跡	○	○	○	○	○	○
11	大作台遺跡	○	○						56	茨城古墳				○		
12	新田遺跡	○	○	○	○	○	○	○	57	千部塚遺跡						○
13	ぜんぶ塚古墳群			○	○				58	田島遺跡	○	○	○	○	○	○
14	下川古墳				○				59	三面寺遺跡	○	○	○	○	○	○
15	瓦ヶ台遺跡	○	○	○	○	○	○	○	60	税所屋敷遺跡	○	○	○	○	○	○
16	龍王塚古墳				○				61	兵崎下遺跡	○			○		
17	中台(五万堀)遺跡	○						○	62	兵崎遺跡	○	○	○	○		
18	富士峰遺跡	○	○	○	○	○	○	○	63	茨城塚群						○
19	富士峰古墳群				○				64	小目代遺跡		○			○	○
20	新林遺跡	○							65	外城遺跡	○	○	○	○	○	○
21	出口遺跡	○	○	○	○	○	○	○	66	茨城郡衛跡				○		
22	弥蔵遺跡			○	○			○	67	愛宕神社古墳				○		
23	部室貝塚	○	○	○	○	○	○	○	68	富田東塚						○
24	十王遺跡	○	○	○	○	○	○	○	69	兵崎箕輪遺跡	○			○	○	
25	殺龍遺跡	○	○	○	○	○	○	○	70	山王遺跡				○	○	
26	下ノ宮遺跡	○	○			○		○	71	大塚遺跡				○		○
27	下ノ宮塚							○	72	東の辻遺跡				○		○
28	羽成子遺跡							○	73	八軒台塚						○
29	請士久保古墳				○				74	上人塚遺跡	○			○		
30	天神塚群							○	75	東大橋原遺跡	○		○	○	○	○
31	大角山遺跡							○	76	東大橋古墳群				○		
32	吹上古墳				○				77	香取塚群						○
33	古道古墳				○				78	東大橋要害						○
34	宿平遺跡	○				○			79	嶽下遺跡			○		○	○
35	三村城跡	○	○			○	○	○	80	中坪遺跡	○			○	○	○
36	上野遺跡				○	○	○	○	81	寺久保下遺跡				○		
37	権現遺跡	○	○	○	○	○			82	白旗遺跡	○			○	○	○
38	高浜要害							○	83	下坪塚						○
39	関戸遺跡	○			○				84	池下遺跡(小美玉市)			○			
40	道祖神塚							○	85	池下遺跡(石岡市)				○		
41	塚堀遺跡	○	○	○	○	○			86	初上塚						○
42	宮久保遺跡	○	○		○	○	○	○	87	中山北遺跡				○	○	
43	舟塚山古墳群				○				88	新山台遺跡	○					
44	山伏塚							○	89	八軒台掩蔽壕						近代遺構
45	高野浜城跡							○								

- 9) 櫻井完介 「積堀遺跡 一般国道6号千代田石岡バイパス (かすみがうら市市川～石岡市東大橋) 事業地内埋蔵文化財調査報告書7」『茨城県教育財団文化財調査報告』第370集 2013年3月
- 10) 山本静男 「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 兵崎遺跡 大谷津A遺跡 対馬塚遺跡 大谷津B遺跡 大谷津C遺跡 外山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第13集 1982年3月
- 11) 小野政美 「田島遺跡 (南光院地区・南光院下地区) 一般国道6号千代田石岡バイパス (かすみがうら市市川～石岡市東大橋) 事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第287集 2008年3月
- 12) 註10) 文献に同じ
- 13) 和田雄次 「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2 新池台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第17集 1983年3月
- 14) 川崎純徳・海老沢稔ほか 「石岡市東大橋原遺跡 第3次調査報告」石岡市教育委員会 1980年3月
- 15) 川崎純徳・海老沢稔ほか 「石岡市大作台遺跡発掘調査報告」石岡市教育委員会 1981年3月
- 16) 栗田功 「三村城跡 一般県道飯岡石岡線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第299集 2008年3月
- 17) 玉里村史編纂委員会編 「玉里村の歴史」玉里村 2006年2月
- 18) 諸星政博・松本裕治・海老沢稔ほか 「ぜんぶ塚 (九十九塚) 古墳発掘調査報告書」石岡市教育委員会 1982年3月
- 19) 古屋紀之 「茨城県玉里村権現平2号墳の再検討ー出土土器と葬送儀礼の系譜を中心にー」『玉里村立史料館報』Vol.11 玉里村立史料館 2006年2月
- 20) 土生朗治 「茨城県石岡市上野遺跡出土土器について」『山武考古学研究所年報』No.18 山武考古学研究所 2000年6月
- 21) 田中裕 「茨城県千代田町熊野古墳の測量調査」『筑波大学 先史学・考古学研究』第8号 1997年3月
- 22) 齋藤貴史・本橋弘巳 「田崎遺跡 一般国道6号千代田石岡バイパス (かすみがうら市市川～石岡市東大橋) 事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財団文化財調査報告』第327集 2010年3月
- 23) 箕輪健一 「常陸国街跡ー国守・曹司の調査ー」石岡市教育委員会 2009年3月



第2図 東田中遺跡調査区設定図(石岡市都市計画図2,500分の1より作成)



## 第3章 東田中遺跡

### 第1節 調査の概要

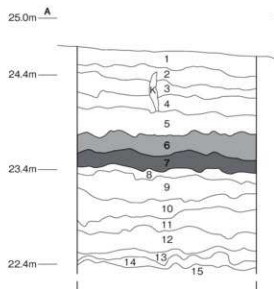
東田中遺跡は、石岡市の南東部、山王川の支谷に挟まれた標高20～25mの舌状台地上に立地している。今回報告するのは、平成23年度に調査した2区(1,822㎡)、3区(2,624㎡)と平成25年度に調査した1区(5,437㎡)であり、遺跡の南西部にあたる。当遺跡は縄文時代中期を中心とした縄文時代から江戸時代以降にかけての複合遺跡である。

当遺跡1～3区の調査の結果、竪穴建物跡21棟(縄文時代7・古墳時代12・平安時代2)、掘立柱建物跡3棟(古墳時代)、竪穴遺構2基(縄文時代1・古墳時代1)、方形竪穴遺構1基(鎌倉・室町時代)、地点貝塚1か所(縄文時代)、土坑134基(縄文時代54・古墳時代10・鎌倉・室町時代16・江戸時代以降1・時期不明51)、遺物包含層1か所(縄文時代)、整地遺構1か所(鎌倉・室町時代)、道路跡2条(江戸時代以降)、溝跡7条(江戸時代以降)、炭焼窯跡1基(時期不明)、柱穴列6条(江戸時代以降1・時期不明5)、土器集中地点1か所(平安時代)を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に125箱出土している。主な遺物は、縄文土器(深鉢・浅鉢)、土師器(坏・碗・埴・器台・高坏・壺・甕・甕)、須恵器(坏・甕)、土師質土器(小皿)、青白磁(梅瓶)、陶器(平碗)、土製品(土玉・管状土錘・土器片錘・支脚)、石器・石製品(砥石・鎌・打製石斧・磨製石斧・磨石・凹石・管玉)、石塔(五輪塔・宝篋印塔)、銭貨(熙寧元寶)などである。

### 第2節 基本層序

2区の南部(B6区)にテストピットを設定し、第3図に示すような土層堆積の状況を確認した。土層の観察結果は以下のとおりである。第1層は、暗褐色を呈する表土層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は14～22cmである。



第3図 基本土層図

第2層は、ロームブロックを少量含むにぶい黄褐色を呈するソフトローム層への漸移層である。粘性がやや強く締まりは普通で、層厚は8～20cmである。

第3層は、明黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともにやや強く、層厚は8～26cmである。

第4層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は10～22cmである。

第5層は、明黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は15～34cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は13～30cmである。第2黒色帯上層に対比される。

第7層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層で

ある。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は12～21cmである。第2黒色帯下層に対比される。

第8層は、鹿沼バミスを中量含む黄褐色を呈するハードローム層である。粘性普通で締まりは強く、層厚は6～12cmである。

第9層は、鹿沼バミスを少量含む黄褐色を呈するハードローム層である。粘性普通で締まりは強く、層厚は13～30cmである。

第10層は、鹿沼バミスを微量含むに黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は8～38cmである。

第11層は、白色粒子・黒色粒子を微量含むに黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く、層厚は6～33cmである。

第12層は、黒色粒子を微量含む黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く、層厚は12～30cmである。

第13層は、黒色粒子を微量含む明黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は4～15cmである。

第14層は、褐色粘土ブロックを少量含む褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まり極めて強く、層厚4～16cmである。

第15層は、白色粘土ブロックを中量含むに黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まり極めて強い。層厚は下層が未掘のため不明である。

遺構は、第3層上面で確認した。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡7棟、竪穴遺構1基、地点貝塚1か所、土坑54基、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

##### (1) 竪穴建物跡

##### 第1号竪穴建物跡（第4・5図）

**位置** 3区北西部のA6g6区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第2号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部と北部が調査区域外へ延びているため、南東部だけの確認である。確認できたのは南北軸2.82m、東西軸2.58mで、主軸方向はN-12°-Wと推定できる。壁は高さ12~18cmで、外傾している。

**床** やや凹凸があり、あまり踏み固められてはいない。

**ピット** P1は中央から南東寄りに確認され、深さ88cmである。位置から主柱穴と思われる。

**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

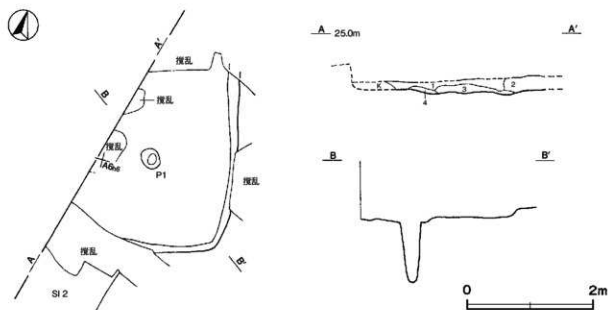
##### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量  
2 褐色 ロームブロック少量

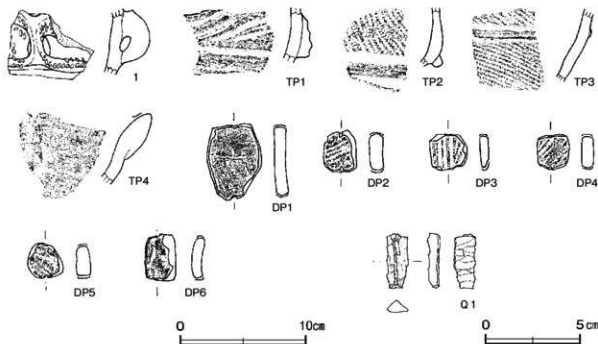
3 黒暗褐色 ロームブロック少量  
4 灰褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片143点（深鉢142、浅鉢1）、土製品6点（土器片鏟）、剥片1点のほか、混入した土師器片4点（椀）が出土している。遺物はすべて破片で、覆土中から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から中期と思われるが、詳細は不明である。



第4図 第1号竪穴建物跡実測図



第5図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(第5図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	縄文施文の隆帯による眼縁把持手	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐色	隆帯による流状文 隆帯に沿って沈線文	覆土中	
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁部隆帯による区画文 隆帯に沿って沈線文 車筋縄文 L形施文	覆土中	
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐色	口縁部隆帯による区画文 隆帯に沿って沈線文 車筋縄文 L形施文	覆土中	
TP 4	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	流状口縁 口縁に沿って隆帯貼付 流頂部から隆起線垂下	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土器片鉢	6.1	4.2	0.9	32.5	長石・石英	にぶい褐色	周縁部研磨 両端に削み	覆土中	
DP 2	土器片鉢	3.3	2.9	1.1	12.6	長石・石英・雲母	にぶい褐色	周縁部研磨 両端に削み	覆土中	
DP 3	土器片鉢	2.9	3.0	0.7	8.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	周縁部研磨 両端に削み	覆土中	
DP 4	土器片鉢	2.9	2.6	0.8	8.6	長石・石英・雲母	灰褐色	周縁部研磨 両端に削み	覆土中	
DP 5	土器片鉢	2.8	2.9	1.0	9.0	長石・石英・雲母・細礫	褐色	周縁部研磨 両端に削み	覆土中	
DP 6	土器片鉢	3.3	2.2	0.7	6.9	長石・石英・雲母	にぶい褐色	周縁部研磨 両端に削み	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	割片	2.8	1.1	0.6	2.0	黒曜石	角縁状に剥離 周縁部に調整痕	覆土中	

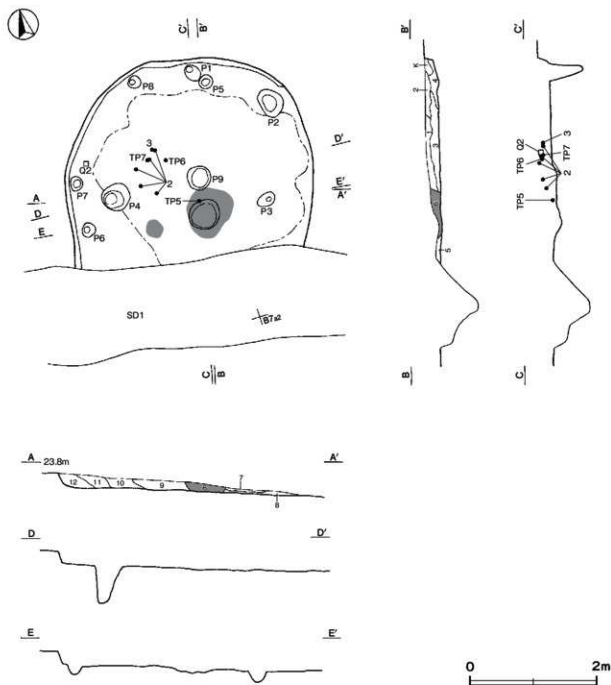
### 第3号竪穴建物跡（第6～8図）

位置 3区中央部から北寄りのA7j1区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

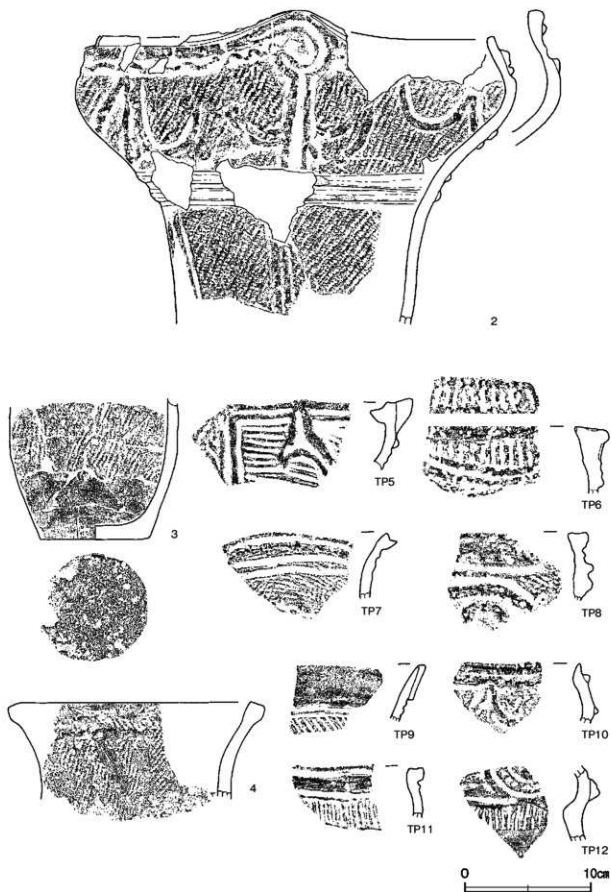
重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第1号溝に掘り込まれているため、確認できたのは、東西径は3.97m、南北径は3.15mである。炬やピットの配置から楕円形と推定でき、長径方向はN-15°-Eである。壁は高さ16～21cmで、ほぼ直立している。

床 やや凹凸があり、壁際を除いて踏み固められている。



第6図 第3号竪穴建物跡実測図



第7図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

炉 はは中央部に付設されている。長径54cm、短径44cmの楕円形で、深さ16cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 9か所。P1～P4は深さ28～59cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ27cmで補助柱穴と思われる。P6～P8は深さ6～13cmで、配置から壁柱穴と考えられる。中央に位置するP9は深さ7cmで、性格は不明である。

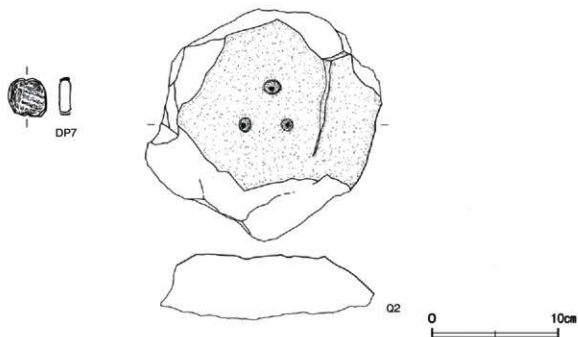
覆土 12層に分層できる。混貝土層や暗褐色土などがブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
2 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	8 暗褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック少量	10 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
6 極暗褐色	貝多量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量(混貝土層)	12 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片251点(深鉢250, 浅鉢1), 土製品1点(土器片錘), 石器1点(石皿)のほか、混入した土師器片4点(甕), 須恵器片1点(蓋)が出土している。土器片は炉からやや北寄りの覆土下層から上層にかけて散乱した状態で出土している。すべて破片で、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。貝層は炉を覆うように確認され、厚さは20cmほどである。総量は474gで、種別はマガキ64%, ウミニナ23%, ツキガイ12%, ハマグリ8%, サルボウ6%, その他5%である。いずれも鹹水産である。

所見 本跡は廃絶後に貝類が投棄され、地点貝塚が形成されているものである。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第8図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

## 第3号竪穴建物跡出土遺物観察表(第7・8図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	[31.4]	[27.4]	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐色	普通	表段・母口縁部に細線・斜線・二文脈文・下段中に交互文文・高脚文・胴部に細い帯文・卑段縄文・施文	北寄り覆土中層	40% PL21
3	縄文土器	深鉢	-	[11.2]	8.6	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	胴部卑段縄文・丸施文・下段無文	北寄り覆土中層	25%
4	縄文土器	深鉢	[18.5]	[7.8]	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って縄文脈文の隆帯貼付 胴部卑段縄文・丸施文	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁部厚縁隆帯による矩形区画内隆帯文で充填 隆帯に沿って沈線文	中央部覆土下層	
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐色	口縁部斜め目 隆帯区画内沈線文で充填	北寄り覆土中層	
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細砂	にぶい褐色	口縁部と底部を隆帯で区画 隆帯下2条の沈線周回 卑段縄文・丸施文	覆土中層	
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐色	口縁部に沿って隆帯区画文 隆帯に沿って沈線 卑段縄文・丸施文	覆土中	
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐色	口縁に沿って隆帯貼付 隆帯下2条の沈線による区画文 区画内同位の沈線文で充填	覆土中	
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	口縁に沿って隆帯区画 区画内に隆帯による連弧文 卑段縄文・丸施文	覆土中	
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	口縁部隆帯による区画文 隆帯に沿って沈線 区画内同位の沈線文で充填	覆土中	
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細砂	にぶい褐色	口縁部斜め目が施されている隆帯による区画文 隆帯下に縦位の沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 7	土器片鉢	3.0	2.9	0.9	11.1	長石・雲母	にぶい褐色	周縁部結節 両端に折み	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	石皿	(18.4)	(18.8)	(5.8)	(36.74)	花崗岩	表面わずかに凹む 表面に凹み3か所	覆土上層	円石兼用

## 第4号竪穴建物跡(第9～13図)

位置 3区中央から西寄りのB 6a6区、標高24 mほどの台地縁部に位置している。

重複関係 第59号土坑を掘り込み、第5号竪穴建物、第61・277号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第5号竪穴建物に掘り込まれているため、確認できたのは、東西径は3.96 m、南北径は3.58 mである。現存部から楕円形と推定でき、長径方向はN-12°-Eである。壁は高さ5～8 cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、炉の周辺は踏み固められている。

炉 中央部のやや東寄りに付設されている。長径54cm、短径44cmの楕円形で、底面を21cm掘り込み、深鉢上半部が埋設されている。さらに、土器の周りに径10～17cmの河原石を4個置いている石囲い土器埋設炉である。

## 伊土層解説

- |        |                    |         |                       |
|--------|--------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量       | 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 明赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック多量   | 6 明褐色   | ロームブロック多量             |
| 3 明赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 | 7 明褐色   | ロームブロック中量、黒色ブロック少量    |
| 4 明赤褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック少量 |         |                       |

ピット 5か所。P1～P4は深さ12～42cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ30cmでP1とP4の柱間に位置することから補助柱穴と思われる。

覆土 6層に分層できる。北側から褐色土、暗褐色土などが流入しており、自然堆積である。

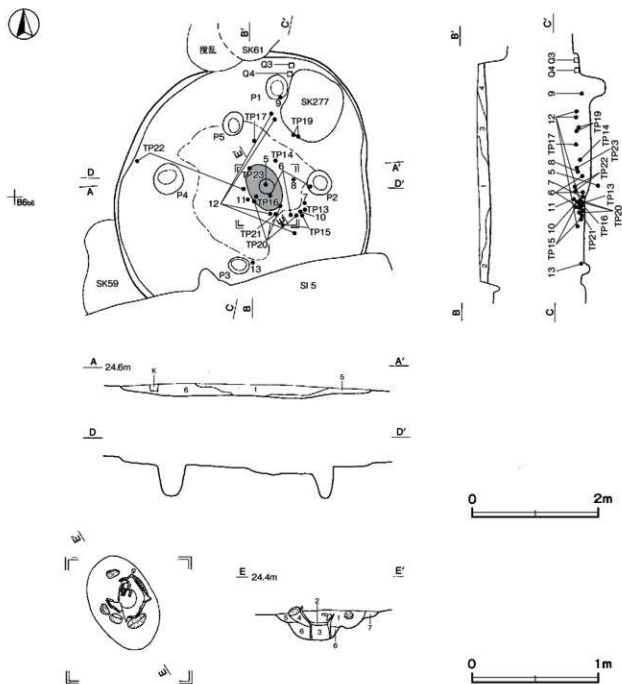
## 土層解説

- |       |                 |       |                    |
|-------|-----------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量       | 4 褐色  | ロームブロック中量、炭化物微量    |
| 2 褐色  | ロームブロック少量       | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 6 褐色  | ロームブロック中量          |

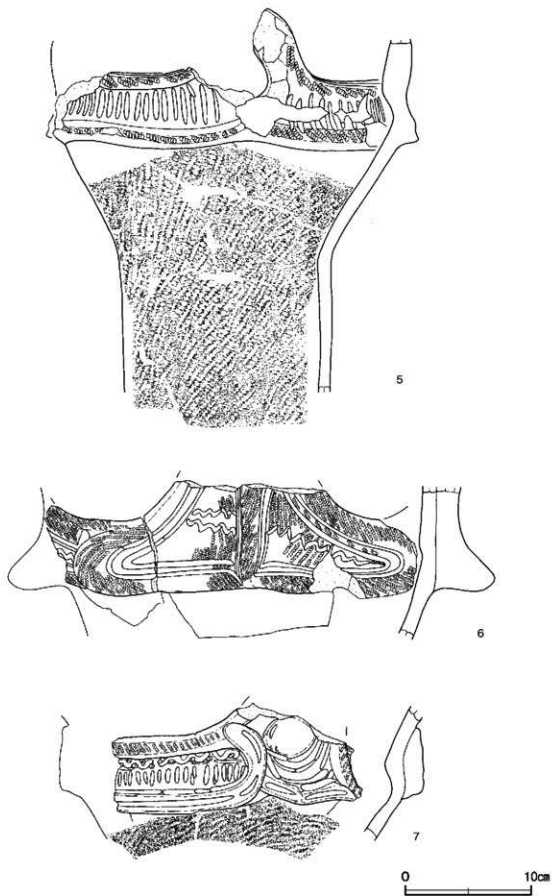


遺物出土状況 縄文土器片 276 点（深鉢 273、浅鉢 3）、土製品 2 点（土器片錘）、石器 3 点（磨石、敲石、炉石）のほか、混入した土師器片 16 点（甕頸）が出土している。土器片は中央部の覆土下層から中層にかけて散乱した状態で出土している。すべて破片で、埋没する過程で投棄されたか流れ込んだものと思われる。

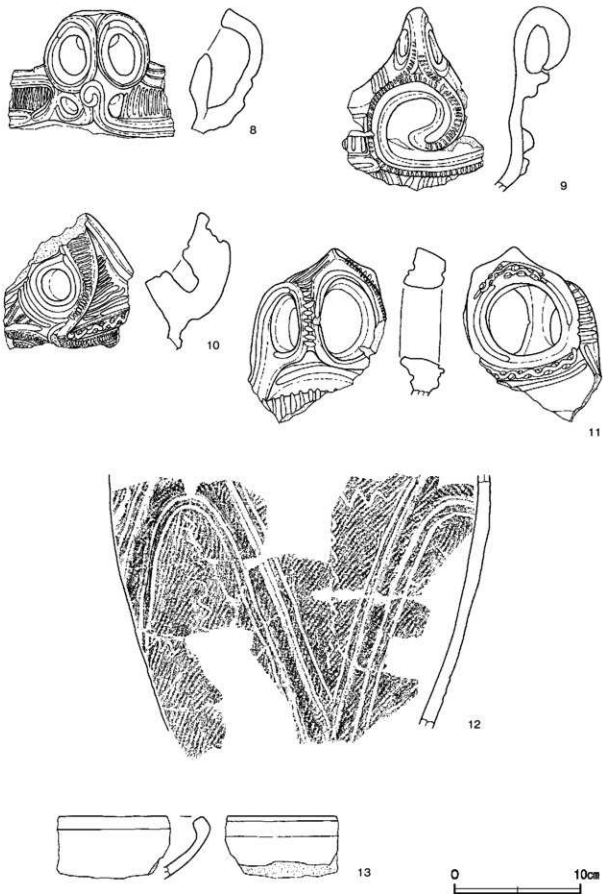
所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



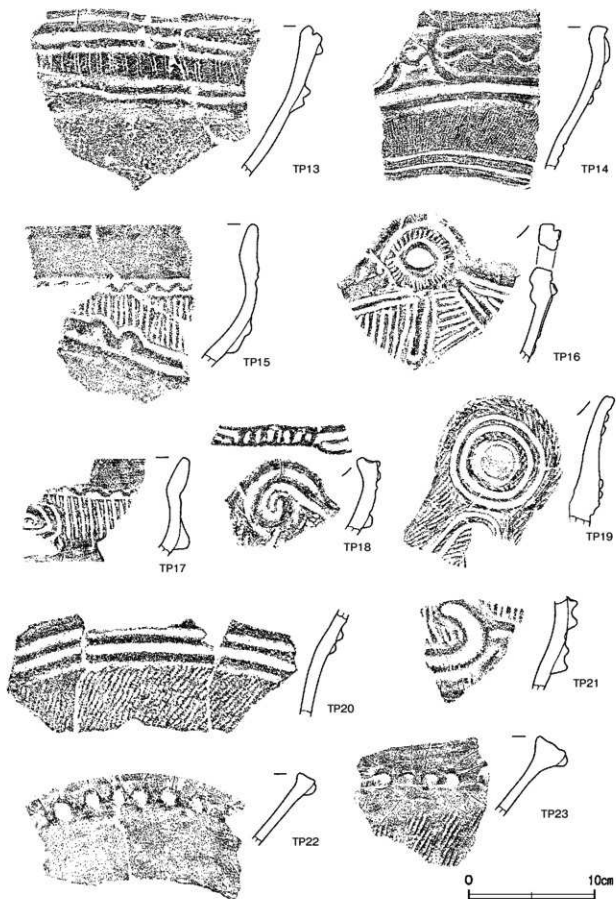
第9図 第4号堅穴建物跡実測図



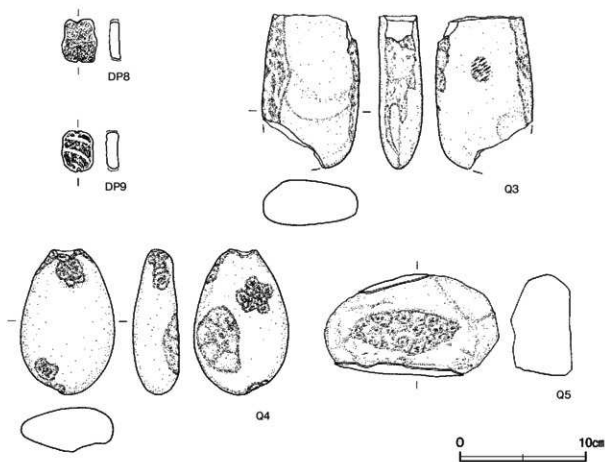
第10図 第4号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 11 图 第 4 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第12図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)



第13図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第4号竪穴建物跡出土遺物観察表(第10~13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	-	(31.5)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰黄緑	普通	中央部手 縄文土の隆帯による横円形の区画文、区画内縦位の沈線文で光焼。腹部半周縦文付。施文	60%	PL21 埋没土層
6	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	成状口縁 沈線を伴う縄文土の隆帯による区画文、成状口縁から隆帯まで 区画内縦位の沈線文、口縁部で交互縦文、区画内縦位の沈線文で光焼。腹部に半周縦文付。施文	10%	中央部 覆土中層
7	縄文土器	深鉢	-	(11.0)	-	長石・石英・雲母・細礫・黒色粒子	にぶい黄緑	普通	中央部手 縄文土の隆帯による横円形の区画文、口縁部で交互縦文、区画内縦位の沈線文で光焼。腹部に半周縦文付。施文	10%	覆土下層
8	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	内側状把手と隆帯による区画文、区画内縦位の沈線文で光焼	5%	覆土上層
9	縄文土器	深鉢	-	(14.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	内側状把手と隆帯による区画文、区画内縦位の沈線文で光焼	5%	北部 覆土中層
10	縄文土器	深鉢	-	(10.7)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	中央部手 隆帯上に割み目、角押文 隆帯下に交互縦文	5%	覆土上層
11	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内側状把手 隆帯上に割み目、交互縦文	5%	覆土上層
12	縄文土器	深鉢	-	(20.2)	-	長石・石英・雲母	黄緑	普通	縄文土の隆帯による区画文、区画内縦位の沈線文で光焼	15%	中部 覆土中層
13	縄文土器	浅鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁近くで内縁 外面磨き	5%	南部 覆土中層

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄緑	沈線を伴う隆帯による区画文 区画内縦位の平行沈線で光焼 腹部半周縦文付。施文	覆土上層	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄緑	隆帯による横円形の区画文 区画内縦位の沈線文で光焼 隆帯と腹部は之を区画文 地文細目の半周縦文付。施文	覆土中層	
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁に沿って無文帯 無文帯下を交互縦文と隆帯で区画 区画内縦位の沈線文で光焼	覆土中層	
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	灰黄緑	内側状把手 隆帯上に割み目、交互縦文 区画内沈線文で光焼	覆土中層	
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁に沿って無文帯 無文帯下を交互縦文と隆帯で区画 区画内縦位の沈線文で光焼	覆土中層	
TP18	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	成状口縁 口縁部に沈線文と割み目 波頭部沈線を伴う隆帯による区画文 腹部半周縦文付。施文	覆土中層	
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	縄文土の隆帯による隆帯把手 波頭部隆帯を伴う之を区画文 区画内半周縦文付。施文	覆土上層	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	口縁部と頸部を沈澱を伴う2条の隆帯で区画 頸部平面縄文瓦, 胎文	覆土中層	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	浅黄	口縁部内みのある隆帯による区画文 区画内沈澱文で充填	覆土上層	
TP22	縄文土器	浅鉢	長石・石英・細礫	にぶい黄褐色	口唇部肥厚 口縁部隆帯貼付 隆帯下端を微細押圧 胴部磨き	覆土上層	
TP23	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	口唇部肥厚 口縁部隆帯貼付 隆帯下淺押圧 胴部平面縄文瓦, 胎文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 8	土器片鉢	3.4	2.7	0.9	118	長石・雲母	にぶい黄褐色	口縁部研磨 両端に削み	覆土中	
DP 9	土器片鉢	3.3	2.4	1.0	128	長石・雲母	にぶい黄	口縁部研磨 両端に削み	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	磨石	(121)	7.8	3.5	(491.4)	砂岩	側面一部敲打成形 両面を磨面として使用 表面に敲打痕	北側部 覆土下層	
Q 4	敲石	11.5	7.4	3.5	802.1	流紋岩	下端と両面に敲打痕	北側部 覆土下層	西石兼用
Q 5	炉石	8.1	13.7	4.7	752.2	砂岩	一面に多数の敲打痕 石風片を炉石として利用	伊	

### 第15号竪穴建物跡（第14～20図）

位置 2区東側のB6b2区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第266号土坑を掘り込み、第2号掘立柱建物と第204・270号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 上段部は長軸5.95m、短軸4.96m、下段部は長軸4.64m、短軸3.80mの隅丸長方形を呈し、主軸方向はN-40°-Wである。壁は上段部で高さ3～18cm、下段部で高さ15～28cmでほぼ直立している。

床 上段部・下段部ともにほぼ平坦で、下段部の中央部は踏み固められている。南部は底面を5～8cmほど掘り込み、ロームブロックを中量含む褐色土を貼って床を構築している。壁下には上段部南側と下段部東コーナー部を除いて、隙溝が巡っている。

炉 中央からやや北西寄りに付設されている。径34cmほどの円形で、深さ12cmの地床炉である。火床面は火熱を受け、赤変しているが、硬化は弱い。

#### 伊土層解説

1 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量

ピット 12か所。P1～P4は下段部の各コーナー部に位置し、深さ60～102cmで、主柱穴と考えられる。P5～P7は深さ26～40cmで、規模や配置から壁柱穴と考えられる。P8～P12は深さ12～41cmで規模や配置から補助柱穴と考えられる。P1～P4の覆土の状況はロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、柱を抜いた後、埋め戻されている。

#### P1土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

#### P2土層解説

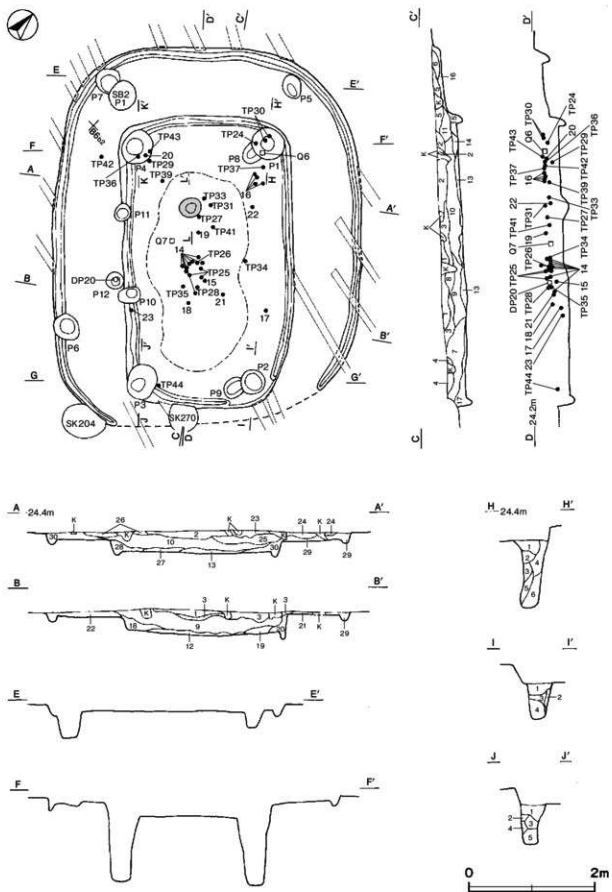
- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

#### P3土層解説

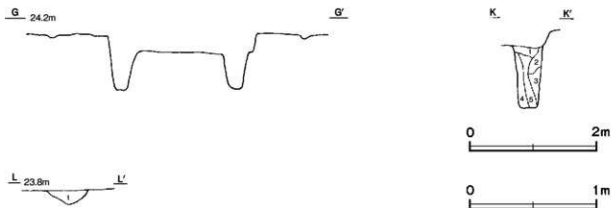
- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

#### P4土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量



第 14 图 第 15 号竖穴建物跡实测图 (1)



第15図 第15号竪穴建物跡実測図(2)

覆土 30層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	16 におい褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 黒暗褐色	ロームブロック少量	17 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	18 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック微量	19 褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	ロームブロック少量	20 におい褐色	ロームブロック中量
6 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	21 暗褐色	ローム粒子少量
7 褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	22 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
8 灰褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	23 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
9 褐色	ロームブロック少量	24 におい褐色	ロームブロック少量
10 褐色	ロームブロック中量	25 におい褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
11 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量	26 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
12 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量	27 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
13 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	28 褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
14 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	29 におい褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
15 暗褐色	ロームブロック中量	30 におい褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量

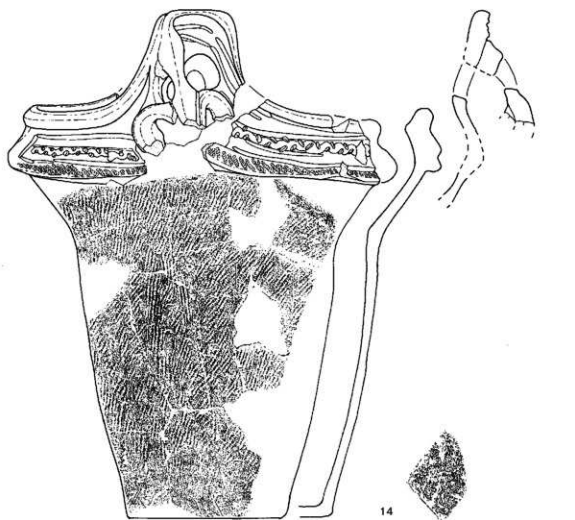
遺物出土状況 縄文土器片 870点(深鉢 866, 浅鉢 4), 土製品 11点(土器片 鎌 10, 耳飾 1), 石器 1点(鏃), 銅片 1点のほか, 混入した土師器 4点(埴類)が出土している。土器はすべて破片で, 中央部の覆土中層から上層にかけて散乱した状態で出土している。ある程度埋まってから, 段階的に北側から投棄されたものと思われる。

所見 本跡は有段式竪穴遺構とも言われているもので, 時期は出土土器から中期中葉と考えられる。

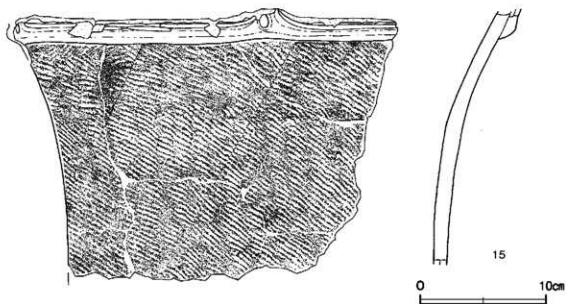
第15号竪穴建物跡出土遺物観察表(第16~20図)

番号	種別	図種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
14	縄文土器	深鉢	[260]	40.2	[120]	長石・石英・雲母・細砂	におい青黒	良好	帯帯による中央部手口縁部縄文文様の外縁部による区画文 区画内交互斜交文で充填 胴部単線縄文 LR 筋文	中央部 覆土上・中層	50% PL.23
15	縄文土器	深鉢	-	(21.7)	-	長石・石英・雲母・細砂	におい青黒	普通	帯帯で口縁部と胴部を区画 胴部単線縄文 LR 筋文	中央部 覆土中層	15%
16	縄文土器	深鉢	[264]	(24.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁に沿って「V」字状文を伴う縁部帯付 口縁下単線縄文 LR 筋文	北寄り 覆土中層	20%
17	縄文土器	深鉢	-	(14.1)	-	長石・石英・雲母	におい青黒	普通	浅鉢口縁・浅鉢を伴う縄文文様の縁部帯付 口縁下単線縄文 LR 筋文	東側 覆土下層	5%
18	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母	におい青黒	普通	浅鉢を伴う段帯による高低文貼り付け 縁部帯を伴った文様	覆土中層	5%
19	縄文土器	深鉢	-	(10.9)	-	長石・石英・雲母	におい青黒	普通	浅鉢口縁・口縁部北面を伴う縄文文様の縁部帯付 区画内単線縄文 LR 筋文	覆土上層	5%
20	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	-	長石・石英・雲母	におい青黒	普通	口縁部帯の縁部による浅鉢文 区画内北縁文	覆土中層	5%
21	縄文土器	浅鉢	[288]	(11.4)	-	長石・雲母	におい褐	普通	口縁部帯による帯内区画文 区画内交互斜交文で充填 胴部無文	東寄り 覆土中層	20%
22	縄文土器	浅鉢	[456]	(7.6)	-	長石・雲母	におい褐	普通	口唇部肥厚 全体無文 内面口縁部下縁に浅鉢の縁部	区画内北縁文	5%
23	縄文土器	浅鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母	におい青	普通	厚めの段帯による区画文 区画内縁は高低区画内北縁文	東寄り 覆土下層	5%





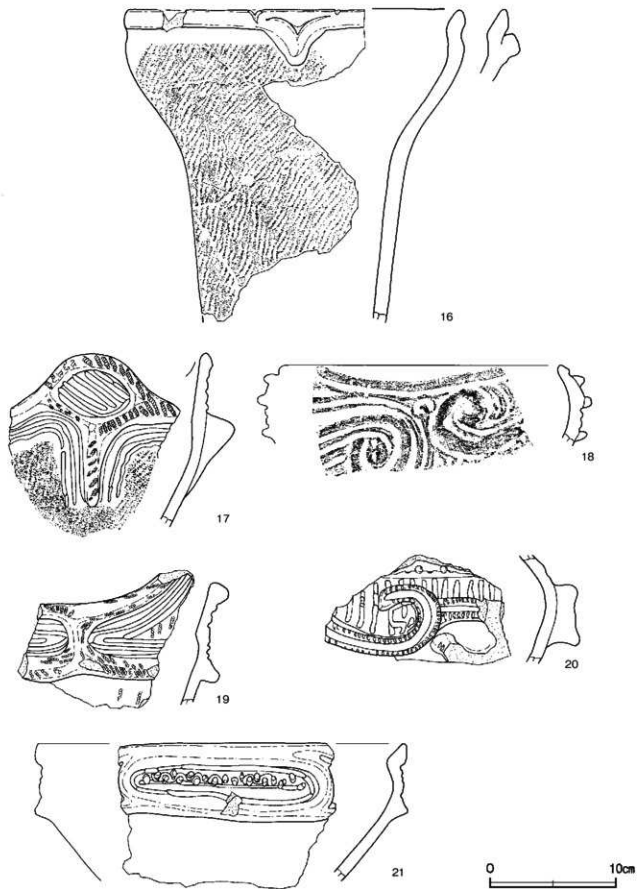
14



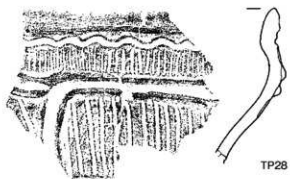
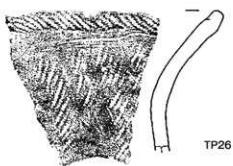
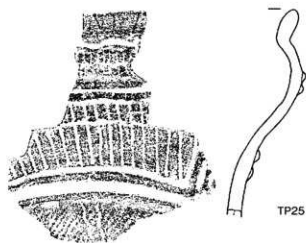
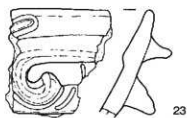
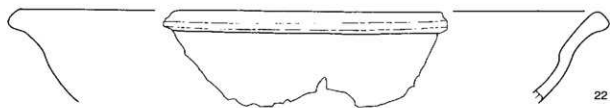
15

0 10cm

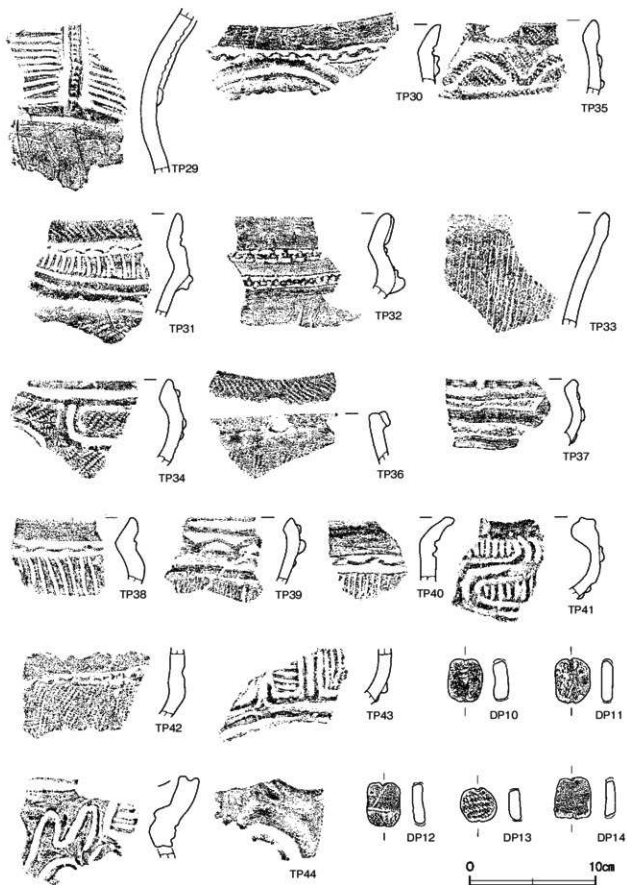
第16图 第15号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



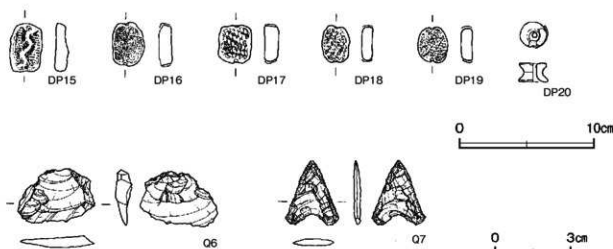
第17图 第15号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 18 图 第 15 号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



第19图 第15号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)



第20図 第15号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	全面に単節縄文・施文。口縁部隆帯による区画文。頸部と胴部を横目文で区画	覆土上層	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	口縁に沿って無文帯。沈線と隆帯による区画文。区画内縦位の沈線で光腹。胴部は単節縄文・L形・施文。底状器施文	中央部 覆土中層	
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細砂	灰黄褐色	口縁に沿って隆帯貼付。口縁部は横回転。胴部は縦回転の単節縄文・施文	覆土上層	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	地文単節縄文・L形。二本一組の隆帯で区画。区画内渦状の隆帯貼付	覆土上層	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁に沿って無文帯。沈線と凹みのある隆帯による区画文。区画内縦位の沈線で光腹	覆土上層	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	隆帯による区画文。隆帯上に横目目。区画内横位の沈線文で光腹。胴部無文	覆土上層	
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細砂	にぶい黄褐色	底状口縁。口縁に沿って無文帯。交互斜交文。凹みのある隆帯による直線文	覆土上層	
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細砂	黄褐色	縄文施文の隆帯と凹みのある隆帯による区画文。区画内交互斜交文と縦位の沈線文で光腹	覆土中層	
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	底状口縁。口縁に沿って無文帯。口縁の隆帯上下に交互斜交文。胴部無文	覆土上層	
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	口縁に沿って無文帯。胴部熱赤文	西寄り 覆土中層	
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	口縁部凹みのある隆帯で区画。区画内クランク文。単節縄文・L形・施文	覆土上層	
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁部隆帯区画文。区画内隆帯による底状文。単節縄文・L形・施文	覆土上層	
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	口唇部単節縄文・L形・施文。口縁に沿って縄文が施されている隆帯貼付。中央に内影の貼付文。胴部に単節縄文・L形・施文	覆土上層	
TP37	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰黄褐色	隆帯による区画文。区画内隆帯によるクランク文	覆土上層	
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁の無文帯下に交互斜交文。縦位の沈線文	覆土中層	
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	凹みのある隆帯による区画文。区画内隆帯による連続文で光腹。胴部熱赤文	西寄り 覆土中層	
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	口縁外縁。無文帯下に交互斜交文。縦位の沈線文	覆土中層	
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	隆帯区画文。区画内凹みのある隆帯によるクランク文。区画内沈線文で光腹	覆土上層	
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁部と胴部を交互斜交文で区画。胴部単節縄文・L形・施文	覆土上層	
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	口縁部凹みのある隆帯で区画。区画内沈線文で光腹	覆土上層	
TP44	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・細砂	にぶい黄褐色	底状口縁。口唇部沈線文。口縁部沈線による直線文。内面沈線による直線文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP10	土器片鉢	3.4	2.8	1.2	13.4	長石・石英・雲母	橙	凹縁部研磨。両端に削み	覆土中層	
DP11	土器片鉢	3.5	2.7	0.8	10.7	長石・石英・雲母	にぶい褐色	凹縁部研磨。両端に削み	覆土中層	
DP12	土器片鉢	3.4	2.8	0.8	12.7	長石・石英・雲母	灰褐色	凹縁部研磨。両端に削み	覆土中層	
DP13	土器片鉢	2.7	2.8	0.9	9.4	長石	にぶい黄褐色	凹縁部研磨。両端に削み	覆土中層	
DP14	土器片鉢	3.3	2.9	0.8	9.6	長石・石英・雲母	にぶい褐色	凹縁部研磨。両端に削み	覆土中層	
DP15	土器片鉢	3.3	2.6	0.9	11.9	長石・石英・雲母	灰黄褐色	凹縁部研磨。両端に削み	覆土中層	
DP16	土器片鉢	3.5	2.6	1.1	13.1	長石・雲母	にぶい黄褐色	凹縁部研磨。両端に削み	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP17	土器片鉢	30	2.7	1.1	109	長石・石英	黄褐色	周縁部研磨 両端に削み	覆土中	
DP18	土器片鉢	29	2.2	0.9	7.1	長石・雲母	にぶい黄褐色	周縁部研磨 両端に削み	覆土中	
DP19	土器片鉢	28	2.4	0.9	8.8	長石・雲母	にぶい黄褐色	周縁部研磨 両端に削み	P12内覆土中	
DP20	耳筒	径 2.1 厚さ 1.5 孔深 0.4			4.6	長石・雲母	にぶい褐色	断面形糸巻き状 中央に1孔	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	割片	22	3.0	0.7	2.7	黒曜石	下部部割離痕 割縁一部交互割離	北寄り 覆土中層	
Q 7	餅	25	2.1	0.3	1.1	チャート	基部に挟り 全面交互割離	中央部 覆土中層	

### 第 16 号竪穴建物跡 (第 21 ~ 22 図)

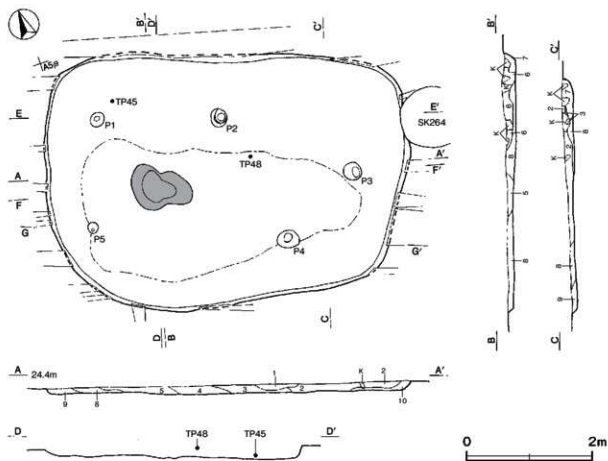
位置 2区中央からやや北寄りのA59区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第264号土坑に掘り込まれている。

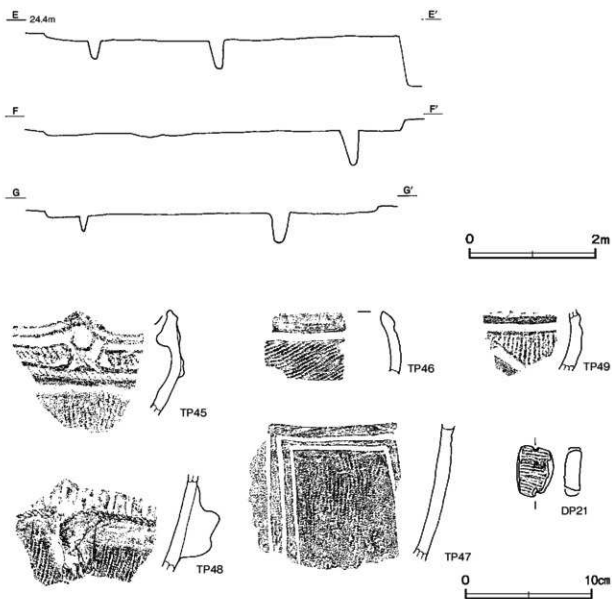
規模と形状 長軸5.68m、短軸3.98mの隅丸長方形を呈し、主軸方向はN-73°-Wである。壁は高さ8~15cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦で、が周辺から南部が踏み固められている。

炉 中央からやや西寄りに付設されている。長径96cm、短径60cmの不定形で、深さ10cmの地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変しているが、硬化は弱い。



第 21 図 第 16 号竪穴建物跡実測図



第22図 第16号堅穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P5は深さ25～55cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- |         |                         |           |           |
|---------|-------------------------|-----------|-----------|
| 1 褐 色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量   | 6 褐 色     | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量     | 7 褐 色     | ロームブロック中量 |
| 3 灰 褐 色 | ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 に近い黄褐色  | ロームブロック少量 |
| 4 褐 色   | ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量     | 9 黄 褐 色   | ロームブロック中量 |
| 5 暗 褐 色 | 焼土ブロック多量・ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 に近い黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片158点(深鉢)、土製品1点(土器片錘)のほか、混入した土器片7点(甕類)が出土している。すべて破片で、覆土下・中層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 16 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 22 図)

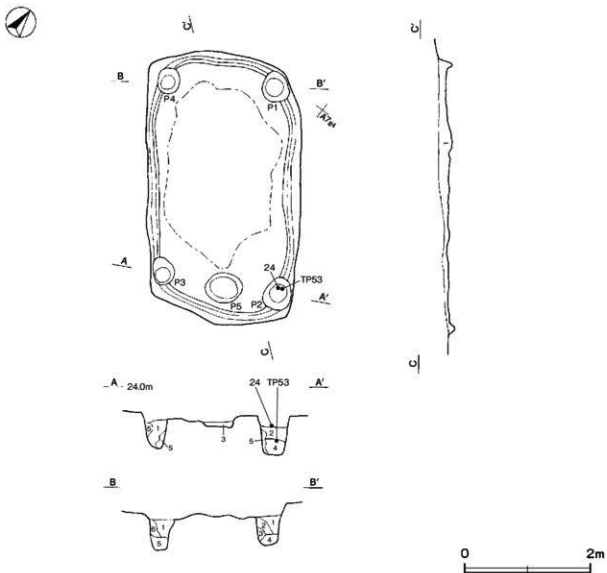
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	波状口縁 口縁部楕円形区画文 単筋縄文 R, 施文	北コーナー部 覆土下層	
TP46	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	口縁部隆帯貼付 隆帯下に沈線文 単筋縄文 L, R 施文	覆土中	
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	単筋縄文 R, L 施文 胴部沈線による素四角文	覆土中	
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部副位の沈線文 胴部と縄文施文の隆帯で区画 胴部隆帯による素系文 単筋縄文 R, L 施文	覆土上層	
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	素系文施文 沈線を伴う隆帯による区画文 区画内に沈線を伴う波状隆帯文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP21	土器片縁	4.1	2.9	1.3	18.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部研磨 両端に削み	覆土中	

第 20 号竪穴建物跡 (第 23・24 図)

位置 3区北東部のA7g3区, 標高23mほどの台地縁辺部に位置している。



第 23 図 第 20 号竪穴建物跡実測図



**規模と形状** 長軸4.32 m、短軸2.42 mの隅丸長方形を呈し、主軸方向はN-35°-Wである。壁は高さ3~13cmで、外傾している。

**床** 凹凸があり、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

**ピット** 5か所。P1~P4は各コーナー部に位置し、深さ38~60cmで、配置から支柱穴と考えられる。覆土はロームブロックを含む不規則な堆積であり、柱抜き取り後に埋め戻されている。P5は深さ10cmで、性格は不明である。

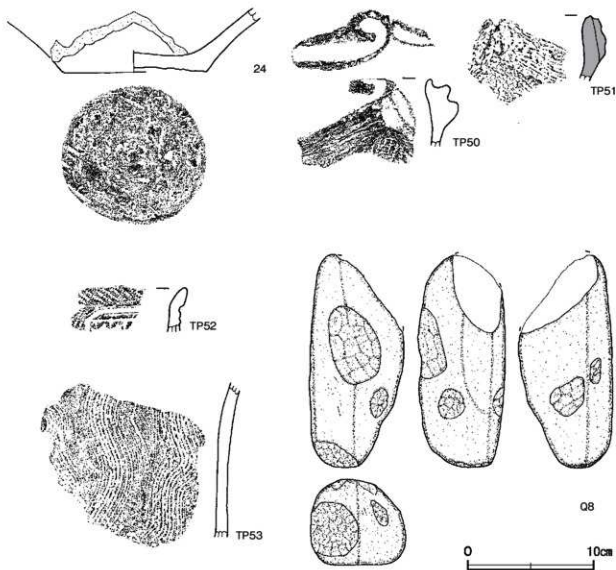
**P1~P5土層解説**

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量  | 5 褐色 ロームブロック中量  |
| 3 褐色 ロームブロック少量   | 6 黒褐色 ロームブロック微量 |

**覆土** 北西側から極暗褐色土が流れ込んでおり、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量



第24図 第20号堅穴建物跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 63 点(深鉢 62, 浅鉢 1), 土製品 1 点(土器片錘), 石器 1 点(敲石)が出土している。すべて破片で、埋没する過程で投棄されたか、埋土と一緒に流れ込んだものと思われる。

**所見** 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

#### 第 20 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 24 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
24	縄文土器	浅鉢	-	(4.9)	11.4	長石・石英・雲母・細砂	にぶい黄褐色	良好	底部は上げ底 胴部外縁 外面磨き	P2 覆土中層	10%
番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴はか			出土位置	備考	
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母		灰黄褐色	垂状口縁 口唇部太目の沈線文	隆帯による区画文 平筋縄文 区画文		覆土中		
TP51	縄文土器	深鉢	長石・細砂		にぶい黄褐色	垂状口縁 隆帯による区画文	区画内角押文で充填 平筋縄文 区画文		覆土中	混入土器。	
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母		にぶい黄褐色	沈線を持つ縄文施文の隆帯による区画文	口縁部隆帯に沿って交互向充文 平筋縄文 区画文		覆土中		
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子		にぶい黄褐色	縦位の柳葉流状文			P2 覆土中層		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 8	敲石	16.7	7.6	6.9	(119g)	流紋岩	先端部と側面に敲打痕 表面に凹み 1 か所 裏面に凹み 2 か所		覆土中	河石集用 14.5	

#### 第 29 号竪穴建物跡 (第 25 ~ 31 図)

**位置** 1 区中央からやや東寄りの B 3 d1 区。標高 23 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第 26 号竪穴建物と第 328 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸 4.02 m, 短軸 2.92 m の隅丸長方形を呈し、長軸方向は N - 26° - E である。壁は高さ 38 ~ 55 cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は北壁から東壁北側にかけて確認されている。

**ピット** 2 か所。P 1 は中央に位置し、深さ 38 cm で、主柱穴と考えられる。柱抜き取り痕が確認されている。P 2 は深さ 8 cm で、性格は不明である。

##### P 1 土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 2 黄褐色 ロームブロック少量
- 3 黄褐色 ローム粒子中量

##### P 2 土層解説

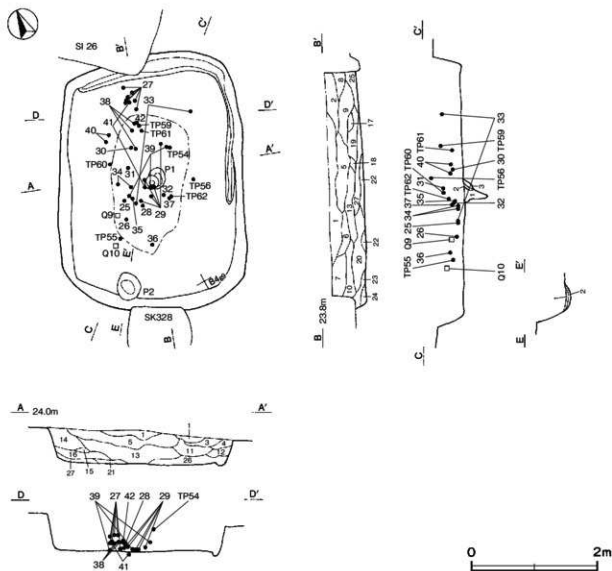
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黄褐色 ロームブロック中量

**覆土** 27 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

- |           |                    |           |                    |
|-----------|--------------------|-----------|--------------------|
| 1 にぶい黄褐色  | ロームブロック少量          | 15 暗褐色    | ロームブロック・焼土ブロック少量   |
| 2 灰黄褐色    | ロームブロック少量、炭化物微量    | 16 黒褐色    | ロームブロック少量          |
| 3 にぶい黄褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 17 暗赤褐色   | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 4 褐色      | ロームブロック少量          | 18 暗褐色    | ロームブロック中量          |
| 5 暗褐色     | ロームブロック少量          | 19 暗褐色    | ロームブロック少量、焼土粒子微量   |
| 6 褐色      | ロームブロック少量、炭化物微量    | 20 褐色     | ロームブロック少量、焼土粒子微量   |
| 7 にぶい黄褐色  | ロームブロック中量          | 21 暗褐色    | ロームブロック少量、炭化物粒子微量  |
| 8 暗褐色     | ロームブロック少量、炭化物微量    | 22 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量            |
| 9 黒褐色     | ロームブロック・焼土ブロック少量   | 23 黒褐色    | ローム粒子少量            |
| 10 暗褐色    | ロームブロック微量          | 24 にぶい黄褐色 | ロームブロック微量          |
| 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 25 褐色     | ロームブロック中量          |
| 12 褐色     | ロームブロック微量          | 26 灰黄褐色   | ロームブロック少量          |
| 13 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 27 褐色     | ローム粒子少量            |
| 14 暗褐色    | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |           |                    |

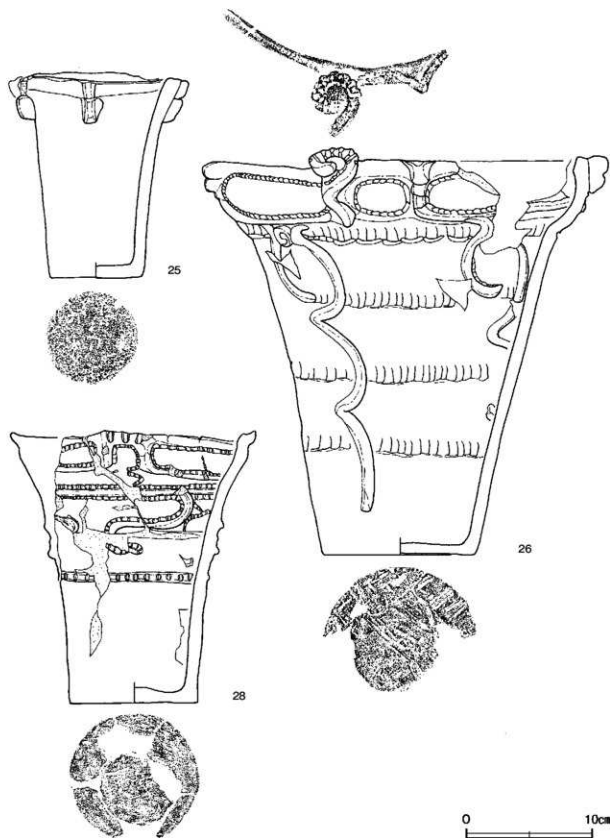
**遺物出土状況** 縄文土器片 269点（深鉢 267, 浅鉢 2）、石器 2点（磨石、敲石）、剥片 2点のほか、混入した土師器片 4点（堯類）が出土している。土器片はすべて破片で、中央部から北部の覆土下層から上層にかけて散乱した状態で出土しており、ある程度埋まった段階で北側から埋土と一緒に投棄されたものと思われる。  
**所見** 時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。



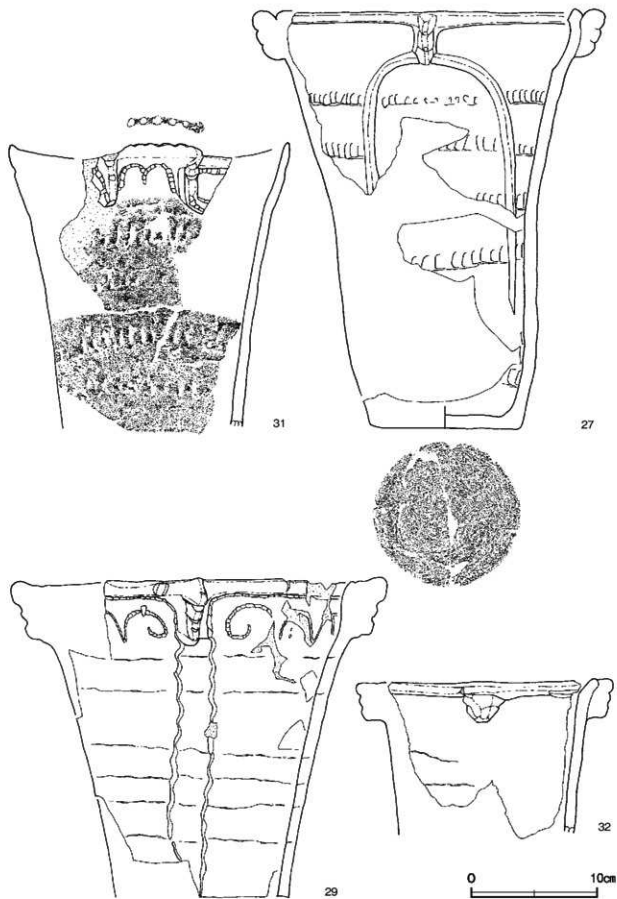
第 25 図 第 29 号竪穴建物跡実測図

第 29 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 26～31 図）

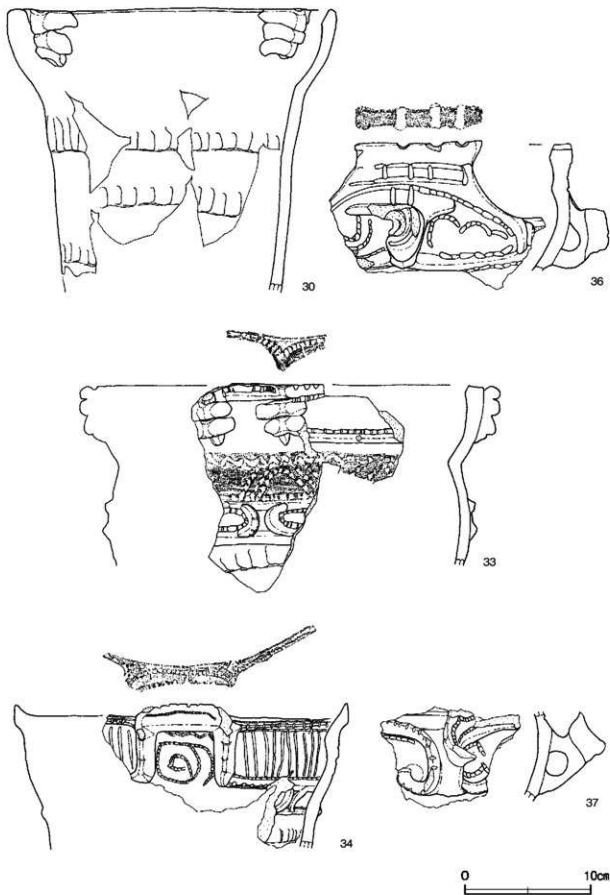
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
25	縄文土器	深鉢	120	163	72	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って厚めの隆帯 口縁から 4 単位の突起部	中央部 覆土下層	95% P1.21
26	縄文土器	深鉢	290	322	119	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に区画文 口縁部再押文を伴う隆帯画による横内側の区画文の発達した交差 彫部隆起部による底ド文 ヒゲ状凸部 彫部隆起部	中央部 覆土下層	80% P1.21
27	縄文土器	深鉢	[232]	330	115	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って隆帯部付 4 単位の厚みのある突起部 彫部隆起部による底「U」字文 ヒゲ状凸部	北側寄り 覆土中層	60%



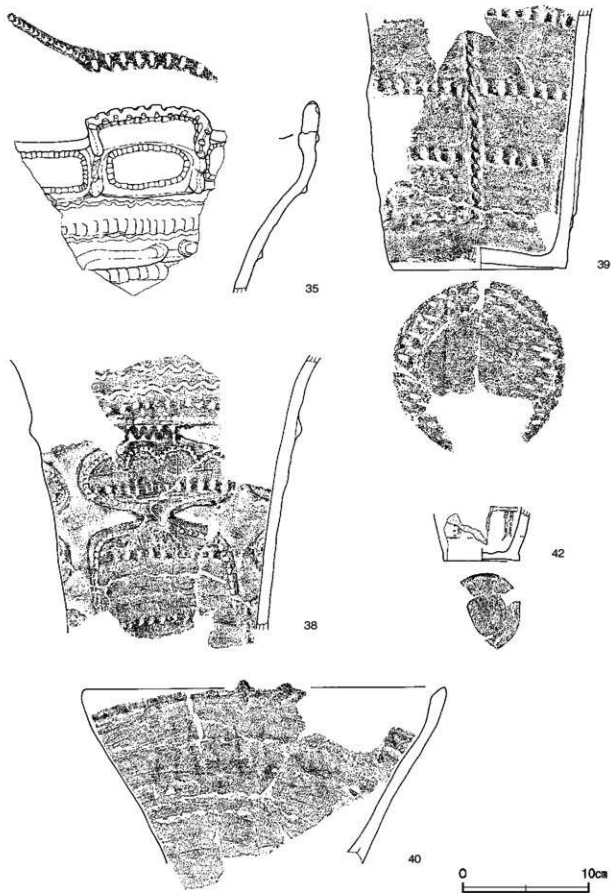
第26図 第29号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



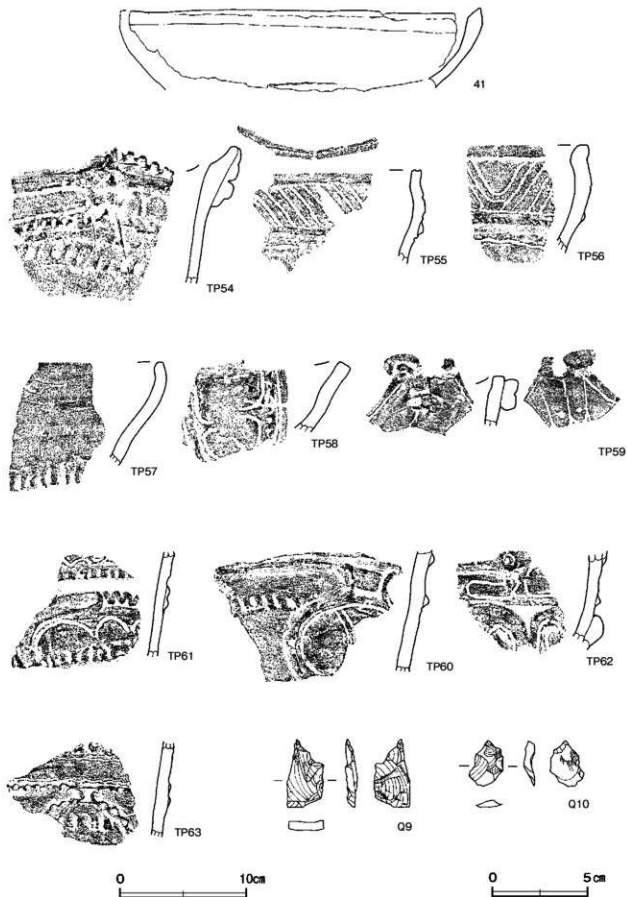
第27图 第29号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第28図 第29号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

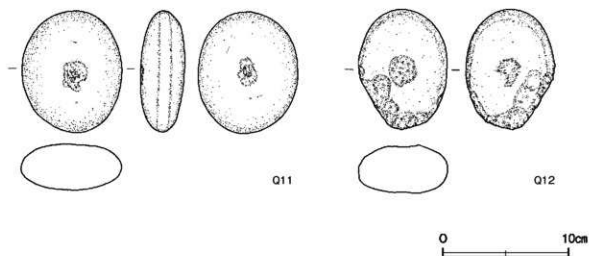


第29图 第29号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)



第30図 第29号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)





第31図 第29号竪穴建物跡出土遺物実測図(6)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
28	縄文土器	深鉢	[19.4]	21.6	10.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	肩部に刷目をもつ隆起部す。角押文を伴う楕円形区画。胴部上半部内文を伴う隆起線によるタテ線文。刷目をもつ隆起線で下半部区画	中央部 覆土下層	40% PL21
29	縄文土器	深鉢	[29.0]	(25.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って隆起部付。刷目をもつ突起。角押文による曲線文。胴部垂下する波状隆起線。輪飾み痕	中央部 覆土下層	40%
30	縄文土器	深鉢	25.2	(22.5)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部指頭押圧の隆起による4単位の突起。胴部ヒメ状圧痕	北寄り 覆土中層	40% PL21
31	縄文土器	深鉢	[22.0]	(22.5)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	肩部が押圧されている楕円状把手。角押文を伴う区画文。胴部ヒメ状圧痕	中央部 覆土中層	20%
32	縄文土器	深鉢	[17.2]	(12.5)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って隆起部付。4単位の厚みのある突起。胴部曲線文	中央部 覆土中層	20%
33	縄文土器	深鉢	[28.4]	(16.4)	-	長石・石英・雲母・細礫・黒色砂子	にぶい橙	普通	口縁部に角押文。口縁部に指頭押圧されている厚い突起。胴部内押文による三角文。角押文を伴う隆起線による楕円形区画文。ヒメ状圧痕	北寄り 覆土中層	10%
34	縄文土器	深鉢	[36.4]	(11.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	口縁部に角押文。胴部垂下する隆起部す。口縁部が指頭の隆起線による区画文。胴部ヒメ状圧痕	北寄り 覆土中層	10%
35	縄文土器	深鉢	-	(15.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	肩部刷目をもつ隆起部す。角押文を伴う楕円形区画文。胴部波状隆起線。隆起線による横線文。ヒメ状圧痕文	中央部 覆土下層	5%
36	縄文土器	深鉢	-	(11.7)	-	長石・石英・雲母・黒色砂子	にぶい赤黄	良好	口縁部に波状文。肩部刷目をもつ隆起部す。口縁部角押文を伴う隆起線による区画文。胴部内押文による曲線文	北寄り 覆土中層	5%
37	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	角押文を伴う隆起線による楕円状把手	中央部 覆土中層	5%
38	縄文土器	深鉢	-	(21.7)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤黄	普通	肩部沈陥による横波状文。角押文を伴う隆起線による区画文。胴部本線の隆起線による区画文。区画内角押文による曲線文。ヒメ状圧痕	北寄り 覆土中層	20%
39	縄文土器	深鉢	-	(20.5)	13.8	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤黄	普通	胴部押圧隆起線が垂下。ヒメ状圧痕。底部刷代痕	中央部 土層	40%
40	縄文土器	浅鉢	[28.5]	(13.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に2個1組の突起。胴部外面磨き。輪飾み痕	北寄り 覆土中層	20%
41	縄文土器	浅鉢	[28.6]	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口縁部に4個1組の突起	中央部 土層	20%
42	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	6.0	長石・石英	にぶい赤黄	普通	垂下する有筋波状文。上げ底	北寄り 覆土中層	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TF54	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	波状部に刷目をもつ隆起部付。口縁部角押文を伴う隆起線による楕円形区画文。胴部ヒメ状圧痕	覆土上層	
TF55	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄	口縁部内角押文。口縁部隆起線による区画文。区画内斜行沈線で区画	北寄り 覆土中層	
TF56	縄文土器	深鉢	長石・石英・細礫	にぶい黄	隆起線による区画文。区画内有筋波状文光斑。胴部と刷目をもつ隆起線で区画。胴部横線波状文	覆土上層	
TF57	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄	口縁部細広の無文帯。胴部ヒメ状圧痕	覆土中	
TF58	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	波状口縁。刷目をもつ隆起線垂下。有筋波線による曲線文	覆土中	
TF59	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	山形把手。肩部に厚みの隆起部付。口縁に沿って有筋波状文。内面有筋波状文	北寄り 覆土中層	
TF60	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部有筋波状文を伴う隆起線による曲線文。ヒメ状圧痕	中央部 覆土中層	
TF61	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部と刷目をもつ隆起線で区画。胴部有筋波線による曲線文。ヒメ状圧痕	北寄り 覆土中層	
TF62	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい赤黄	口縁部有筋波線を伴う隆起線による区画文	中央部 覆土中層	
TF63	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	押圧隆起線により胴部区画。胴部押圧隆起線による曲線文。ヒメ状圧痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴				出土位置	備考
Q9	剥片	3.5	2.0	0.7	3.6	黒曜石	縦長剥片・単面磨面打痕				中央部 覆土中層	
Q10	剥片	2.4	1.8	0.6	1.3	黒曜石	縦長剥片・右側縁に階段状側磨調整				東部 覆土中層	
Q11	磨石	9.6	8.0	5.8	384.0	花崗岩	全面を磨面として使用 両面に敲打痕				覆土中	西石薬用 器具
Q12	敲石	9.5	7.1	3.7	336.7	流紋岩	下端部・側縁部・両面に敲打痕				覆土中	西石薬用 器具

表2 縄文時代堅穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	磨面	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	面積 (㎡)				柱穴	土器	石	ヒト	イ				
1	A 6 a6	N-12°-W	[方形]	(282) × (258)	12 ~ 18	平凸 凹凸	-	1	-	-	-	-	人為	縄文土器、土器片、 石器	中期	本跡→SI 2	
3	A 7 j1	N-15°-E	[楕円形]	3.97 × (3.15)	16 ~ 21	平凸 凹凸	-	4	-	5	1	-	人為	縄文土器、土器片、 石器	中期 中層	本跡→SD 1	
4	B 6 a6	N-12°-E	[楕円形]	3.96 × (3.58)	5 ~ 8	平坦	-	4	-	1	1	-	自然	土器片、土器片、 磨石、敲石、石	中期 中層	SK29 → 本跡→ SI 5、SK61、277	
15	B 6 b2	N-40°-W	隅丸方形	5.95 × 4.96	3 ~ 18	平坦	ほぼ 全面	4	-	8	1	-	人為	縄文土器、土器片、 石器、石	中期 中層	SK266 → 本跡→ SE 2、SK201、207	
16	A 5 j9	N-73°-W	隅丸方形	5.68 × 3.98	8 ~ 15	平坦	-	5	-	-	1	-	人為	縄文土器、土器片	中期 中層	本跡→SK264	
20	A 7 g3	N-35°-W	隅丸方形	4.32 × 2.42	3 ~ 13	凹凸	全面	4	-	1	-	-	自然	縄文土器、土器片、 石、敲石	中期 中層		
29	B 3 d1	N-26°-E	隅丸方形	4.02 × 2.92	38 ~ 55	平坦	北壁面 遺存	1	-	1	-	-	人為	縄文土器、磨石、敲石	中期 中層	本跡→SK26、SK28	

## (2) 堅穴遺構

## 第1号堅穴遺構 (第32図)

位置 1区西部のB3d2区、標高20mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、東西軸は4.68m、確認できた南北軸は3.52mで、長方形と推定でき、長軸方向はN-80°-Eである。壁は高さ3~34cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。北側から南側へ傾斜している。

ビット 4か所。P1~P4は深さ38~50cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。覆土は2層で、ロームブロックやローム粒子を含む黄褐色土で埋め戻されている。

## ビット土層解説 (各ビット共通)

1 黄褐色 ロームブロック・土砂少量

2 黄褐色 ローム粒子中量

覆土 6層に分層できる。ロームブロックなどを含む不規則な堆積をしており、埋め戻されている。第5層の焼土層は覆土下層で確認され、ある程度埋まってから形成されたと思われる。

## 土層解説

1 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

5 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子

2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

少量 (焼土層)

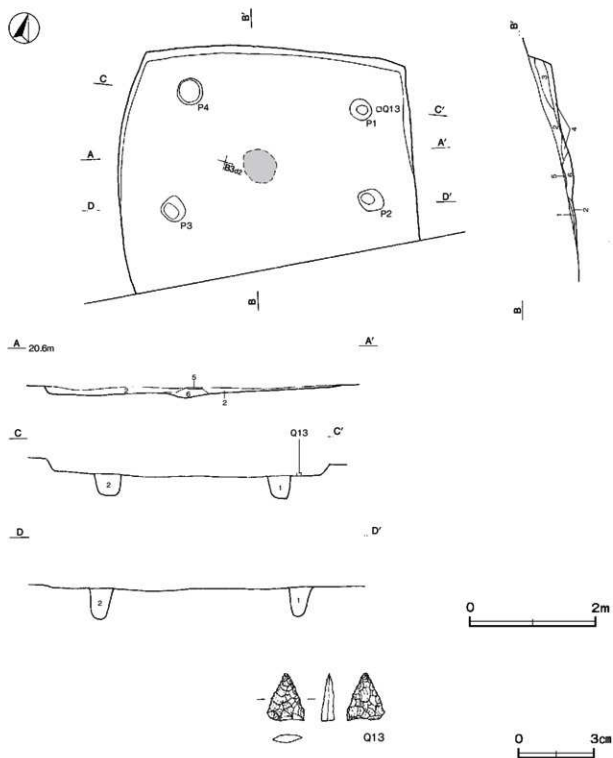
3 濃い褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

6 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

4 濃い褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片5点 (深鉢)、石器1点 (鎌)、剥片2点が、覆土中から出土している。すべて破片で、埋土と一緒に投棄されたか、混入したと思われる。

所見 焼土層は覆土下層で確認されており、ある程度埋まってから形成されたと思われる。床面はあまり踏み固められておらず、しかも傾斜している。また、柱穴は埋め戻され、遺物は非常に少なく堅穴建物としては使用されなかったと思われ、堅穴遺構とする。時期は、出土土器から中期と思われるが、詳細は不明である。



第32図 第1号竖穴遺構・出土遺物実測図

第1号竖穴遺構出土遺物観察表 (第32図)

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	鏃	1.9	1.5	0.5	1.05	黒曜石	四基無茎鏃 全面押圧訓練	底面	

## (3) 土坑

今回の調査で、縄文時代の土坑 54 基を確認した。覆土の堆積状況や遺物出土状況などが特徴的な 48 基については、実測図と出土遺物観察表を示し、文章で説明する。出土遺物の遺存状況などの制約から時期判断が困難な 6 基については、出土遺物、形状、重複関係、覆土の様相などの総合的な所見から当該時代に帰属するものと判断し、実測図と一覧表で掲載する。

## 第 3 号土坑 (第 33 ~ 36 図)

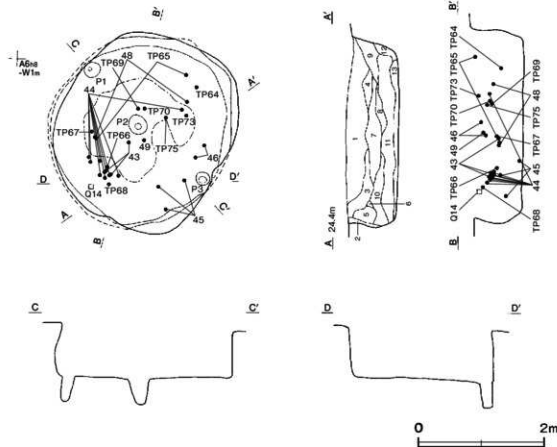
**位置** 3区北西部の A 6h8 区、標高 24 m ほどの台地縁部に位置している。

**規模と形状** 開口部は長径 3.08 m、短径 2.66 m の楕円形で、長径方向は N - 38° - E である。底面は長径 2.88 m、短径 2.70 m の楕円形で、平坦である。深さは 80 cm で、壁は東側はほぼ直立し、西側はわずかに内傾している。  
**ビット** 3 か所。P 1 は北西壁際、P 2 は中央部、P 3 は南東壁際に位置し、ほぼ一直線に並んでいる。深さはそれぞれ 42 cm・46 cm・46 cm である。配置や深さから柱穴の可能性が考えられる。

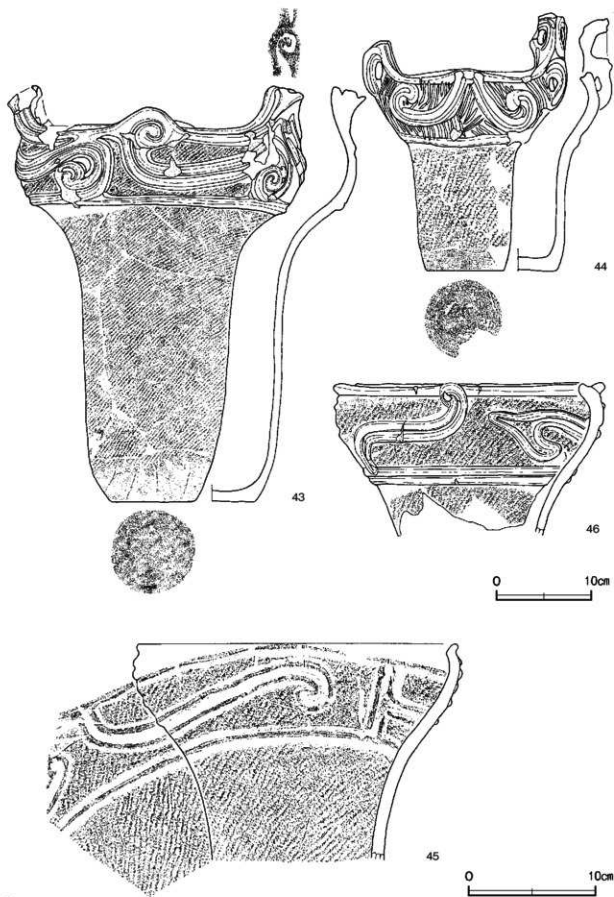
**覆土** 13 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

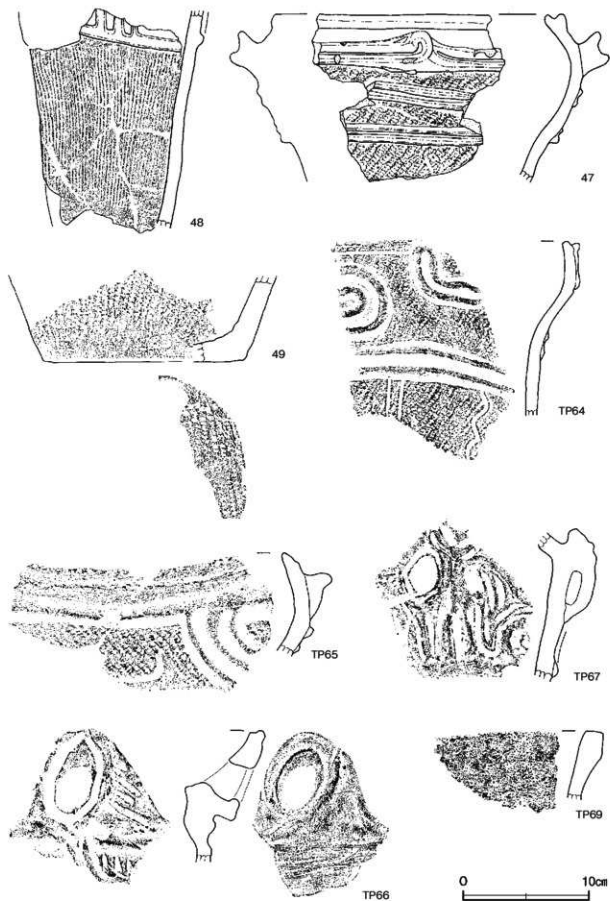
- |          |                       |           |                  |
|----------|-----------------------|-----------|------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック中量             | 8 暗褐色     | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 に近い黄褐色 | ロームブロック中量             | 9 褐色      | ロームブロック中量        |
| 3 暗褐色    | ロームブロック中量、炭化粒子微量      | 10 に近い黄褐色 | ロームブロック少量        |
| 4 に近い黄褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 11 褐色     | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 黄褐色    | ロームブロック中量             | 12 黄褐色    | ロームブロック少量        |
| 6 褐色     | ロームブロック少量             | 13 黄褐色    | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 7 に近い黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・焼土粒子少量 |           |                  |



第 33 図 第 3 号土坑実測図



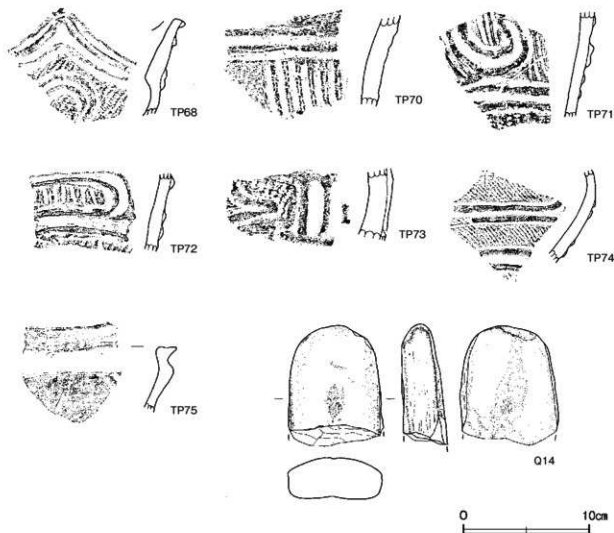
第34图 第3号土坑出土遗物实测图(1)



第35图 第3号土坑出土物实测图(2)

遺物出土状況 縄文土器片604点(深鉢603, 浅鉢1), 土製品7点(土器片錘), 石器1点(磨石)のほか, 土師器片2点(甕), 須恵器片2点(甕)が, 覆土下層から上層にかけて散乱した状態で出土している。43~46・48, TP65は分散して出土した破片が接合していることから, 破碎したものを投棄したとみられる。49, TP64・TP66・TP68・TP73は破片で, 49, TP64・TP66は覆土中層から, TP68・TP73は覆土上層からそれぞれ出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第36図 第3号土坑出土遺物実測図(3)

第3号土坑出土遺物観察表(第34~36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
43	縄文土器	深鉢	26.2	43.6	8.7	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	底状口縁 2本の隆帯による区画文 未端が渦状のクランク文 胴部早稲縄文R上縁文	覆土中層	95% PL23
44	縄文土器	深鉢	16.2	26.9	8.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中央の把手 隆帯による相対渦文 区画間比線文で充填 胴部早稲縄文R上縁文	覆土中層	80% PL23
45	縄文土器	深鉢	(25.6)	(17.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	区画間未端が渦状のクランク文 胴を早稲縄文で充填 胴部早稲縄文上上縁文	覆土下層	40%
46	縄文土器	深鉢	(23.6)	(16.0)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部隆帯による区画文 2本1組の隆帯によるクランク文 胴を早稲縄文上上縁文で充填	覆土中層	30%
47	縄文土器	深鉢	(22.8)	(13.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部凹み 口縁部高縁 口縁に沿って無文帯 隆帯区画文 胴を早稲縄文で充填	覆土中	10%
48	縄文土器	深鉢	-	(17.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部隆帯による区画文 胴部筒面状工具による隆帯の集積文	覆土中層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
49	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	[16.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部斜割による縦走縄文文 底部単節縄文Rし施文	覆土中層	5%
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか				出土位置	備考	
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	口縁部2本1組の隆帯によるタラシ文 胴を単節縄文で充填 胴部沈線による彫文・単節縄文Rし施文	覆土中層					
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による渦巻文 胴を単節縄文Rしで充填	覆土中層					
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	中空把手 口縁部隆帯による区画文 胴を沈線文で充填	覆土中層					
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	中空把手 口縁部隆帯による区画文 胴を沈線文で充填	覆土中層					
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐	表状口縁 口縁部2本1組の隆帯による区画文 胴を単節縄文Rしで充填	覆土上層					
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	黄橙	口縁に沿って隆帯附付 幅広い無文帯	覆土中層					
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	橙	口縁部隆帯による区画文 胴部沈線文	覆土上層					
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	口縁部2本1組の隆帯による渦巻 胴部単節縄文文	覆土中					
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部隆帯による区画文 胴を沈線文で充填	覆土中					
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	浅黄橙	口縁部隆帯による区画文 胴を単節縄文で充填	覆土上層					
TP74	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐色	口縁部2本1組の隆帯による区画文 胴を単節縄文Rしで充填	覆土中					
TP75	縄文土器	浅鉢	長石・雲母・黒色粒子	黒褐	口唇部やや凹む 口縁に沿って抉り	覆土上層					
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q-14	磨石	(9.4)	7.5	3.7	(346.2)	安山岩	全面を磨面として使用 両面に磨打痕 下端部磨打成形	覆土上層	西石巻川 四.五		

### 第8号土坑 (第37～39図)

位置 3区北部のA6g9区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.60m、短径1.48mの円形で、長径方向はN-17°-Eである。底面は径2.75mの円形で、平坦である。深さは88cmで、壁は内傾している。

覆土 15層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

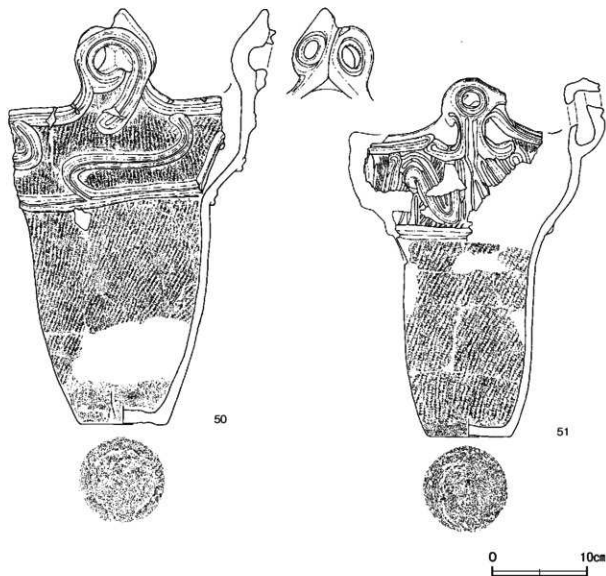
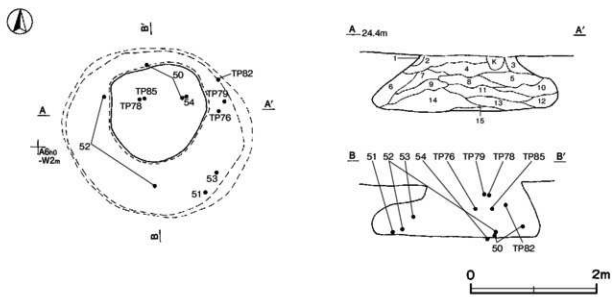
#### 土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2	黒暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	9	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	10	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
4	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量	11	褐色	ロームブロック多量
5	黒暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量	12	暗褐色	ロームブロック少量
6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	13	褐色	ロームブロック少量、炭化物粒子微量
7	黒暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	14	褐色	ロームブロック少量
			15	暗褐色	ロームブロック中量

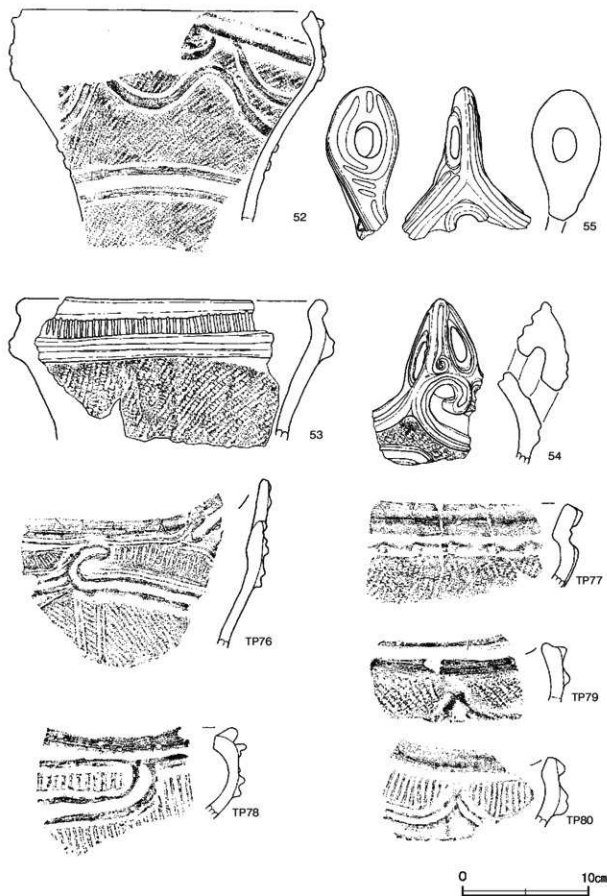
遺物出土状況 縄文土器片379点(深鉢378、浅鉢1)、土製品10点(土器片鍾)が、底面から覆土上層にかけて散乱した状態で出土している。50・52は分散して出土した破片が接合していることから、破砕されたものを投棄したとみられる。51・54は破片で底面から出土しており、遺棄されたか本跡が埋まらない内に投棄されたとみられる。TP76・TP78・TP79・TP82・TP85は破片で、TP76・TP78・TP82・TP85は覆土中層から、TP79は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

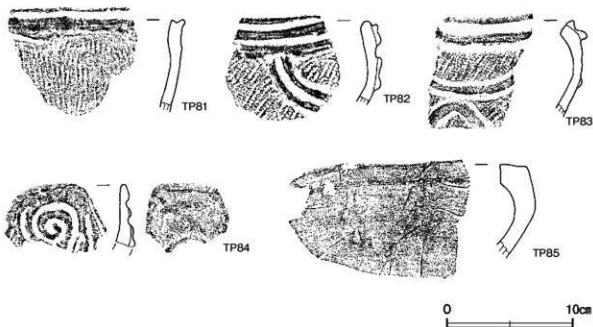




第37图 第8号土坑·出土遗物实测图



第38図 第8号土坑出土遺物実測図(1)



第39図 第8号土坑出土遺物実測図(2)

第8号土坑出土遺物観察表(第37～39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
50	縄文土器	深鉢	[22.8]	43.5	9.1	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	中央の把手 口縁部隆帯で区画 区画内クランク文 間を単筋縄文で充填 胴部単筋縄文Rし施文	覆土下層～中層	50% PL.23
51	縄文土器	深鉢	20.5	37.5	8.8	長石・石英・雲母・細礫	灰黄緑	普通	中央の把手 区画内隆帯による渦文 間を沈線文で充填 胴部単筋縄文	底面	50% PL.23
52	縄文土器	深鉢	[23.0]	(16.8)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	隆帯による区画文 区画内末端が渦状のクランク文 胴部単筋縄文Rし施文	覆土下層	30%
53	縄文土器	深鉢	[23.4]	(11.8)	-	長石・雲母	にぶい橙	良好	口縁部隆帯による区画文 間を沈線文で充填 胴部単筋縄文Rし施文	覆土中層	10%
54	縄文土器	深鉢	-	(13.0)	-	長石・石英・雲母	赤黒	普通	中央の把手 口縁部隆帯による区画文 間を単筋縄文で充填	底面	5%
55	縄文土器	深鉢	-	(12.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	環状把手 正面に隆帯文 側面に沈線文	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP76	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	黒灰	流状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内沈線文で充填 胴部単筋縄文Rし施文 平行沈線による帯状文	覆土中層	
TP77	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	黒黒	口縁に沿って隆帯貼付 交互斜交下単筋縄文施文	覆土中	
TP78	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	黒黒	流状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯によるクランク文 間を沈線文で充填	覆土中層	
TP79	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	黒暗黒	流状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による流状文 間を単筋縄文で充填	覆土上層	
TP80	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒	流状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内沈線文を伴う隆帯による帯状文 間を沈線文で充填	覆土中	
TP81	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黒	口唇部に凹み 口縁に沿って隆帯貼付 隆帯下単筋縄文Rし施文	覆土中	
TP82	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯によるクランク文 間を単筋縄文で充填	覆土中層	
TP83	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	明灰黒	口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による流状文 間を単筋縄文で充填	覆土中	
TP84	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	環状把手 沈線を伴う隆帯による渦帯文	覆土中	
TP85	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	口唇部平坦 無文で口縁部強く湾曲	覆土中層	

### 第10号土坑(第40～42図)

位置 3区北部のA6i9区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径2.32m、短径1.80mの不整楕円形で、長径方向はN-68°-Eである。底面は長径2.46m、短径2.18mの不整楕円形で平坦である。深さは58cmで、壁は東部の一部を除いて内傾している。

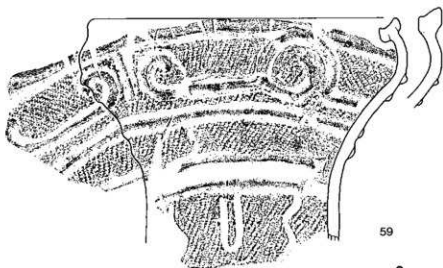
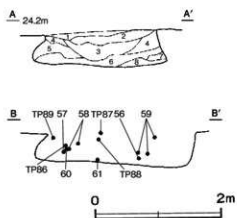
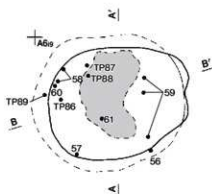
**覆土** 8層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

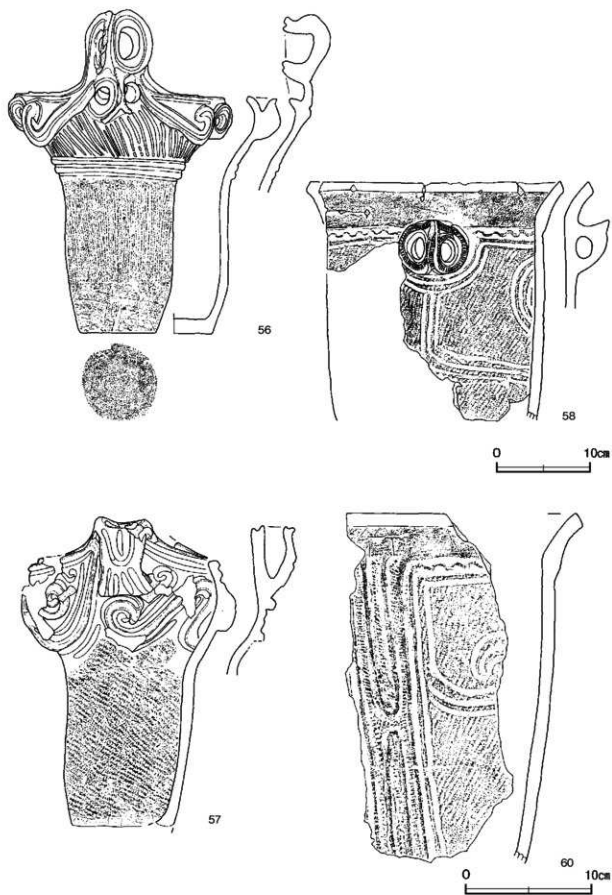
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	6 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	7 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 189 点（深鉢 188、浅鉢 1）、土製品 2 点（土器片錘）が、床面から上層にかけて、散乱した状態で出土している。56・57 は覆土下層からほぼ完形で横位で出土していることから、下層が埋め戻されてから投棄されたと思われる。58・59 は分散して出土した破片が接合していることから、破砕したものを投棄したとみられる。61、TP86～TP89 は破片で、61 は底面から、TP86 は覆土中層から、TP87～TP89 は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

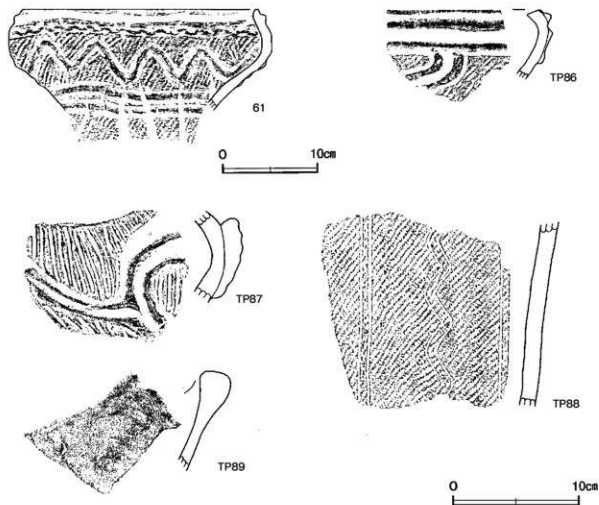
**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。焼土範囲は覆土上層で確認されており、本跡がある程度埋まってから投棄されたものと思われる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 40 図 第 10 号土坑・出土遺物実測図



第41图 第10号土坑出土文物实测图(1)



第42図 第10号土坑出土遺物実測図(2)

第10号土坑出土遺物観察表(第40～42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
56	縄文土器	深鉢	16.5	33.8	7.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中空の把手 区画内に隆帯による高文 間を沈線文で充填 胴部半周状工具による条線文	覆土下層	90% PL.23
57	縄文土器	深鉢	14.1	(24.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	中空の把手 口縁部隆帯による高文 間を沈線文で充填 胴部半周状工具による条線文	覆土下層	95% PL.22
58	縄文土器	深鉢	[26.2]	(25.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部隆帯 胴部柄目を持つ肩状把手 交互刺突文 胴部沈線による曲線文	覆土中層～上層	30%
59	縄文土器	深鉢	[24.0]	(17.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部隆帯 区画内に隆帯による相対高文 胴部半周状工具による高文 沈線による曲線文	覆土中層～上層	30%
60	縄文土器	深鉢	-	(27.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部隆帯 区画内隆帯による相対高文 胴部半周状工具による高文 交互刺突文 区画内隆帯による波状文	覆土下層	20%
61	縄文土器	深鉢	[24.2]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部隆帯 区画内隆帯による波状文 胴部半周状工具による高文	底面	20% PL.22

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP86	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部2本1組の隆帯による区画 区画内クランク文 間を半周状工具で充填	覆土中層	
TP87	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細砂	黒褐	口縁部2本1組の隆帯による曲線文 間を沈線文で充填	覆土上層	
TP88	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄橙	胴部半周状文 R L 上に平行沈線による懸垂文	覆土上層	
TP89	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	波状口縁 無文 口唇部肥厚	覆土上層	

### 第13号土坑 (第43～45図)

位置 3区北東部のA69区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.56m、短径1.42mの不整形円で、長径方向はN-54'-Wである。底面は長径2.38m、短径2.18mの不整形形で平坦である。深さは70cmで、壁は内傾して立ち上がっている。

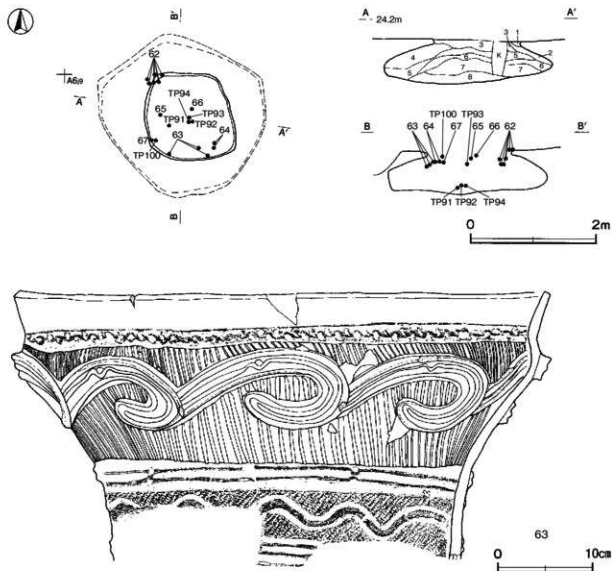
覆土 8層に分層できる。ロームブロック・炭化物などを含む層が不規則に堆積しており、埋め戻されている。

#### 土層解説

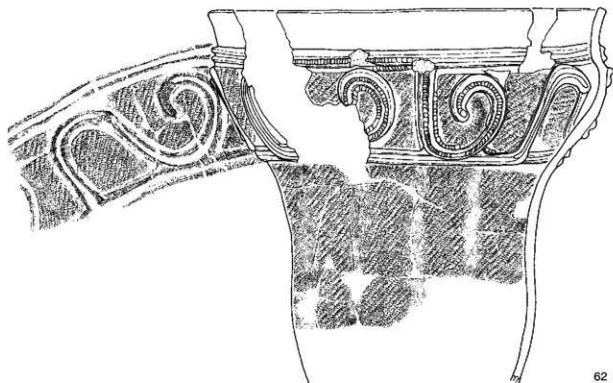
1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	5 灰褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	6 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	7 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片344点(深鉢)が、覆土上層を中心に散乱した状態で出土している。62～67、TP91～TP93・TP100は破片で、TP91・TP92は覆土下層から、62～67、TP93・TP100は覆土上層からそれぞれ出土しており、ある程度埋まってから投棄されたとみられる。

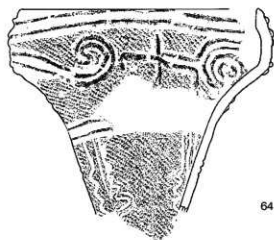
所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



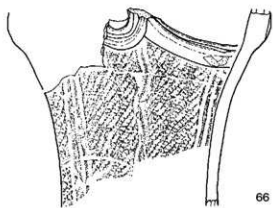
第43図 第13号土坑・出土遺物実測図



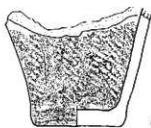
62



64



66

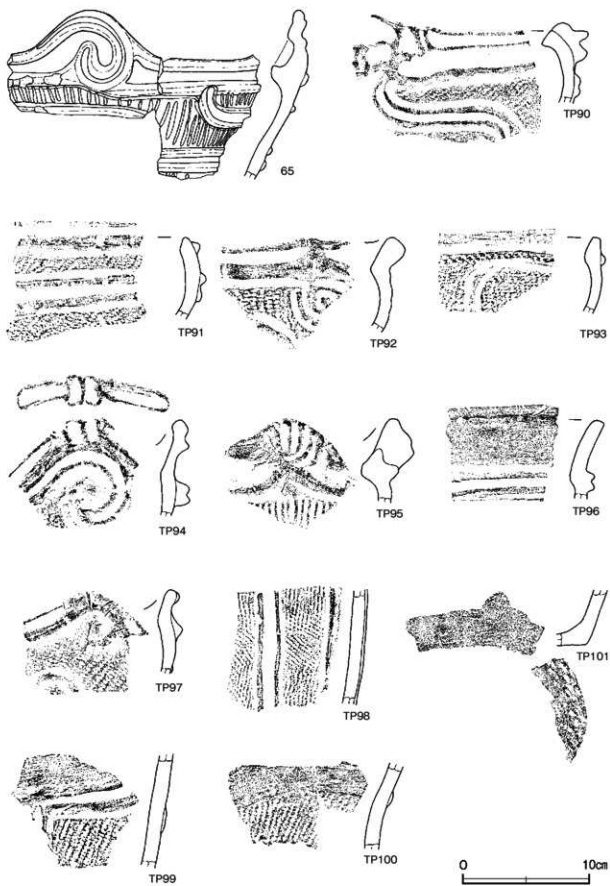


67



第44图 第13号土坑出土遺物実測図(1)





第45图 第13号土坑出土物实测图(2)

第13号土坑出土遺物観察表(第43~45図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
62	縄文土器	深鉢	40.3	(29.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って無文帯 腹面をもつ隆帯による 河相曲文 胴部単線文R.L.施文	覆土上層	40% P1.25
63	縄文土器	深鉢	[54.8]	(28.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って無文帯 交互斜交文下隆帯による 河相曲文 胴部隆帯による流状文	覆土上層	30% P1.25
64	縄文土器	深鉢	[24.4]	(21.3)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁部2本1組の隆帯による流状文 胴部単線 縄文L.R.L.上沈脚による壺垂文	覆土上層	20%
65	縄文土器	深鉢	-	(13.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部2本1組の隆帯による流状文 胴部単線 縄文L.R.L.上沈脚による壺垂文	覆土上層	10%
66	縄文土器	深鉢	-	(15.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部隆帯による区画文 胴部単線縄文R.L.上 に沈脚による壺垂文	覆土上層	30%
67	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	7.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部単線縄文L.R.施文	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP90	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細砂	黒褐色	流状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯によるクラ ンク文 胴を単線縄文R.L.で充地	覆土中	
TP91	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐色	口縁部2本1組の隆帯による区画文 区画内を単線縄文R.L.で 充地	覆土下層	
TP92	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	流状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による流文	覆土下層	
TP93	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁部縄文施文の隆帯による区画文 区画内沈脚による曲線文	覆土上層	
TP94	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	大流状口縁 頂部押圧文 口唇部凹み 隆帯による流文	覆土下層	
TP95	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 黒色砂子	橙	流状口縁 頂部隆帯貼付文 口唇部凹み 口縁に沿って隆帯貼 付 隆部下沈脚文	覆土中	
TP96	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	口縁部無文帯 無文帯下に凹みのある隆帯貼付	覆土中	
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	流状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による曲線文	覆土中	
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部無文施文 隆帯による壺垂文	覆土中	
TP99	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 黒色砂子	橙	頂部片 頂部無文帯 胴部と隆帯で区画 胴部単線縄文Lに隆 帯による壺垂文	覆土中	
TP100	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	頂部無文帯 胴部と隆帯で区画 胴部単線縄文L施文	覆土上層	
TP101	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 黒色砂子	にぶい褐色	胴部単線縄文施文 底部削代痕	覆土中	

## 第14号土坑(第46図)

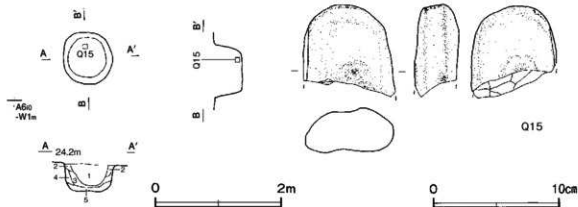
位置 3区北東部のA6h0区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径0.86mの円形で、底面は平坦である。深さは43cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に厚く堆積していることから、自然堆積である。

## 土層解説

- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量      | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |       |           |



第46図 第14号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 20 点（深鉢）、石器 1 点（磨石）のほか、弥生土器片 1 点（広口壺）が出土している。Q 15 は覆土下層から出土しており、流れ込んだか、投棄されたものと思われる。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から中期と思われるが、詳細は不明である。

#### 第 14 号土坑出土遺物観察表（第 46 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 15	磨石	(7.3)	(7.3)	3.6	(268.9)	流紋岩	両面・側面を磨面に利用 両面・側面に敲打痕	覆土下層	凹石兼用

#### 第 16 号土坑（第 47・48 図）

**位置** 3 区北部の A 7 g1 区、標高 24 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 開口部は長径 1.92 m、短径 1.80 m の不整形円で、長径方向は N - 72° - W である。底面は長径 2.82 m、短径 2.54 m の不整形楕円で平坦である。深さは 72cm で、壁は内傾している。

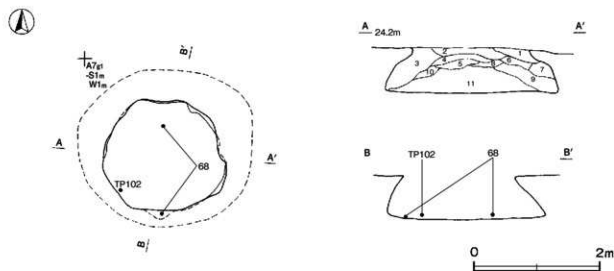
**覆土** 11 層に分層できる。ロームブロック・炭化物などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

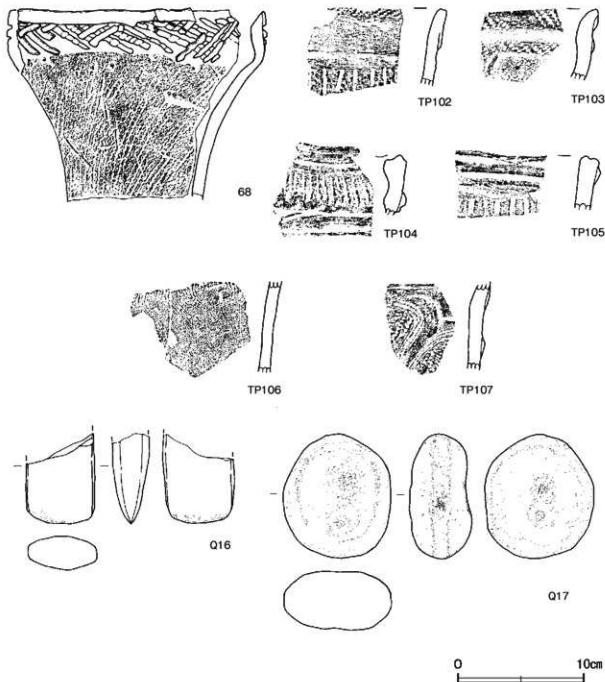
1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
2 褐色	ロームブロック少量	8 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
3 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	9 極暗褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	10 暗褐色	ロームブロック中量
5 褐色	ロームブロック中量	11 明褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 縄文土器片 113 点（深鉢）、石器 2 点（磨製石斧、磨石）が、底面から覆土中層にかけて出土している。68 は分散して出土した破片が接合していることから、破砕したものを投棄したとみられる。TP102 は破片で覆土下層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 47 図 第 16 号土坑実測図



第48図 第16号土坑出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表(第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
68	縄文土器	深鉢	[200]	[152]	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	口縁部口縁に沿って隆帯貼付 隆帯による斜格子文 胴部熱帯文施文	腹面～覆土下層	10%
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考				
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黒	口唇部縄文施文 無文の貼付け口縁 縄文上に縦位の沈線	覆土下層					
TP103	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黒	口縁部縄文施文の隆帯による区画文 間を単筋縄文施文	覆土中					
TP104	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色砂子	にぶい焼	流状口縁 口縁部隆帯による区画文 間を沈線文で充填	覆土中					

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	口唇部に凹み 口縁部に沿って隆帯貼付 縦位の沈線文	覆土中	
TP106	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰褐	胴部片磨面状工具による縦走波状文	覆土中	
TP107	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	口縁部隆帯による区画文 隅を単筋縄文で充填	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	磨製石斧	7.1	5.6	2.9	139.9	砂岩	定角式 研磨入念 基部欠損	覆土中	PI.26
Q17	磨石	9.9	8.7	5.0	587	流紋岩	全面磨面 両面に凹み2か所 側面に縦打痕	覆土中	西石兼用

### 第18号土坑 (第49～51図)

**位置** 3区北部のA7h1区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 開口部は長径1.72m、短径1.44mの不整楕円形で、長径方向はN-84°-Wである。底面は径2.72mの不整円形で、平坦である。深さは66cmで、壁は中位まで内傾し、上位はほぼ直立している。

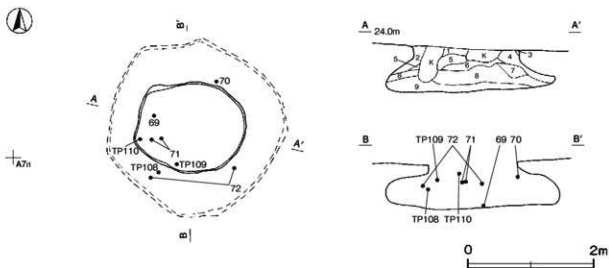
**覆土** 9層に分層できる。ロームブロック・焼土などを含む層が不規則に堆積しており、埋め戻されている。

#### 土層解説

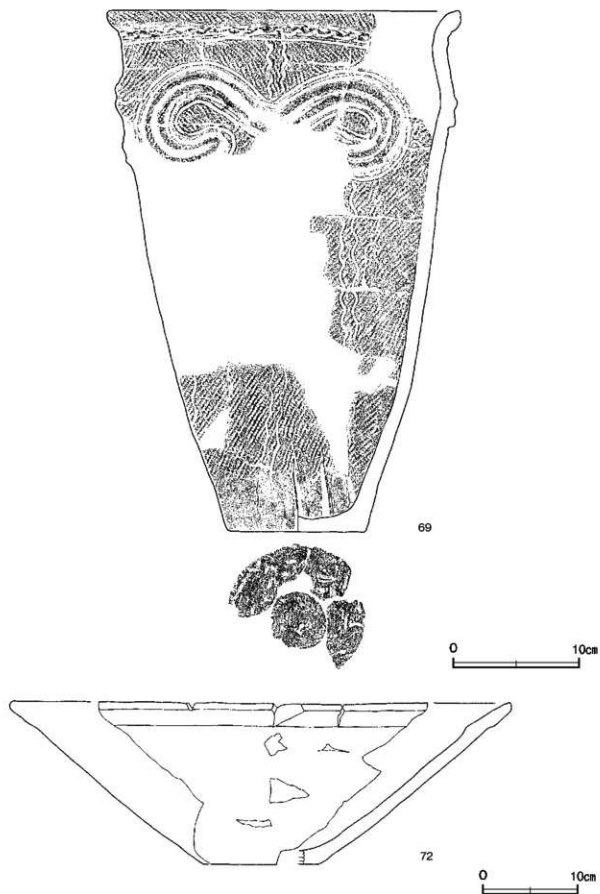
- |        |                        |       |                        |
|--------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量              | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量     | 7 褐色  | ロームブロック中量、炭化物微量        |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量              | 8 褐色  | ロームブロック中量              |
| 4 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量              |
| 5 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック微量     |       |                        |

**遺物出土状況** 縄文土器片287点(深鉢285、浅鉢2)、土製品5点(土器片錘)、石器1点(鐵)が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。69は底面から出土しており、廃絶時に遺棄したものとみられる。72は分散して出土した破片が接合していることから、破砕したものを投棄されたものとみられる。70・71、TP108～TP110は破片で、70・71、TP108・TP109は覆土中層から、TP110は覆土上層からそれぞれ出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

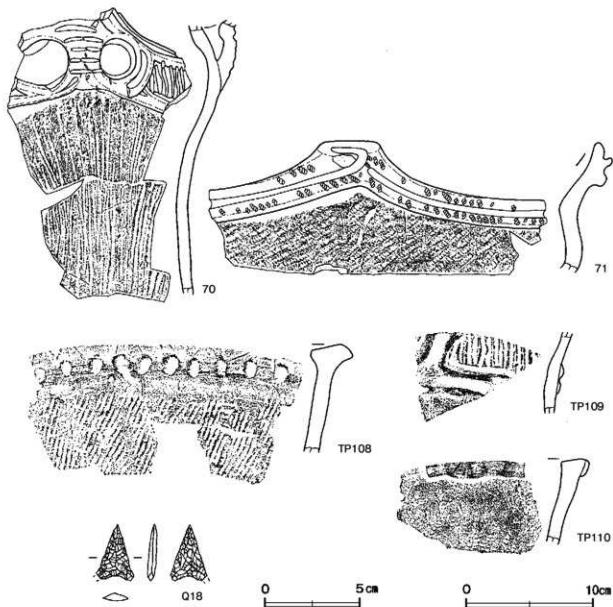
**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第49図 第18号土坑実測図



第50図 第18号土坑出土遺物実測図(1)



第51図 第18号土坑出土遺物実測図(2)

第18号土坑出土遺物観察表(第50・51図)

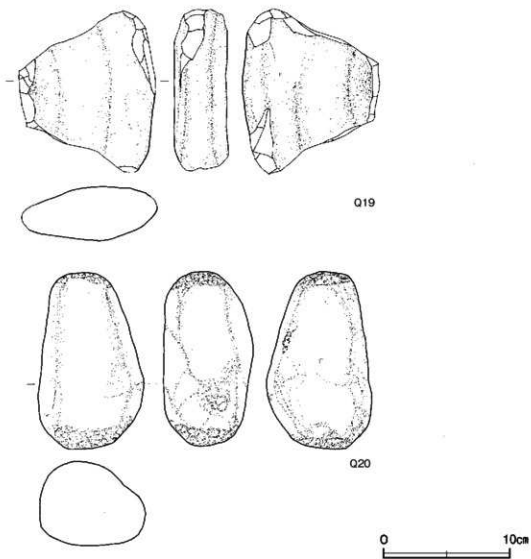
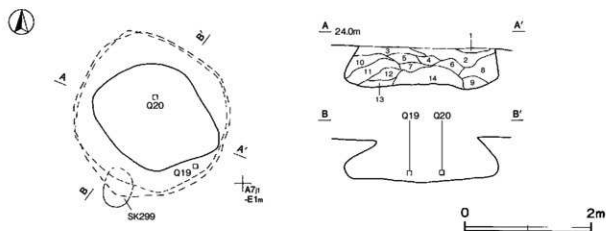
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
69	縄文土器	深鉢	27.8	41.4	10.8	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文施文の隆帯貼付 交互刺突文 器縁による粗針高文 肩部縄文上に波線による幾何文	底面	40% PL22
70	縄文土器	深鉢	-	(23.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	中学の把手 口縁部隆帯による区画文 側面沈線文で光地 胴部縦位の沈線文	覆土中層	10%
71	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	成状口縁 底部部高文 口縁に沿って2本1組の隆帯文 胴部半周縦文を呈し編文	覆土中層	5%
72	縄文土器	浅鉢	52.0	17.0	12.2	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	わずかに内彎して立ち上がる 右段口縁 内面に横	覆土中層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP108	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒靑	口唇部肥厚 口縁下端押圧 胴部半周縄文長し施文	覆土中層	
TP109	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰靑	口縁部隆帯による区画文 区画内沈線文で光地	覆土中層	
TP110	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒靑	口縁に沿って隆帯貼付 胴部半周縄文施文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	簾	3.1	(2.0)	0.4	(1.5)	チャート	基部挟り 両面潤滑調整	覆土中	90%

## 第 20 号土坑 (第 52 図)

位置 3区北部のA7il区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。



第 52 図 第 20 号土坑・出土遺物実測図



**重複関係** 第29号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部は長径2.14 m、短径1.68 mの不整楕円形で、長径方向はN-66°-Wである。底面は径2.38 mの不整円形で平坦である。深さは68cmで、壁は内傾している。

**覆土** 14層に分層できる。ロームブロック・炭化物などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	8 暗褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量	9 褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	10 褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ロームブロック中量	11 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
5 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量
6 褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量	13 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
7 暗褐色	ロームブロック少量	14 ぶい褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片29点(深鉢)、石器2点(石皿、敲石)が、覆土下層を中心に出土している。Q19・Q20は覆土下層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期と思われるが、詳細は不明である。

**第20号土坑出土遺物観察表(第52図)**

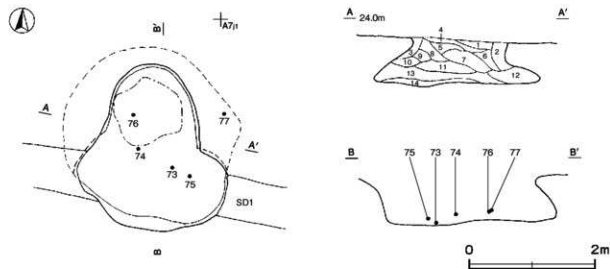
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	石皿	(108)	(127)	4.2	(810)	花崗岩	表面中央部わずかに凹み 磨面として使用	覆土下層	20%
Q20	敲石	140	8.4	6.7	1120	砂岩	両端に敲打痕 裏面に凹み痕1ヶ所	覆土下層	PL26

**第21号土坑(第53・54図)**

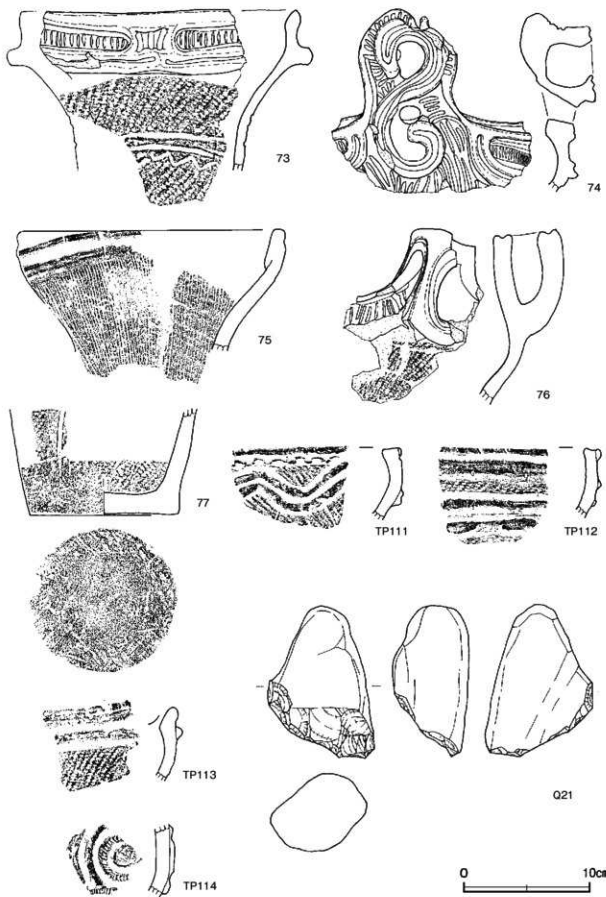
**位置** 3区北部のA6j0区、標高24 mほどの台地縁部に位置している。

**重複関係** 南部を第1号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部を第1号溝に掘り込まれているため、確認できた開口部は南北径2.60 m、東西径2.32 mの不整形である。底面は長径2.96 m、短径2.60 mの不整楕円形で、やや凹凸がある。長径方向はN-34°-Wである。深さは78cmで、壁は南部を除いて内傾している。



第53図 第21号土坑実測図



第54图 第21号土坑出土遺物実測図

**覆土** 14層に分層できる。ロームブロック・炭化物などを含む層が不規則に堆積しており、埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	8 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
2 暗褐色	ロームブロック中量	9 灰褐色	ロームブロック・炭化物少量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	10 褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	11 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	12 褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	13 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
7 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	14 褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 148点（深鉢147、浅鉢1）、土製品1点（土器片錘）、石器1点（礫器）が、覆土下層を中心に出土している。73～77は破片で覆土下層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。  
**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

**第21号土坑出土遺物観察表（第54図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
73	縄文土器	深鉢	21.8	(14.8)	-	長石・石英・雲母・黒色砂子	にぶい褐色	普通	口縁部隆帯による区画文 区画内浅線文で充填 胴部半筋縄文R.L.上に横位の浅線文	覆土下層	15%
74	縄文土器	深鉢	-	(14.6)	-	長石・石英・雲母・黒色砂子	にぶい褐色	良好	浅線文で充填	覆土下層	5%
75	縄文土器	深鉢	20.4	(9.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	有段口縁 口縁に沿って隆帯彫付 胴部衝面状 土具による浅線文	覆土下層	5%
76	縄文土器	深鉢	-	(14.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	中学の把手 口縁部隆帯による区画文 区画内 浅線文・半筋 胴部半筋縄文R.L.上に	覆土下層	5%
77	縄文土器	浅鉢	-	(6.4)	11.6	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	胴部半筋縄文R.L.上に浅線による懸垂文 底部 削代痕	覆土下層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP111	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色砂子	にぶい褐色	口縁に沿って交互斜交文 半筋縄文上に凹みのある隆帯による 波状文	覆土中	
TP112	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	口唇部に凹み 口縁部半筋縄文上に隆帯による区画文	覆土中	
TP113	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	波状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内半筋縄文施文	覆土中	
TP114	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐色	口縁部隆帯による区画文 隆帯に沿って爪彫文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	礫器	12.1	8.5	6.3	710	砂岩	刃部磨打による1次刃磨で作出	覆土中	

**第23号土坑（第55・56図）**

**位置** 3区北部のA7h2区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第267号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は長径1.72m、短径1.44mの楕円形で、長径方向はN-84°-Wである。底面は径2.72mの不整形円で平坦である。深さは70cmで、壁は中位まで内傾し、上位は直立している。

**覆土** 9層に分層できる。ロームブロック・焼土などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

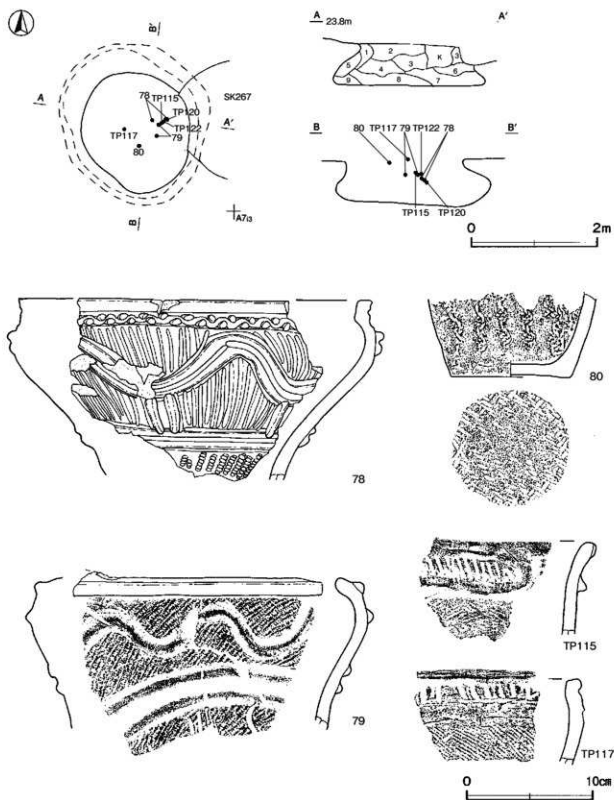
**土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック少量	6 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック少量	8 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	9 暗褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量		

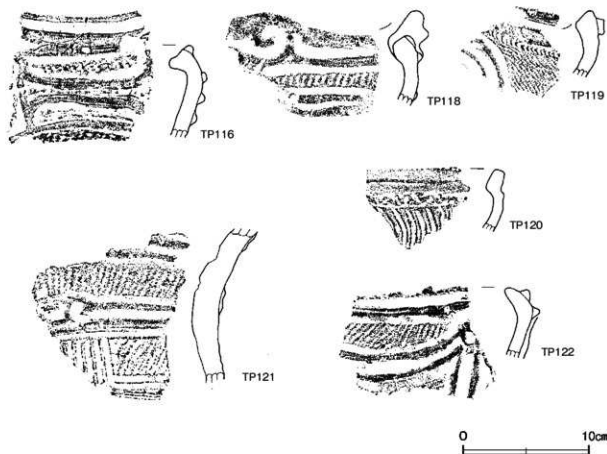
**遺物出土状況** 縄文土器片 146点（深鉢）、土製品1点（土器片錘）のほか、土師器片1点（坏）、陶器片1点（碗）が、覆土中層から上層にかけて出土している。78～80、TP115・TP117・TP120・TP122は破片で、78・79、

TP115・TP120・TP122は覆土中層から、80、TP117は覆土上層からそれぞれ出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第55図 第23号土坑・出土遺物実測図



第56図 第23号土坑出土遺物実測図

第23号土坑出土遺物観察表(第55・56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
78	縄文土器	深鉢	[27.8]	(14.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい暗	普通	口縁に沿って無文帯 交互駒突文と隆帯で区画 区画内隆帯による波状文 沈線文で充填	覆土中層	10%
79	縄文土器	深鉢	[22.0]	(12.4)	-	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	灰黄緑	良好	波状口縁 交互駒突文と同 区画内隆帯による波 状文 胴部帯の縄文は不明	覆土中層	10%
80	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	9.5	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部帯位の結輪文 底部調代表	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP115	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒灰	口縁部隆帯による区画文 区画内沈線文で充填 胴部帯赤文による針葉子文	覆土中層	
TP116	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい暗	口縁部凹み 口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による相対 波状文	覆土中	
TP117	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗黒	口縁に沿って網み目を伴う隆帯貼付 胴部単筋縄文とR施文	覆土上層	
TP118	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	波状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯によるクラウ ン文	覆土中	
TP119	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい暗	波状口縁 口縁部凸彫文を伴う隆帯による区画文 区画内隆帯 による曲線文 間を単筋縄文で充填	覆土中層	
TP120	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒黒	口縁に沿って無文帯 口縁部交互刺突 沈線文	覆土中層	
TP121	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 副産	にぶい暗	胴部隆帯により胴部と区画 胴部単筋縄文上に沈線による直線文	覆土上層	
TP122	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい暗	口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による曲線文 間を単筋 縄文で充填	覆土中層	

第24号土坑(第57・58図)

位置 3区北部のA7g2区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 開口部は長径2.08m、短径1.94mの円形である。底面は長径2.26m、短径2.12mの円形で平坦である。深さは45cmで、壁は中位まで内傾し、上位は直立している。

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

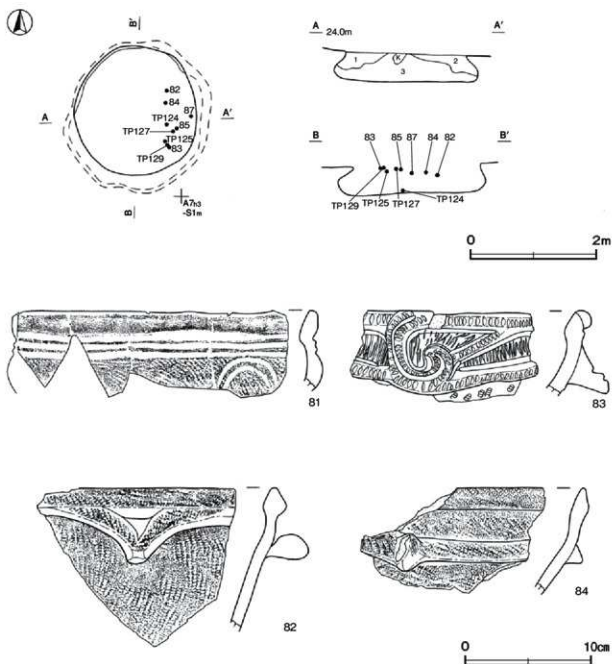
1 暗褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ロームブロック中量

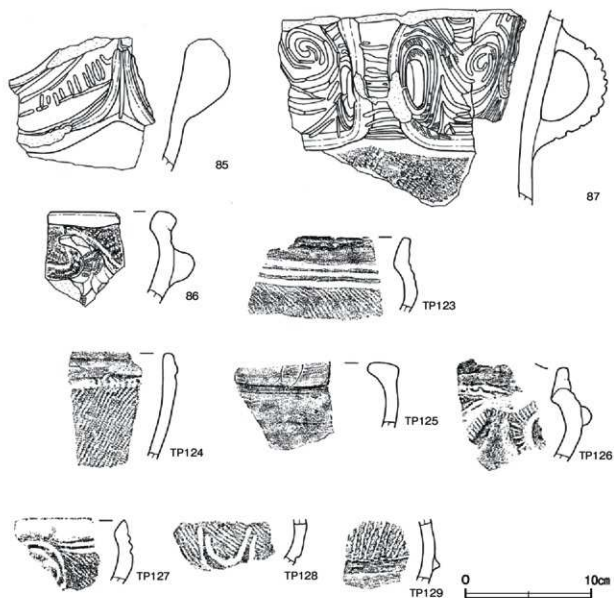
2 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片69点(深鉢)が、覆土上層を中心に出土している。82・85・87、TP125・TP127・TP129は破片で覆土上層から出土しており、ある程度埋まってから投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第57図 第24号土坑・出土遺物実測図



第 58 図 第 24 号土坑出土遺物実測図

第 24 号土坑出土遺物観察表 (第 57・58 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
81	縄文土器	深鉢	(230)	(58)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁に沿って無文帯 沈線を伴う隆帯周囲 半筋縄文土上・沈線による曲線文	覆土中	5%
82	縄文土器	深鉢	-	(126)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐色	良好	口縁部縄文施文の隆帯による「V」字状文 胴部半筋縄文及上縁文	覆土上層	10%
83	縄文土器	深鉢	-	(72)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部斜め目を伴う隆帯による区画文 区画内北縁文で支線 胴部半筋縄文施文	覆土上層	5%
84	縄文土器	深鉢	-	(84)	-	長石・雲母	黒灰	普通	口縁部縄文施文の隆帯による区画文 区画内半筋縄文及上縁文	覆土上層	5%
85	縄文土器	深鉢	-	(104)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って無文の隆帯による区画文 区画内北縁文で支線	覆土上層	5%
86	縄文土器	深鉢	-	(75)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁に沿って無文の隆帯貼付 縄文施文の厚みの隆帯を弧状に貼付	覆土中	5%
87	縄文土器	深鉢	-	(155)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐色	普通	沈線を伴う区画部手 口縁部北縁による曲線文 胴部半筋縄文及上縁文	覆土上層	15%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP123	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	口縁に沿って無文帯 沈線を伴う隆帯周囲 半筋縄文 R L 施文	覆土中	
TP124	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒灰	口縁に沿って隆帯貼付 隆帯下部に斜め目 半筋縄文 R L 施文	覆土下層	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP125	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	口唇部肥厚 口縁部強く内彎	覆土上層	
TP126	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	流状口縁 口縁に沿って無文帯 交互斜交文 割み目をもつ隆帯による曲線文	覆土中	
TP127	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒暗褐	口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による派文 区画内半筋縄文で充填	覆土上層	
TP128	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	口縁部半筋縄文土沈線による弧状文	覆土中	
TP129	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	隆起線により頸部と区画 区画内縦位の有筋沈線文 頸部無文帯	覆土上層	

## 第 27 号土坑 (第 59・60 図)

位置 3区北東部のA7g4区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径2.04m、短径1.76mの楕円形で、長径方向はN-43°-Wである。底面は長径2.16m、短径1.90mの楕円形で平坦である。深さは54cmで、壁は南東部を除いて内傾している。

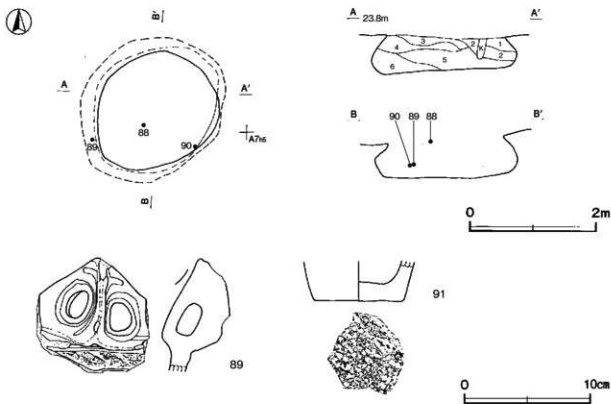
覆土 6層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |        |                        |       |                 |
|--------|------------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック中量              | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化物微量        | 5 褐色  | ロームブロック中量       |
| 3 黒暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量       |

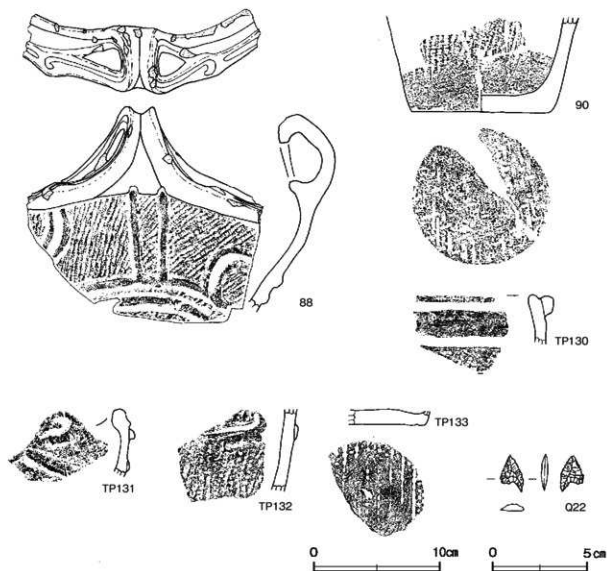
遺物出土状況 縄文土器片69点(深鉢)、土製品2点(土器片鉢)、石器1点(鎌)が、覆土中層から上層にかけて出土している。88-90は破片で、89・90は覆土中層から、88は覆土上層からそれぞれ出土しており、ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 59 図 第 27 号土坑・出土遺物実測図





第60図 第27号土坑出土遺物実測図

第27号土坑出土遺物観察表(第59・60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
88	縄文土器	深鉢	-	(16.4)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	縦線状把手 口縁部隆帯による区画文 隆帯に上るクラシク文 側面単筋縄文で装飾	覆土上層	10%
89	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線文を伴う縦線把手 口縁部隆帯による区画文	覆土中層	5%
90	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	11.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	製部単筋縄文R.L施文 底部網代紋	覆土中層	10%
91	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	製部下端部無文 底部網代紋	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP130	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	口縁に沿って沈線を伴う厚めの隆帯貼付 単筋縄文施文	覆土中	
TP131	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	波状口縁 波頭部に沈線による画文	覆土中	
TP132	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	口縁部隆帯による区画文 製部単筋縄文施文	覆土中	
TP133	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	底部網代紋	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	鏝	2.0	1.2	0.3	0.4	チャート	基部缺り 全面交互刻線	覆土中	90%

## 第 28 号土坑 (第 61・62 図)

位置 3区北東部のA7g4区、標高24mほどの台地縁部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.70mの不整形円形である。底面は径1.94mの不整形円形で、平坦である。深さは64cmで、壁は内傾している。

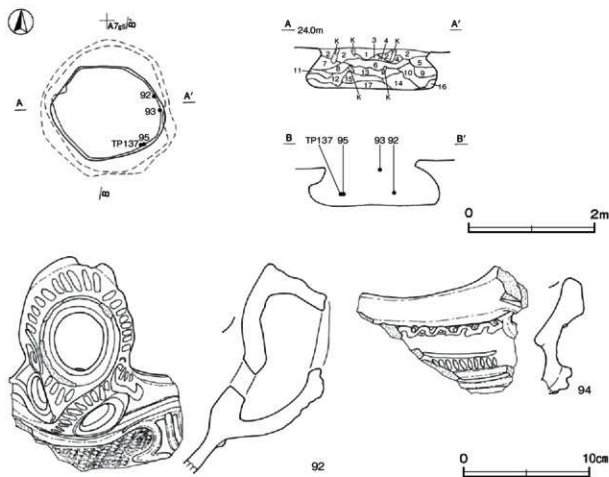
覆土 17層に分層できる。ロームブロック・焼土粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

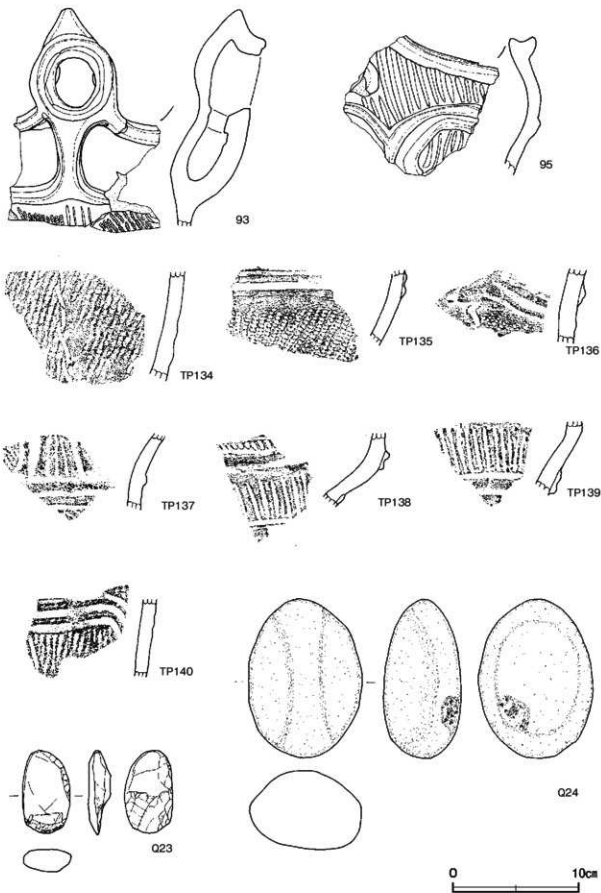
1 におい黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	10 におい黄褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量
4 黒色	ロームブロック少量	13 におい黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	14 におい黄褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15 黄褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック多量
8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17 におい黄褐色	ロームブロック中量
9 褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 縄文土器片156点(深鉢)、土製品1点(土器片錘)、石器2点(磨製石斧、磨石)が、覆土中層から上層にかけて出土している。92・93・95、TP137は破片で、92・95、TP137は覆土中層から、93は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 61 図 第 28 号土坑・出土遺物実測図



第 62 图 第 28 号土坑出土文物实测图

第28号土坑出土遺物観察表(第61・62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
92	縄文土器	深鉢	-	(17.0)	-	長石・石英・雲母・黒曜	橙	明赤焼	斜め目をもつ隆帯による中央の把手・口縁部隆帯による区画文・筒を単線文で充填	覆土中層	10%
93	縄文土器	深鉢	-	(17.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	中央の把手・口縁部隆帯による区画文・筒を単線文で充填	覆土上層	10%
94	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい青	良好	溝状口縁・口縁部隆帯による区画文・区画に沿って交互斜交文と斜め目	覆土中	5%
95	縄文土器	深鉢	-	(11.0)	-	長石・石英・雲母・黒曜	橙	普通	常状口縁・口縁部隆帯による区画文・区画内隆帯による曲線文・筒を沈線文で充填	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP134	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	製部片単線縄文上に縦位の結節文	覆土中	
TP135	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部と胴部を2本の隆帯で区画・胴部単線縄文	覆土中	
TP136	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	口縁部と胴部を2本の隆帯で区画・胴部単線縄文上に沈線による整列文	覆土中	
TP137	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁部2本の隆帯による区画・区画内沈線文で充填	覆土中層	
TP138	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	口縁部2本の隆帯による曲線文・筒を沈線文で充填	覆土中	
TP139	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒灰	口縁部2本の隆帯による区画文・区画内沈線文で充填	覆土中	
TP140	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	製部片単線縄文上に3本組の沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q23	磨製石斧	6.5	3.7	1.7	(53.4)	粘板岩	裏面下端部欠損 全面入念な研磨 上端部縁打調整	覆土中	
Q24	磨石	12.6	9.1	6.2	906	砂岩	全面磨面 裏面凹み1か所	覆土中	

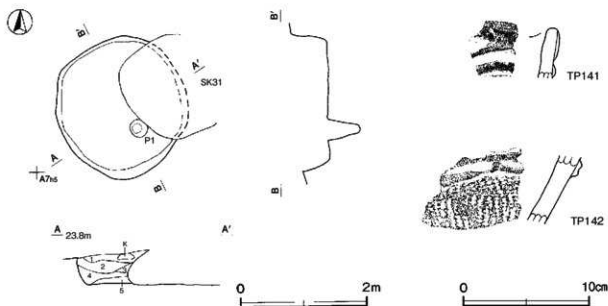
## 第30号土坑(第63図)

位置 3区北部のA7g5区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第31号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径2.10mの不整形円形で、底面は平坦である。深さは52cmで、壁はほぼ直立している。

ピット P1は中央部から南東寄りに位置し、深さ50cmである。性格は不明である。



第63図 第30号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |          |           |       |                 |
|----------|-----------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 灰褐色    | ロームブロック少量 | 5 褐色  | ロームブロック中量       |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |       |                 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 39 点（深鉢）が、覆土中層を中心に出土している。いずれも破片で、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

**第 30 号土坑出土遺物観察表（第 64 図）**

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP141	縄文土器	深鉢	灰石・石英・雲母	にぶい橙	波状口縁 口縁部隆帯による区画文	覆土中	
TP142	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・絹織	にぶい褐	口縁部と胴部を 2本の隆帯で区画 胴部単節縄文施文	覆土中	

**第 31 号土坑（第 64・65 図）**

**位置** 3区北東部の A 7g5 区、標高 23 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第 30 号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部は長径 1.78 m、短径 1.62 m の不整形円形である。底面は長径 2.42 m、短径 1.72 m の不整形円形で、平坦である。深さは 62 cm で、壁は中位まで内傾し、上位は直立している。

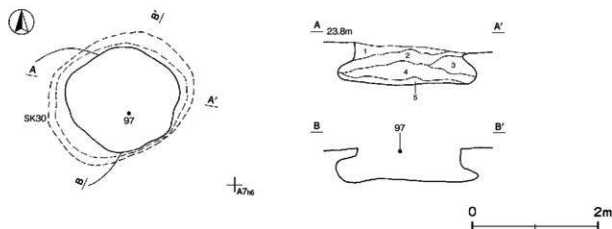
**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

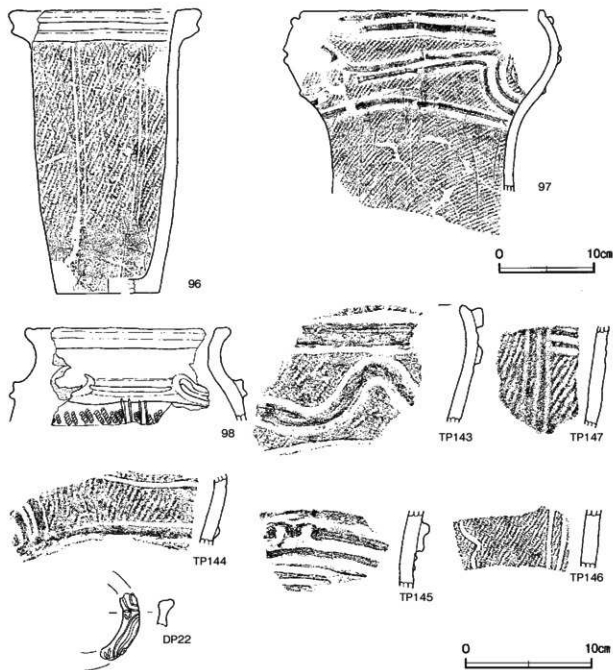
- |       |                  |      |                  |
|-------|------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量        | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |      |                  |

**遺物出土状況** 縄文土器片 56 点（深鉢 56）、土製品 2 点（耳飾、土器片錘）が、覆土下層から上層にかけて出土している。97 は破片で、覆土上層から出土し、ある程度埋まってから投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 64 図 第 31 号土坑実測図



第 65 図 第 31 号土坑出土遺物実測図

第 31 号土坑出土遺物観察表 (第 65 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
96	縄文土器	深鉢	[146]	22.5	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部2条の厚めの隆帯貼付 胴部半筋縄文R1上1に平行波線による帯文	覆土中	40%
97	縄文土器	深鉢	[250]	[189]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部隆帯による区画文 2本組の隆帯によるクラシク文 胴部半筋縄文R1地文	覆土上層	20%
98	縄文土器	深鉢	[160]	[7.4]	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部無文帯 口縁部下層に突起を伴う厚めの隆帯貼付 胴部半筋縄文上に帯文	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP143	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色砂子	にぶい橙	口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による波状文 間を半筋縄文で充填	覆土中	
TP144	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色砂子	にぶい橙	口縁部隆帯による区画文 区画内曲線状の波状文 間を半筋縄文で充填	覆土中	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP145	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁部と胴部を押し文をもつ隆帯で区画	覆土中	
TP146	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	単純縄文L.R上に沈澱による懸垂文	覆土中	
TP147	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	単純縄文L.R上に3本1組の沈澱による懸垂文	覆土中	

番号	器種	径	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP22	耳飾	[8.4]	-	[2.2]	[16.3]	長石・石英・雲母・赤色粒子	無文で表面磨き ヘラ状工具による弧状文	覆土中	

### 第33号土坑 (第66・67図)

位置 3区北東部のA7g5区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.56m、短径1.14mの楕円形で、長径方向はN-61°-Wである。底面は長径1.74m、短径1.50mの楕円形で、ほぼ平坦である。深さは36cmで、壁は中位まで内傾し、上位は直立している。

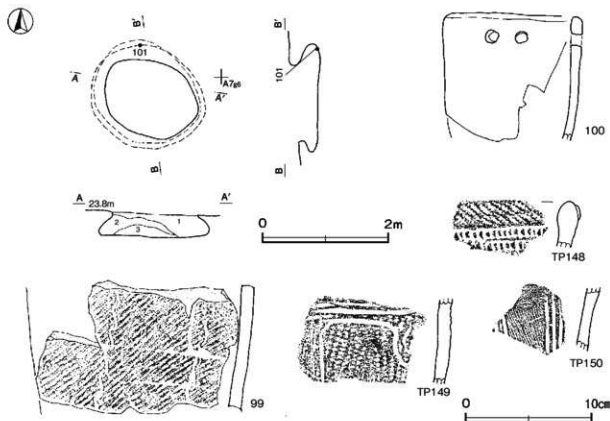
覆土 3層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

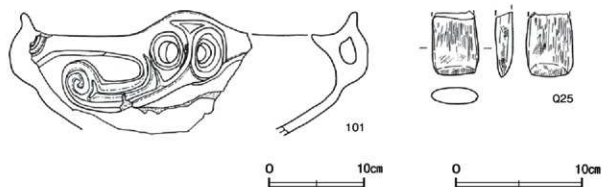
- 1 黒褐色 土 ロームブロック少量、炭化粒子
- 2 暗褐色 土 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 土 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片86点(深鉢85、浅鉢1)、石器1点(磨製石斧)が、床面から覆土上層にかけて出土している。101は底面から破片で出土していることから、廃絶時に遺棄されたか投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は出土土器から中期中葉と考えられる。



第66図 第33号土坑・出土遺物実測図



第 67 図 第 33 号土坑出土遺物実測図

第 33 号土坑出土遺物観察表 (第 66・67 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
99	縄文土器	深鉢	-	(100)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	胴部半部縄文R1上に縦位の結節文	覆土中	10%
100	縄文土器	深鉢	100	(100)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	無文筒形 口縁部に2孔	覆土中	15%
101	縄文土器	浅鉢	[348]	[127]	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	浅状口縁 胴部状把手 区西内面多文	底面	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP148	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁に沿って縄文施文の隆帯胎付 隆帯下に連続爪形文	覆土中	
TP149	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 褐色粒子	にぶい褐色	胴部上位に横走沈線文 半部縄文R1上に沈線文	覆土中	
TP150	縄文土器	深鉢	長石・雲母	褐色	胴部細めの黒赤文上に3本の沈線による懸垂文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	磨製石斧	(32)	(37)	1.3	(407)	粘板岩	定角式 全面入念な磨面 上半部欠損	覆土中	

## 第 35 号土坑 (第 68 図)

位置 3区北東部のA7g6区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第34号土坑を掘り込み、第36号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.94m、短径1.76mの楕円形で、長径方向はN-28°-Eである。深さは38cmで、底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

ピット 中央部から北西の壁寄りに位置し、深さ48cmである。覆土は、ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。性格は不明である。

## ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量  
2 黒暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量  
4 褐色 ロームブロック中量

覆土 2層に分層できる。西側から流入しており、自然堆積である。

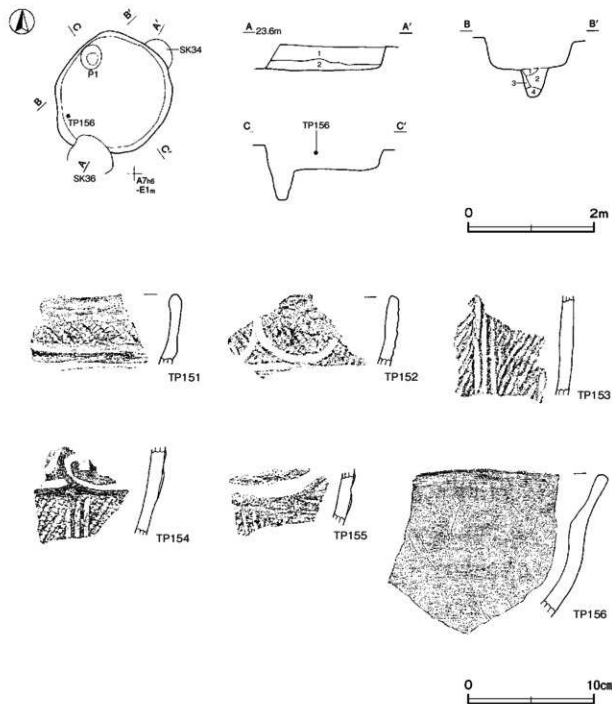
## 土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 灰黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片64点(深鉢63、浅鉢1)が、覆土下層から中層にかけて出土している。TP156は覆土中層から破片で出土しており、埋土とともに投棄されたか混入したものである。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。





第 68 図 第 35 号土坑・出土遺物実測図

第 35 号土坑出土遺物観察表 (第 68 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP151	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	口縁部除帯による区画文 区画内半節縄文光焼	覆土中	
TP152	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	口縁部半節縄文R.L.上に沈澱による連続弧状文	覆土中	
TP153	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部半節縄文R.L.上に3本組の沈澱による懸垂文	覆土中	
TP154	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	口縁部沈澱を伴う除帯による高文 胴部半節縄文R.L.上に3本組の沈澱による懸垂文	覆土中	
TP155	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部除帯による区画文 胴部半節縄文抽文	覆土中	
TP156	縄文土器	浅鉢	長石・雲母・黒色粒子	にぶい橙	口縁部わずかに内摩 内面に横	覆土中層	

## 第36号土坑 (第69図)

位置 3区北東部のA7g6区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第35号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.84m、短径0.70mの不整楕円形で、長径方向はN-14°-Wである。底面は平坦である。深さは42cmで、壁はほぼ直立している。

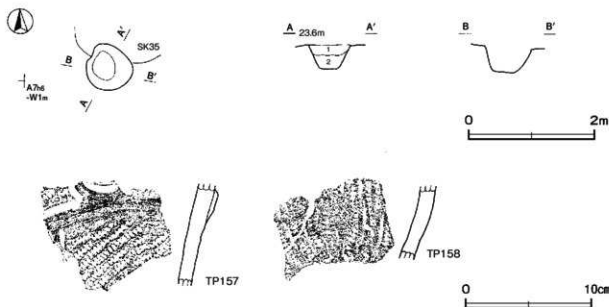
覆土 2層に分層できる。北側から流入しており、自然堆積である。

## 土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 2 濃い灰褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片20点(深鉢)が、覆土中から出土している。TP157・TP158は流れ込みと思われる。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第69図 第36号土坑・出土遺物実測図

## 第36号土坑出土遺物観察表 (第69図)

番号	種別	形種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP157	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	濃い褐色	口縁部隆帯による区画文 区画内半鈿縄文で光瑣 胴部半鈿縄文R L施文	覆土中	
TP158	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	胴部半鈿縄文R L施文	覆土中	

## 第37号土坑 (第70図)

位置 3区北東部のA7g6区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径1.80mの不整形円形で、底面は平坦である。深さ48cmで、壁は直立している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

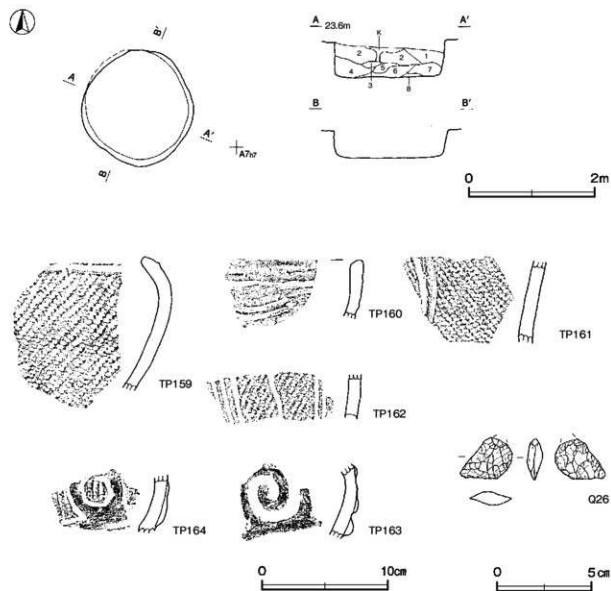
1 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量  
2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

- 5 暗褐色 ロームブロック少量  
6 黒暗褐色 ロームブロック少量

- 7 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量  
8 褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 160点（深鉢159、浅鉢1）、土製品1点（土器片錘）、石器1点（搔器）のほか、土師器片1点（甕）が、覆土中から出土している。TP159～TP164は破片で、覆土中から出土しており、埋土とともに投棄されたか混入したものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第70図 第37号土坑・出土遺物実測図

第37号土坑出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP159	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	口縁に沿って沈線を伴う隆帯文 単節縄文R.L.施文	覆土中	
TP160	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	口縁に沿って沈線を伴う隆帯文 単節縄文上に沈線文	覆土中	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP161	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	胴部半筋縄文L上に沈澱による懸垂文	覆土中	
TP162	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	胴部半筋縄文L上に沈澱による懸垂文	覆土中	
TP163	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁部隆帯による渦巻文	覆土中	
TP164	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	口縁部隆帯による環状文 胴部半筋縄文で充填	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q26	鉢器	(22)	2.8	0.8	(4.6)	チャート	基部欠損 全面交互刻線	覆土中	

## 第39号土坑 (第71・72図)

位置 3区北東部のA75区、標高23mほどの台地縁部に位置している。

重複関係 第38・40号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.46m、短径2.30mの円形である。底面は径2.80m、短径2.62mの円形で、平坦である。深さは52cmで、壁は中位まで内傾し、上位は直立している。

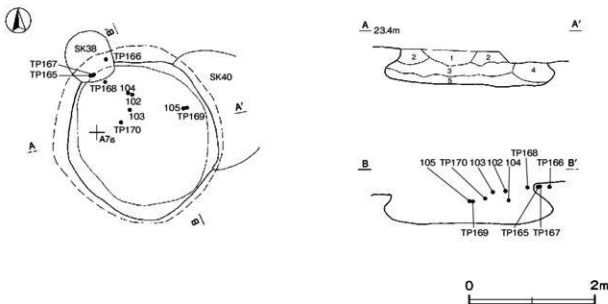
覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

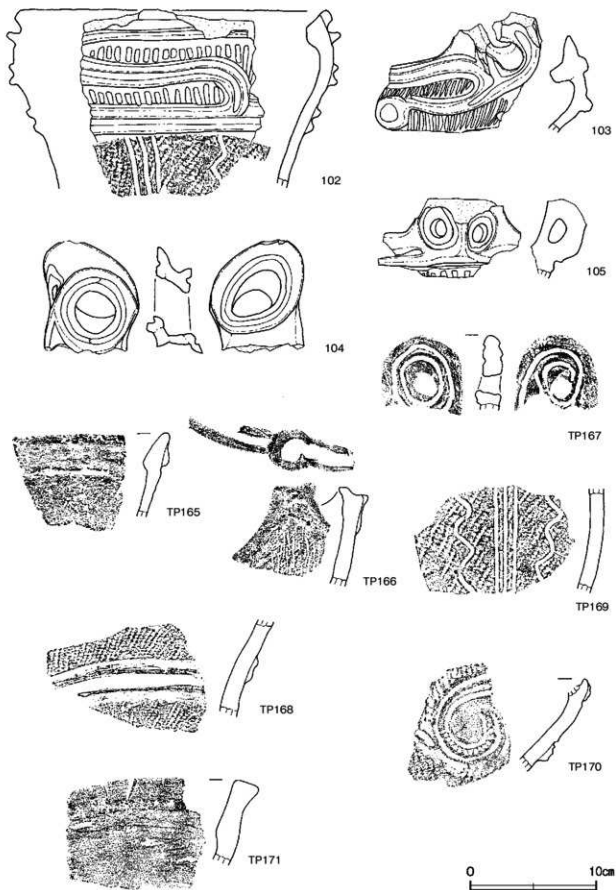
- |        |                       |        |                       |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子微量      |        |                       |

遺物出土状況 縄文土器片225点(深鉢223、浅鉢2)、土製品1点(土器片鏟)が、覆土上層を中心に散乱した状態で出土している。102～104、TP165～TP170は破片で覆土上層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第71図 第39号土坑実測図



第72图 第39号土坑出土物实测图

第39号土坑出土遺物観察表(第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
102	縄文土器	深鉢	24(0)	(14.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部隆帯による区画文 隆帯によるクラク文 胴部半筋縄文上に在りによる半垂文	覆土上層	15%
103	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	中学の把手 口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による環状文 胴を沈線文で装飾	覆土上層	5%
104	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	胴縁状把手	覆土上層	5%
105	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	環状口縁 胴縁状把手 口縁部隆帯による区画文 胴を沈線文で装飾	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP165	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・細砂	橙	有段口縁 口縁部外環 口縁に沿って隆帯貼付	覆土上層	
TP166	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	大湾状口縁 口縁に沿って隆帯貼付 隆帯下半筋縄文施文	覆土上層	
TP167	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐色	沈線を伴う隆帯による環状把手	覆土上層	
TP168	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	細灰	口縁部と胴部を2本の隆帯により区画 胴部半筋縄文R.L施文	覆土上層	
TP169	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	胴部半筋縄文R.L上に沈線による懸垂文	覆土上層	
TP170	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部刷目をもつ隆帯による渦文 胴部半筋縄文施文	覆土上層	
TP171	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	有段口縁 口縁部外反 口唇部や肥厚	覆土中	

## 第40号土坑(第73図)

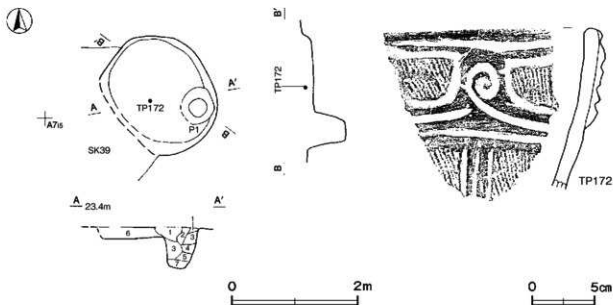
位置 3区北東部のA7h5区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第39号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.94m、短径1.61mの楕円形で、長径方向N-36°-Wである。底面は平坦である。深さは22cmで、壁はほぼ直立している。

ピット 南東壁際に位置し、深さ50cmである。性格は不明である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第73図 第40号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐 色	ロームブロック中量
2 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗 褐色	ロームブロック中量
3 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	7 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 暗 褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器片 16 点（深鉢）が、覆土中から出土している。TP172 は覆土中層から破片で出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 40 号土坑出土遺物観察表（第 73 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP172	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁部注線を行う隆帯による区画文 区画間溝帯文 胴部帯点文上に3本の注線による帯点文	覆土中層	

第 44 号土坑（第 74・75 図）

位置 3 区中央部の B 7a1 区、標高 23m ほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 1.10m、短径 0.92m の楕円形で、長径方向は N-34°-W である。底面は長径 1.66m、短径 1.34m の楕円形で、ほぼ平坦である。深さは 64cm で、壁は内傾している。

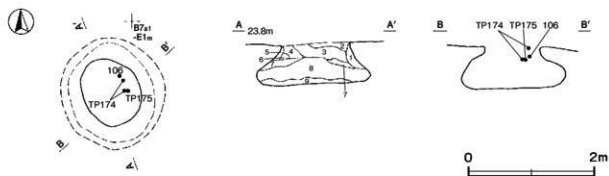
覆土 9 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	6 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7 黄褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	8 明黄褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量	9 黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 にぶい黄褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 縄文土器片 56 点（深鉢）が、覆土中から出土している。106、TP174・TP175 は破片で覆土上層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

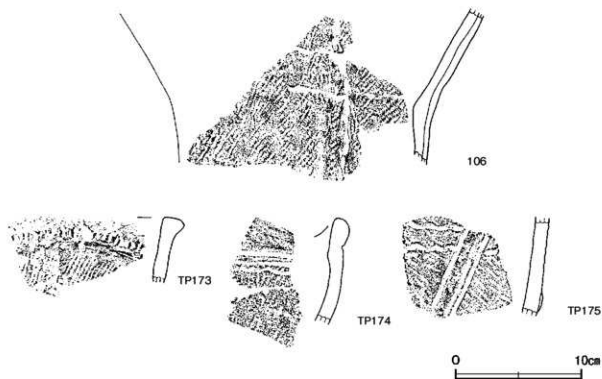
所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 74 図 第 44 号土坑実測図

第 44 号土坑出土遺物観察表（第 75 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
106	縄文土器	深鉢	-	(12.4)	-	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい黄褐色	普通	胴部単輪縄文 R.L.上に縄文施文の発音系下	覆土上層	5%



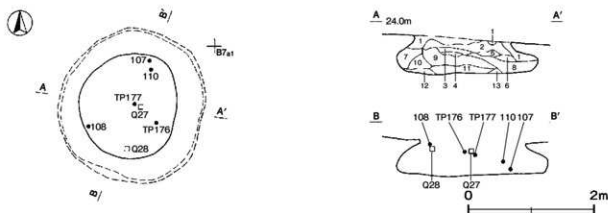
第75図 第44号土坑出土遺物実測図

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP173	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁に沿って陸帯貼付 陸帯下部に期み目 半筋縄文L R施文	覆土中	
TP174	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明焼灰	波状口縁 口縁に沿って陸帯貼付 半筋縄文上に横位の沈線文	覆土上層	
TP175	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	黒褐	無筋縄文上に横位の結節文 斜めに沈線を伴う陸帯貼付	覆土上層	

## 第45号土坑（第76～78図）

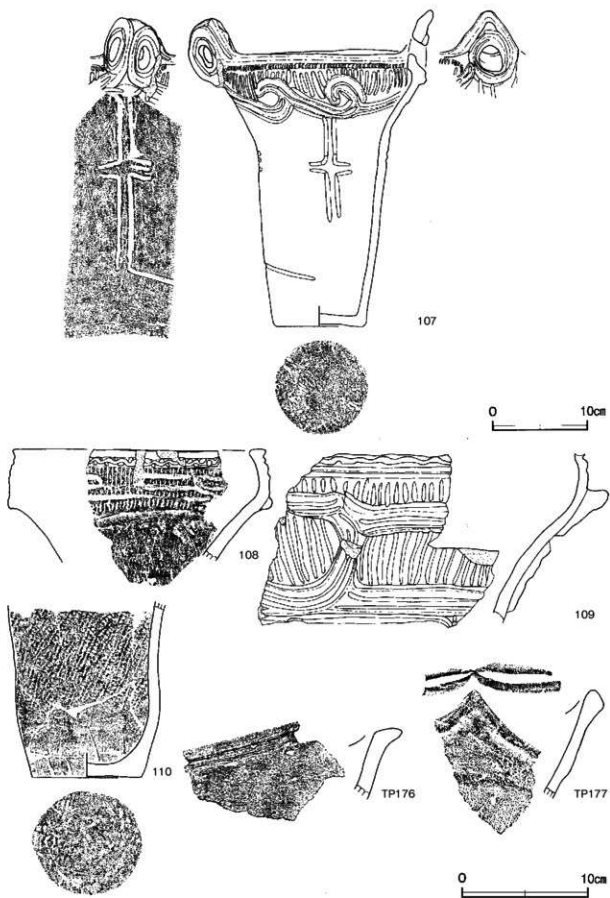
位置 3区中央部のB 6a0区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.65m、短径1.52mほどの円形である。底面は長径2.32m、短径2.16mの円形で、平坦である。深さは62cmで、壁は内傾している。



第76図 第45号土坑実測図





第77图 第45号土坑出土物实测图(1)

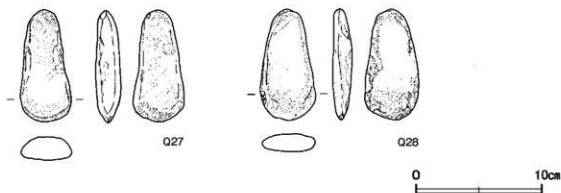
覆土 13層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	7 褐色	ロームブロック中量
2 明赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量	8 濃い黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	9 黄褐色	ロームブロック中量
4 濃い黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	10 濃い黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	11 黄褐色	ロームブロック多量
6 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	12 濃い黄褐色	ロームブロック中量
		13 明黄褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 147点（深鉢145、浅鉢2）、土製品5点（土器片錘）、石器2点（磨製石斧）が、覆土中から散乱した状態で出土している。107は覆土下層から完形で出土しており、少し埋まってから投棄されたものと思われる。108・110、TP176・TP177は破片で、110は覆土下層から、TP176・TP177は覆土中層から、108は覆土上層からそれぞれ出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第78図 第45号土坑出土遺物実測図(2)

第45号土坑出土遺物観察表(第77・78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
107	縄文土器	深鉢	186	329	96	長石・石英・雲母・細礫	灰黄褐色	普通	腰縁状把手・隆帯による区画文・隆帯に沿って凸形文・隆帯による高文・胴部沈線文	覆土下層	100%
108	縄文土器	深鉢	【200】	(89)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部隆帯による区画文・交互刺突文・縦位の沈線文上に沈線による凸形凸文	覆土上層	5%
109	縄文土器	深鉢	-	(138)	-	長石・石英・雲母	濃い褐色	普通	口縁部隆帯と交互刺突文による区画文・隆帯によるクラック文・胴部沈線文で光沢・赤彩	覆土中層	5%
110	縄文土器	深鉢	-	(140)	86	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	胴部単筋縄文Rし輪文・下部部無文・底部副代表	覆土下層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP176	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	濃い褐色	流状口縁 口唇部肥厚 口縁部外反	覆土中層	
TP177	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	浅黄褐色	流状口縁 口唇部に沈線 口縁に沿って隆帯貼付 外面に横胴部染線文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	磨製石斧	8.9	4.1	2.1	826	砂岩	定角式 全面磨り調整 刃部入念な磨り調整	覆土中層	PL35
Q28	磨製石斧	8.8	4.3	1.4	684	砂岩	定角式 表面磨りによる1次調整の後全面磨り調整	覆土中層	磨石として再利用

第46号土坑 (第79～81図)

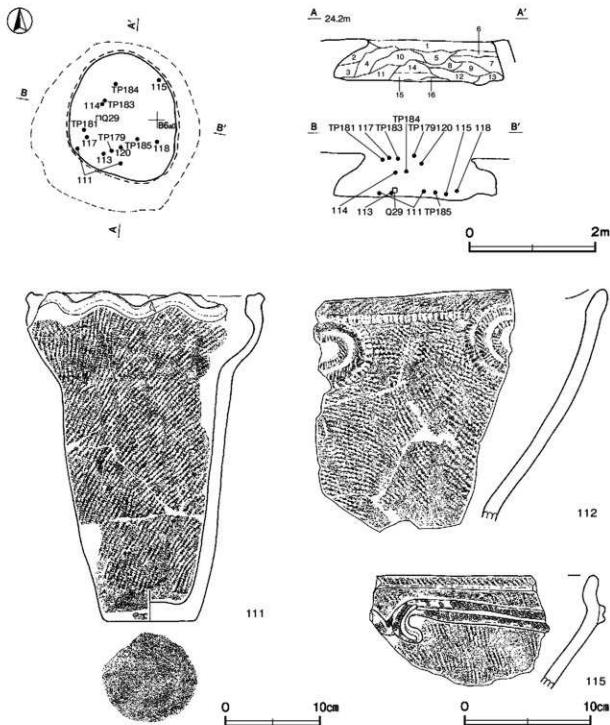
位置 3区中央部のB 6a9区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.92m、短径1.70mの楕円形で、長径方向はN-11°-Eである。底面は長径2.65m、短径2.56mの不整形円形で、ほぼ平坦である。深さは64cmで、壁は内傾している。

覆土 16層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量      2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

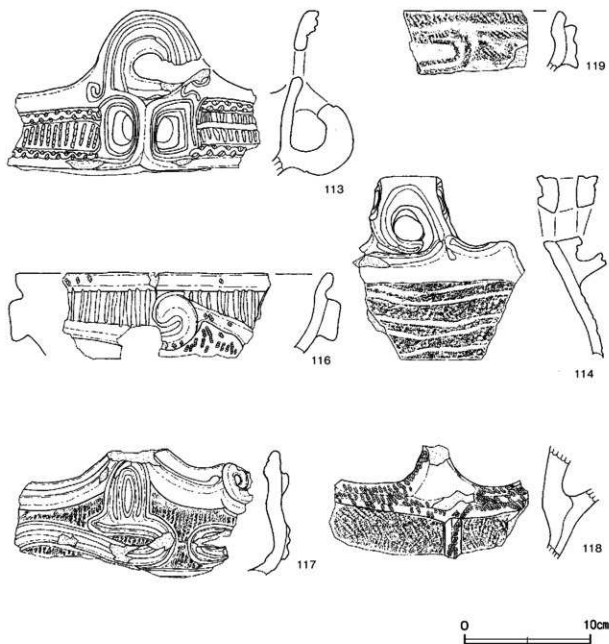


第79図 第46号土坑・出土遺物実測図

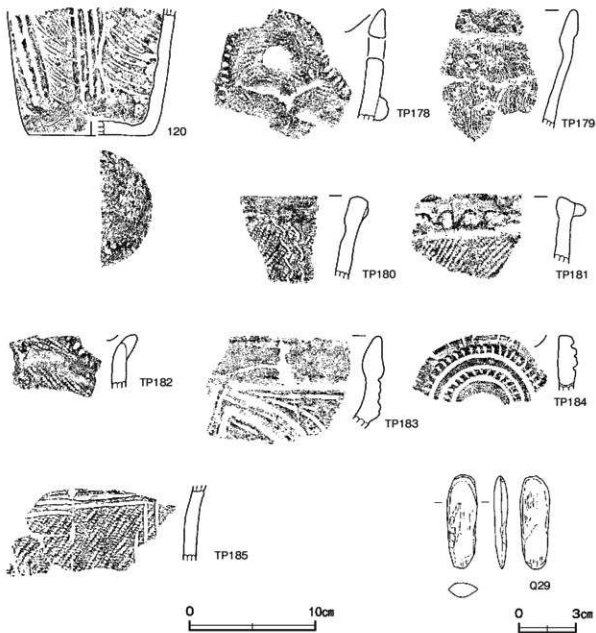
3	暗褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	11	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	12	褐色	ロームブロック少量
6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	13	暗褐色	ロームブロック中量
7	極暗褐色	ロームブロック中量	14	明褐色	ロームブロック中量
8	褐色	ロームブロック中量	15	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	16	極暗褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 206 点（深鉢）、土製品 3 点（土器片、錘）、石器 1 点（磨製石斧）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。111 は離れた位置にあるものが、接合していることから、破砕して投棄されたものとみられる。113・115・118、TP185 は覆土下層から、114、TP184 は覆土中層から、117・120、TP179・TP181・TP183 は覆土上層からそれぞれ破片で出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 80 図 第 46 号土坑出土遺物実測図(1)



第81図 第46号土坑出土遺物実測図(2)

第46号土坑出土遺物観察表(第79~81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
111	縄文土器	深鉢	21.9	34.3	9.6	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	成状口縁 口縁に沿って隆帯帯付 胴部単面縄文土器上施文	覆土下層	70% P1.22
112	縄文土器	深鉢	-	(19.2)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	水引文を伴う縄文施文の隆帯帯付 肩み目のある隆帯による施文 単面縄文土器施文	覆土中	10%
113	縄文土器	深鉢	-	(13.0)	-	長石・雲母	褐色	良好	中空の把手 口縁部隆帯と交互斜交文による区画文 区画内右面沈線文で光地	覆土下層	5%
114	縄文土器	深鉢	-	(14.4)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐色	普通	中空の把手 口縁部隆帯による区画文 区画内単面縄文上に施文する沈線文	覆土中層	5%
115	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部縄文施文の隆帯による区画文 隆帯による横「S」字状文 肩を沈線文で光地	覆土下層	5%
116	縄文土器	深鉢	(25.0)	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	成状口縁 口縁部隆帯による区画文 隆帯による横「S」字状文 肩を沈線文で光地	覆土中	5%
117	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐色	良好	成状口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内沈線文上に隆帯による横「S」字状文	覆土上層	5%
118	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	成状口縁 口縁に沿って縄文施文の隆帯 口縁から隆帯垂下 単面縄文土器施文	覆土下層	5%
119	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐色	普通	口縁に沿って縄文施文の隆帯帯付 口縁部隆帯による肩み目	覆土中	5%
120	縄文土器	深鉢	-	(10.0)	(9.8)	長石・石英・雲母	褐色	普通	胴部斜行沈線文上に4本組の沈線による懸垂文 胴部網代文	覆土上層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP178	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	1孔をもつ大波状口縁。口縁に沿って駒目目「V」字状の胎付文。単節縄文R.L施文	覆土中	
TP179	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・曲線	黒黒	口縁に沿って陰帯胎付。胴部縦歯状工具による縦走波状文	覆土上層	
TP180	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黒	口縁に沿って陰帯胎付。胴部縦位の編節文を伴う単節縄文R.L施文	覆土中	
TP181	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁に沿って厚めの陰帯。陰帯下端押圧。胴部単節縄文R.L施文	覆土上層	
TP182	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	波状口縁。口縁に沿って駒目目。単節縄文R.L施文	覆土中	
TP183	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁部陰帯による区画文。区画内陰帯による曲線文	覆土上層	
TP184	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	瘤状把手。口縁に沿って駒目目をもつ陰帯胎付	覆土中層	
TP185	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	単節縄文R.L上に沈線による懸垂文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q29	磨製石斧	5.0	1.6	0.7	7.8	蛇紋岩	ヘラ形。全面入念な磨り調整。上端部敲打痕	覆土下層	

## 第49号土坑（第82図）

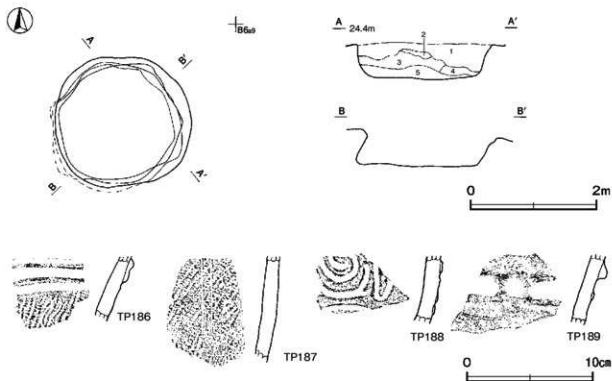
位置 3区中央部のB 6 a 8区、標高24 mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径2.10 mほどの円形で、底面は平坦である。深さは56cmで、壁は南西部が内傾して、東部は外傾している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                  |       |           |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量        | 4 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量        | 5 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |       |           |



第82図 第49号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 115 点（深鉢）が、破片で覆土中から散乱した状態で出土している。TP186～TP189 は覆土中から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

#### 第 49 号土坑出土遺物観察表（第 82 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP186	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	口縁部と胴部を浅溝を伴う隆帯で区画 胴部半部縄文 R.L. 上に 2 本同時施文具による縦位の波状文	覆土中	
TP187	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	胴部半部縄文 R.L. 上に 2 本同時施文具による縦垂文	覆土中	
TP188	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	口縁部浅溝を伴う隆帯による渦巻文	覆土中	
TP189	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐色	西みのある隆帯で口縁部と胴部を区画	覆土中	

#### 第 55 号土坑（第 83 図）

**位置** 3 区西部の A 6j7 区、標高 24 m ほどの台地縁部に位置している。

**重複関係** 第 1 号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は径 1.82 m ほどの円形で、底面は平坦である。深さは 46cm で、壁は内傾している。

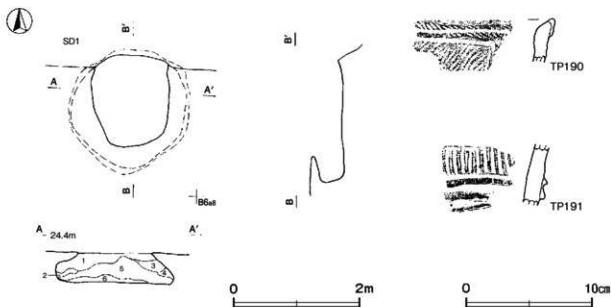
**覆土** 6 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

1 明褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック少量	5 に灰・黄褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 11 点（深鉢）が、破片で覆土中から出土している。TP190・TP191 は覆土中から出土しており、混入したものとみられる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 83 図 第 55 号土坑・出土遺物実測図

第55号土坑出土遺物観察表(第83図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP190	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	北縁を伴う縄文施文の残帯による区画文 区画内単筋縄文RL 施文	覆土中	
TP191	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	口縁部残帯による区画文 区画内乱縄文で充満	覆土中	

## 第57号土坑(第84～86図)

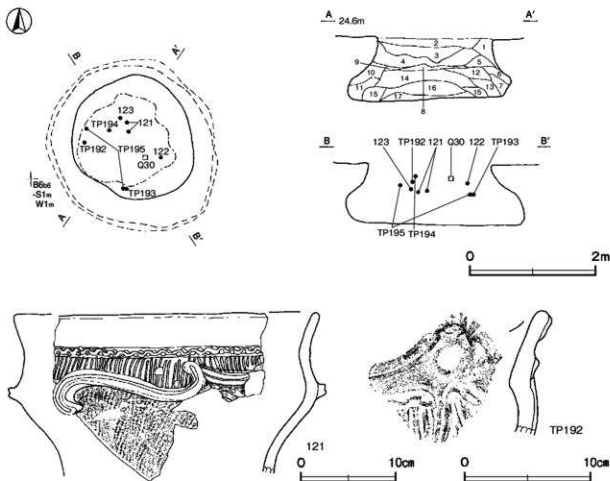
位置 3区西部のB 6b5区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.96m、短径1.88mの不整形円形である。底面は長径2.78m、短径2.42mの不整形円形で、平坦である。中央部は踏み固められている。深さは96cmで、壁は内傾し、上位はほぼ直立している。

覆土 17層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |         |                |             |          |           |
|---------|----------------|-------------|----------|-----------|
| 1 にふい褐色 | ロームブロック中量      | 炭化粒子微量      | 10 暗褐色   | ロームブロック少量 |
| 2 褐色    | ロームブロック少量      |             | 11 褐色    | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色   | ロームブロック少量      | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色    | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色   | ロームブロック・焼土粒子少量 | 炭化粒子微量      | 13 灰褐色   | ロームブロック少量 |
| 5 灰褐色   | ロームブロック中量      |             | 14 明褐色   | ロームブロック多量 |
| 6 褐色    | ロームブロック少量      | 炭化粒子微量      | 15 褐色    | ロームブロック多量 |
| 7 灰褐色   | ロームブロック少量      | 炭化粒子微量      | 16 にふい褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 暗褐色   | ロームブロック中量      |             | 17 暗褐色   | ロームブロック中量 |
| 9 にふい褐色 | ロームブロック中量      |             |          |           |

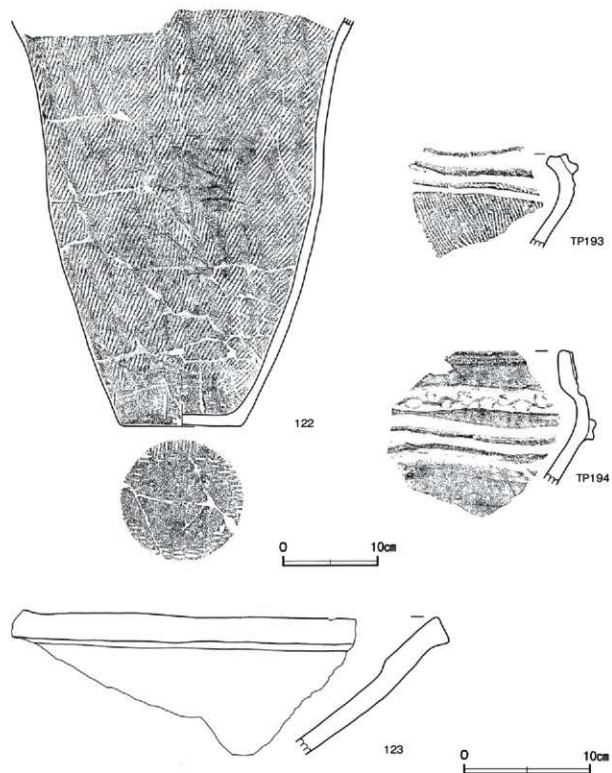


第84図 第57号土坑・出土遺物実測図

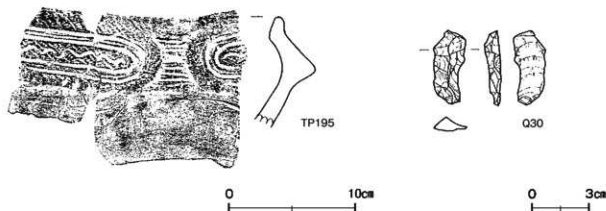


**遺物出土状況** 縄文土器片 102 点（深鉢 92、浅鉢 10）、剥片 1 点が、覆土中層から上層にかけて出土している。121～123、TP192～TP195 は破片で、121・123、TP193 は覆土中層から、122、TP192、TP194・TP195 は覆土上層からそれぞれ出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 85 図 第 57 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 86 図 第 57 号土坑出土遺物実測図(2)

第 57 号土坑出土遺物観察表 (第 84 ~ 86 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
121	縄文土器	深鉢	[31.4]	(17.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部無文帯 交互刺突文 隆帯による横「S」 字状文 胴部卑部縄文R L施文	覆土中層	10%
122	縄文土器	深鉢	-	(42.7)	12.8	長石・石英・ 雲母・網羅	明赤褐	普通	胴部卑部縄文R L施文 底部網代紋	覆土上層	50%
123	縄文土器	浅鉢	-	(11.7)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	良好	口唇部やや肥厚 口縁近くで外反 内面に横	覆土中層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP192	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 黒色砂子	橙	成状口縁 成田部下に内形の凹み 口縁部隆帯による区画文 隆帯下交互刺突文 区画内沈線文で充填	覆土上層	
TP193	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部沈線を伴う隆帯貼付 隆帯下卑部縄文R L施文	覆土中層	
TP194	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部に沿う隆帯と成状文で口縁部区画 区画内交互刺突文	覆土上層	
TP195	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・ 黒色砂子	橙	口縁部沈線を伴う縄文施文の隆帯による横凹形区画文 区画内 卑部縄文 L 沈線による成状文 胴部無文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	割片	3.9	1.8	0.8	4.0	黒曜石	縦長割片 隆帯部打面	覆土上層	

## 第 68 号土坑 (第 87 図)

位置 3区中央部の B 6 c9 区、標高 24 m ほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は径 1.70 m ほどの円形である。底面は径 1.95 m の円形で、平坦である。中央部は踏み固められている。深さは 50 cm で、壁は内傾している。

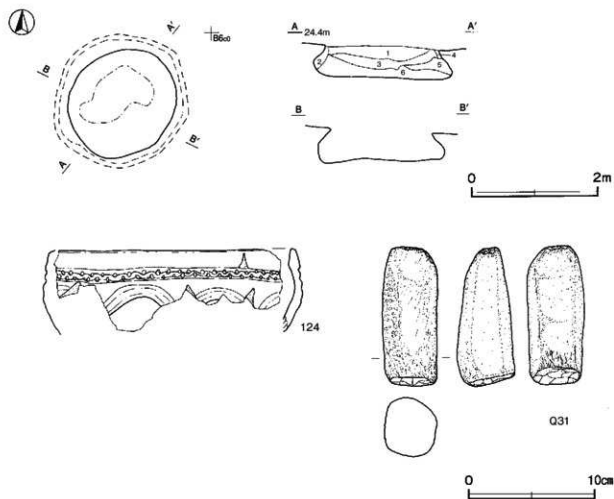
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒 暗 褐色	ロームブロック・炭化物微量	4 褐 色	ロームブロック中量、炭化物微量
2 暗 褐色	ロームブロック少量	5 暗 褐色	ロームブロック中量
3 暗 褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	6 褐 色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 28 点 (深鉢)、石器 1 点 (敲石) が、覆土中から出土している。124 は破片で覆土中から出土しており、埋土とともに投棄されたか混入したものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 87 図 第 68 号土坑・出土遺物実測図

第 68 号土坑出土遺物観察表 (第 87 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
124	縄文土器	深鉢	[186]	(65)	-	長石・石英・雲母	にふい色	普通	口縁に沿って段帯貼付 段帯下交互刺突文 段帯による連続瓦状文	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	磁石	126	4.5	4.6	3219	流紋岩	全面磨り調整 先端部・下端部敲打痕	覆土中	

### 第 70 号土坑 (第 88・89 図)

**位置** 3区中央部の B 6 b 6 区、標高 24 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 開口部は長径 2.16 m、短径 1.50 m の楕円形で、長径方向 N - 19° - W である。底面は長径 2.42 m、短径 2.30 m の不整楕円形で、ほぼ平坦である。深さは 94 cm で、壁は中位まで内傾し、上位はやや外傾している。

**覆土** 11 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

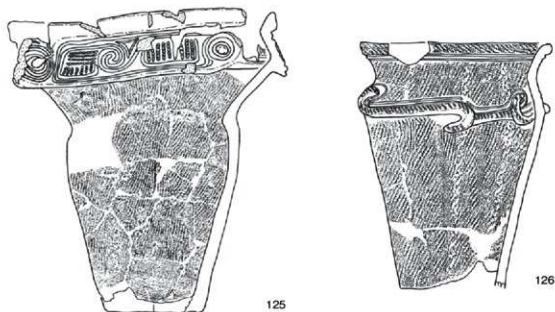
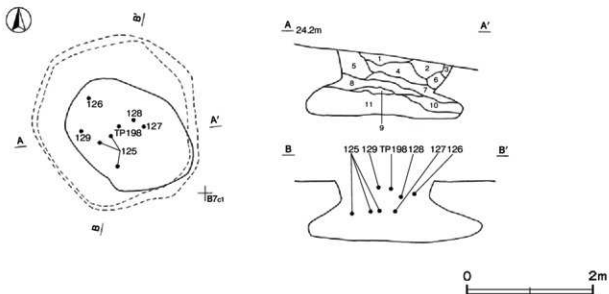
1 暗褐色	ロームブロック少量	5 灰褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	6 にふい褐色	ロームブロック多量
3 褐色	ロームブロック中量	7 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量

9 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量  
 10 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

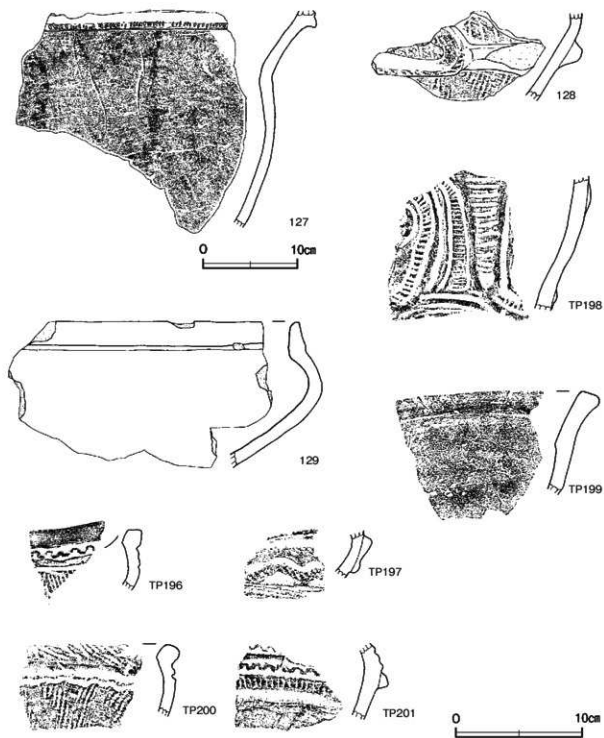
11 明褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 303 点（深鉢 293、浅鉢 10）、土製品 2 点（土器片錘）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。125～129、TP198 は破片で、125・127 は覆土中層から、126・128・129、TP198 は覆土上層からそれぞれ出土しており、ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 88 図 第 70 号土坑・出土遺物実測図



第89図 第70号土坑出土遺物実測図

第70号土坑出土遺物観察表(第88・89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
125	縄文土器	深鉢	28.0	31.8	[10.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	浮彫状口縁 扇状把手 沈澱による褐色文 三叉文 有筋沈澱文で充填 単純縄文上反編文	覆土中層	40% P1,22
126	縄文土器	深鉢	19.8	(25.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って縦文編文の帯部 扇状文を伴う縄 文編文 沈澱による筋(凸)字状文	覆土上層	70% P1,22
127	縄文土器	深鉢	-	(23.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	斜み目をもつ縁帯により口縁部と胴部を区画 扇状沈澱文と金網文編文	覆土中層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
128	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐色	普通	縄文施文の厚みの陰帯により口縁部と胴部を区画 胴部単曲縄文及上施文	覆土上層	5%
129	縄文土器	浅鉢	-	(11.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	胴部は狭く内脣 口縁は直立きみに立ち上がる	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP196	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	波状口縁 口縁に沿って陰帯貼付 陰帯下交互刺突文と条縄文	覆土中	
TP197	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部縄文施文の陰帯による区画文 区画内陰帯による波状文	覆土中	
TP198	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	口縁部陰帯による区画文 区画内細み目をもつ陰帯による曲線文	覆土上層	
TP199	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口唇部やや肥厚 口縁部外反 内面に横	覆土中	
TP200	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	褐色	口縁に沿って縄文施文の陰帯貼付 陰帯下に沈線文 単筋縄文及上施文	覆土中	
TP201	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部内傾 交互刺突文 細み目をもつ厚みの陰帯で胴部と区画 赤褐色	覆土中	

## 第99号土坑 (第90・91区)

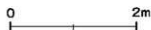
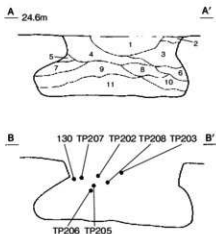
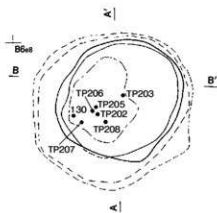
位置 3区西南部のB6e8区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は長径2.08m、短径1.80mの楕円形で、長径方向N-56°-Eである。底面は長径2.56m、短径2.15mの楕円形で、平坦である。中央部は踏み固められている。深さは92cmで、壁は中位まで内傾し、上位はやや外傾している。

覆土 11層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

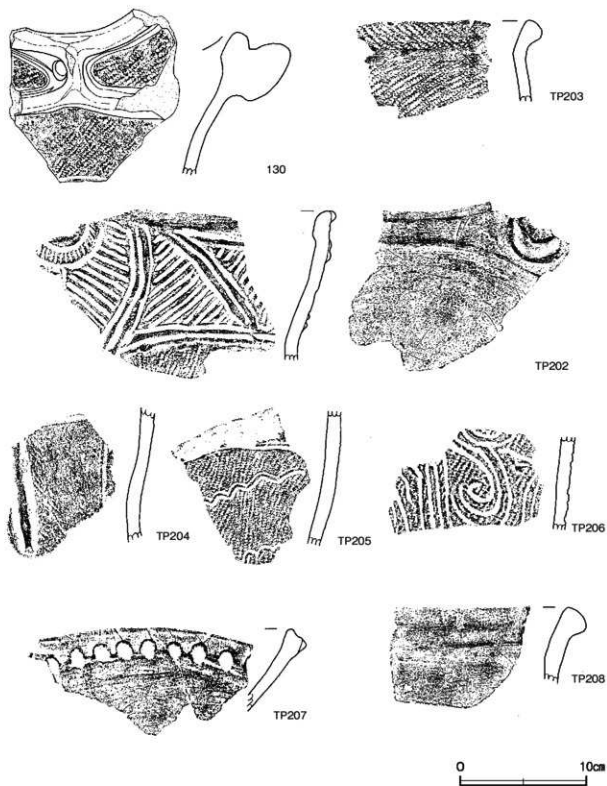
1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	8 にぶい暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
4 灰褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	10 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
5 褐色	ロームブロック中量	11 明褐色	ロームブロック中量
6 褐色	ロームブロック少量		



第90図 第99号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 134 点（深鉢 132、浅鉢 2）が、覆土中層から上層にかけて出土している。130、TP202・TP203・TP205～TP208 は破片で、TP206 は覆土中層から、130、TP202・TP203・TP205・TP207・TP208 は覆土上層からそれぞれ出土し、ある程度埋まってから、埋土と一緒に投棄されたと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 91 図 第 99 号土坑出土遺物実測図

第 99 号土坑出土遺物観察表 (第 91 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
L30	縄文土器	深鉢	-	(135)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	大波状口縁 隆帯区西部面状把手 口縁部厚めの隆帯で区画 胴部卑胎縄文R上施文	甕土上層	5%
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考				
TP202	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	口縁部浅縁を伴う隆帯による区画文 箱目をもつ隆帯による横状文 沈埋文で区画 胴部卑胎縄文R上施文 内面隆帯による横状文	甕土上層					
TP203	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	口縁に沿って縄文施文の隆帯貼付 隆帯下卑胎縄文R上施文	甕土上層					
TP204	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	胴部卑胎縄文L R上に隆帯による懸垂文	甕土中層					
TP205	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	隆帯により口縁部と胴部を区画 胴部卑胎縄文R L上に2本同時施文具による横溝状文	甕土上層					
TP206	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	胴部卑胎縄文L R上に3本組沈埋による施文と懸垂文	甕土中層					
TP207	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	口縁部わずかに内帯 口唇部凹み 口縁に沿って隆帯貼付 隆帯下薄押圧	甕土上層					
TP208	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁部わぶかに外反 口唇部肥厚 内面に横	甕土上層					

## 第 201 号土坑 (第 92 ~ 94 図)

位置 2区東部のB6d3区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

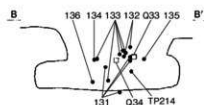
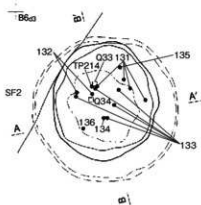
重複関係 第2号道路跡に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.68m、短径1.54mの円形である。底面は径2.14mほどの円形で、平坦である。中央部は踏み固められている。深さは96cmで、壁は中位まで内傾し、上位は外傾している。

覆土 11層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・炭化物などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                        |        |                        |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量     | 7 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 8 褐色   | ロームブロック中量              |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 黒褐色  | ロームブロック中量              |
| 4 褐色  | ロームブロック少量              | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量     |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量   | 11 褐色  | ロームブロック中量、炭化物微量        |
| 6 褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量   |        |                        |

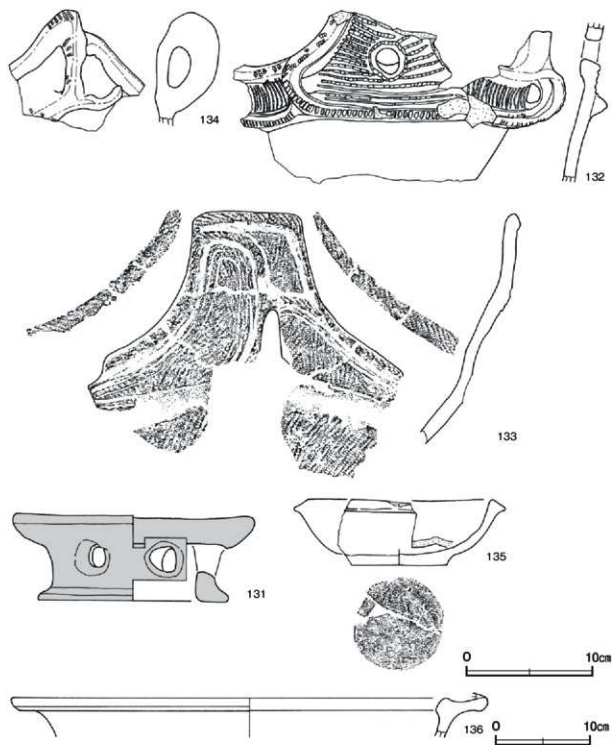


第 92 図 第 201 号土坑実測図

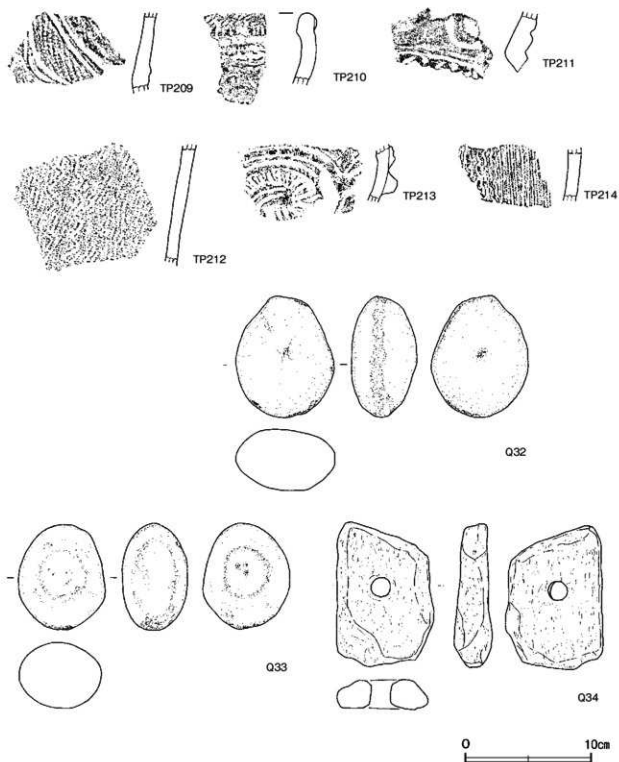


遺物出土状況 縄文土器片 333点（深鉢309，浅鉢21，鉢1，鈎付土器1，器台1），土製品4点（土器片錘），石器3点（磨石2，浮子1）が，底面から中層にかけて散乱した状態で出土している。131～136は破片で，底面及び覆土下層から中層にかけて出土しており，埋土と一緒に投棄されたものと思われる。131・133は離れた位置のものが接合しており，破碎して投棄されたものとみられる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第93図 第201号土坑出土遺物実測図(1)



第94図 第201号土坑出土遺物実測図(2)

第201号土坑出土遺物観察表(第93・94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
131	縄文土器	器台	[18.8]	6.8	[15.0]	長石・石英	橙	普通	器部上面平出 台部に4孔 赤彩	底面- 覆土中層	50% PL.24
132	縄文土器	深鉢	-	(18.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	大湾状口縁 口唇部に縄文施文 縄文施文の除 部による区別文 隆部に沿って浅線文	覆土中層	10% PL.24

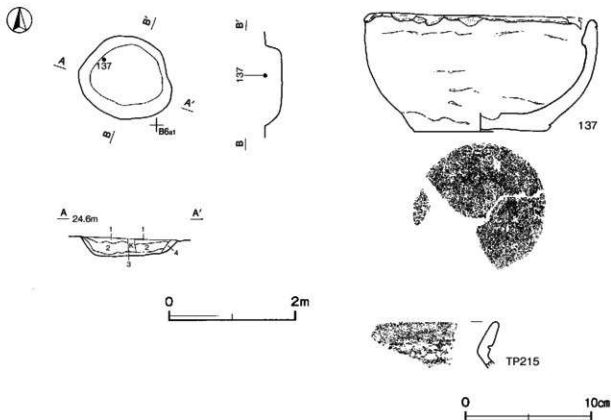
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
133	縄文土器	深鉢	-	(133)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	波頭部に1孔。縄文施文の隆帯と割み目をもつ隆帯による区画文。右面波状文で充満	覆土下層 - 中層	5%
134	縄文土器	深鉢	-	(95)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	扇状把手。口縁部縄文施文の隆帯による区画文	覆土中層	5%
135	縄文土器	浅鉢	[146]	5.2	7.4	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口唇部肥厚。胴部内帯。底部突出	覆土中層	30%
136	縄文土器	附付土器	[496]	(46)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部わずかに凹んで突出。胴部無文。	覆土下層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP209	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	波状口縁。口縁部隆帯を伴う縄文施文の隆帯による区画文。単線縄文で充満	覆土中	
TP210	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁に沿って縄文及び割み目施文の隆帯貼付。隆帯下角押文	覆土中	
TP211	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	波状口縁。波頭部隆帯による曲線文。割み目をもつ隆帯文	覆土中	
TP212	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	単線縄文R.L.上に平行沈線による縦位の波状文	覆土中	
TP213	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	口縁部隆帯による区画文。区画内割み目をもつ隆帯による曲線文	覆土中	
TP214	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	胴部平行沈線による縦位の条線文と波状文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q32	磨石	9.7	7.7	5.1	478	砂岩	全面磨面。両面中央部に浅い凹み。両端部に線打痕	覆土中	
Q33	磨石	8.5	6.8	5.2	389.8	花崗岩	全面磨面。両面中央部に浅い凹み。下端部に線打痕	覆土中層	
Q34	浮子	11.5	7.7	3.0	53.5	輝石	側面磨り調整。中央部に1孔	覆土中層	PL26

### 第213号土坑 (第95図)

位置 2区中央部のA50区、標高24mほどの台地中央部に位置している。



第95図 第213号土坑・出土遺物実測図

**規模と形状** 長径1.46 m、短径1.28 mの不整楕円形で、長径方向N-51°-Wである。底面は平坦である。深さは26cmで、壁は外傾している。

**覆土** 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

## 土層解説

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1 灰褐色 ローム粒子微量     | 3 灰褐色 ロームブロック少量 |
| 2 に白い褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 灰色 ローム粒子少量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片26点(深鉢23、浅鉢2、鉢1)のほか、土師器片1点(甕)が出土している。137はある程度形が遺存して覆土上層から出土していることから、投棄されたものと思われる。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第213号土坑出土遺物観察表(第95図)

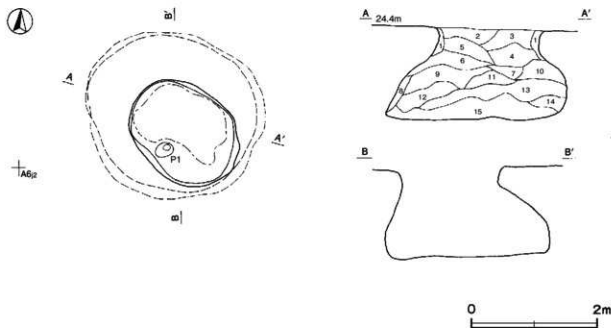
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
137	縄文土器	浅鉢	17.7	9.3	10.7	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	に白い褐色	普通	胴部内帯 有段口縁 底部やや突出	覆土上層	70% Pl.24
TP215	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母			に白い褐色		口縁部「く」の字に外傾	口縁部無文 胴部刺突文	覆土中	

## 第215号土坑(第96・97図)

**位置** 2区北東部のA 612区、標高24 mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 開口部は長径1.78 m、短径1.44 mの楕円形で、長径方向N-48°-Wである。底面は径2.68 m、短径2.46 mの円形で、ほぼ平坦である。中央部は踏み固められている。深さは140cmで、壁は中位まで内傾し、上位はほぼ直立している。

**ピット** 中央部から南寄りに位置し、深さ15cmである。性格は不明である。



第96図 第215号土坑実測図

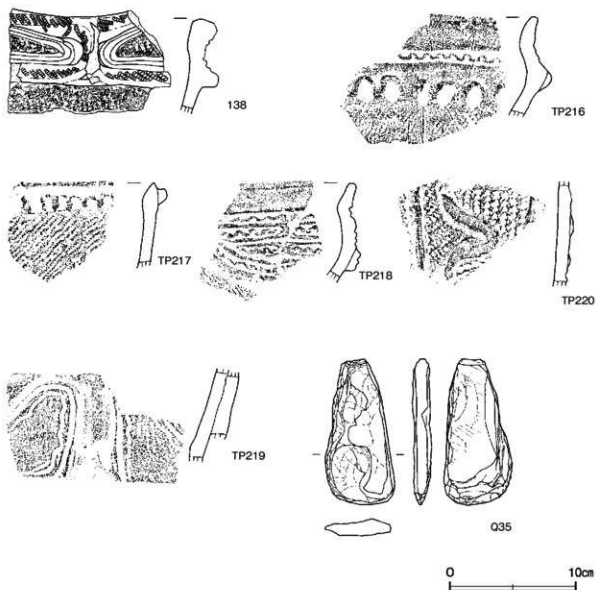
**覆土** 15層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・炭化物などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |         |                            |          |                   |
|---------|----------------------------|----------|-------------------|
| 1 灰黄褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量     | 8 褐色     | ロームブロック少量         |
| 2 黒褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量       | 9 暗褐色    | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒色    | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量   | 10 褐色    | ロームブロック中量         |
| 4 明褐色   | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量    | 11 黄褐色   | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色  | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物微量 | 12 にい黄褐色 | ロームブロック中量         |
| 6 暗褐色   | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量        | 13 黒褐色   | ローム粒子中量, 炭化粒子微量   |
| 7 にい黄褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量          | 14 にい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
|         |                            | 15 黄褐色   | ロームブロック中量         |

**遺物出土状況** 縄文土器片164点(深鉢), 土製品5点(土器片錘), 石器1点(打製石斧)が, 覆土中から出土している。138, TP216～TP220は破片で, 覆土中から出土しており, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第97図 第215号土坑出土遺物実測図

第215号土坑出土遺物観察表(第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
138	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	北原を伴う縄文施文の厚めの隆帯による区画文	覆土中	5%
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考				
TP216	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部無文帯 口縁下交互刺突文 押圧文を伴う厚めの隆帯付 胴部卓形縄文及土施文	覆土中					
TP217	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐	口縁に沿って押圧されている隆帯付 単筋縄文及土施文	覆土中					
TP218	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	口縁部隆帯による区画文 区画内交互刺突文で充填	覆土中					
TP219	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部縄文施文の厚めの隆帯垂下 隆帯に沿って沈線文	覆土中					
TP220	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	単筋縄文上に隆帯で縦区画 区画内隆帯による縦位の流状文	覆土中					
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q35	打製石斧	11.5	5.6	1.5	115.4	ホルンフェルス	楔形 刃部敲打により作出 側面磨り調整	覆土中	Pl.35		

## 第217号土坑(第98・99図)

位置 2区北東部のA6h2区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.70m、短径1.48mの楕円形で、長径方向N-69°-Wである。底面は径1.74mほどの円形で、ほぼ平坦である。中央部は踏み固められている。深さは76cmで、壁は内傾している。

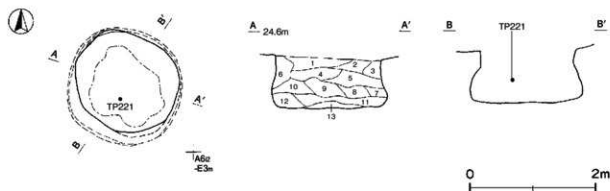
覆土 13層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

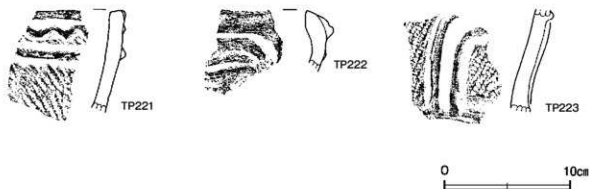
- |          |                    |           |                  |
|----------|--------------------|-----------|------------------|
| 1 褐 色    | ロームブロック少量          | 8 黒 褐 色   | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色  | ロームブロック少量          | 9 褐 色     | ロームブロック中量        |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量    | 10 暗 褐 色  | ロームブロック少量、炭化物微量  |
| 4 暗 褐 色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量   | 11 黒 褐 色  | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 5 黒 褐 色  | ロームブロック・炭化物少量      | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量        |
| 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量          | 13 暗 褐 色  | ロームブロック中量        |
| 7 暗 褐 色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |           |                  |

遺物出土状況 縄文土器片42点(深鉢)が、覆土中から出土している。TP221は破片で、覆土中層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第98図 第217号土坑実測図



第99図 第217号土坑出土遺物実測図

第217号土坑出土遺物観察表(第99図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP221	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐	口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による波状文 胴部単筋縄文及上縁文	覆土中層	
TP222	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい暗	口縁部隆帯による区画文 区画内隆帯による曲線文	覆土中	
TP223	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	口縁部2本組の隆帯による区画文 区画内単筋縄文で充填	覆土中	

### 第222号土坑(第100・101図)

位置 2区北部のA5h9区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径0.80mの円形である。底面には凹凸がある。深さは32cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

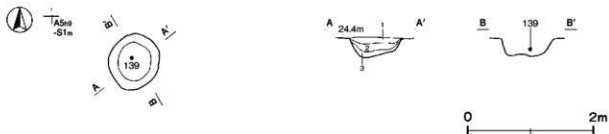
#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐灰色 ロームブロック少量

- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片14点(深鉢)が、覆土中から出土している。139は破片で、覆土下層から出土しており、ある程度埋まってから、投棄されたものと思われる。

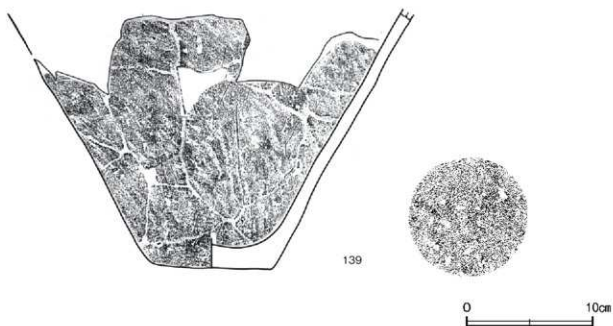
所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期と思われるが、詳細は不明である。



第100図 第222号土坑実測図

第222号土坑出土遺物観察表(第101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
139	縄文土器	深鉢	-	(206)	96	長石・石英・雲母・黒色粒子・粗砂	にぶい暗	普通	胴部単筋縄文施文後ナデ 底部単筋縄文施文後ナデ	覆土下層	40%



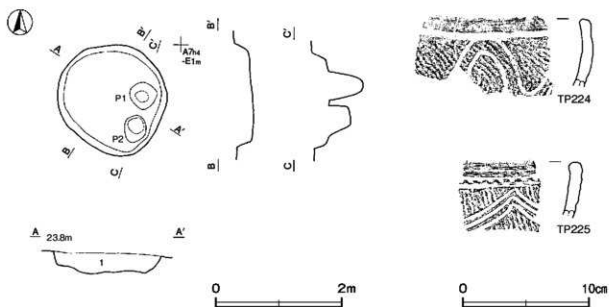
第101図 第222号土坑・出土遺物実測図

## 第268号土坑（第102図）

位置 3区北東部のA7h3区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径1.68mほどの不整形円形である。底面はやや凹凸がある。深さは32cmで、壁は外傾している。

ピット 2か所。P1は中央部から東寄りに位置し、深さ54cmである。P2は中央部から南東寄りに位置し、深さ32cmである。P1・P2ともに性格は不明である。



第102図 第268号土坑・出土遺物実測図



**覆土** 単一層で、ロームブロックを中量含んでおり、埋め戻されている。

**土層解説**

1 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 33 点（深鉢）、土製品 1 点（土器片錘）のほか、陶器片 1 点（碗）が、覆土中から出土している。TP224 は破片で覆土中から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 268 号土坑出土遺物観察表（第 102 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP224	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	口縁に沿って隆帯貼付 単筋縄文上に 2 本の波線による波状文	覆土中	
TP225	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁に沿って隆帯貼付 交互斜交文 無筋文上に 3 本の波線による波状文	覆土中	

**第 269 号土坑（第 103 図）**

**位置** 3 区西部の B 6 d7 区、標高 24 m ほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 径 0.33 m ほどの円形である。深さは 15cm で、壁はほぼ直立している。

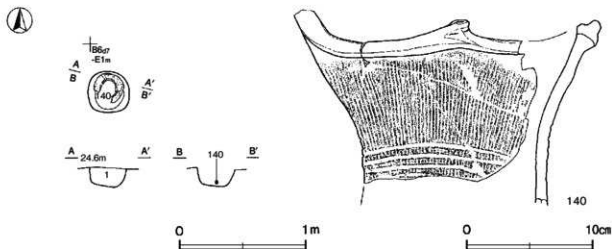
**覆土** 埋設土器の下層及び両脇を黒褐色土で埋めている。

**土層解説**

1 黒褐色 色 ロームブロック少量、炭化物微量

**遺物出土状況** 140 は深鉢の上半部で、中央部に逆位で埋設された状態で出土している。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 103 図 第 269 号土坑・出土遺物実測図

第 269 号土坑出土遺物観察表（第 103 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
140	縄文土器	深鉢	-	(14.7)	-	長石・石英・雲母・細粒	にぶい黒	普通	底縁部に高帯文をもつ突起 口縁下高帯文上に 4 本組の横位の波線文	覆土下層	3% 埋設土器 TP224

## 第 272 号土坑 (第 104 図)

位置 2区東部の B 6a2区、標高 24m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径 0.45 m、短径 0.38 m の円形である。底面は平坦である。深さは 92cm で、壁は直立している。

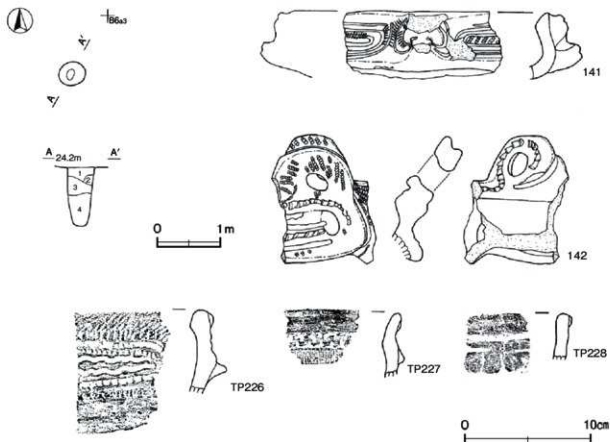
覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
3 褐色 ロームブロック中量  
4 褐色 灰色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢)、土製品 3 点 (土器片錘) が、覆土中から出土している。141・142 は破片で、覆土中から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から柱穴の可能性がある。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 104 図 第 272 号土坑・出土遺物実測図

## 第 272 号土坑出土遺物観察表 (第 104 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
141	縄文土器	深鉢	【20】	(5.3)	-	長石・石英・雲母	濃い黄褐色	普通	口縁部銅線に斜み目をもつ隆帯 隆帯による横	覆土中	5%
142	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部銅線に斜み目をもつ隆帯による隆帯 隆帯による横	覆土中	5%
TP226	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母				褐色		口縁部角押文を伴う縄文施文の隆帯による区画文 区画内沈線による成坑文	覆土中	
TP227	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母				褐色		口縁に沿って隆帯貼付 交互刺突文 条線文	覆土中	
TP228	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母				黄褐色		口縁部沈線を伴う隆帯による区画文	覆土中	

### 第 273 号土坑 (第 105 図)

**位置** 3区北西部の A 6 h6 区, 標高 24 m ほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 長径 0.76 m, 短径 0.64 m の楕円形で, 長径方向 N - 30° - E である。底面は平坦である。深さは 70 cm で, 壁はほぼ直立している。

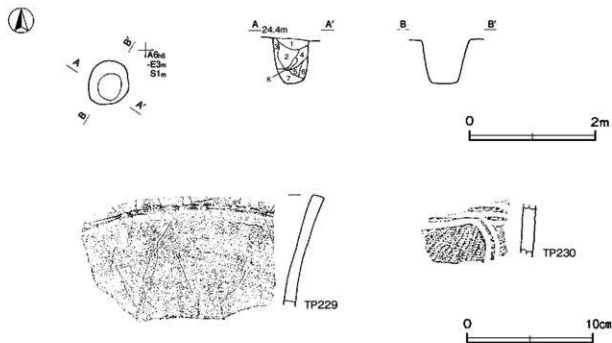
**覆土** 7 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

#### 土層解説

- |       |                         |       |                  |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 5 灰褐色 | ロームブロック少量        |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量     | 6 褐色  | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 褐色  | ロームブロック少量               | 7 暗褐色 | ロームブロック少量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量        |       |                  |

**遺物出土状況** 縄文土器片 9 点 (深鉢) が, 覆土中から出土している。TP229・TP230 は破片で覆土中から出土しており, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 性格は不明である。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 105 図 第 273 号土坑・出土遺物実測図

### 第 273 号土坑出土遺物観察表 (第 105 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP229	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい暗	無文 口縁部外反	覆土中	
TP230	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	胴部半筋縄文Rし上に沈澱による横走文と縦位の垂下文	覆土中	

### 第 274 号土坑 (第 106 ~ 110 図)

**位置** 2区北東部の A 6 i3 区, 標高 24 m ほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 東部が調査区域外へ延びているため, 開口部の南北径は 1.34 m, 確認された東西径は 1.10 m で

ある。底面の南北径は358 m、東西径は2.20 mである。底面はやや凹凸があり、中央部は踏み固められている。深さは134cmで、壁は中位まで内傾し、上位は外傾している。

**ピット** P1は中央部に位置し、深さ6cmである。性格は不明である

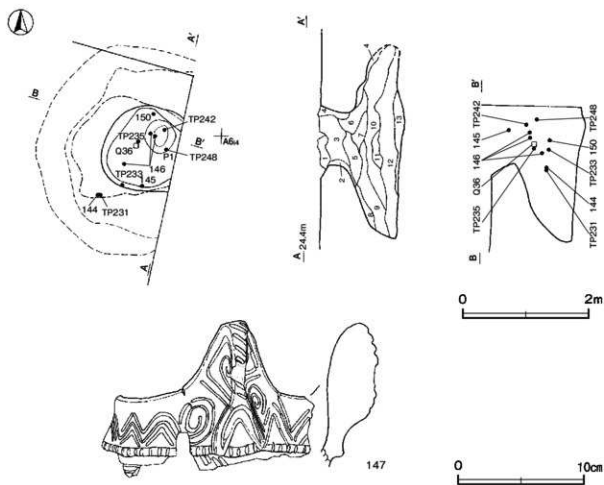
**覆土** 13層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

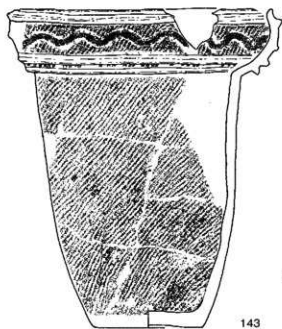
1 黒褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	9 極暗赤褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	11 黒褐色	ロームブロック微量
5 極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	12 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	13 極暗褐色	ロームブロック少量
7 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片653点（深鉢647、鉢3、浅鉢3）、土製品5点（土器片錘）、石器3点（磨製石斧、磨石、敲石）のほか、土師器片3点（器台1、甕2）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。144・146・150、TP233・TP235・TP242・TP248は覆土中層から、145は覆土上層からそれぞれ破片で出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。146はやや離れた位置にあるものが接合していることから、破砕して投棄されたとみられる。

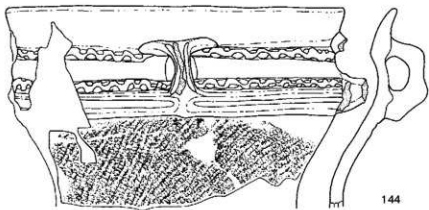
**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



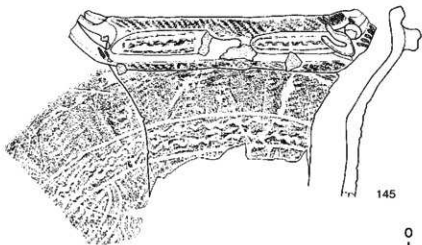
第106図 第274号土坑・出土遺物実測図



143



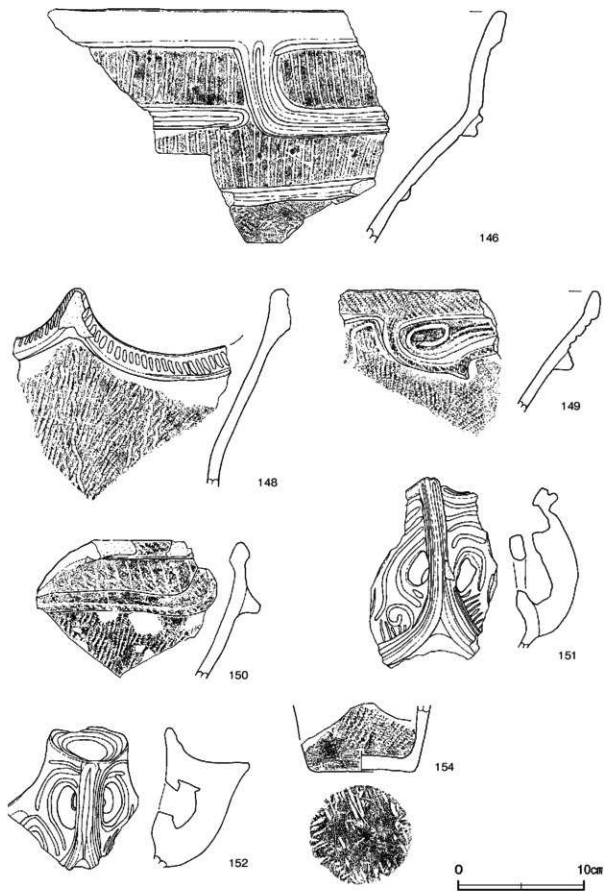
144



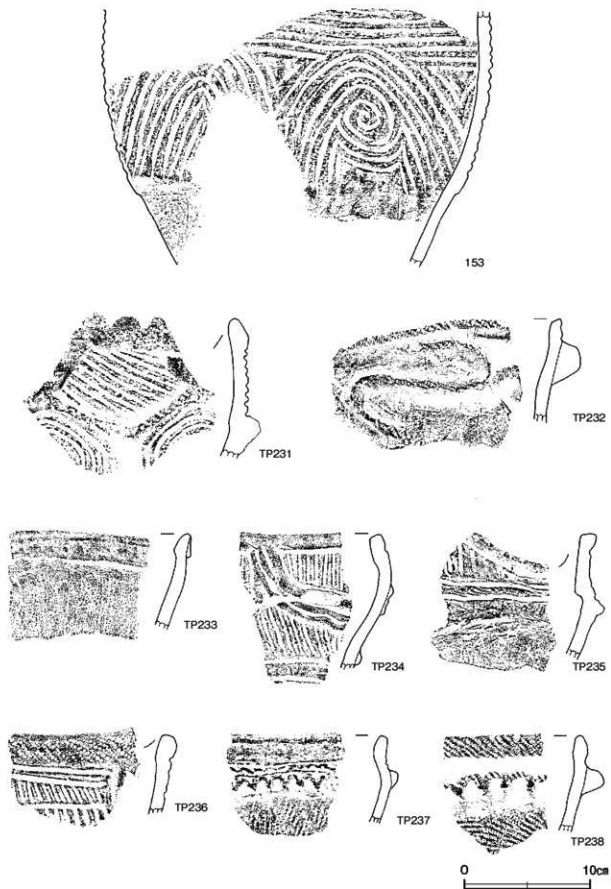
145



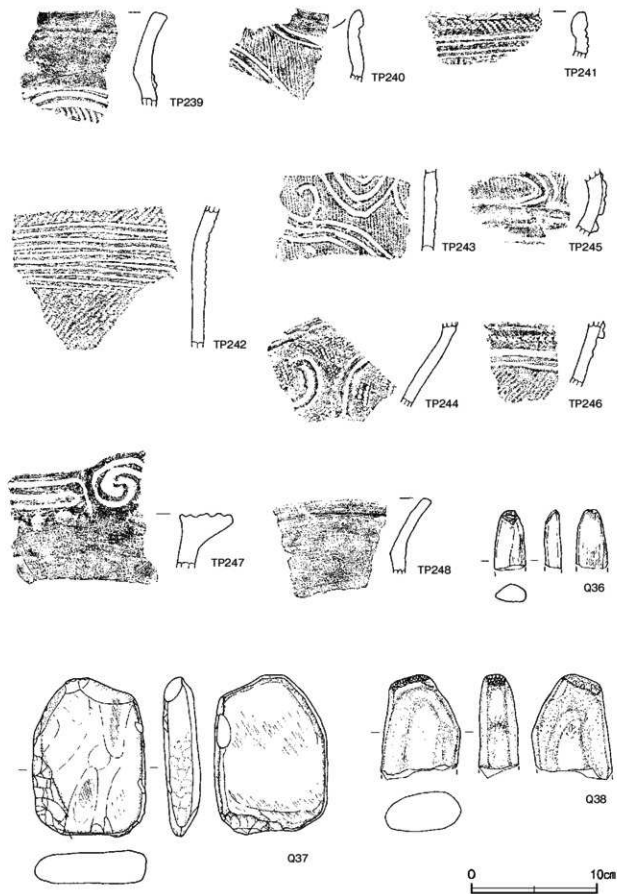
第 107 图 第 274 号土坑出土遗物实测图 (1)



第108図 第274号土坑出土遺物実測図(2)



第 109 图 第 274 号土坑出土遗物实测图 (3)



第110圖 第274号土坑出土遺物実測圖(4)



第 274 号土坑出土遺物観察表 (第 106 ~ 110 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
143	縄文土器	深鉢	[200]	25.2	[88]	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	口縁部と本組の隆帯による区画文・隆帯による横走或矢文・胴部単筋縄文R.L施文	覆土中	30% PL24
144	縄文土器	深鉢	26.5	(160)	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	口縁部隆帯・胴部隆帯・隆帯と交互刺突文による区画文・胴部単筋縄文R.L施文	覆土中層	20% PL24
145	縄文土器	深鉢	18.4	(158)	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	胴部隆帯・横文施文の隆帯による区画文・交互刺突文・胴部沈沈帯区画内横走或矢文	覆土上層	50% PL24
146	縄文土器	深鉢	-	(184)	-	長石・石英・雲母	黒	良好	成状口縁・流紋部から斜め目をもつ隆帯帯下口縁部沈沈帯による山形文と巻雲文	覆土中層	5%
147	縄文土器	深鉢	-	(114)	-	長石・石英	灰黒	普通	成状口縁・口縁に沿って斜め目をもつ隆帯帯下口縁部沈沈帯による山形文と巻雲文	覆土中	5%
148	縄文土器	深鉢	-	(158)	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	成状口縁・口縁に沿って斜め目をもつ隆帯帯下口縁部沈沈帯による山形文と巻雲文	覆土中	5%
149	縄文土器	深鉢	-	(98)	-	長石・雲母・黒色粒子	にぶい黒	良好	口縁部横文施文の隆帯による区画文・沈沈帯による巻雲文・胴部単筋縄文R.L施文	覆土中	5%
150	縄文土器	深鉢	-	(100)	-	長石・石英・雲母・磁粒	灰黒	普通	口縁部横文施文の隆帯による区画文・区画内縄文R.L施文	覆土中層	5%
151	縄文土器	深鉢	-	(15.1)	-	長石・石英・雲母	黄緑	良好	胴部隆帯・口縁部隆帯による区画文・区画内沈沈帯による曲線文	覆土中	5%
152	縄文土器	深鉢	-	(11.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部がやや凹む・沈沈帯を伴う凹形文をもつ縦線或は十字	覆土中	5%
153	縄文土器	深鉢	-	(20.2)	-	長石・石英・雲母・磁粒	にぶい黒	普通	胴部上横文上に重層する横走文 その下に重層状文・胴部下平無文	覆土中	20%
154	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	8.2	長石・石英・雲母	にぶい黒	良好	胴部単筋縄文R.L施文 底部副代痕	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP231	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒灰	大流紋口縁 胴部に斜め目・口縁部沈沈帯を伴う縄文施文の隆帯による区画文・区画内沈沈帯で充填	覆土中	
TP232	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁に沿って縄文施文の隆帯帯付 口縁部横文施文の厚みの隆帯による曲線文・胴部単筋縄文施文	覆土中	
TP233	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁に沿って隆帯帯付 隆帯下横線状工具による区画文・区画内沈沈帯で充填	覆土中層	
TP234	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒灰	口縁部隆帯による区画文 区画内縦位の沈沈帯に3本組の隆帯帯付	覆土中	
TP235	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒黒	流紋口縁 口縁部隆帯による区画文 区画内沈沈帯で充填	覆土中層	
TP236	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黒	流紋口縁 口縁部沈沈帯を伴う縄文施文の隆帯による区画文 区画内沈沈帯で充填	覆土中	
TP237	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黒	口縁に沿って無文帯 交互刺突文 押圧されている隆帯帯付 隆帯下単筋縄文R.L施文	覆土中	
TP238	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	口縁に沿って縄文施文の隆帯帯付 押圧されている隆帯下単筋縄文R.L施文	覆土中	
TP239	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	口縁部横文の無文帯 沈沈帯を伴う隆帯による曲線文・沈沈帯施文	覆土中	
TP240	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒黒	流紋口縁 口縁に沿って隆帯帯付 沈沈帯を伴う隆帯による流紋文・間先沈沈帯で充填	覆土中	
TP241	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒黒	口縁に沿って縄文施文の隆帯帯付 隆帯に沿って平行沈沈帯による横走文	覆土中	
TP242	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黒	胴部単筋縄文R.L上に平行沈沈帯による重層する横走文	覆土中層	
TP243	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	胴部熱赤土上に沈沈帯による巻雲文	覆土中	
TP244	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黒	凹みのある隆帯による曲線文 間を単筋縄文で充填	覆土中	
TP245	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒黒	口縁部隆帯による区画文 区画内熱赤土上に隆帯による横凹形文	覆土中	
TP246	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒灰	刺突文をもつ縄文施文の隆帯帯付 沈沈帯による横走文 単筋縄文R.L施文	覆土中	
TP247	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口唇部肥厚 口唇部に沈沈帯による巻雲文	覆土中	
TP248	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	橙	有段口縁 無文 口縁部外反	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	磨製石斧	(4.6)	2.5	1.4	(22.9)	蛇紋岩	下半部欠損 先端部縦打による剥離後全面磨り調整	覆土中層	
Q37	磨石	12.6	8.9	2.8	390.8	砂岩	側面・先端部縦打による剥離後全面磨り調整	覆土中	
Q38	磨石	(8.2)	(6.3)	3.2	(21.7)	砂岩	下半部欠損 先端部縦打による剥離後側面・後面磨り調整	覆土中	

## 第 277 号土坑 (第 111 図)

位置 3区中央部のB 6 a7区、標高 24 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 4号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.14 m、短径 1.00 mの楕円形で、長径方向は、N - 10° - Eである。底面は平坦である。深さ 46cmで、壁はほぼ直立している。

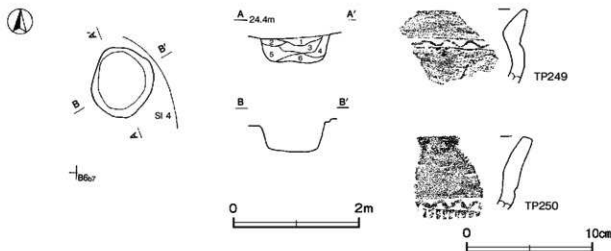
**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック中量	5 に灰褐色	ロームブロック少量
3 に灰褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片20点(深鉢)、土製品1点(土器片鏟)が、覆土中から出土している。TP249・TP250は破片で、覆土中から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第111図 第277号土坑・出土遺物実測図

第277号土坑出土遺物観察表(第111図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP249	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に灰褐色	口縁外縁 口縁に沿って隆帯貼付 交互刺突文	覆土中	
TP250	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	有段口縁 口縁部無文帯 交互刺突文 縦位の沈線文	覆土中	

## 第280号土坑(第112図)

**位置** 3区西部のB 6e6区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第281号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部が調査区域外へ延びているため、開口部の南北径は128m、確認された東西径は130mである。底面の南北径は170m、東西径は126mである。底面はほぼ平坦である。深さは104cmで、壁の東部はほぼ直立し、北部・南部は中位まで内傾し、上位はほぼ直立している。

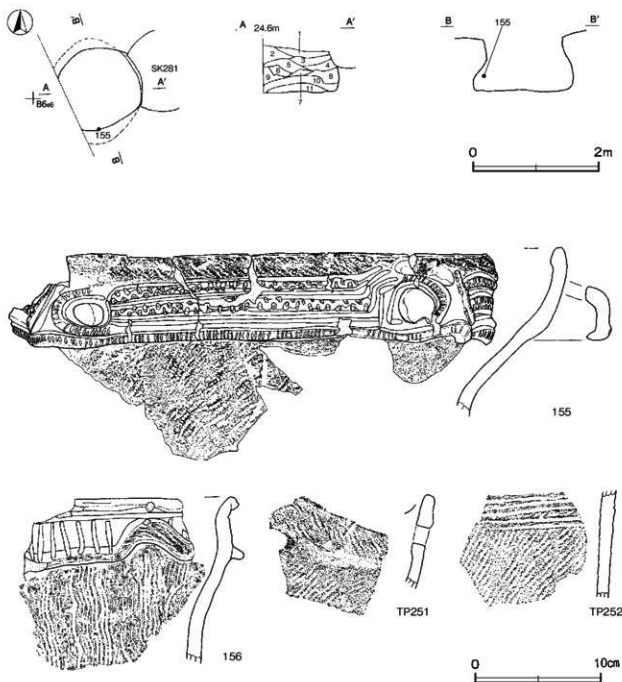
**覆土** 11層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 極暗褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	8 灰褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
4 褐色	ロームブロック少量	10 褐色	ロームブロック中量
5 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	11 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
6 黒褐色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 縄文土器片 122 点（深鉢）が、覆土中から散乱した状態で出土している。155 は破片で、覆土下層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 112 図 第 280 号土坑・出土遺物実測図

第 280 号土坑出土遺物観察表（第 112 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
155	縄文土器	深鉢	〔39.0〕	(16.5)	-	粘土・石炭・ 赤母・細砂	橙	普通	器縁状把手、縄文胎文の陰管と粗み目をもつ陰管による区画文、交互斜交文で光潤	覆土下層	3%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
156	縄文土器	深鉢	-	(13.0)	-	長石・石英・雲母・細砂	暗褐色	普通	厚めの縁帯による区画文、区画内沈線文で尤も脚部飾染状工具による縦位の波状文	覆土中	5%
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか		出土位置	備考			
TP251	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	口縁に沿って縁帯貼付 波状口縁 波頂部に1孔 全面に単筋縄文及L字文		覆土中				
TP252	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	脚部単筋縄文R.L上に平行沈線による横走文		覆土中				

## 第293号土坑 (第113図)

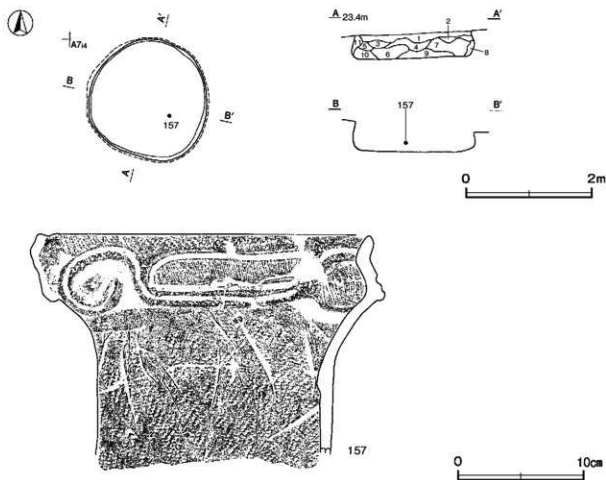
位置 3区北西部のA7i4区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.80mほどの円形である。底面は径1.82mほどの円形で、平坦である。深さは38cmで、壁はわずかに内傾している。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |        |                        |        |                 |
|--------|------------------------|--------|-----------------|
| 1 灰褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量     | 7 黒褐色  | ロームブロック少量       |
| 2 褐色   | ロームブロック少量              | 8 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量     | 9 暗褐色  | ロームブロック少量       |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量              | 10 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 5 黒褐色  | ロームブロック微量              | 11 褐色  | ロームブロック中量       |
| 6 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |        |                 |



第113図 第293号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 23 点（深鉢）が、覆土中から出土している。157 は深鉢の上半部で、覆土中層から正位の状態出土しており、ある程度埋まってから、投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

#### 第 293 号土坑出土遺物観察表（第 113 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
157	縄文土器	深鉢	26.4	(17.4)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	英文を伴う縄文編文の残帯による区画文 内条線文で北周 断部単面縄文 R 編文	区画 覆土中層	30% PL24

#### 第 297 号土坑（第 114 図）

**位置** 3 区北西部の A 6h6 区、標高 24 m ほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 長径 1.25 m、短径 1.06 m の楕円形で、長径方向は N - 18° - E である。底面は平坦である。深さは 60 cm で、壁はほぼ直立している。

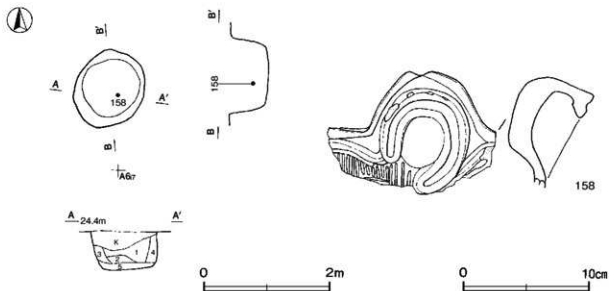
**覆土** 5 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量 | 5 褐色  | ロームブロック少量 |
| 3 褐色  | ローム粒子中量   |       |           |

**遺物出土状況** 縄文土器片 42 点（深鉢）が、覆土中から出土している。158 は破片で覆土中層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 114 図 第 297 号土坑・出土遺物実測図

#### 第 297 号土坑出土遺物観察表（第 114 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
158	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	断面筒の手状の把手 口縁に沿って中央が凹入している段帯貼付 段帯下注線文	覆土中層	5%

## 第 299 号土坑 (第 115 図)

位置 3区中央部のA 7j1区、標高 24 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 20 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第 20 号土坑に掘り込まれているため、東西径は 0.46 m、確認された南北径は 0.60 m である。底面は平坦である。深さは 70 cm で、壁はほぼ直立している。

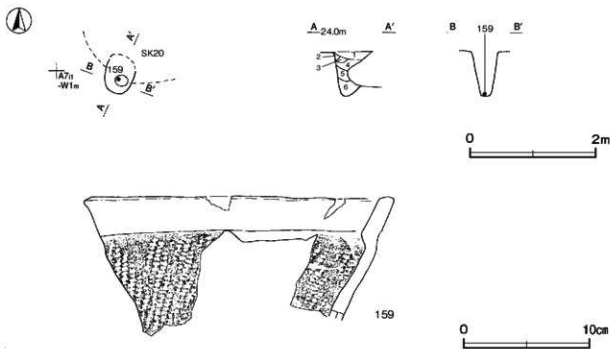
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                  |        |                |
|-------|------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック中量        | 5 極暗褐色 | ロームブロック少量      |
| 3 灰褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 6 暗褐色  | ロームブロック少量      |

遺物出土状況 縄文土器片 34 点 (深鉢) が、覆土中から出土している。159 は破片で底面から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 形状から、柱穴の可能性はある。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 115 図 第 299 号土坑・出土遺物実測図

## 第 299 号土坑出土遺物観察表 (第 115 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
159	縄文土器	深鉢	235	(100)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	有段口縁 口縁部無文帯 胴部単線縄文L 施文	底面	30%

## 第 328 号土坑 (第 116 図)

位置 1区中央部のB 4g8区、標高 24 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 29 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.18m、短径1.02mの不整形円形で、長径方向は、N-33°-Eである。底面はやや凹凸があり、北東方向に傾斜している。深さは32cmで、壁は外傾している。

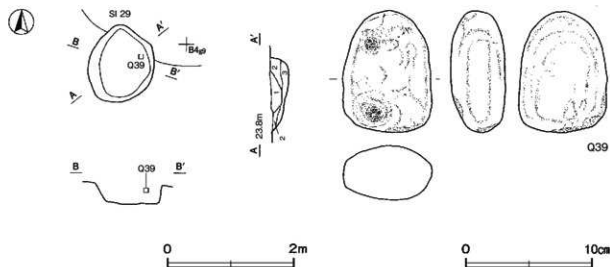
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロック・細礫などを含む層が不規則に堆積しており、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、細礫微量  
 2 黒褐色 ロームブロック中量、細礫少量  
 3 暗褐色 ロームブロック中量、細礫少量

**遺物出土状況** 縄文土器片1点(深鉢)、石器1点(敲石)のほか、土師器片1点(甕)が、覆土中から出土している。Q39は覆土上層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から中期と思われるが、詳細は不明である。



第116図 第328号土坑・出土遺物実測図

第328号土坑出土遺物観察表(第116図)

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q39	敲石	9.6	7.1	4.3	319.7	礫岩	全面磨り調整 表面に2か所の凹み 下部部縁打痕	覆土上層	

**第337号土坑(第117図)**

**位置** 1区北西部のB2c5区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 長軸2.58m、短軸2.12mの隅丸長方形で、長軸方向はN-81°-Eである。底面は平坦である。深さは64cmで、壁はほぼ直立している。

**ピット** 2か所。P1は北東コーナー部に位置し、長径84cm、短径66cm、深さ14cmで、埋め戻されている。P2は中央部からやや北東寄りに位置し、長径56cm、短径48cm、深さ13cmである。P1・2ともに性格は不明である。

**P1土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック中量  
 2 明褐色 ロームブロック中量  
 3 明褐色 ロームブロック少量

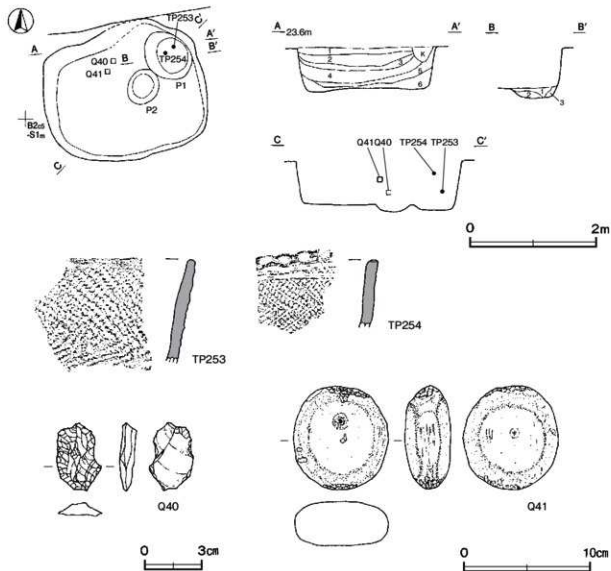
**覆土** 6層に分層できる。ローム粒子や炭化粒子などを含む層が互層に堆積しており、埋め戻されている。

## 土層解説

- |         |                 |       |           |
|---------|-----------------|-------|-----------|
| 1 褐色    | ロームブロック中量、炭化物少量 | 4 褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 褐色    | ローム粒子中量、炭化物少量   | 5 褐色  | ローム粒子中量   |
| 3 濃い黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量  | 6 黄褐色 | ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 75 点（深鉢）、剥片 1 点が、覆土下層から中層にかけて出土している。TP253・TP254 は破片で、TP253 は覆土下層から、TP254 は覆土中層からそれぞれ出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第 117 図 第 337 号土坑・出土遺物実測図

第 337 号土坑出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP253	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・磁鉄	褐色	単節縄文Rしと単節縄文L Rによる羽状縄文	覆土下層	
TP254	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・磁鉄	褐色	口唇部指頭押E 口縁に沿って沈線文 付加条縄文による羽状縄文	覆土中層	



番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q40	剥片	3.5	2.3	0.9	5.7	チャート	縦長剥片 表面両端打撃による2次剥離	覆土下層	
Q41	磨石	8.3	7.5	3.5	296.3	安山岩	全面磨り面 両面に凹み 両端に最打痕	覆土中層	PL26

### 第338号土坑（第118図）

**位置** 1区北西部のB3c2区、標高21mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 長径2.54m、短径2.28mの不整楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。底面は南側へ傾斜している。深さは54cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

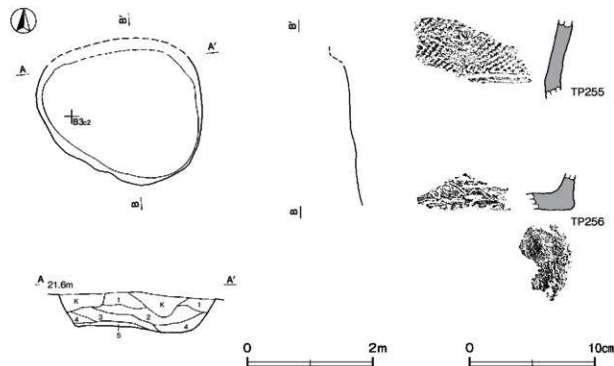
**覆土** 5層に分層できる。粘土ブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |       |                         |       |                             |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量            | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 灰白色 | 白色粘土ブロック                    |
| 3 褐色  | ロームブロック・粘土ブロック少量        |       |                             |

**遺物出土状況** 縄文土器片16点（深鉢）、剥片1点のほか、土師器片7点（坏2、甕5）が、覆土中から出土している。TP255・TP256は破片で、覆土中から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

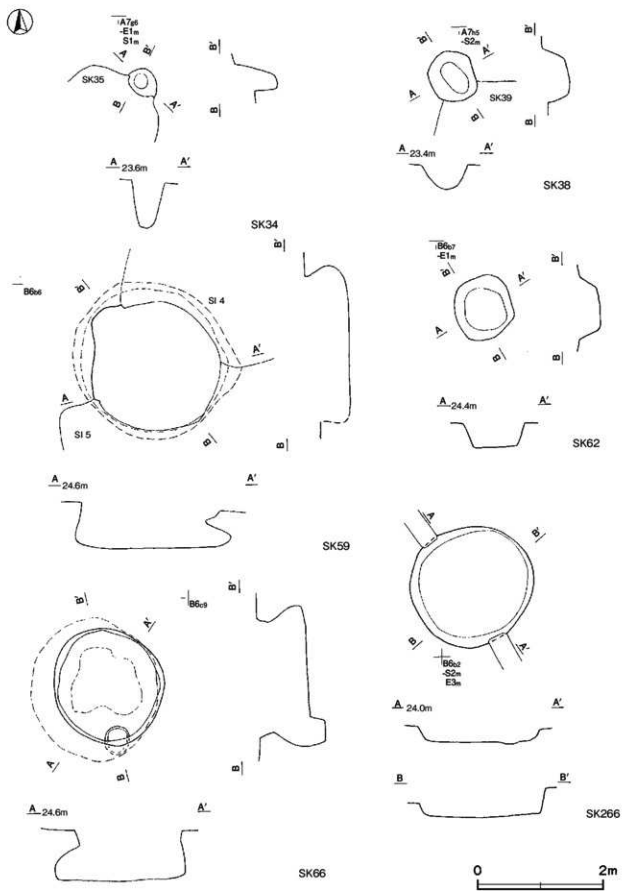
**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から前期中葉と考えられる。



第118図 第338号土坑・出土遺物実測図

### 第338号土坑出土遺物観察表（第118図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP255	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	灰褐色	単筋縄文R.Lと単筋縄文L.Rによる縦位の羽状縄文	覆土中	
TP256	縄文土器	深鉢	長石・繊維	明赤褐色	胴部下位 平行沈線による連続山形文	覆土中	



第119図 土坑実測図

表3 縄文時代土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3	A 618	N-38°-E	楕円形	3.08 × 2.66	80	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	
8	A 619	N-17°-E	円形	1.60 × 1.48	88	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品	
10	A 619	N-68°-E	不整形円形	2.32 × 1.80	58	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品	
13	A 619	N-54°-W	不整形円形	1.56 × 1.42	70	平坦	内傾	人為	縄文土器	
14	A 610	-	円形	径 0.86	43	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器、石器	
16	A 7 g1	N-72°-W	不整形円形	1.92 × 1.80	72	平坦	内傾	人為	縄文土器、石器	
18	A 7 h1	N-84°-W	不整形円形	1.72 × 1.44	66	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	
20	A 7 i7	N-66°-W	不整形円形	2.14 × 1.68	68	平坦	内傾	人為	縄文土器、石器	SK299 → 本跡
21	A 6 j0	N-34°-W	不定形	2.60 × 2.32	78	凹凸	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	本跡 → SD 1
23	A 7 h2	N-84°-W	楕円形	1.72 × 1.44	70	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品	本跡 → SK267
24	A 7 g2	-	円形	2.08 × 1.94	45	平坦	内傾	人為	縄文土器	
27	A 7 g4	N-43°-W	楕円形	2.04 × 1.76	54	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	
28	A 7 g4	-	不整形円形	径 1.70	64	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	
30	A 7 g5	-	不整形円形	径 2.10	52	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	本跡 → SK31
31	A 7 g5	-	不整形円形	1.78 × 1.62	62	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品	SK30 → 本跡
33	A 7 g5	N-61°-W	楕円形	1.56 × 1.14	36	ほぼ平坦	内傾	人為	縄文土器、石器	
34	A 7 g6	N-49°-E	不整形円形	0.54 × 0.34	12	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	本跡 → SK35
35	A 7 g6	N-28°-E	楕円形	1.94 × 1.76	38	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	SK34 → 本跡 → SK36
36	A 7 g6	N-14°-W	不整形円形	0.84 × 0.70	42	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	SK35 → 本跡
37	A 7 g6	-	不整形円形	径 1.80	48	平坦	直立	人為	縄文土器、土製品、石器	
38	A 7 h4	N-31°-W	楕円形	0.84 × 0.75	39	面状	外傾	人為	縄文土器	SK39 → 本跡
39	A 7 i5	-	円形	2.46 × 2.30	52	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品	本跡 → SK28、40
40	A 7 h5	N-36°-W	楕円形	1.91 × 1.61	22	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	SK39 → 本跡
44	B 7 a1	N-34°-W	楕円形	1.10 × 0.92	64	ほぼ平坦	内傾	人為	縄文土器	
45	B 6 a0	-	円形	1.65 × 1.52	62	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	
46	B 6 a9	N-11°-E	楕円形	1.92 × 1.70	64	ほぼ平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	
49	B 6 a8	-	円形	径 2.10	56	平坦	一部内傾	人為	縄文土器	
55	A 6 j7	-	円形	径 1.82	46	平坦	内傾	人為	縄文土器	本跡 → SD 1
57	B 6 i5	-	不整形円形	1.96 × 1.88	96	平坦	内傾	人為	縄文土器、湖片	
59	B 6 i6	-	[不整形円形]	(1.32) × (0.68)	67	平坦	内傾	人為	縄文土器	本跡 → SI 4、5
62	B 6 i7	N-23°-E	楕円形	1.08 × 0.98	40	平坦	外傾	人為	縄文土器	
66	B 6 c8	N-15°-W	楕円形	1.92 × 1.76	90	平坦	内傾	人為	縄文土器	
68	B 6 c9	-	円形	径 1.70	50	平坦	内傾	人為	縄文土器、石器	
70	B 6 i0	N-19°-W	楕円形	2.16 × 1.50	94	ほぼ平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品	
99	B 6 e8	N-56°-E	楕円形	2.08 × 1.80	92	平坦	内傾	人為	縄文土器	
201	B 6 d3	-	円形	1.68 × 1.54	96	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	本跡 → SP 2
213	A 5 j0	N-51°-W	不整形円形	1.46 × 1.28	26	平坦	外傾	自然	縄文土器	
215	A 6 i2	N-48°-W	楕円形	1.78 × 1.44	140	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	
217	A 6 i2	N-69°-W	楕円形	1.70 × 1.48	76	ほぼ平坦	内傾	人為	縄文土器	
222	A 5 i9	-	円形	径 0.80	32	凹凸	外傾	自然	縄文土器	
266	B 6 i2	-	円形	径 1.95	25	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	本跡 → SI15
268	A 7 h3	-	不整形円形	径 1.68	32	やや凹凸	外傾	人為	縄文土器、土製品	
269	B 6 d7	-	円形	径 0.33	15	面状	ほぼ直立	人為	縄文土器	
272	B 6 a2	-	楕円形	0.45 × 0.38	92	平坦	直立	人為	縄文土器、土製品	
273	A 6 i6	N-30°-E	楕円形	0.76 × 0.64	70	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
274	A 6 13	-	[楕円形]	134 × (110)	134	やや凹凸	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器	
277	B 6 a7	N-10°-E	楕円形	114 × 100	46	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器、土製品	SI 4→本跡
280	B 6 e6	-	[楕円形]	(128) × (130)	104	ほぼ平坦	内傾	人為	縄文土器	本跡→SK261
283	A 7 14	-	円形	径 180	38	平坦	内傾	人為	縄文土器	
287	A 6 b6	N-18°-E	楕円形	125 × 106	60	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
289	A 7 11	-	[楕円形]	046 × (060)	70	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	本跡→SK20
328	B 4 g8	N-33°-E	不整楕円形	118 × 102	32	傾斜	外傾	人為	縄文土器、石器	SI29→本跡
337	B 2 c5	N-81°-E	隅丸長方形	258 × 212	64	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器、銅片	
338	B 3 c2	N-58°-W	不整楕円形	254 × 228	54	傾斜	外傾	人為	縄文土器、銅片	

## (4) 遺物包含層

## 第1号遺物包含層 (第120～124 図)

**位置** A 7 区南部から B 7 区東部の標高 18～23 m ほどの支谷上に確認され、貝塚が存在する支谷奥部の西側に位置する。

**重複関係** 第9・10号竪穴建物、第1・2号溝に掘り込まれている。

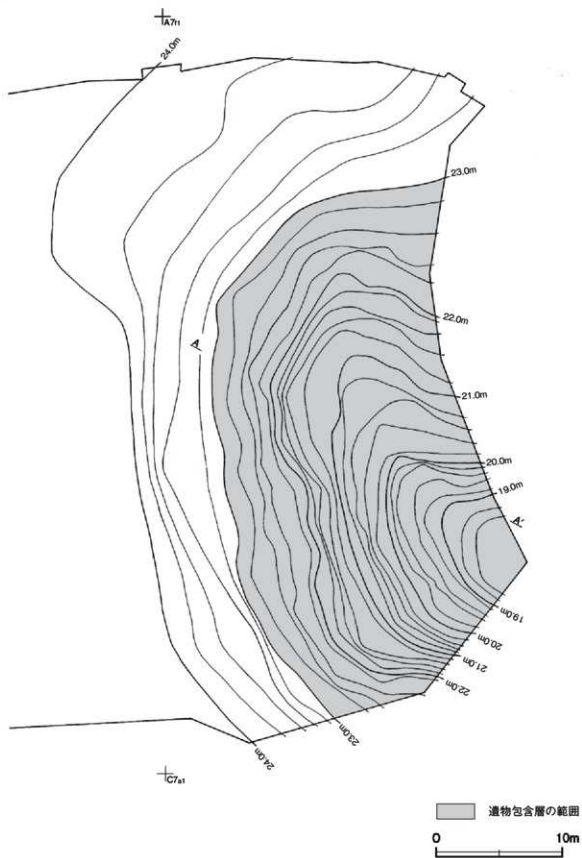
**規模** 確認された範囲の上限は標高 23 m のラインとほぼ一致し、南北幅約 41.6 m、東西幅約 22.7 m ほどで、面積は約 488 m<sup>2</sup>である。標高差は約 5.0 m である。

**堆積状況** 20層に分層でき、下面は明黄褐色を呈するローム層と黄灰色粘土層であり、南東方向へ緩やかに傾斜していることが確認された。この傾斜に沿って、自然に流れ込んだと考えられる黒褐色土が堆積していることから、第1～9層が遺物包含層である。特に第3・4・6・9層に遺物が多く含まれている。10層以下は谷の埋没土で、遺物はほとんど含まれていないことや、第9層から土坑と思われる掘り込みが確認されていることから、第9層が縄文中期中葉の旧表土であったと考えられる。第10～12層は粘性が高く、締まった層である。

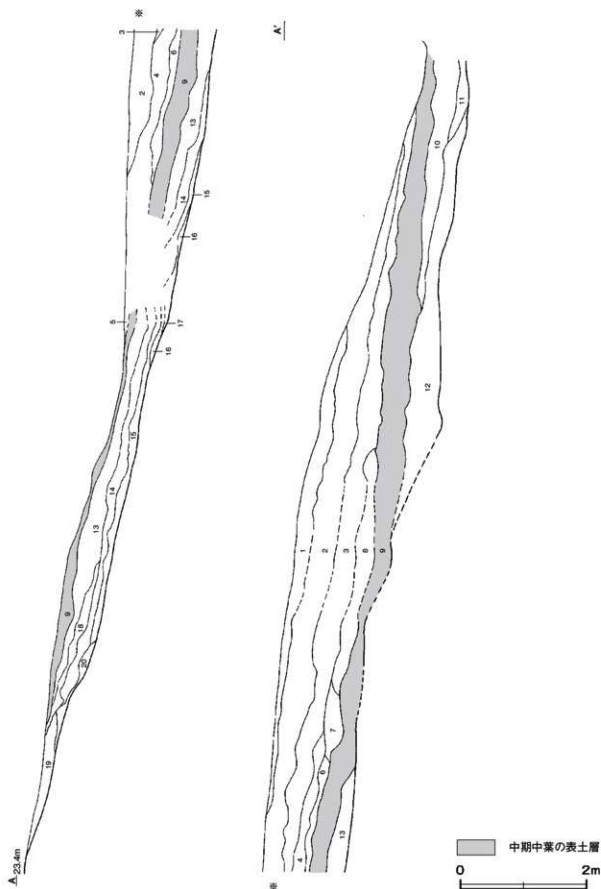
## 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	11 濃い黄褐色	粘土粒子中量、ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・砂粒微量	12 淡黄褐色	粘土粒子中量、ロームブロック少量
3 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	13 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂粒微量	14 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量	15 黒褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック少量
7 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	17 褐色	ローム粒子中量
8 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量 (粘土質)	18 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
9 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	19 暗褐色	ローム粒子少量
10 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	20 濃い黄褐色	ロームブロック少量

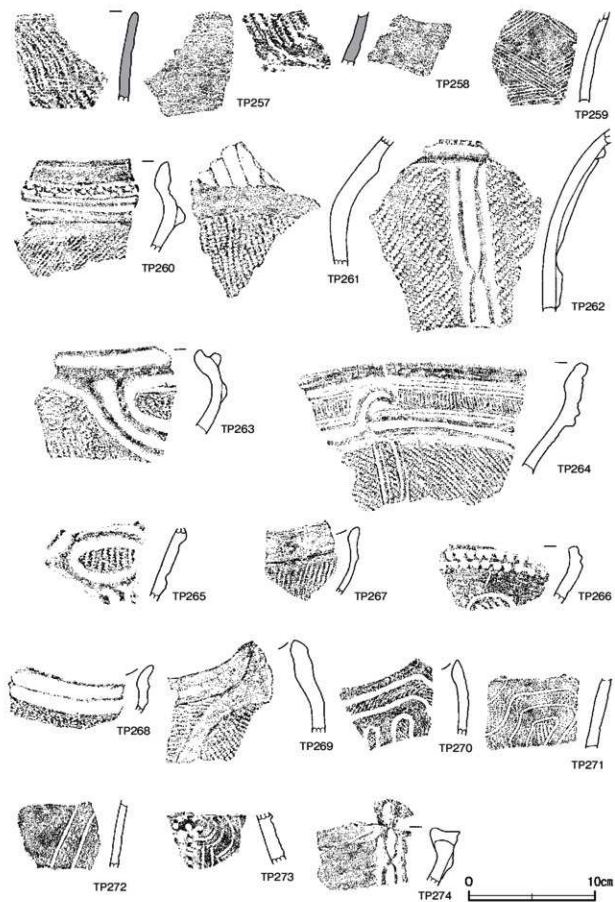
**遺物出土状況** 縄文土器片 10,042 点、土師器片 258 点、須恵器片 1 点、陶器片 2 点、磁器片 3 点、土玉 1 点、土器片鏝 52 点、石器 14 点、銅片 10 点、鉄滓 1 点が出土している。遺物の約 95% が縄文時代中期のものである。遺物は、本跡全体にわたり確認され、北部の第1号溝跡や第9号竪穴建物跡周辺からの出土がやや多い。層位的には、当縄文時代中期の旧表土層と考えられる第9層とその上層の3・4・6層からの出土が多い。それらの層からわずかではあるが縄文時代前期や後期の土器片も出土しており、それらは流れ込みや混入によるものとみられる。



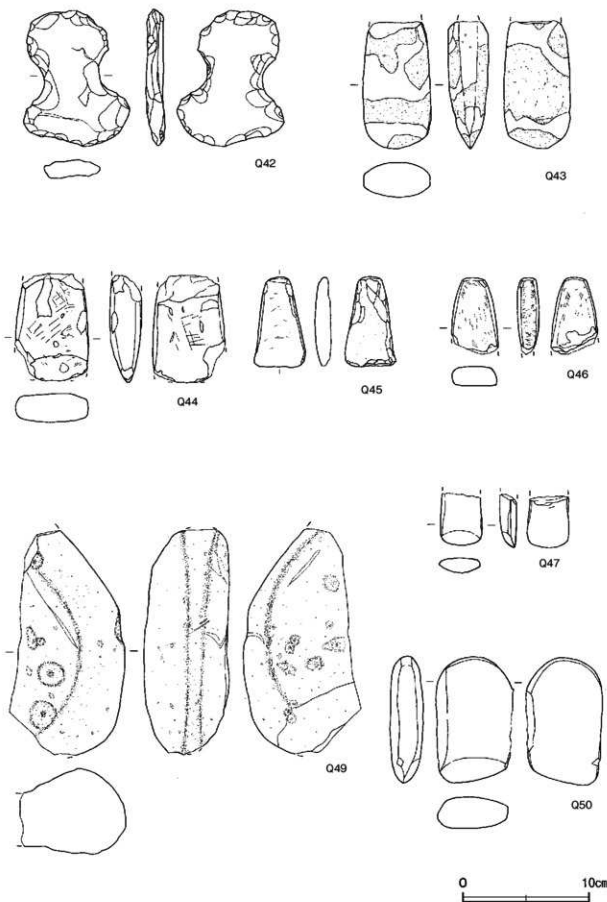
第 120 図 第 1 号遺物包含層実測図 (1)



第121図 第1号遺物包含層実測図(2)

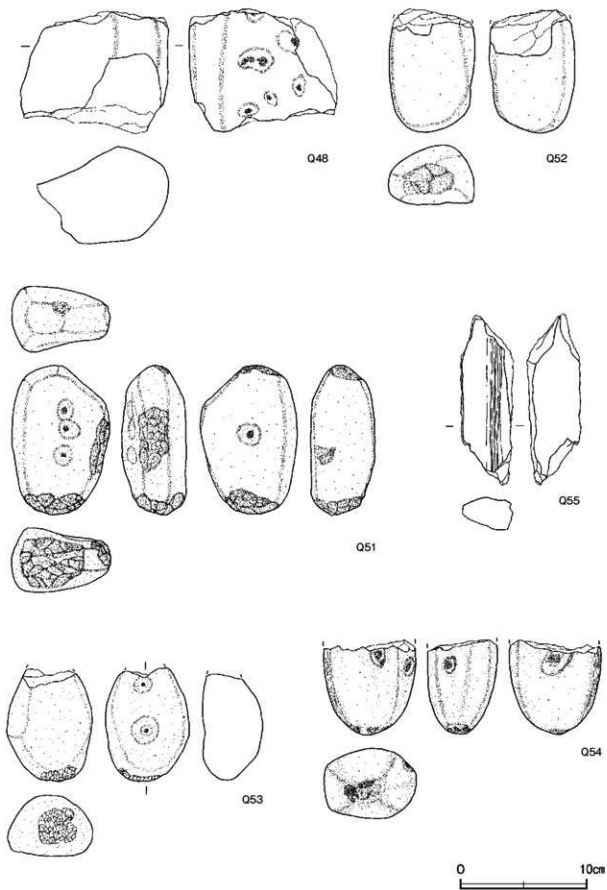


第 122 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第123图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(2)





第 124 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(3)

所見 本跡からは器面の摩耗した土器に混じって、北部を中心に破断面の鋭利な土器も確認されており、それらは自然に流れ込んだものとは考えにくい。完形の土器が出土していないことなどから、本跡の北部は、破損等により使用できなくなった土器が投棄された「土器捨て場」の可能性がある。南東部に傾斜する自然地形を利用し、土器は集落が存在する北西部から投棄されたものと推測される。本跡の時期は、出土土器から第9層とその上層の第3～8層が中期中葉を中心に後期前葉頃までに堆積したと考えられる。

第1号遺物包含層出土遺物観察表(第122～124図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP257	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口縁部わずかに外反 単筋縄文R1施文 内面繊維捺痕	堆積土下層	
TP258	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	製部片 単筋縄文R1施文 内面繊維捺痕	堆積土下層	
TP259	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐色	製部片 平行沈線による垂葉形文	堆積土中層	
TP260	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁に沿って製文の隆帯を付 交互刺突文 沈線を伴う隆帯文 隆帯下平筋縄文R1施文	堆積土下層	
TP261	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	指掛押圧による縦位の微隆起縄文 製部単筋縄文R1施文	堆積土下層	
TP262	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	製部と製部を隆帯で区画 製部2本組の縁状隆帯による垂下平筋縄文R1施文	堆積土下層	
TP263	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	口縁部背割れ隆帯による区画文 区画内単筋縄文で充填	堆積土上層	
TP264	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁部平行沈線を伴う隆帯による区画文 区画内磨面状工具による沈線文 製部単筋縄文R1上に平行沈線による垂葉文	堆積土中層	
TP265	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	口縁部沈線を伴う隆帯による区画文 区画内単筋縄文で充填	堆積土上層	
TP266	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄褐色	口縁に沿って2列の円形刺突文 沈線区画の曲線文内単筋縄文で充填	堆積土中	
TP267	縄文土器	深鉢	長石・雲母	褐色	波状口縁 微隆起区画内単筋縄文で充填	堆積土中	
TP268	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	波状口縁 2列の微隆起区画内単筋縄文で充填	堆積土中	
TP269	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	波状口縁 微隆起区画内単筋縄文で充填	堆積土中層	
TP270	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	波状口縁 沈線区画の曲線文内単筋縄文で充填	堆積土中層	
TP271	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰黄褐色	沈線区画の曲線文内単筋縄文で充填	堆積土下層	
TP272	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	沈線区画内刺突文	堆積土中	
TP273	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	橙	製部片割れ目をもつ隆帯垂下 沈線による同心円文	堆積土中	
TP274	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部無文帯 突起から縁状隆帯垂下	堆積土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	打製石斧	109	8.4	1.5	141.7	流紋岩	分銅部 刃部敲打による潤滑調整 挟入部に斬装痕	堆積土中層	
Q43	磨製石斧	(10.1)	5.3	3.2	(309.1)	砂岩	定角式調整 全面入念な磨り調整 全面に潤滑痕 基部欠損後磨り	堆積土上層	
Q44	磨製石斧	(8.5)	(5.8)	2.5	(209.9)	蛇紋岩	定角式 全面入念な磨り調整 基部欠損	堆積土上層	
Q45	磨製石斧	7.2	4.1	1.1	52.9	砂岩	撥形 周縁部敲打による潤滑後磨り調整	堆積土下層	
Q46	磨製石斧	(6.1)	(3.1)	1.7	(60.5)	ホルンフェルス	定角式 全面入念な磨り調整 刃部欠損	堆積土上層	
Q47	磨製石斧	(4.1)	(3.4)	(1.4)	(30.7)	粘板岩	定角式1/3 全面入念な磨り調整 基部欠損	堆積土下層	
Q48	石皿	(11.7)	(9.7)	7.6	(908.7)	安山岩	表面中央部大きくくぼむ 全面磨り調整 裏面に7か所の凹み	堆積土中	凹石兼用
Q49	石皿	(17.9)	(9.3)	6.8	(1035)	玄武岩	表面中央部大きくくぼむ 全面磨り調整 裏面に7か所の凹み 裏面に11か所の凹み	堆積土中	凹石兼用
Q50	磨石	10.1	(6.1)	2.6	(261.5)	粘板岩	全面磨り調整 側面一部欠損 磨製石斧から磨石へ転用	堆積土中層	
Q51	敲石	11.9	7.8	5.1	637.3	閃緑岩	両端部に敲打痕 表面に3か所の凹み 裏面に1か所の凹み	堆積土下層	
Q52	敲石	(9.4)	6.7	5.0	(481.4)	砂岩	先端部敲打による潤滑調整 両端部に敲打痕	堆積土上層	
Q53	敲石	(8.7)	6.7	5.2	(398.8)	砂岩	下部部敲打痕 裏面に2か所の凹み 先端部欠損	堆積土中	凹石兼用
Q54	凹石	(7.3)	(6.8)	(5.0)	(374.9)	玄武岩	全面磨り調整 下部部に敲打痕 裏面に1か所の凹み 上半部欠損	堆積土中	
Q55	石棒片	(13.5)	(4.1)	(2.4)	(187.3)	緑泥片岩	表面磨り調整 両端部欠損	堆積土中層	

## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡12棟、掘立柱建物跡3棟、堅穴遺構1基、土坑10基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### (1) 堅穴建物跡

#### ア 古墳時代前期

#### 第2号堅穴建物跡（第125・126図）

**位置** 3区北西部のA6h6区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第1号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 西半部が調査区域外へ延びているため、東半部の確認である。確認できた南北軸は3.30m、東西軸は1.22mで、隅丸方形あるいは隅丸長方形と推定され、壁は高さ10～32cmで、外傾している。

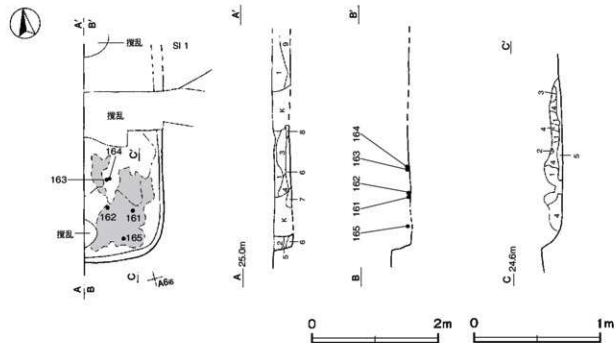
**床** ほは平坦で、壁際と掘乱部を除いて踏み固められている。南東コーナー部で焼土塊が確認でき、土層観察の結果、上屋焼失時に形成されたと考えられる。

**覆土** 8層に分层できる。焼土ブロック・炭化物などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |        |                        |       |                          |
|--------|------------------------|-------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック微量              | 6 暗褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量     | 7 褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量   |
| 3 暗褐色  | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量     | 8 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量         |
| 4 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |       |                          |
| 5 暗褐色  | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量   |       |                          |

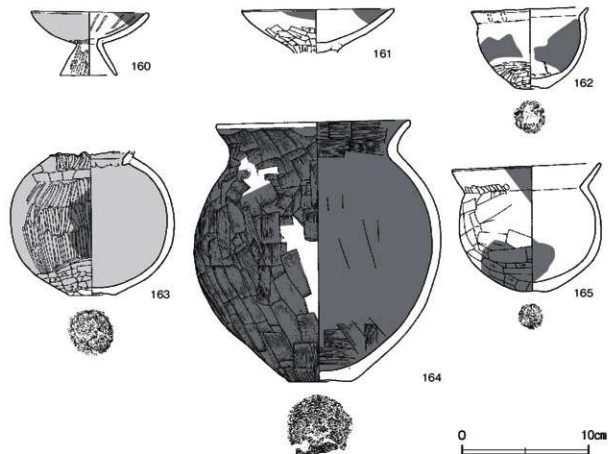
**遺物出土状況** 土師器片36点（器台1、高坏1、鉢1、小形壺1、甕1、小形甕1、椀類1、高坏類2、甕類27）、炭化材5点が、南東コーナー部の床面や覆土下層から出土している。そのほか、縄文土器片46点（深鉢）が覆土中から出土している。161・163・164は床面からそれぞれ出土し、煤が付着している。161・163・164



第125図 第2号堅穴建物跡実測図

は破片で、本跡が埋まらない内に投棄されたと思われる。162・165 はほぼ完形で、南東コーナー部の床面から潰れた状態で出土していることから、置かれたままの位置を保っているものとみられる。162・165にも煤が付着していることから、土器が遺棄あるいは投棄された後、上屋などが燃やされたとみられる。

所見 本跡は土器を遺棄あるいは投棄した後、上屋などが燃やされた焼失建物跡である。時期は、出土土器から4世紀後葉と考えられる。



第126図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第125・126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
160	土師器	器台	9.2	5.1	[4.5]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	器受部外面ナデ 赤彩 底磨り調整し再削削	竪穴中	50% 煤付着 Pl.27
161	土師器	高坏	120	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	坏部外・内面ヘラナデ 接合部ヘラ削り	南東コーナー部 床面	40% 煤付着
162	土師器	鉢	9.2	6.4	2.6	長石・石英・雲母	灰色	普通	口縁部外面指線押圧 内面ナデ 体部下半ヘラ削り	南東コーナー部 床面	95% 煤付着 Pl.27
163	土師器	小形甕	-	(11.5)	3.7	長石・石英・雲母・細砂	明赤褐色	普通	体部外面上半ヘラ磨き 体部下半ヘラ削り 外・内面赤彩	南東コーナー部 床面	70% 煤付着
164	土師器	甕	15.3	20.7	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面全面ハケ目 口縁部内面ハケ目 体部内面上半ヘラナデ 下位ハケ目	南東コーナー部 床面	95% 煤付着 Pl.28
165	土師器	小形甕	11.7	10.2	2.0	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部外・内面ヘラナデ 体部上半ヘラナデ 下半ヘラ削り	南東コーナー部 床面	60% 煤付着 Pl.28

第7号竪穴建物跡 (第127～132図)

位置 3区西部のB6f7区。標高24mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第282号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸5.12m, 短軸5.08mの隅丸方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁は高さ30～42cmで、ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。焼土塊や炭化材が床面全体から出土している。貼床はロームブロックなどを混入させた暗褐色土を主体として構築されている。

**炉** 中央部のやや北寄りに付設されている。長径78cm, 短径62cmの楕円形で、深さ20cmの地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

**炉土層解説**

- |        |                        |       |                   |
|--------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色  | 焼土ブロック・炭化物少量           | 4 褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 2 明赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量      |
| 3 暗褐色  | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |       |                   |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ54～76cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ40cmで、中央方向へ斜めに掘り込まれており、位置や形状から出入口施設に伴うピットと考えられる。P1～P5では柱抜き取り痕が確認され、柱が抜き取られた後、ロームブロックを含むにぶい黄褐色土などで埋め戻されている。P1～P5の覆土中・下層には焼土粒子や炭化粒子が含まれていないことから、柱穴が埋められた後、上層が焼失したと思われる。

**P1土層解説**

- |          |                        |          |           |
|----------|------------------------|----------|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色     | ロームブロック少量 |
| 2 褐色     | ロームブロック中量              | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 明黄褐色   | ロームブロック中量              | 6 黄褐色    | ロームブロック中量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量              | 7 褐色     | ロームブロック中量 |
| 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量              |          |           |

**P2土層解説**

- |          |           |          |                        |
|----------|-----------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック中量 | 1 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色    | ロームブロック中量 | 2 褐色     | ロームブロック少量              |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量              |
| 4 黄褐色    | ロームブロック中量 |          |                        |

**P3土層解説**

- |          |                        |          |                        |
|----------|------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 1 黒褐色    | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黄褐色    | ロームブロック多量              | 2 黄褐色    | ロームブロック少量              |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量              | 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量              |
|          |                        | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量              |
|          |                        | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量              |

**貯蔵穴** 南東コーナー部に位置している。長径82cm, 短径70cmの楕円形で、深さ36cmである。底面は北側に傾斜しており、壁はほぼ直立している。覆土はロームブロックを中量含むにぶい黄褐色土などが堆積していることから、埋め戻されている。覆土の中・下層には焼土ブロックや炭化物は含まれず、貯蔵穴が埋まった後、上層が焼失したと思われる。

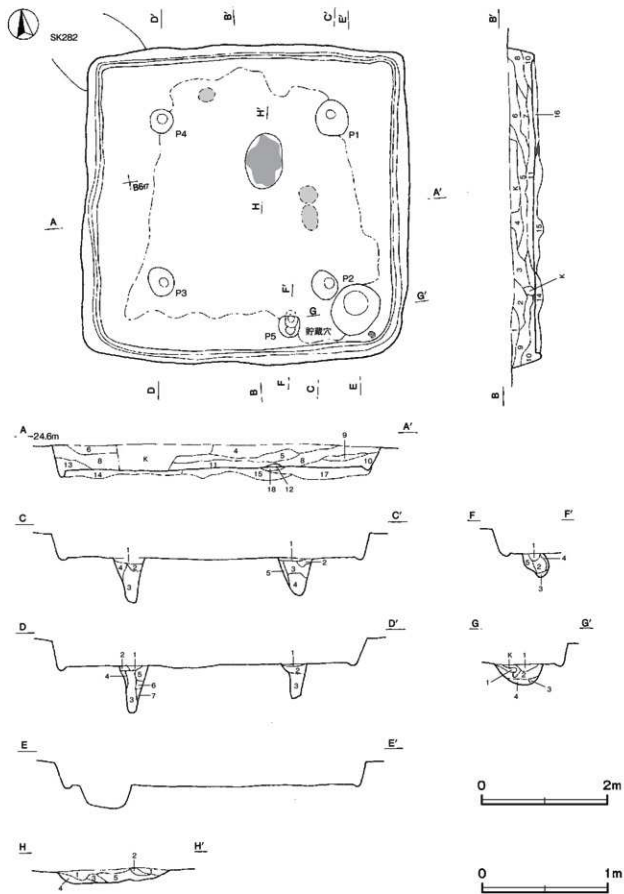
**貯蔵穴土層解説**

- |          |                       |        |           |
|----------|-----------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・炭化材少量, 焼土粒子微量 | 3 黄褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量             | 4 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |

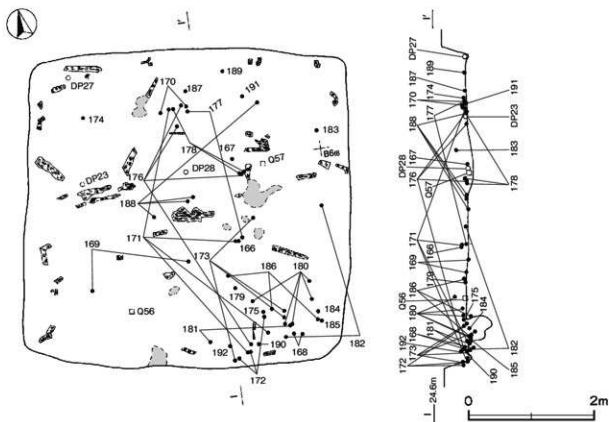
**覆土** 13層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・炭化物などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。最下層の10～13層は焼土ブロック・炭化物などを含む層で、上層焼失の際に形成された層と思われる。14～18層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |          |                        |        |                           |
|----------|------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック少量, 焼土粒子微量      | 6 褐色   | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量     |
| 2 褐色     | ロームブロック少量, 焼土粒子微量      | 7 黒褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色    | ロームブロック中量, 焼土粒子微量      | 8 褐色   | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色   | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量   |
| 5 暗褐色    | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量   |



第127図 第7号竪穴建物跡実測図(1)

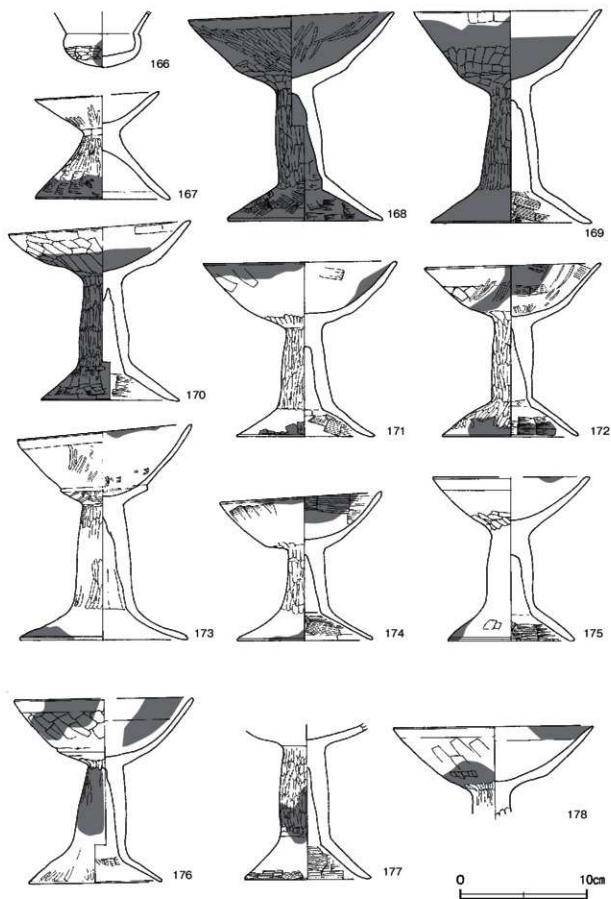


第128図 第7号堅穴建物跡実測図(2)

11 黒 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量	15 暗 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
12 暗 赤 褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量	16 黒 褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
13 濃い 黄 褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量	17 暗 褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
14 褐 色	ロームブロック中量	18 褐 灰色	ロームブロック少量

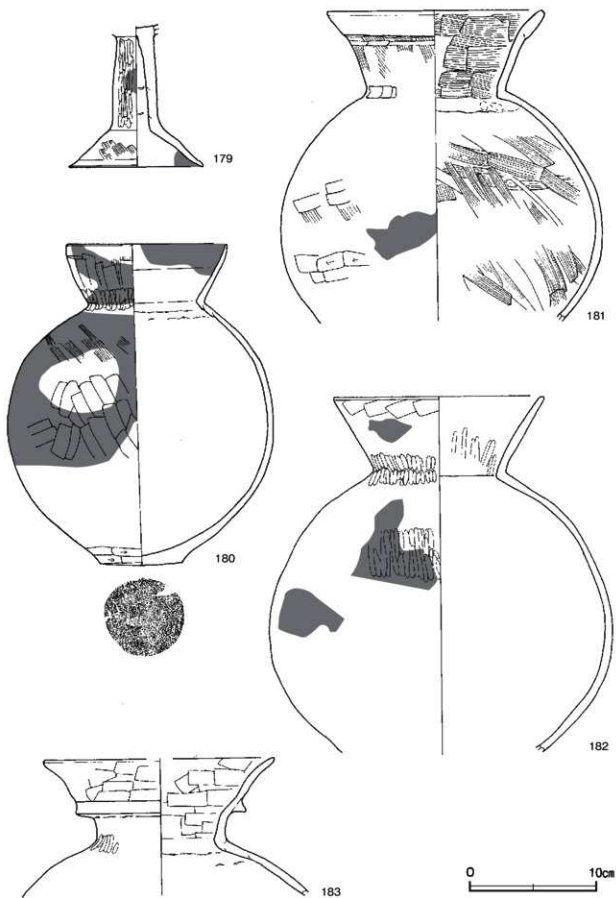
**遺物出土状況** 土師器片784点(埴1, 器台1, 高坏12, 壺7, 甕4, 小形甕2, 碗類20, 高坏類44, 甕類693), 土製品11点(土玉10, 管状土錘1), 石器1点(磨石), 石製品1点(管玉), 炉石1点が, 床面や覆土下層を中心に広範囲に散乱した状態で出土している。そのほか, 縄文土器片150点(深鉢149, 浅鉢1), 陶器片1点(碗), 剥片1点, 不明土製品3点が, 覆土中から出土している。173・176・177・178・180・182・188は, 床面や覆土下層から広域に分散して出土した破片が接合していることから, 破碎して投棄されたものとみられる。170~172・181は床面から出土した破片と覆土下層から出土した破片が接合していることから, 床面の一部は埋め戻されていたか, 土器片が埋土と共に投棄されたかと思われる。168-190はほぼ完形で, 南東コーナー部の床面から横位の潰れた状態で出土していることから, 使用時のまま遺棄されたものとみられる。167・174・175・179・184・185・187は床面から, 166・191・192は覆土下層からそれぞれ破片で出土していることから, 投棄されたかと思われる。これらの床面及び覆土下層から出土した土器にはすべて煤が付着していることから, 土器が遺棄あるいは投棄された後に上層が焼失したと考えられる。183は覆土中層から破片で出土しており, 煤は付着していない。上層焼失後, 埋土と一緒に投棄されたものとみられる。

**所見** 本跡は主柱が抜かれた後, 柱穴や貯蔵穴が埋め戻されている。床面には一部の土器が遺棄され, 多量の土器が投棄された後, 上層などが燃やされた焼失建物跡である。時期は, 出土土器から4世紀後葉と考えられる。

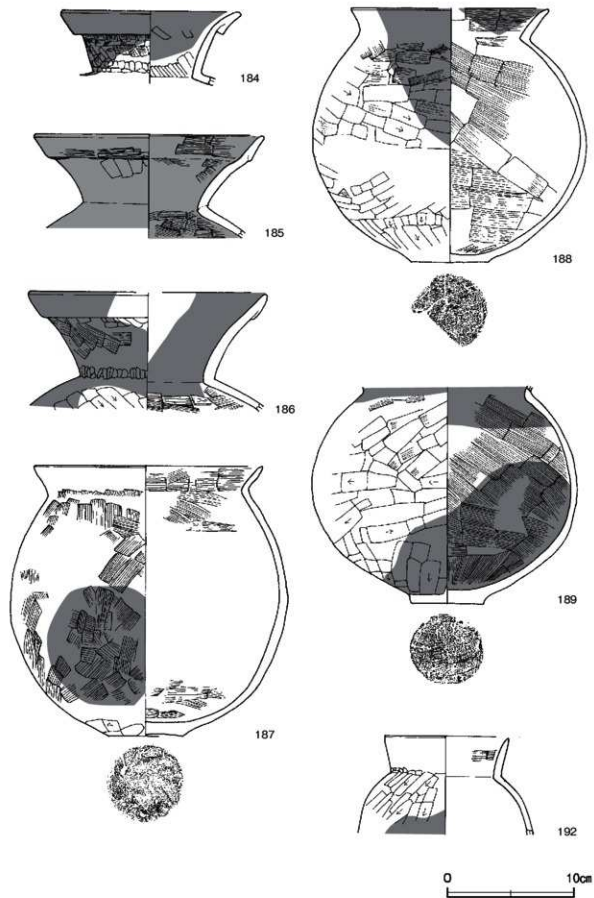


第129図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

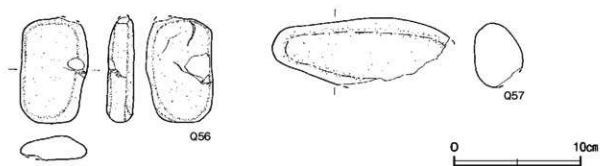
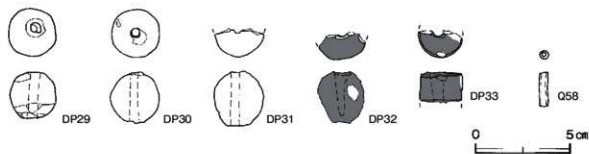
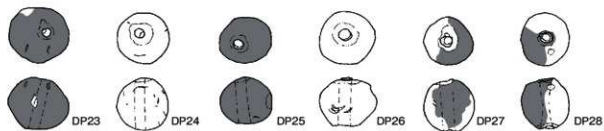
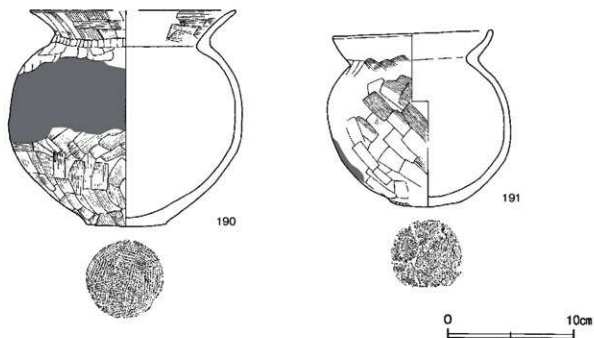




第130图 第7号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第131図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)



第 132 图 第 7 号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)

第7号竪穴建物跡出土土物観察表(第129～132図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
166	土師部	埴	—	(4.4)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面ヘラナデ 体部外面中へラつき	中央部 覆土下層	60% 覆付着
167	土師部	器台	(9.9)	8.5	10.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	器口縁部外側面き 内面ナデ 脚部ハケ目後へラつき	中央部 覆土中層	90% 覆付着
168	土師部	高坏	16.2	16.5	12.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面ヘラナデ 脚部外面へラつき 裾部内面ヘラ目	南東コーナー部 覆土中層	90% 覆付着
169	土師部	高坏	15.0	16.7	12.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ヘラナデ 内面ナデ 脚部外面側面き 裾部外面ナデ 内面ハケ目	中央部 覆土中層	80% 覆付着
170	土師部	高坏	14.5	14.1	11.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ 脚部外面へラつき 裾部外面ヘラ目 内面ハケ目	中央部 覆土下層	80% 覆付着
171	土師部	高坏	15.3	13.9	10.3	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ヘラナデ 脚部外面へラつき 裾部外面ヘラ目 内面ハケ目	中央部 覆土中層	80% 覆付着
172	土師部	高坏	13.8	13.7	10.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ後側面き 脚部・裾部外面へラつき 裾部内面ハケ目	南東コーナー部 覆土下層	60% 覆付着
173	土師部	高坏	13.8	17.2	[13.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ 脚部・裾部外面へラつき 裾部内面ハケ目	中央部 覆土中層	60% 覆付着
174	土師部	高坏	12.6	11.7	10.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ヘラナデ 脚部外面へラつき 裾部外面ナデ 内面ハケ目	南東コーナー部 覆土中層	60% 覆付着
175	土師部	高坏	[12.4]	13.0	10.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ 脚部・裾部外面ヘラナデ 裾部内面ハケ目	南東コーナー部 覆土中層	60% 覆付着
176	土師部	高坏	[14.0]	14.5	10.6	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外・内面ヘラナデ 脚部・裾部外面へラつき 裾部内面ハケ目	南東コーナー部 覆土下層	60% 覆付着
177	土師部	高坏	—	(12.0)	10.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面へラつき 裾部外・内面ハケ目	中央部 覆土中層	50% 覆付着
178	土師部	高坏	15.7	(7.5)	—	長石・石英・雲母	浅黄	普通	体部外・内面ヘラナデ内面ナデ 脚部外面側面き	南東コーナー部 覆土中層	40% 覆付着
179	土師部	高坏	—	(11.2)	10.6	長石・石英・雲母	赤褐	普通	脚部外面側面き 裾部外面ハケ目 内面ナデ	南東コーナー部 覆土中層	40% 覆付着
180	土師部	壺	12.6	25.6	6.5	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内面ハケ目後ヘラナデ 胴部ハケ目後ヘラナデ 底部へラ目	南東コーナー部 覆土下層	70% 覆付着
181	土師部	壺	17.1	(24.7)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	複合口縁 口縁部外面ハケ目後ナデ 内面ハケ目 体部外・内面ハケ目後ナデ	南東コーナー部 覆土下層	50% 覆付着
182	土師部	壺	16.8	(28.3)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部外面ヘラナデ 内面側面き 体部外面側面き	南東コーナー部 覆土下層	40% 覆付着
183	土師部	壺	[18.8]	(10.9)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	有段口縁 口縁部外・内面ヘラナデ 胴部側面き輪縁のみ	南東コーナー部 覆土中層	30% 覆付着
184	土師部	壺	14.0	(5.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	複合口縁 口縁部外・内面ヘラナデ 胴部外面ハケ目外・内面黒色処理	南東コーナー部 覆土中層	20% 覆付着
185	土師部	壺	17.9	(8.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	複合口縁 口縁部外・内面ハケ目 胴部外面ハケ目外・内面黒色処理	南東コーナー部 覆土中層	20% 覆付着
186	土師部	壺	[18.8]	(9.3)	—	長石・小礫・雲母	褐	普通	複合口縁 口縁部外・内面ナデ 胴部外面ハケ目 脚部外面へラ目	南東コーナー部 覆土中層	20% 覆付着
187	土師部	甕	18.0	21.5	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面ナデ 内面ハケ目 体部外・内面ハケ目後ヘラ目	南東コーナー部 覆土中層	80% 覆付着
188	土師部	甕	[15.7]	20.2	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面ナデ 内面ハケ目 体部外・内面ハケ目後ヘラ目 底部へラ目	南東コーナー部 覆土下層	70% 覆付着
189	土師部	甕	—	(17.5)	5.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外・内面ハケ目後ヘラ目 内面ハケ目 底部ヘラ目	南東コーナー部 覆土中層	70% 覆付着
190	土師部	小形甕	[16.2]	17.1	6.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ハケ目 体部外面ハケ目 底部ヘラ目	南東コーナー部 覆土中層	90% 覆付着
191	土師部	小形甕	12.5	14.1	5.8	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ハケ目内面ナデ 底部ハケ目	南東コーナー部 覆土下層	70% 覆付着
192	土師部	小形甕	9.9	(7.7)	—	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部外面ナデ 内面ハケ目 体部外面ヘラ目内面ナデ	南東コーナー部 覆土下層	30% 覆付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP23	土玉	3.2	2.8	0.5	24.63	長石・石英・雲母	灰褐	表面ナデ調整 一方からの穿孔	床面	覆付着
DP24	土玉	2.8	2.7	0.6	18.15	長石・石英	赤褐	表面ナデ調整 一方からの穿孔	覆土中	
DP25	土玉	2.8	2.5	0.6~0.7	19.77	長石・石英	黒褐	表面ナデ調整 一方からの穿孔	覆土中	覆付着
DP26	土玉	3.0	2.6	0.6	18.41	長石・石英	にぶい黄橙	表面ナデ調整 一方からの穿孔	覆土中	
DP27	土玉	2.7	2.7	0.7	17.96	長石・石英	明赤褐	表面ナデ調整 一方からの穿孔	床面	覆付着
DP28	土玉	2.7	2.7	0.5~0.6	17.81	長石・雲母	にぶい橙	表面ナデ調整 両方向からの穿孔	床面	覆付着
DP29	土玉	2.5	2.4	0.6	15.58	雲母	にぶい黄橙	表面ナデ調整 一方からの穿孔	覆土中	
DP30	土玉	2.6	2.7	0.5	16.82	長石・雲母	にぶい黄橙	表面ナデ調整 一方からの穿孔	覆土中	
DP31	土玉	[2.4]	2.9	(0.5)	(8.99)	長石・雲母	にぶい黄橙	表面ナデ調整 一方からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP32	土玉	[3.0]	(2.7)	(0.6)	(7.34)	長石	灰黄褐	表面ナデ調整 一方からの穿孔 一部欠損	覆土中	覆付着
DP33	管状土師	[2.2]	(1.6)	(0.7)	(4.82)	長石・石英・雲母	黒褐	表面ナデ調整 一方からの穿孔 一部欠損	覆土中	覆付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q56	磨石	8.4	5.3	2.2	(134.9)	粘板岩	全面磨り調整 両面を磨り面として利用 一部欠損	床面	
Q57	卵石	(14.1)	(5.2)	3.9	(345.1)	安山岩	割れた川原石を使用 全面火熱を受け変変	床面	
Q58	管玉	1.8	0.5	0.5	0.65	凝結片岩	全面磨り調整 一方からの穿孔 径5.0cm	覆土中	

## 第18号竪穴建物跡（第133～139図）

**位置** 2区北部のA5h0区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.30m、短軸5.12mの隅丸方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁は高さ40～48cmで、ほぼ直立している。

**床** はほぼ平坦な貼床で、西コーナー部と南コーナー部を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。炭化材が床面全体から放射状に出土している。南東壁中央部で、長さ144cm、幅12cm、深さ7cmの溝を確認した。壁に直交し、溝の西側の床面は踏み固められていないことなどから、間仕切り溝とみられる。貼床は、ロームブロックを混入させた黄褐色土で構築されている。

**炉** 中央部やや西寄りに付設されている。長径80cm、短径52cmの不整楕円形で、深さ8cmの地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

### 伊土層解説

- |        |                      |       |                       |
|--------|----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 3 灰赤色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 橙    | 色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量   |       |                       |

**ピット** 8か所。P1～P4は深さ49～63cmで、配置から主柱穴である。P1～P4の底面では柱の当たりが確認できた。P5は深さ22cmで、位置と床面の踏み固められた範囲から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6も深さ16cmで、位置から出入口施設に伴うピットの可能性があり、出入口が2か所あったか、出入口を作り替えたかのいずれかと思われる。P7は深さ38cm、P8は深さ9cmで、壁際に位置することから、壁柱穴とみられる。P1～P4では柱抜き取り痕が確認され、柱が抜き取られた後、ロームブロックを含むにぶい黄褐色土などで埋め戻されている。P1～P4の覆土中・下層には焼土粒子や炭化粒子が含まれていないことから、柱穴が埋められた後、上層が焼失したとみられる。

### P1・4土層解説

- |          |                     |          |           |
|----------|---------------------|----------|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量    | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黄褐色    | ロームブロック多量 |
| 3 褐色     | ロームブロック少量           | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量           |          |           |
| 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量           |          |           |

### P2土層解説

- |       |                       |          |           |
|-------|-----------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黄褐色    | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量             | 6 暗褐色    | ロームブロック中量 |

### P3土層解説

- |       |                       |  |  |
|-------|-----------------------|--|--|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   |  |  |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |  |  |
| 3 褐色  | ロームブロック少量             |  |  |
| 4 褐色  | ロームブロック中量             |  |  |

**貯蔵穴** 西コーナー部に位置している。長軸68cm、短軸60cmの隅丸方形で、深さは58cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。覆土はロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。覆土の中・下層には焼土ブロックや炭化物はほとんど含まれておらず、本跡を埋めた後、上層が焼失したと思われる。

### 貯蔵穴土層解説

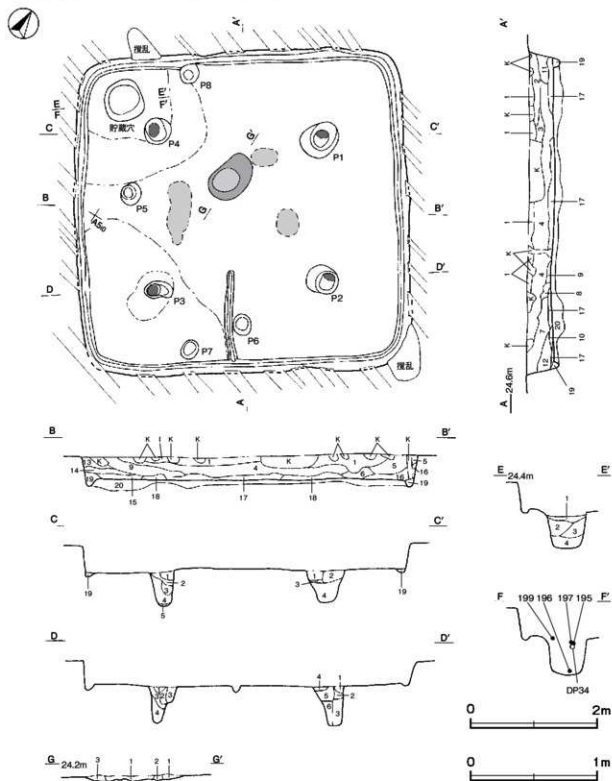
- |       |                      |          |                         |
|-------|----------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量 | 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量               |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量            | 4 黒色     | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

**覆土** 19層に分层できる。ロームブロック・焼土ブロック・炭化物などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。最下層の9・11・15～18層は焼土ブロック・炭化物などを含む層で、上層焼失の際に形成された層と思われる。20層は貼床の構築土である。

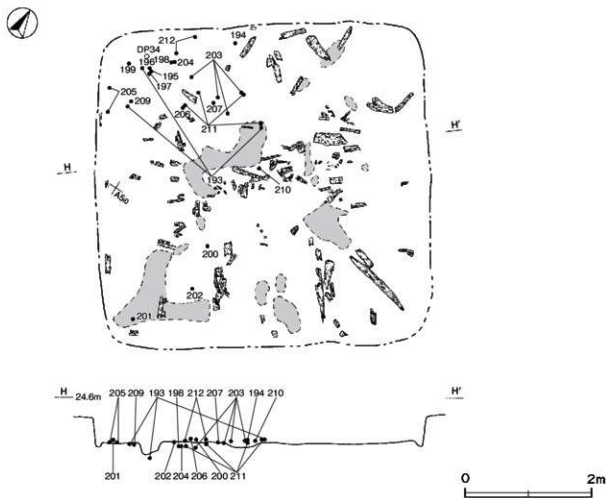
### 土層解説

- |          |                        |          |                           |
|----------|------------------------|----------|---------------------------|
| 1 褐灰色    | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量   | 5 黄褐色    | ロームブロック多量、炭化物微量           |
| 2 暗褐色    | ロームブロック中量、炭化粒子微量       | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量              |          |                           |
| 4 褐色     | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 7 褐色     | ロームブロック中量、焼土ブロック微量        |

- |        |                        |         |
|--------|------------------------|---------|
| 8 褐灰色  | ロームブロック中量、焼土粒子微量       | 子微量     |
| 9 黄褐色  | ロームブロック中量、炭化物少量        | 16 褐色   |
| 10 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量          | 17 明黄褐色 |
| 11 褐灰色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 18 暗黄褐色 |
| 12 褐色  | ロームブロック中量              | 19 黄褐色  |
| 13 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量        | 20 暗褐色  |
| 14 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量       |         |
| 15 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒 |         |



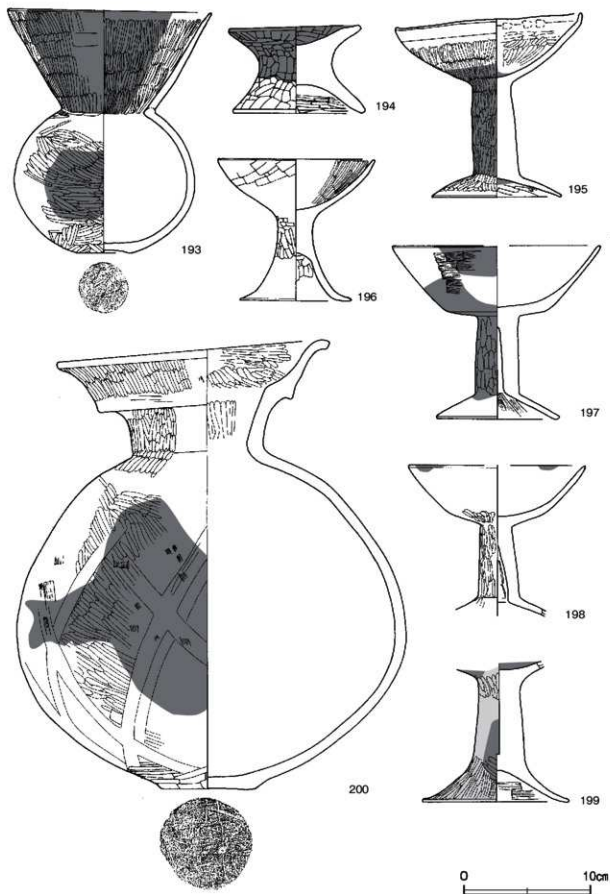
第133図 第18号竪穴建物跡実測図(1)



第134図 第18号竪穴建物跡実測図(2)

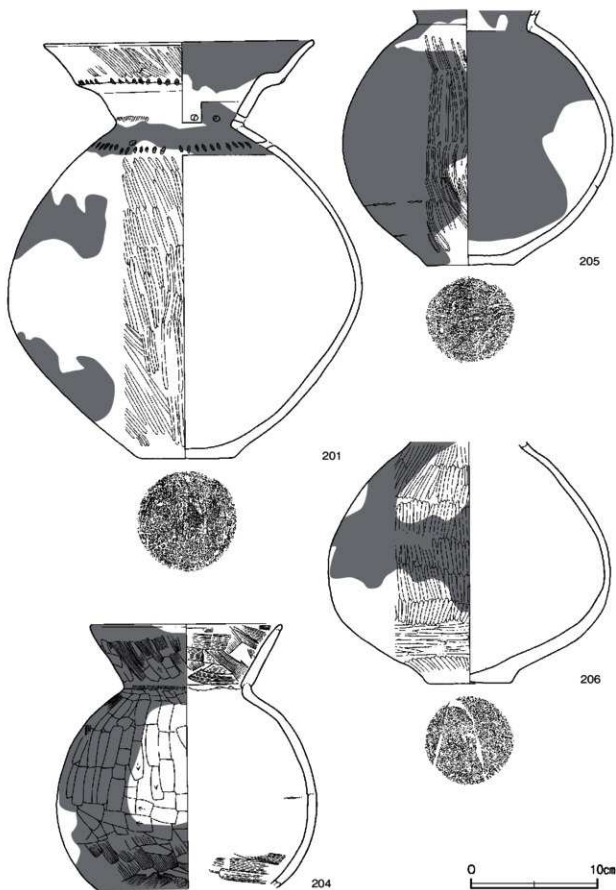
**遺物出土状況** 土師器片1149点(埴1, 器台1, 高坏5, 壺9, 甕3, 小形甕1, 椀類23, 高坏類35, 甕類1071), 土製品1点(舟形)が, 床面を中心に広範囲に散乱した状態で出土している。そのほか, 縄文土器片371点(深鉢370, 浅鉢1), 陶器片1点(碗), 粘土塊4点が覆土中から出土している。193・203・211は, 床面や覆土下層から広域に分散して出土した破片が接合していることから, 破砕して投棄されたかとみられる。そのうち203・211は床面から出土した破片と覆土下層から出土した破片が接合していることから, 土器片が投棄された時点で, 床面の一部は埋め戻されていたか, 土器片が埋土と共に投棄されたかと思われる。200～202・209はほぼ完形で, 200～202は南コーナー部, 209は西コーナー部の床面から, それぞれ潰れた状態で出土していることから, 使用時のまま遺棄されたものとみられる。194・198・204・205～207は床面から破片で出土していることから, 投棄されたかと思われる。これらの床面から出土した土器には, すべて煤が付着していることから, 土器が遺棄あるいは投棄された後, 上屋が燃やされたと考えられる。193の破片と196は貯蔵穴の底面や覆土下層からそれぞれ出土し, 煤が付着していないことから, 埋土と共に投棄されたかとみられる。195・197・DP34は貯蔵穴の確認面から出土し, 煤が付着していることから, これらが投棄された後, 上屋などが燃やされたと考えられる。

**所見** 本跡は支柱が抜かれた後, 柱穴や貯蔵穴が埋め戻されている。床面には一部の土器が遺棄され, 多量の土器が投棄された後, 上屋などが燃やされた焼失建物跡である。時期は, 出土土器から4世紀後葉と考えられる。

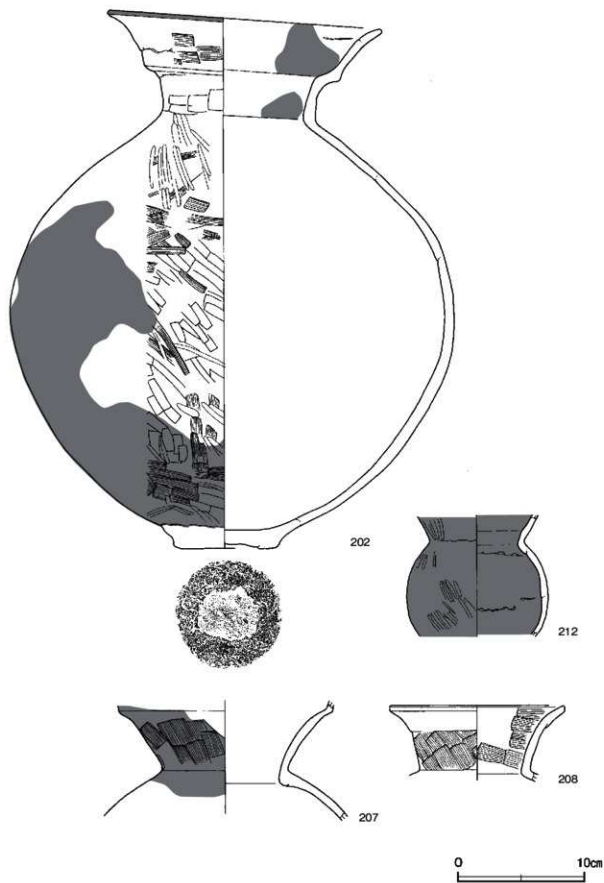


第 135 図 第 18 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)

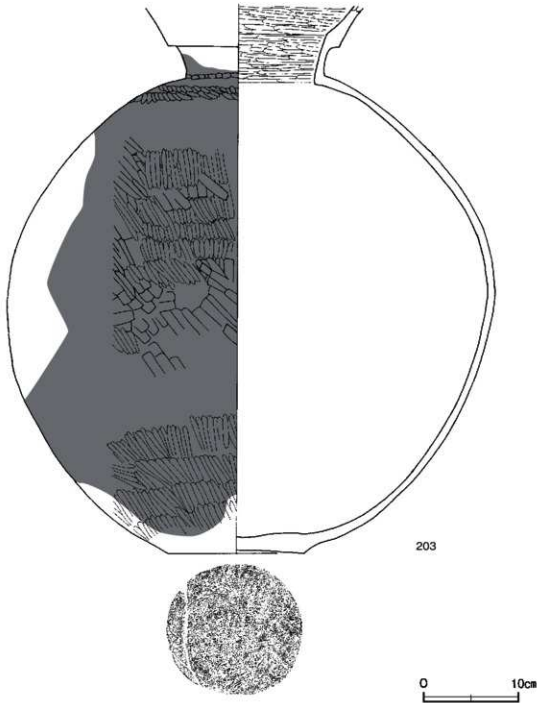




第 136 图 第 18 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



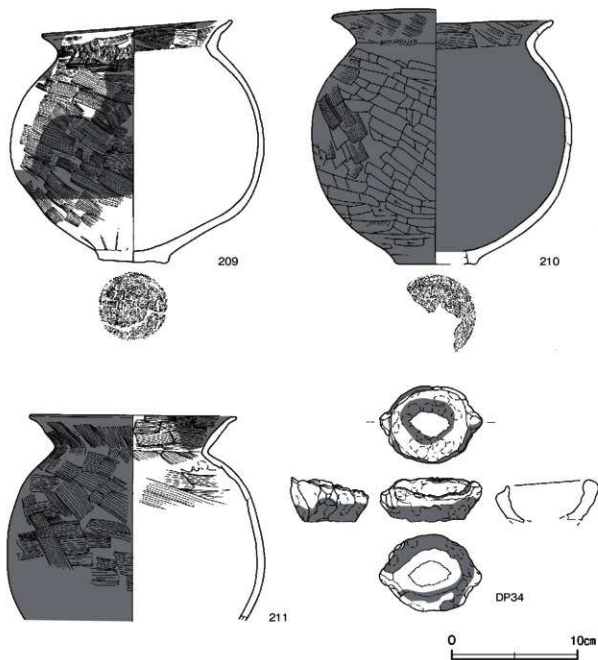
第 137 図 第 18 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第 138 図 第 18 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)

第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 133 ~ 139 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
193	土師器	埴	160	193	40	雲母	にぶい黄緑	良好	口縁部外・内面ヘラ磨き 体部外面ヘラ磨き	床面 層土下層	90% 煤付着 PL28
194	土師器	器台	105	70	103	長石・石英・雲母	橙・黒	普通	器受部外・内面ヘラナデ 脚部外面ヘラ倒り 裾部外面ヘラナデ	北西明階 灰面	70% 煤付着 PL27
195	土師器	高坏	147	147	104	長石・雲母	にぶい黄緑	普通	器部外・内面ヘラ磨き。赤彩 脚部中央柱状 外面ヘラ磨き	貯蔵穴 礎石面	80% 煤付着 PL27
196	土師器	高坏	124	112	[88]	長石・石英・雲母	赤黒	普通	器部外面ヘラナデ 内面ヘラ磨き 脚部外面ヘ ラ磨き	貯蔵穴 灰面	60%
197	土師器	高坏	[166]	137	[98]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	器部外面ハケ目 内面ナデ 脚部ヘラ磨き 裾 部外面ナデ 内面ハケ目	貯蔵穴 礎石面	50% 煤付着



第139図 第18号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
198	土師器	高坏	[140]	(121)	-	長石・石英・雲母	に灰・黄褐色	普通	坏部外・内面ナテ 脚部外面磨き	西コーナー一部 床面	30% 保付着
199	土師器	高坏	-	(11.1)	11.5	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部中央柱状外面磨き 赤彩 胴部外面磨き内 面ハケ目	貯蔵穴 確認面	40% 保付着
200	土師器	壺	21.3	35.8	7.3	長石・石英・雲母	橙	普通	有段口縁 口縁部外・内面磨き 胴部・胴部外 面磨き 竜目痕	南コーナー一部 床面	95% 保付着 PL.29
201	土師器	壺	21.3	33.2	7.8	長石・石英・雲母	に灰・黄褐色	普通	有段口縁 口縁部・胴部外面磨き 口縁部下端 と肩部ニ刷目 外・内面赤彩 胴部に横條孔	南コーナー一部 床面	90% 保付着 PL.29
202	土師器	壺	21.6	42.8	8.1	長石・石英・ 雲母・細礫	に灰・黄褐色	普通	有段口縁 口縁部外・内面ハケ目後ナテ 胴部 ハケ目後ヘウ磨き	南コーナー一部 床面	90% 保付着 PL.28
203	土師器	壺	-	(57.3)	14.0	長石・雲母	橙	普通	有段口縁 口縁部・胴部外面ナテ 赤彩 内面 磨き 体部外面磨き	床面 塵土下層	70% 保付着 PL.29
204	土師器	壺	14.9	(21.0)	-	長石・石英・雲母	に灰・黄褐色	普通	口縁部内・内面ハケ目 体部外面上平ヘウ磨り 下半ハケ目	西コーナー一部 床面	60% 保付着 PL.27
205	土師器	壺	-	(20.7)	7.0	長石・石英・細礫	に灰・赤黒	普通	体部外面ヘウ磨き 赤彩 輪積み痕	西コーナー一部 床面	30% 保付着
206	土師器	壺	-	(19.2)	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘウ磨き内面ナテ	西コーナー一部 床面	80% 保付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
207	土師器	壺	-	(95)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	有段口縁 頸部外面ハケ目内面ナデ 胴部外面ナデ	西コーナー部 床面	20% 覆付着
208	土師器	壺	138	(160)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	複合口縁 口縁部外面ナデ内面ハケ目 胴部外面ハケ目	覆土中	20%
209	土師器	甕	148	193	54	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面全面・口縁内面ハケ目 体部内面ヘラナデ	西コーナー部 床面	95% 覆付着 PL28
210	土師器	甕	173	202	[64]	長石・石英・雲母・細糠	灰黄褐色	普通	口縁部外・内面ハケ目 体部外面ハケ目後ヘラナデ	中央部 床面	80% 覆付着 PL28
211	土師器	甕	162	(165)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	全面ハケ目	床面 覆土下層	50% 覆付着
212	土師器	小形甕	-	(95)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面ヘラナデ 内面ナデ 輪縁み張り	西コーナー部 床面	40% 覆付着

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP94	土製品	8.2	(6.2)	3.5	(51.65)	長石・雲母	にぶい黄	手捏 両端部突起 底部削離	貯蔵穴 埋込面	片持 埋付着

## イ 古墳時代後期

### 第5号竪穴建物跡 (第140・141図)

調査年度 平成23年度

位置 調査区のB6b区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号竪穴建物跡、第59号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.52m、短軸5.23mの方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁は高さ20～36cmで、外傾している。

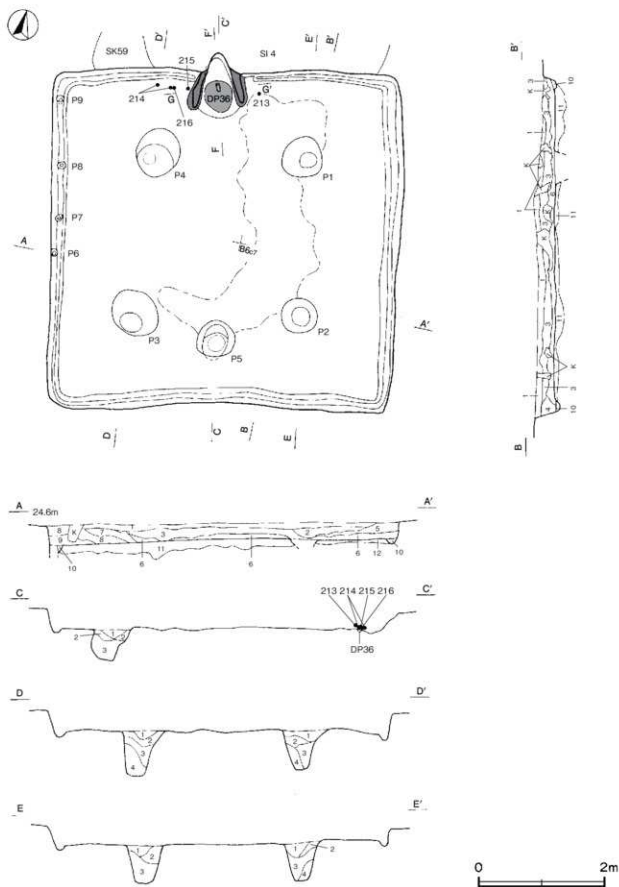
床 平坦な貼床で、中央部東側から出入り口施設にかけて踏み固められている。貼床は、全体を深さ8～30cmの凹凸状に掘り込み、ローム粒子を含んだ第11層を埋土して構築されている。壁下には幅8～12cm、深さ2～18cmの壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cmで、燃焼部幅は55cmである。竈全体を床面から深さ10～34cmの凹凸状に掘り込み、第29～32層を埋土し、袖部は第26～28層を積み上げて構築されている。火床面は第30層上面であり、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、壁外へ27cm掘り込まれ、火床部から緩斜している。火床部の煙道寄りには、支脚(DP36)が据え付けられている。

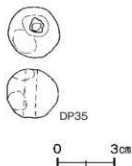
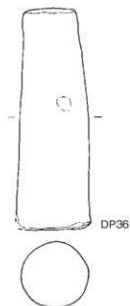
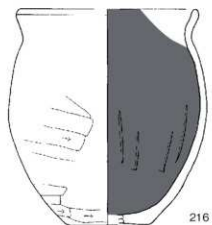
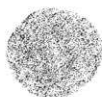
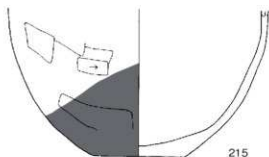
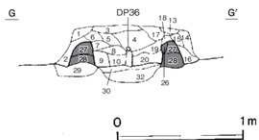
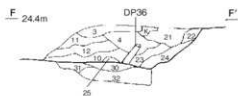
#### 竈土層解説

1 にぶい赤褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	16 にぶい赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量	17 にぶい赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	18 明赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子微量
4 灰赤色	焼土ブロック・粘土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量	19 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	20 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
6 灰褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	21 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
7 灰赤色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	22 極暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
8 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	23 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
9 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	24 にぶい赤褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
10 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	25 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
11 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	26 明赤褐色	粘土粒子中量、ロームブロック微量
12 極暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	27 にぶい橙褐色	砂質粘土ブロック中量
13 赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	28 黒褐色	ロームブロック少量
14 暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	29 陶灰色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
15 灰褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	30 にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
		31 褐色	ロームブロック少量
		32 暗褐色	ロームブロック少量

ピット 9か所。P1～P4は深さ60～68cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ48cmで南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は深さ18～32cmで、壁柱穴である。第1～4層は柱抜き取り後の覆土である。



第140図 第5号竪穴建物跡実測図



第141図 第5号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ビット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 褐色 ロームブロック中量  
4 明褐色 ロームブロック中量

覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。第11層は、貼床の構築土である。

## 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	7	黒色	黒色土ブロック・ローム粒子少量
2	黒色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量	9	褐色	ローム粒子中量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	10	黒褐色	ロームブロック少量
5	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	11	暗褐色	ローム粒子中量
6	褐色	ロームブロック少量			

**遺物出土状況** 土師器片 136 点（高坏 1、甕 134、小形甕 1）、土製品 2 点（土玉・支脚）、粘土塊 1 点、礫 1 点のほか、縄文土器片 335 点（深鉢）、弥生土器片 1 点（壺）が、全域の覆土中から出土している。214～216 は竈左袖部付近の床面から出土したことから、廃絶時に遺棄されたものである。

**所見** 時期は、出土土器から 6 世紀後葉と考えられる。

## 第 5 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 141 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
213	土師器	坏	11.4	3.8	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 器ナデ	体部外面へう刷り 内 面ナデ	覆土下層	50% 煤付着
214	土師器	甕	18.8	(11.2)	-	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 凸面磨耗	体部外面横位のへう刷り 凸面磨耗	床面	30% 煤付着
215	土師器	甕	-	(11.7)	7.4	長石・石英・ 雲母・赤鉄粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面横位のへう刷り	内面磨耗	床面	30% 煤付着
216	土師器	小形甕	[13.8]	17.1	[6.3]	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 器ナデ	体部外面横位のへう刷り 内面へうナデ	床面	50% 煤付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP35	土玉	2.7	2.6	0.6	16.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	指頭圧痕 一方角からの穿孔	覆土中	

番号	器種	最大径	最小径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP36	支脚	[5.9]	4.0	17.6	(685.0)	長石・石英・雲母	橙	指頭圧痕	竈火床面	

## 第 11 号竪穴建物跡（第 142・143 図）

**調査年度** 平成 23 年度

**位置** 調査区の B 6 0 区、標高 24m ほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸 3.30m、短軸 2.85m の長方形で、主軸方向は N - 95° - W である。壁は高さ 15～22cm で、外傾している。

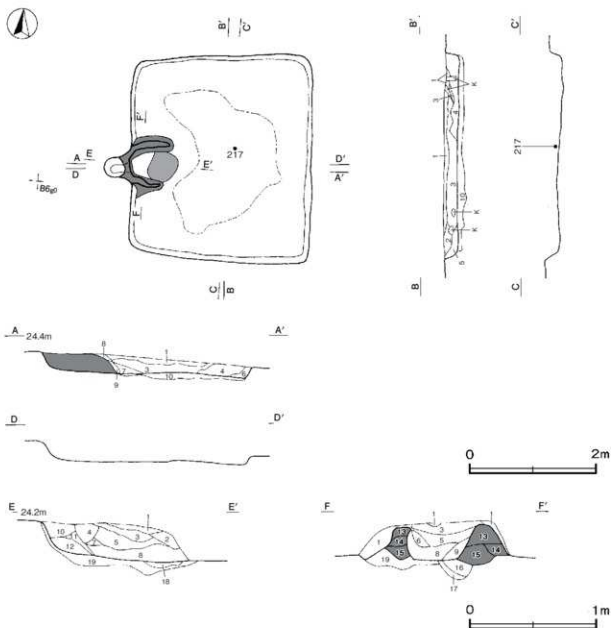
**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床は全体を均一に掘り込み、第 10 層を埋土して構築されている。

**竈** 西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で、燃焼部幅は 48cm である。竈全体を床面から深さ 10～30cm の凹凸状に掘り込み、第 16～19 層を埋土し、袖部は灰黄色粘土を主体とした第 13～15 層を積み上げて構築されている。火床面は第 19 層上面であり、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、壁外へ 34cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。第 4 層は残存した天井部である。

## 遺土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック・灰黄色砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	灰黄色砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
2	褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化物微量	6	にぶい黄褐色	灰黄色砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
3	黒褐色	灰黄色砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量、灰黄色砂質粘土ブロック・炭化物微量
4	灰黄色	灰黄色砂質粘土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量			





第142図 第11号竪穴建物跡実測図

- |           |                                    |           |                                   |
|-----------|------------------------------------|-----------|-----------------------------------|
| 8 暗赤褐色    | 焼土ブロック・灰黄色砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量  | 炭化粒子微量    |                                   |
| 9 黒褐色     | 灰黄色砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量          | 14 灰黄褐色   | ロームブロック・灰黄色砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 にふい青褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量                | 15 灰黄色    | 灰黄色粘土粒子多量、炭化物ローム粒子少量、焼土粒子微量       |
| 11 暗褐色    | 焼土ブロック・灰黄色砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量    | 16 褐色     | ローム粒子中量                           |
| 12 暗褐色    | ローム粒子中量、焼土ブロック・灰黄色砂質粘土ブロック少量、炭化物微量 | 17 褐色     | ロームブロック少量                         |
| 13 黒褐色    | ロームブロック・灰黄色砂質粘土ブロック少量、             | 18 にふい青褐色 | 焼土ブロック多量                          |
|           |                                    | 19 暗褐色    | ロームブロック少量、焼土粒子微量                  |

**覆土** 9層に分层できる。多くの層にロームブロックや焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

第10層は貼床の構築土である。

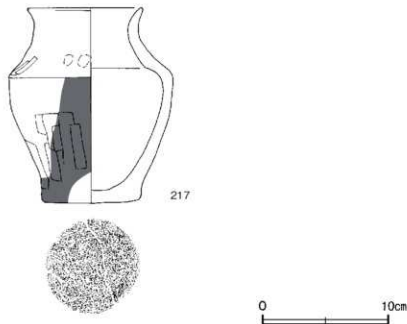
**土層解説**

- |       |                |       |                |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック少量      | 4 褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量 |

- |         |                          |        |  |
|---------|--------------------------|--------|--|
| 5 黄褐色   | ロームブロック中量                | 9 明黄褐色 | 焼土ブロック中量、黒色土ブロック・灰白色粘土<br>ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 明黄褐色  | ロームブロック少量                | 10 暗褐色 | ローム粒子中量                                |
| 7 黒褐色   | ローム粒子中量、黒色土ブロック少量        |        |  |
| 8 濃い黄褐色 | ローム粒子中量、灰白色粘土ブロック・焼土粒子少量 |        |  |

**遺物出土状況** 土師器片 56 点 (坏 6、壺 1、甕 49) のほか、縄文土器片 17 点 (深鉢)、弥生土器片 1 点 (壺) が、全城の覆土中から出土している。217 は中央部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 6 世紀代と考えられる。



第 143 図 第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 11 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 144 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
217	土師器	壺	90	155	7.6	長石・石英・雲母	濃い黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 肩部指頭圧痕 体部外 高麗位のへう張り	覆土下層	90% 保存看 PL.31

### 第 13 号竪穴建物跡 (第 144・145 図)

**調査年度** 平成 23 年度

**位置** 調査区の B 6 i6 区、標高 24m ほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 西部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は 7.45m、北西・南東軸は 4.60m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方向は N - 50° - E と推定できる。壁は高さ 32 ~ 43cm で、外傾している。

**床** はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた壁下には幅 18 ~ 22cm、深さ 5 ~ 15cm の壁溝が巡っている。

**ピット** P 1 は深さ 75cm で、規模と配置から主柱穴と考えられる。

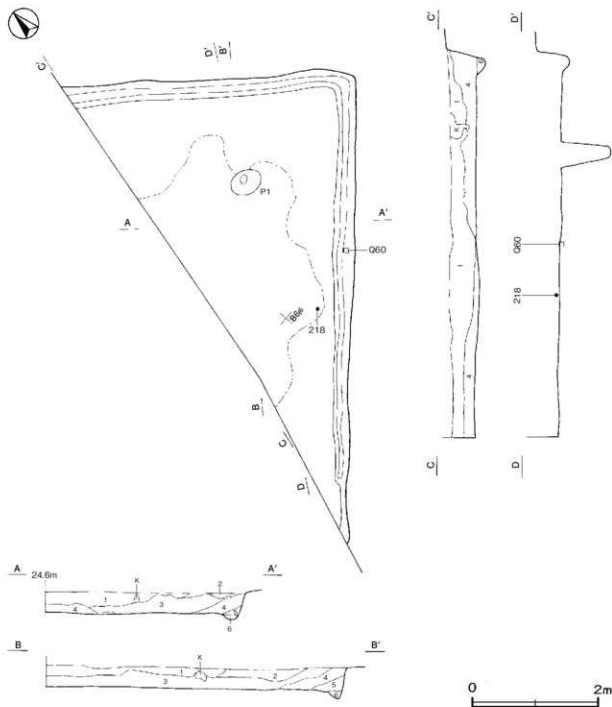
**覆土** 6 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

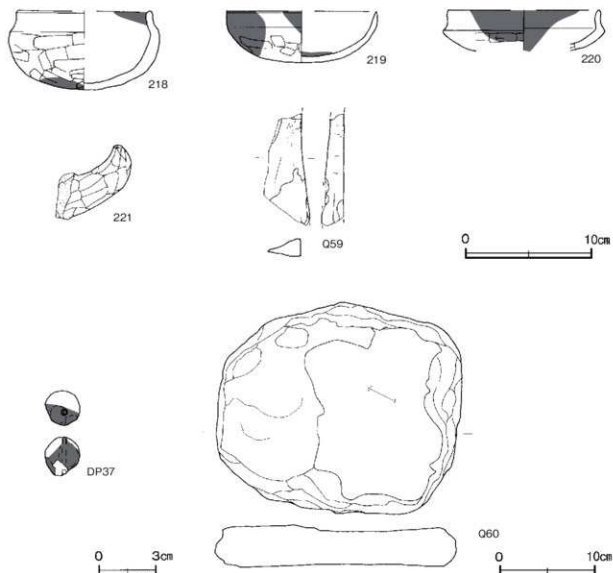
- |       |                               |         |                    |
|-------|-------------------------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・黒色土粒子微量   | 3 褐色    | ロームブロック・灰黒色土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・黒色土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 にいり褐色 | ロームブロック・灰黒色土ブロック少量 |
|       |                               | 5 黒褐色   | ロームブロック少量          |
|       |                               | 6 褐色    | ロームブロック中量          |

**遺物出土状況** 土師器片125点(坏78, 器台1, 高坏1, 甕42, 小形甕1, 瓶2), 土製品1点(土玉), 石器1点(砥石), 鏝2点のほか, 縄文土器片65点(深鉢), 弥生土器片1点(壺)が, 南東部の覆土中層から床面にかけて出土している。218は南東壁際の床面から出土したことから, 廃絶時に遺棄されたものである。

**所見** 時期は, 出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第144図 第13号竪穴建物跡実測図



第145図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(第145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
218	土師器	坏	[104]	6.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面横位のヘラ削り	床面	30% 保付着
219	土師器	坏	[120]	4.1	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内部平肌	体部外面横位のヘラ削り	覆土中	30% 保付着
220	土師器	坏	[120]	(3.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面横ナデ	体部外面横位のヘラ削り	覆土中	5% 保付着
221	土師器	瓶	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	指頭圧痕	ヘラ削り	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP37	土玉	1.8	2.1	0.2	(5.82)	長石・石英	にぶい黄褐	指頭圧痕 一部欠損	覆土中	保付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q59	砥石	(8.9)	(3.7)	(1.7)	(51.0)	粘板岩	紙面1面	覆土中	
Q60	砥石	21.8	25.3	4.4	47.0	凝灰岩	紙面1面	床面	

## 第21号竪穴建物跡（第146～149図）

調査年度 平成25年度

位置 調査区のB5区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7号溝・第322～324号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.62m、短軸5.45mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁は高さ30～73cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を均一に掘り込み、北東及び南西コーナー部と西壁際及び南壁付近を土坑状に掘り込み、第14～16層を埋土して構築されている。壁下には、幅26～30cm、深さ8～10cmの壁溝が全周している。東壁及び西壁下から柱穴に向かって、幅17～22cm、長さ75～110cm、深さ8～16cmで、浅いU字形の間仕切り溝4条を確認した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで145cmで、燃焼部幅は55cmである。竈全体を床面から深さ10cmほどの皿状に掘り込み、ローム粒子を含む第24～26層を埋土し、袖部は砂質粘土を含む第16～23層を積み上げて構築されている。火床面は第25層上面であり、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ70cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

### 竈土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	14 褐色	焼土粒子少量
2 暗褐色	炭化物・粘土粒子少量、焼土粒子微量	15 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量	16 赤褐色	焼土粒子多量
4 暗褐色	粘土粒子多量	17 褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
5 暗褐色	焼土ブロック多量	18 暗褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量
6 暗褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量	19 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
7 暗褐色	焼土ブロック微量	20 褐色	砂質粘土ブロック多量
8 暗褐色	砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック微量	21 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量
9 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック微量	22 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
10 暗褐色	ロームブロック微量	23 褐色	ロームブロック少量
11 暗褐色	粘土粒子少量、炭化物微量	24 に近い暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
12 暗褐色	焼土ブロック少量	25 に近い赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
13 暗褐色	焼土ブロック少量、粘土粒子微量	26 褐色	ローム粒子中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ45～55cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ35cmで、南壁側の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1・2層は柱抜き取り後の覆土、第3層は掘方への埋土である。

### ピット土層解説

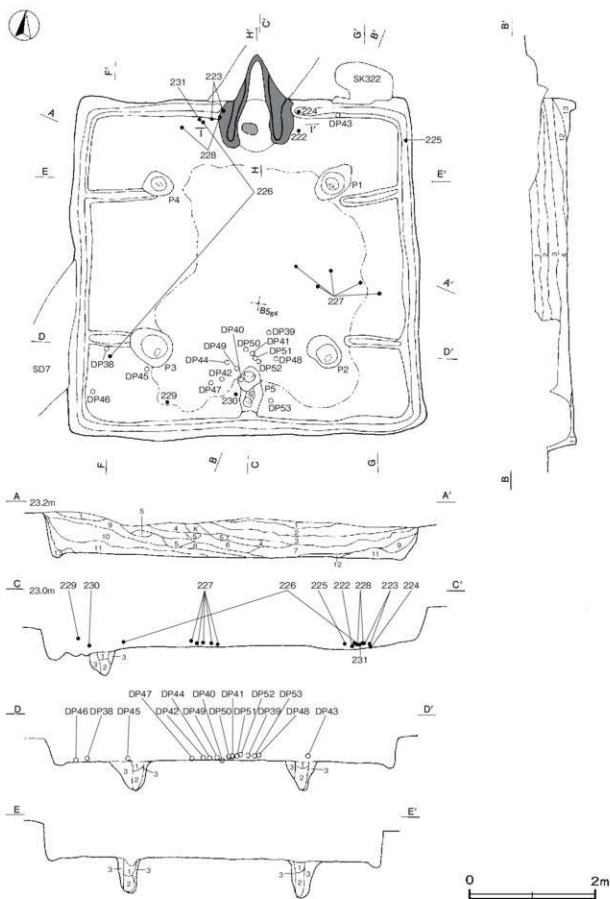
1 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	3 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量		

覆土 13層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第14～16層は、貼床の構築土である。

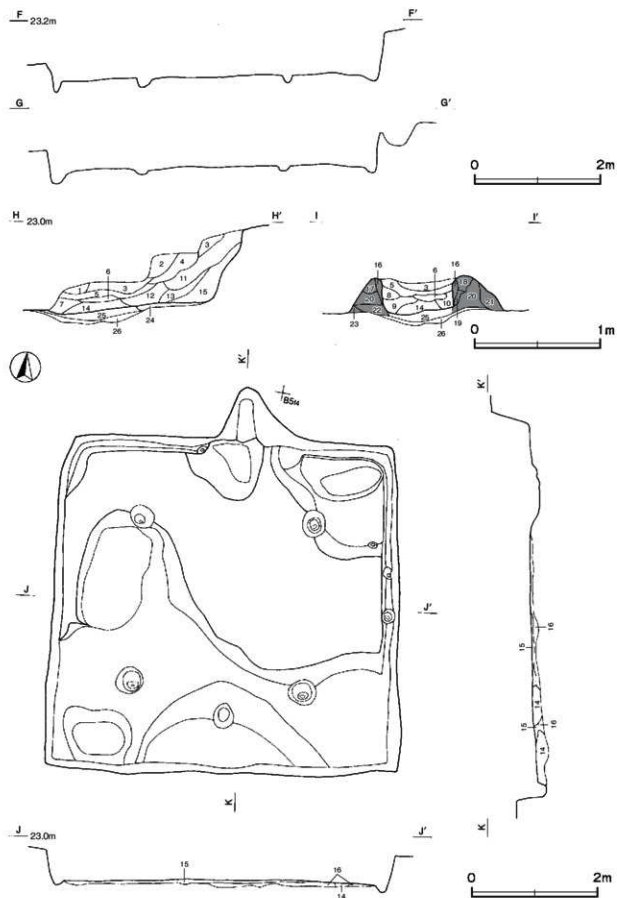
### 土層解説

1 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量	9 に近い黄褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量
2 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
3 褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量	11 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4 に近い黄褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	12 黒褐色	炭化物多量、ロームブロック中量
5 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量	13 褐色	ロームブロック中量
6 褐色	ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子少量	14 暗褐色	炭化粒子少量
7 黒褐色	ロームブロック・炭化物中量	15 黄褐色	ローム粒子多量
8 灰黄褐色	焼土ブロック中量	16 黄褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片944点（坏98、甕833、小形甕4、瓶9）、須恵器片1点（瓶）、土製品19点（土玉）のほか、縄文土器片20点（深鉢）が、全域の覆土中層から床面にかけて出土している。DP38～DP41・DP44～DP53は、南壁側の覆土下層からまともに出土していることから、一括して廃棄したと考えられる。

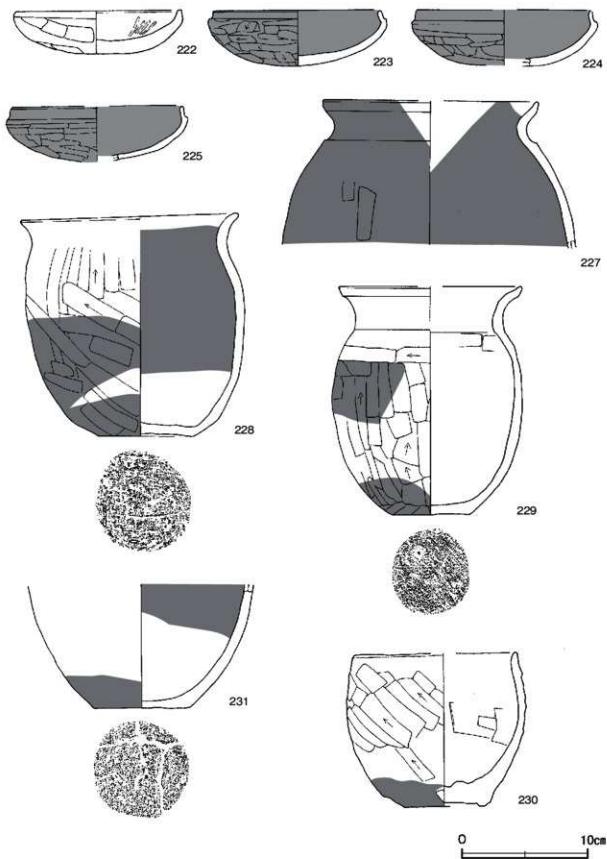


第146図 第21号竪穴建物跡実測図(1)



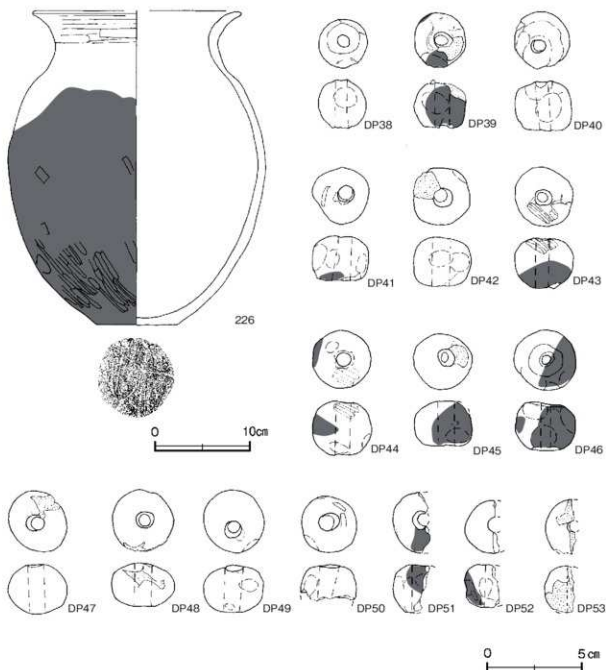
第 147 图 第 21 号 rectangular 建物迹实测图 (2)

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第148図 第21号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)





第 149 図 第 21 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 21 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 148・149 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
222	土師器	坏	130	3.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナテ 内面放射状のヘラ置き	体部外面ヘラ削り	覆土下層	90% PL20
223	土師器	坏	132	(4.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナテ 内面ナテ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	90% PL30
224	土師器	坏	[139]	(4.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナテ 内面ナテ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	30%
225	土師器	坏	[134]	(4.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナテ 内面横ナテ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	30%
226	土師器	甕	[210]	32.3	80	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナテ 口縁部外・内面横ナテ 下部斜位のヘラ置き	体部外面上部～中部磨耗 内面磨耗	覆土中層	40% 煤付着
227	土師器	甕	[170]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナテ 中部斜位のヘラ削り	体部外面上部横位のナテ 内面磨耗	覆土中層～ 下層	20% 煤付着
228	土師器	小形甕	170	17.6	7.3	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナテ 下部斜位のヘラ削り	体部外面上部横位のヘラ削り 内面横ナテ	覆土下層	30% 煤付着 PL31

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
229	土師器	小形甕	[144]	181	6.0	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	口縁部外・内面磨ナデ 体部外面上部縁部のヘラ削り 穿部→下部縁部のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層	60% 煤付着
230	土師器	小形甕	[127]	122	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	口縁部外・内面磨ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層	60% 煤付着 PL3
231	土師器	小形甕	-	(9.8)	7.6	長石・石英	赤焼	普通	体部外面磨耗 内面ナデ	覆土下層	30% 煤付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP38	土玉	2.6	2.6	0.7	15.30	長石・石英	橙	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP39	土玉	2.9	2.4	0.8	(17.04)	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤焼	指頭圧痕 一部欠損 一方向からの穿孔	覆土下層	煤付着
DP40	土玉	3.0	2.6	0.7	22.06	長石・石英	赤焼	指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP41	土玉	3.0	1.0	2.4	38.20	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	煤付着
DP42	土玉	3.0	2.6	0.9	(21.01)	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤焼	指頭圧痕 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土下層	
DP43	土玉	3.1	2.7	0.8	22.94	長石・石英・赤色粒子	橙	ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土上層	煤付着
DP44	土玉	3.1	2.8	0.8	23.65	長石・石英・雲母	にぶい赤焼	指頭圧痕 ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土下層	煤付着
DP45	土玉	3.1	2.9	0.9	(19.19)	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	指頭圧痕 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土下層	煤付着
DP46	土玉	3.2	2.6	0.6	26.42	長石・石英・雲母	橙	指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	煤付着
DP47	土玉	3.2	2.6	0.8	(21.81)	長石・石英・雲母	明赤焼	一部欠損	覆土下層	
DP48	土玉	3.3	2.3	1.0	(21.91)	長石・石英	明赤焼	一部欠損 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP49	土玉	3.3	2.5	0.9	22.80	長石・石英・赤色粒子	赤焼	指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP50	土玉	3.0	(2.0)	1.1	(11.94)	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰焼	指頭圧痕 ヘラ削り 一部欠損	覆土下層	
DP51	土玉	3.3	2.6	0.9	(11.90)	長石・石英・赤色粒子	赤焼	一部欠損 一方向からの穿孔	覆土下層	煤付着
DP52	土玉	2.8	2.3	(0.8)	(10.01)	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐色	指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	煤付着
DP53	土玉	(2.9)	(2.5)	(0.6)	(7.98)	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	一部欠損	覆土下層	

## 第 23 号竪穴建物跡 (第 150・151 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区の B 5 d2 区、標高 23m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 4 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 7.26m、短軸 7.12m の方で、主軸方向は N - 33° - W である。壁は高さ 5 ~ 15cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、中央部から南東壁側にかけての一部が踏み固められている。壁下には幅 18 ~ 23cm、深さ 5 ~ 8cm の壁溝が全周している。

竪 北西壁のやや北寄りに燃焼部と右袖部が遺存している。確認できた燃焼部幅は 40cm である。火床面は床面とほぼ同じ高さの第 1 層上面であり、火熱を受けて赤変硬化している。

## 電土層解説

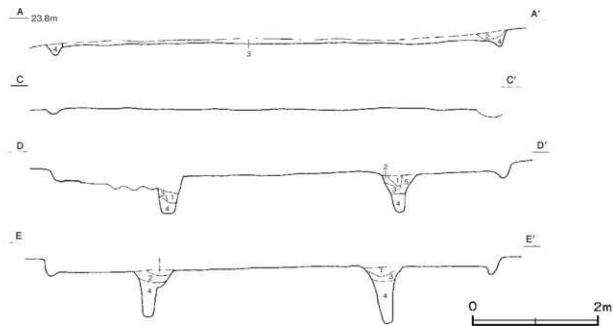
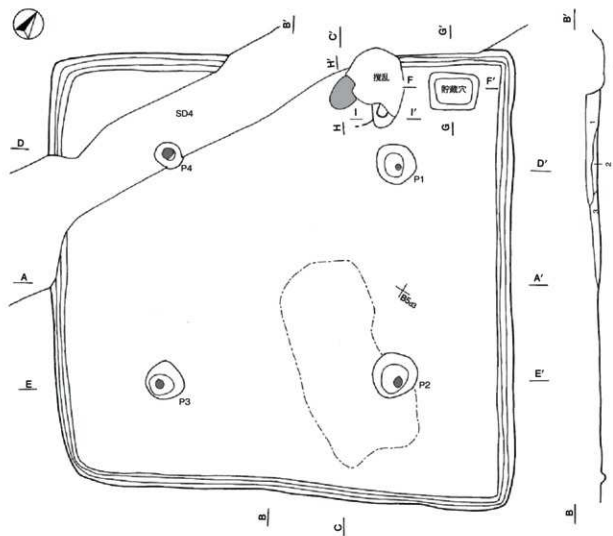
- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量       | 3 黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック中量         |

貯蔵穴 北コーナー部に位置し、長軸 80cm、短軸 60cm の長方形で、深さは 38cm である。底面は平坦で、壁は外傾している。

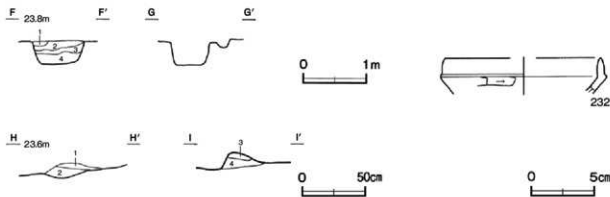
## 貯蔵穴土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量  | 4 褐色 ロームブロック少量  |

ピット 4 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 54 ~ 87cm で、規模と配置から主柱穴である。第 1 ~ 5 層全て柱抜き取り後の覆土である。全てのピットの底面から柱のあたりを確認した。



第 150 图 第 23 号竖穴建物迹实测图



第151図 第23号竪穴建物跡・出土遺物実測図

## ピット土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量   |
| 3 褐色  | ローム粒子多量   |       |           |

**覆土** 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |           |      |           |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量   | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 土師器片33点(坏5、甕28)、須恵器片2点(甕、瓶類)のほか、縄文土器片2点(深鉢)、陶器片1点(不明)、磁器片1点(不明)が、全域の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀代と考えられる。

第23号竪穴建物跡出土遺物観察表(第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
232	土師器	坏	[122]	(29)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横字 体部外面横位のへう筋 内面横字	覆土中	5%

## 第24号竪穴建物跡(第152～154図)

**調査年度** 平成25年度

**位置** 調査区のB5il区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

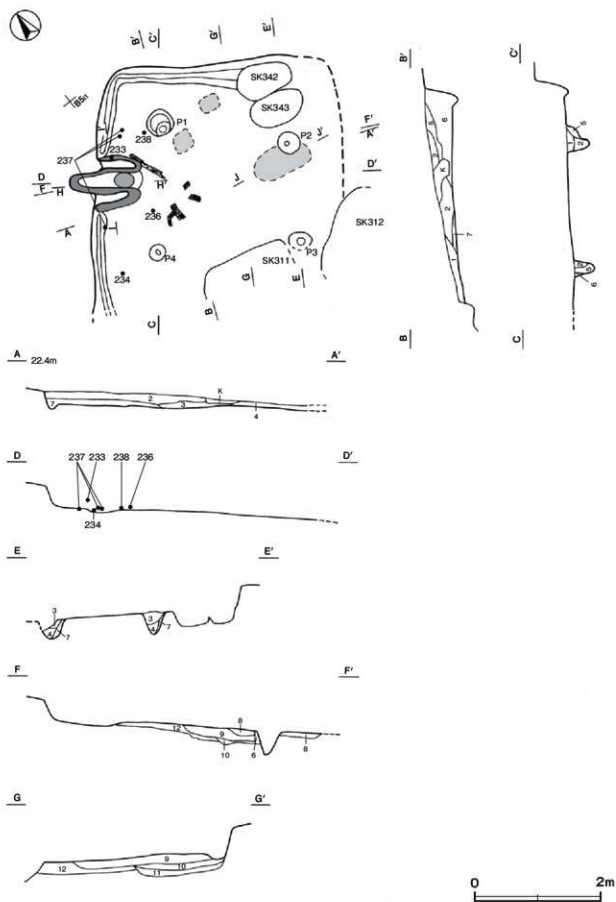
**重複関係** 第311・312・342・343号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北東・南西軸は390m、北西・南東軸は3.75mしか確認できなかった。主軸方向はN-55°-Wである。壁は高さ18～43cmで、外傾している。

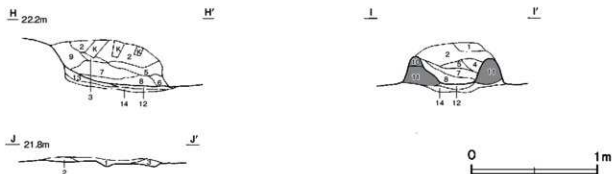
**床** ほぼ平坦な貼床である。中央部から北西壁にかけては、白色粘土混じりの構築土による貼床である。北西壁から北東壁下にかけて幅15～35cm、深さ5cmほどの壁溝が巡っている。甕手前から北コーナー部にかけて炭化材と焼土が確認できた。

## 焼土土層解説

- |        |                         |       |           |
|--------|-------------------------|-------|-----------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量   |       |           |



第 152 图 第 24 号竖穴建物迹实测图(1)



第153図 第24号竪穴建物跡実測図(2)

**竈** 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cmで、燃焼部幅は25cmである。竈は床面から深さ16cmの皿状に掘り込み、第12～14層を埋土して整地し、袖部は第10・11層を積み上げて構築されている。火床面は第12層上面であり、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

**竈土層解説**

- |       |                     |          |                                |
|-------|---------------------|----------|--------------------------------|
| 1 褐色  | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 9 暗褐色    | ロームブロック中量                      |
| 2 褐色  | 砂質粘土ブロック少量          | 10 濃い赤褐色 | 白色粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子少量      |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量          | 11 灰褐色   | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量、炭化物微量    | 12 赤褐色   | 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量           |
| 5 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子少量         | 13 暗赤褐色  | 焼土ブロック・白色粘土ブロック中量、炭化物少量        |
| 6 暗褐色 | 灰白色粘土ブロック少量、炭化物微量   | 14 灰褐色   | 白色粘土ブロック少量                     |
| 7 暗褐色 | 明黄褐色粘土ブロック少量、炭化物微量  |          |                                |
| 8 暗褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量     |          |                                |

**ピット** 4か所。P1～P4は深さ29～48cmで、規模と配置から主柱穴である。P1・P4の覆土には、床面を覆っている白色粘土が混じっている。柱抜き取り痕が確認でき、第1～4層は柱抜き取り後の覆土、第5～7層は掘方への埋土である。

**ピット土層解説**

- |          |                      |       |           |
|----------|----------------------|-------|-----------|
| 1 濃い褐色   | 白色粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 5 褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 褐色     | 白色粘土ブロック中量、炭化粒子少量    | 6 褐色  | ローム粒子中量   |
| 3 灰褐色    | 白色粘土ブロック多量、ロームブロック微量 | 7 黄褐色 | ローム粒子中量   |
| 4 灰オレンジ色 | 白色粘土ブロック多量、ローム粒子少量   |       |           |

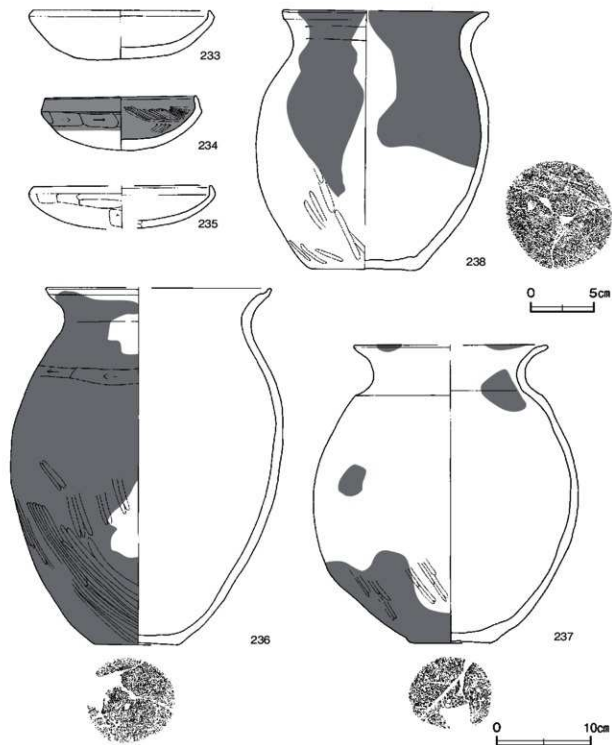
**覆土** 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第8～12層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                           |         |                         |
|-------|---------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量                   | 7 暗褐色   | ロームブロック・炭化物少量           |
| 2 暗褐色 | 白色粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 暗褐色   | ロームブロック中量、炭化粒子微量        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量   | 9 褐色    | ローム粒子中量、炭化粒子少量          |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量                 | 10 褐色   | ローム粒子中量                 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量                 | 11 褐色   | ロームブロック少量               |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量                 | 12 灰黄褐色 | 白色粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物少量 |

**遺物出土状況** 土器器片95点(坏5、甕89、小形甕1)のほか、縄文土器片3点(深鉢)が、北コーナー部の覆土中層から床面にかけて出土している。234は正位で、236・238は横位で、それぞれ床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものである。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉に比定できる。



第 154 図 第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 154 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
233	土師器	杯	139	4.0	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	体部外・内面ナデ	竈部	90% PL30
234	土師器	杯	118	4.2	-	長石・石英・雲母	靑	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面へタ整え	体部外面横位のへう頂 床面	80%
235	土師器	杯	[140]	[3.3]	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面へう頂り横ナデ	覆土中 3%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考		
236	土師器	甕	[235]	37.9	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい	普通	口縁部外・内面磨ナデ タ厚分 中・下部へラ磨き 内面磨ナ	体部外面土層位のへ た	床面	80% 煤付着 付着
237	土師器	甕	[198]	30.7	8.4	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部外・内面磨ナデ 部へラ磨き 内面磨ナ	体部外面土層純 下	床面	40% 煤付着
238	土師器	小形甕	[162]	30.5	8.4	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面磨ナデ ラ磨き 内面磨ナ	体部外面磨ナ 下部へ ラ磨き	床面	80% 煤付着

## 第 25 号 竪穴建物跡 (第 155 ~ 158 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区の B 4 a9 区、標高 24m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 6.05m、短軸 5.75m の方形で、主軸方向は N - 61° - W である。壁は高さ 30 ~ 59cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅 22 ~ 30cm、深さ 5 ~ 8cm の壁溝が全周している。

竈 西壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 112cm で、燃焼部幅は 40cm である。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、第 11 ~ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10cm 掘り込み、第 8 層を埋土して構築されている。火床面は第 8 層上面であり、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は第 9・10 層を埋土して構築し、壁外へ 5cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。火床部の煙道寄りには、支脚 (DP69) が据え付けられている。

## 竈土層解説

1 暗赤褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量	9 暗赤色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
2 にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	10 暗褐色	ロームブロック中量
3 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量	11 暗褐色	粘土粒子多量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	12 オリーブ褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量
5 暗赤灰色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	13 オリーブ褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量
6 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	14 オリーブ褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック少量
7 赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	15 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
8 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量		

貯蔵穴 東コーナー部に位置し、長径 76cm、短径 70cm の楕円形で、深さは 64cm である。底面は平坦で、壁は外傾している。

## 貯蔵穴土層解説

1 褐色	ローム粒子少量	4 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 褐色	ロームブロック中量	5 明黄褐色	ローム粒子多量
3 黄褐色	ロームブロック少量		

ピット 5か所。P 1 ~ P 4 は深さ 76 ~ 82cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 18cm で、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。柱抜き取り痕が確認でき、第 1 ~ 4 層全て柱抜き取り後の覆土である。全てのピットの底面から柱のあたりを確認した。

## ピット土層解説

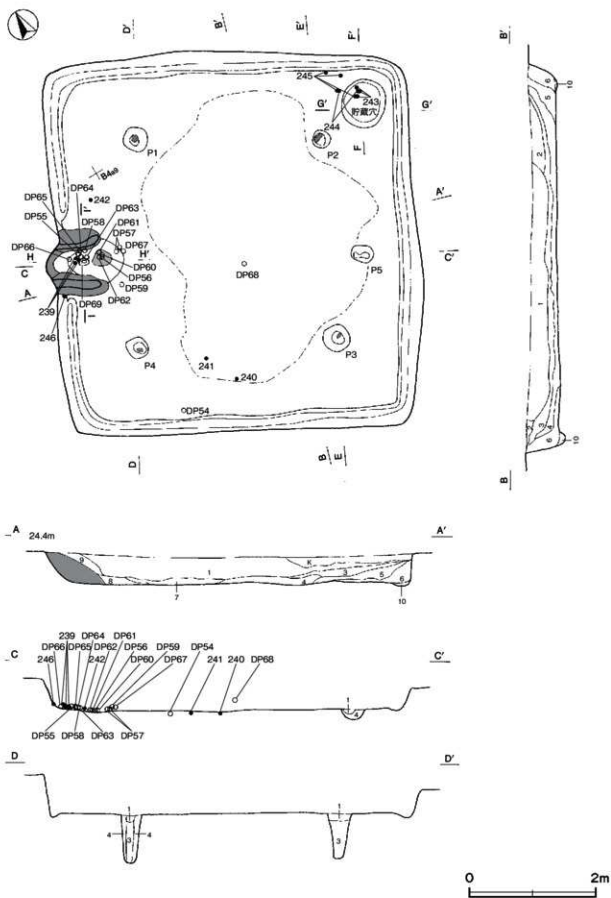
1 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	3 褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック・炭化物少量	4 黄褐色	ロームブロック中量

覆土 10層に分層できる。第 8・9層は竈の袖部が流れ出したものである。第 5 ~ 7層は自然堆積で、第 1 ~ 4層の多くは、ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

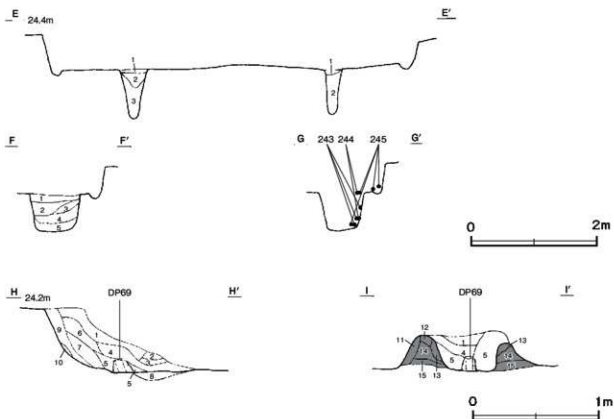
## 土層解説

1 黒色	ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量	6 黄褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	8 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量
4 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	9 暗赤褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
5 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子多量





第 155 图 第 25 号竖穴建物迹实测图(1)



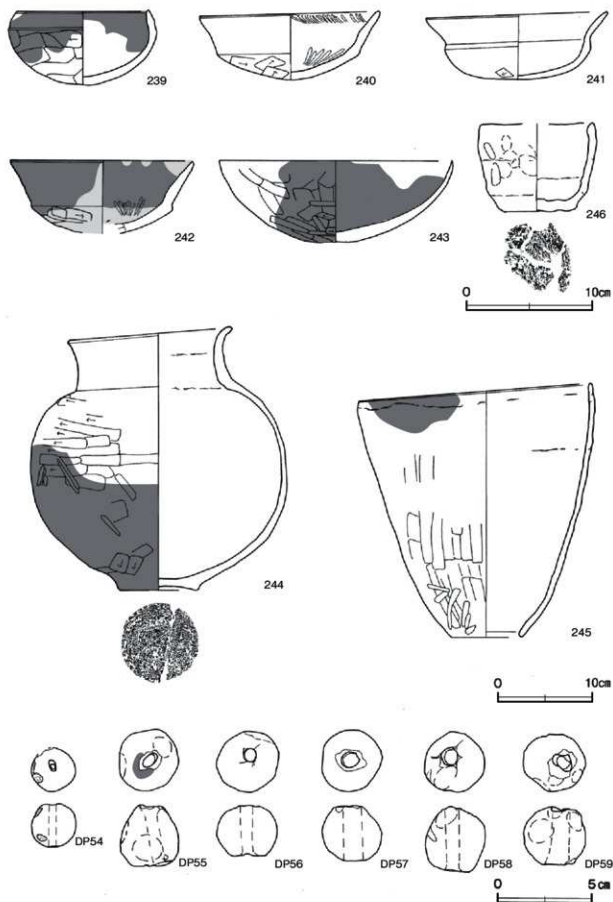
第156図 第25号竪穴建物跡実測図(2)

**遺物出土状況** 土師器片266点(坏75, 甕188, 瓶2, 手捏土器1), 土製品25点(土玉21, 管状土錘1, 支脚3), 粘土塊1点のほか, 縄文土器片17点(深鉢), 陶器片1点(不明), 磁器片1点(不明)が, 竈火床部や東コーナー部の覆土中から出土している。240・241は南部, 242は右袖付近, DP59は左袖付近の床面からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものである。243は貯蔵穴中層から下層, 244は貯蔵穴上層から中層, 245は床面と貯蔵穴下層から出土した破片が接合したものである。243～245は遺棄されたものが, 埋め戻す際に貯蔵穴へ流れ込んだと考えられる。DP55～DP58・DP60～DP67は竈の火床部からまともに出て出土していることから, 廃絶時に一括して遺棄されたものである。

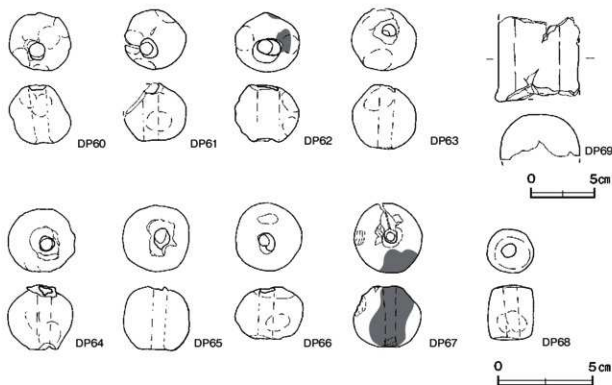
**所見** 時期は, 出土土器から6世紀前葉と考えられる。

第25号竪穴建物跡出土遺物観察表(第157・158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
239	土師器	坏	10.4	5.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のへら削り 内面ナデ	竈覆土下層	90% 覆付着 PL.30
240	土師器	坏	14.2	5.4	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 内面放射状のへら磨き 体 部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	床面	100% PL.30
241	土師器	坏	14.5	5.4	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 内面磨耗 体部外・内面磨 耗 底部へら削り	床面	100% PL.30
242	土師器	坏	14.4	(5.7)	-	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内 面へら磨き	床面	90% 覆付着
243	土師器	坏	18.4	6.4	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内 面磨耗	貯蔵穴中層 へ下層	60% 覆付着
244	土師器	甕	16.8	27.8	8.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上部横位のへら 削り 下部斜位のへら削り 内面ナデ	貯蔵穴上層 へ中層	60% 覆付着
245	土師器	瓶	24.8	26.9	7.0	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のへら削り 基下層斜位のへら削り 内面横ナデ	床面・ 貯蔵穴下層	80% 覆付着 PL.32
246	土師器	手捏土器	[8.8]	7.0	[6.0]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ及び指頭圧痕 内面ナデ 輪轆痕	床面	50% PL.30



第 157 图 第 25 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 158 図 第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP54	土玉	2.3	2.2	0.6	(11.72)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	一部欠損	覆土中	
DP55	土玉	3.3	3.3	0.9	31.2	長石・石英	橙	ヘラ削り 指頭圧痕 一方向からの穿孔	燧火床面	保付着
DP56	土玉	3.2	2.6	0.7	25.65	長石・石英・雲母	橙	表面摩耗 指頭圧痕 一方向からの穿孔	燧火床面	
DP57	土玉	3.2	2.9	0.9	(27.93)	長石・石英・雲母	にぶい褐色	ナデ調整 一方向からの穿孔	燧火床面	
DP58	土玉	3.2	3.4	0.7	30.15	長石・石英・雲母	橙	ヘラ削り 指頭圧痕 一方向からの穿孔	燧火床面	
DP59	土玉	3.3	3.1	0.2	(27.81)	長石・石英	にぶい褐色	指頭圧痕 一方向からの穿孔	床面	
DP60	土玉	3.3	3.2	1.0	26.54	長石・石英・赤色粒子	橙	指頭圧痕 一方向からの穿孔	燧火床面	
DP61	土玉	3.3	3.0	1.0	25.31	長石・石英	橙	焼成による割痕	燧火床面	
DP62	土玉	3.4	3.0	1.3	27.14	長石・石英	橙	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	燧火床面	保付着
DP63	土玉	3.4	3.3	0.8	33.43	長石・石英・雲母	橙	指頭圧痕 一方向からの穿孔	燧火床面	
DP64	土玉	3.5	3.4	0.8	33.59	長石・石英	橙	指頭圧痕 一方向からの穿孔	燧火床面	
DP65	土玉	3.5	3.4	0.8	41.03	長石・石英・赤色粒子	橙	指頭圧痕 一方向からの穿孔	燧火床面	
DP66	土玉	3.6	2.8	0.9	(33.61)	長石・石英・赤色粒子	橙	指頭圧痕 一方向からの穿孔	燧火床面	
DP67	土玉	3.7	3.2	0.8	(38.54)	長石・石英・雲母	明褐色	一部欠損 ナデ調整 一方向からの穿孔	燧火床面	保付着
DP68	甕状土器	2.5	2.9	0.7	18.17	長石・石英・雲母	赤褐色	指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中層	

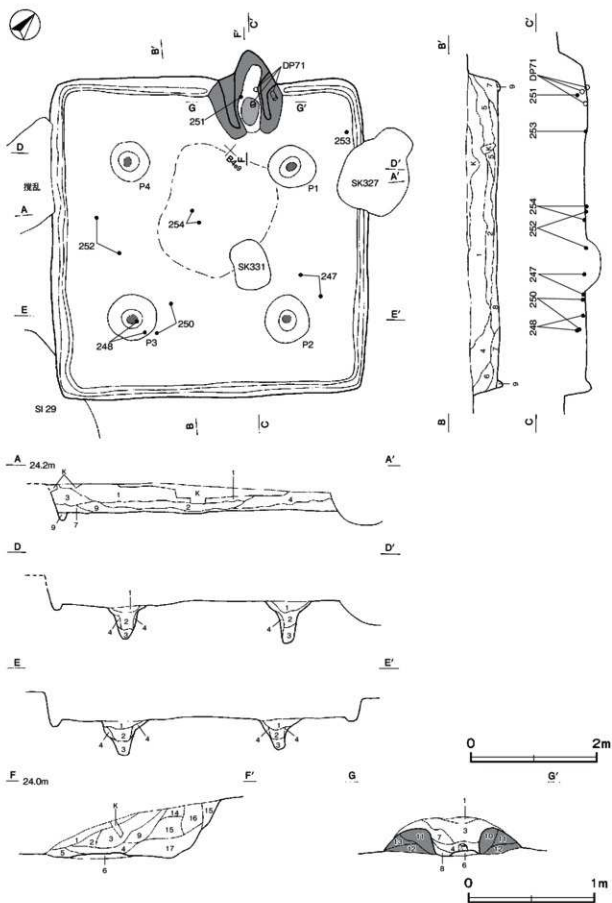
  

番号	器種	最大径	最小径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP69	支脚	(6.8)	(6.4)	(6.7)	(16.30)	長石・石英・雲母	明褐色	ヘラ削り	燧火床面	

## 第 26 号竪穴建物跡 (第 159 ~ 162 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区の B 4 e9 区、標高 24m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 159 图 第 26 号整穴建物迹实测图

**重複関係** 第29号竪穴建物跡を掘り込み、第327・331号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.05m、短軸5.00mの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁は高さ30～50cmで、外傾している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅15～24cm、深さ6～10cmの壁溝が全周している。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、第10～13層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用し、火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ、火床部から外傾している。第2・3層は粘土粒子を多く含むことから、竈天井部の崩落土と考えられる。火床部に褐色土の第6層を貼り付け、その上部に支脚(DP71)が据え付けられている。

#### 竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子微量	10 オリーブ褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量
2 オリーブ褐色	粘土粒多量、焼土粒子微量	11 オリーブ褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック微量
3 オリーブ褐色	粘土粒子多量	12 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック微量
4 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	13 褐色	ローム粒子多量、粘土粒子中量
5 暗褐色	ロームブロック中量	14 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量
6 褐色	焼土ブロック中量	15 暗褐色	ローム粒子少量
7 オリーブ褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	16 暗褐色	ロームブロック少量
8 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	17 暗褐色	ローム粒子中量
9 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量		

**ビット** 4か所。P1～P4は深さ47～66cmで、規模と配置から主柱穴である。第1～4層は全て柱抜き取り後の覆土である。全てのビットから柱のあたりを確認した。

#### ビット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	3 褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ローム粒子中量	4 褐色	ロームブロック多量

**覆土** 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 褐色	ローム粒子多量
3 暗褐色	ロームブロック少量	8 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック多量		

**遺物出土状況** 土師器片495点(坏31, 鉢1, 甕459, 瓶4), 須恵器片1点(甕), 土製品5点(土玉1, 支脚4), 剥片1点が、南コーナー部の覆土中層から床面にかけて出土している。247・252～254は床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものである。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



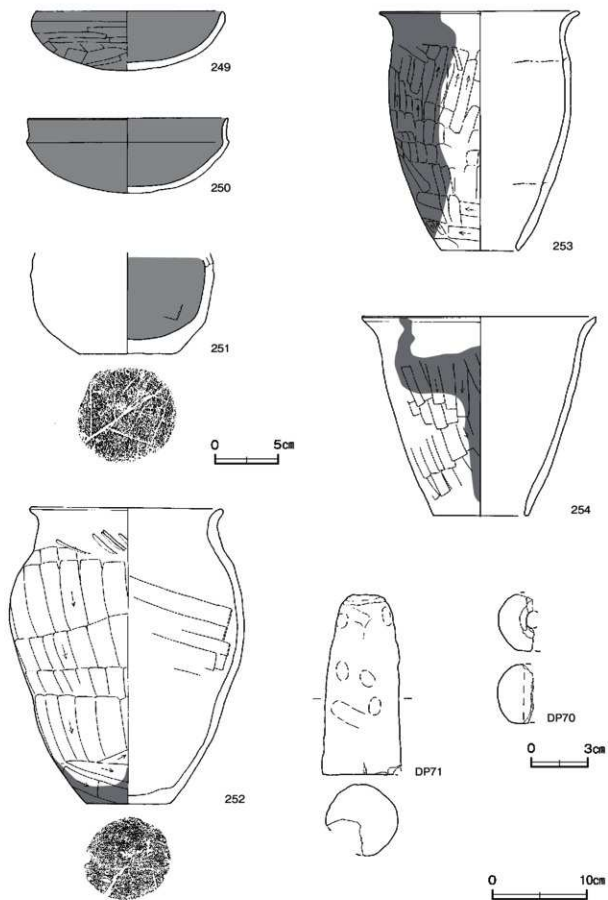
247



248



第160図 第26号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 161 图 第 26 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)

## 第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 160・161 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考		
247	土師器	坏	148	4.5	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面横位のへう割り	床面	80%	
248	土師器	坏	149	3.7	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面へう割り	覆土中層～下層	80%	
249	土師器	坏	147	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面へう割り	内面磨耗	覆土中	70% PL30	
250	土師器	坏	158	5.9	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面磨耗	覆土中層～下層	60%	
251	土師器	鉢	-	(8.0)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面磨耗	内面へう割り	底部本葉痕	覆土中層	60%
252	土師器	甕	202	31.4	8.9	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 下層横位のへう割り	体部外面横位のへう割り 内面へう割り	床面	70% 煤付着 PL31	
253	土師器	瓶	208	25.3	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のへう割り 内面横ナデ	床面	90% 煤付着 PL32	
254	土師器	瓶	247	21.0	[101]	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のへう割り 内面磨耗	床面	70% 煤付着 PL32	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP70	土玉	(3.0)	3.0	(0.8)	(15.70)	長石・石英	橙	指頭圧痕	へう割り	一部欠損	覆土中

番号	器種	最大径	最小径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP71	支脚	(8.4)	4.6	18.9	(965.00)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	指頭圧痕		火床部基部

## 第 28 号竪穴建物跡 (第 162 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区の B 4h9 区、標高 23m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.12m、短軸 5.11m の方形で、主軸方向は N-47°-W である。壁は高さ 8～55cm で、外傾している。

床 平坦である。壁下には幅 19～24cm、深さ 8～14cm の壁溝がほぼ全周している。

竪 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 76cm で、燃焼部幅は 26cm である。竪は床面から深さ 8～15cm の皿状に掘り込み、第 19～21 層を埋土して整地し、袖部は第 14～18 層を積み上げて構築されている。火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 10cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。

## 甕土層解説

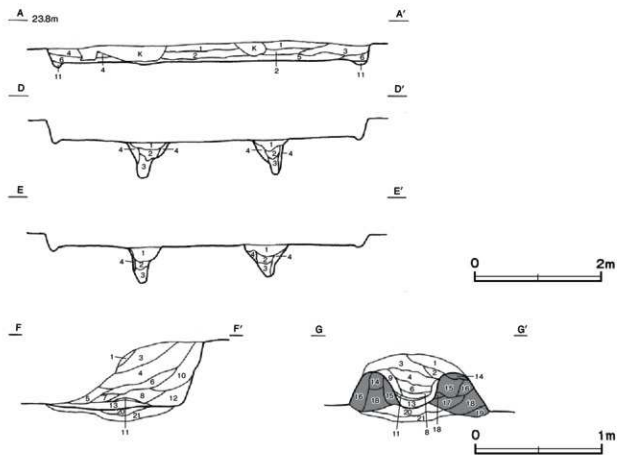
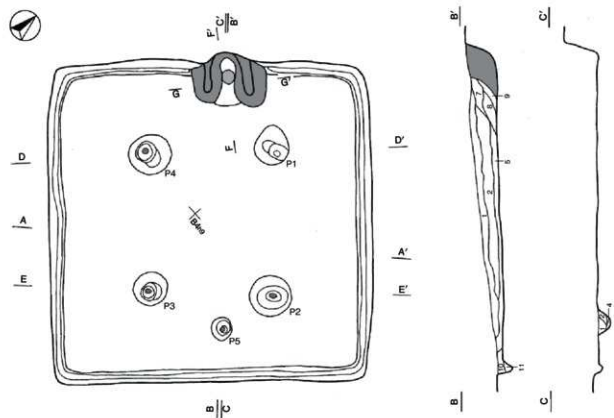
1 黒褐色	ロームブロック微量	12 褐色	粘土粒子多量
2 暗褐色	ロームブロック少量	13 にぶい赤褐色	焼土粒子少量
3 暗褐色	粘土粒子中量	14 にぶい褐色	粘土粒子中量
4 暗褐色	粘土粒子多量	15 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
5 暗褐色	粘土粒子少量	16 黒褐色	炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	17 にぶい赤褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック微量
7 暗褐色	粘土ブロック中量	18 にぶい褐色	粘土粒子多量、焼土粒子中量
8 褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	19 明褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
9 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	20 暗赤褐色	焼土ブロック中量
10 褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量	21 褐色	ロームブロック少量
11 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量		

ピット 5 か所。P 1～P 4 は深さ 51～59cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 21cm で、南東壁側の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第 1～3 層は柱抜き取り後の覆土、第 4 層は掘方への埋土である。P 2～P 5 の底面に柱のあたりを確認した。

## ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	3 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック微量	4 褐色	ロームブロック中量





第 162 图 第 28 号竖穴建物迹实测图

覆土 11層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
3 暗褐色	ロームアロックス少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子微量
4 褐色	ローム粒子多量	10 暗褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ローム粒子多量	11 暗褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ロームアロックス中量		

遺物出土状況 土師器片 140点（坏15、高坏1、甕124）、粘土塊1点のほか、縄文土器片8点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から6世紀代と考えられる。

表4 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長さ×幅(m)	高さ(cm)			柱穴	土間	ピット	竈	礎石					
2	A 6 b6	N-14°-E	隅丸型	3.30×1.22	10~32	ほぼ平坦	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器	4世紀後半	SI 1→本跡
5	B 6 b6	N-11°-W	方形	5.52×5.23	20~36	平坦	全面	4	1	4	北壁	-	人為	土師器 土製品	6世紀後半	SK59→S14 →本跡	
7	B 6 7	N-13°-E	隅丸方形	5.12×5.08	30~42	ほぼ平坦	全面	4	1	-	1	1	人為	土師器 石器 土製品	4世紀後半	SK282→本跡	
11	B 6 6	N-95°-W	長方形	3.30×2.85	15~22	平坦	-	-	-	-	西壁	-	人為	土師器	6世紀代		
13	B 6 6	N-50°-E	長方形	7.45×4.60	32~43	平坦	一部	1	-	-	-	-	人為	土師器 土製品	6世紀後半		
18	A 5 b6	N-35°-W	隅丸方形	5.30×5.12	40~48	ほぼ平坦	全面	4	2	2	1	1	人為	土師器 土製品	4世紀後半		
21	B 5 3	N-7°-W	方形	5.62×5.45	30~73	平坦	全面	4	1	-	北壁	-	人為	土師器 土製品 須恵器	6世紀後半	本跡→SK322~324→SD 7	
23	B 5 42	N-33°-W	方形	7.26×7.12	5~15	平坦	全面	4	-	-	北西壁	1	人為	土師器 須恵器	6世紀代	本跡→SD 4	
24	B 5 1	N-55°-W	-	3.80×3.75	18~43	平坦	一部	4	-	-	北西壁	-	人為	土師器	6世紀後半	6世紀前半~7世紀後半	
25	B 4 a9	N-61°-W	方形	6.05×5.75	30~59	平坦	全面	4	1	-	西壁	1	人為自然	土師器 土製品	6世紀後半		
26	B 4 e9	N-45°-W	方形	6.05×5.00	30~50	平坦	全面	4	-	-	北西壁	-	人為	土師器 土製品 須恵器	6世紀後半	SD9→本跡 →SK327・331	
28	B 4 b9	N-47°-W	方形	5.12×5.11	8~55	平坦	全面	4	1	-	北壁	-	自然	土師器	6世紀代		

## (2) 掘立柱建物跡

## 第1A号掘立柱建物跡（第164図）

位置 2区東部のB 6 a1区、標高24 mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第1B号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 桁行、梁行とも1間の掘立柱建物で、桁行方向がN-29°-Wの東西棟である。規模は桁行2.46 m、梁行2.52 mで、面積は6.20 m<sup>2</sup>である。

柱穴 4か所。平面形は円形または楕円形で、長径38~58 cm、短径26~44 cmである。深さは32~44 cmである。P1~P4の底面では、柱の当たりが確認できた。覆土の状況は、ロームブロックなどを含む層で埋め戻された後、第1B号掘立柱建物に掘り込まれている。

## P1土層解説 (SB 1 A・SB 1 B共通)

1 暗褐色	ロームアロックス中量、炭化粒子微量
2 明褐色	ロームアロックス多量
3 褐灰色	ロームアロックス少量、炭化粒子微量
4 灰黄褐色	ロームアロックス少量
5 黒褐色	ロームアロックス中量、炭化粒子微量
6 褐色	ロームアロックス少量

## P2土層解説 (SB 1 A・SB 1 B共通)

1 黒褐色	ロームブロック中量
2 褐灰色	ロームブロック少量
3 灰黄褐色	ロームブロック多量
4 褐色	ロームブロック中量

**P3土層解説 (SB1A・SB1B共通)**

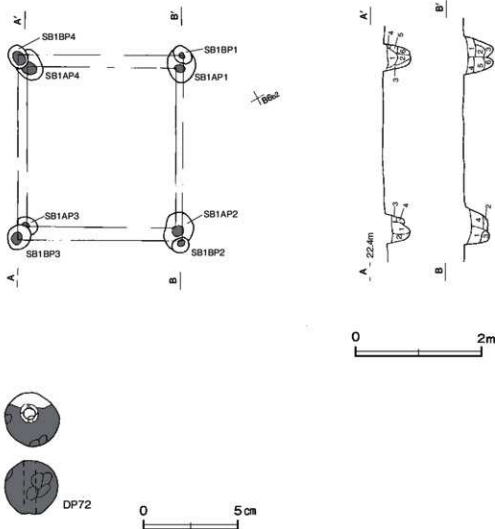
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 にんじ黄褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量

**P4土層解説 (SB1A・SB1B共通)**

- 1 黒色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐灰色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
- 5 黄褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片2点(莖)が、P2の覆土中から出土している。そのほか、縄文土器1点(深鉢)が、P1の覆土中から出土している。

**所見** 本跡は柱穴の規模が小さく、簡易な構造であることから、倉庫としての機能が想定される。柱穴は埋め戻された後、第1B号掘立柱建物に掘り込まれ、桁行方向を変えずに建替えられている。本跡の廃絶と第1B号掘立柱建物への建替えは短期間に行われたと思われる。このことから、本跡の時期は第1B号掘立柱建物跡と同時期の4世紀代と考えられる。



第163図 第1A・B号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

## 第1B号掘立柱建物跡（第163図）

**位置** 2区東部のB6al区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第1A号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 桁行、梁行とも1間の圓柱建物で、桁行方向がN-29°-Wの東西棟である。規模は桁行26.2m、梁行2.88mで、面積は7.55㎡である。

**柱穴** 4か所。平面形は円形または楕円形で、長径34～42cm、短径26～32cmである。深さは34～50cmである。P1～P4の底面では、柱の当たりが確認できた。P1～P4は柱抜き取り痕が確認でき、ロームブロックなどを含む層で埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片3点（甕）、土製品1点（土玉）が、P1・P3・P4の覆土中から出土している。そのほか、縄文土器片3点（深鉢）がP3の覆土中から出土している。

**所見** 本跡は柱穴の規模が小さく、簡易な構造であることから、倉庫としての機能が想定される。第1A号掘立柱建物跡を掘り込み、桁行方向を変えずに建替えている。本跡の時期は、出土土器から4世紀代と考えられる。

## 第1B号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第163図）

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DPT2	土玉	2.8	2.8	0.7	21.48	長石・石英	にぶい褐	表面ナデ調整 一方向からの穿孔	P3覆土中	保付着

## 第2号掘立柱建物跡（第165図）

**位置** 2区東部のB6al区、標高24mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第15号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 桁行、梁行とも1間の圓柱建物で、桁行方向がN-28°-Wの東西棟である。規模は桁行4.12m、梁行3.26mで、面積は13.43㎡である。

**柱穴** 4か所。平面形は隅丸方形または楕円形で、長径48～56cm、短径38～46cmである。深さは8～60cmで、P4は浅い。P1～P3の底面では柱の当たりが確認できた。P3では柱の据え替えられた痕跡が確認でき、P2・P3は埋め戻されている。

## P2土層解説

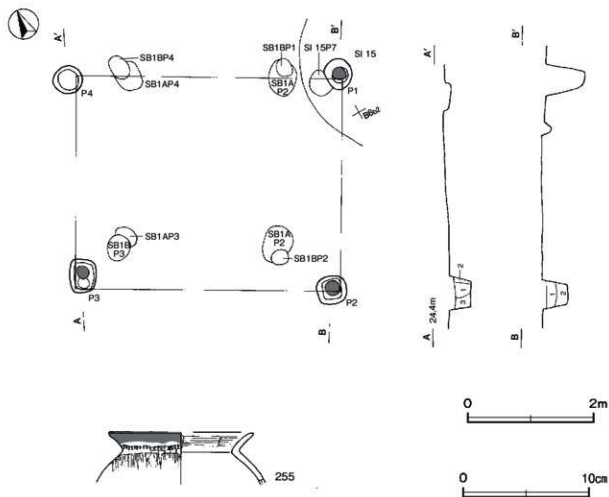
- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

## P3土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片1点（小形甕）が、P3の覆土中から出土している。そのほか、縄文土器1点（深鉢）がP2の覆土中から出土している。

**所見** 本跡は柱穴の規模が小さく、簡易な構造であることから、倉庫としての機能が想定される。第1A・1B号掘立柱建物跡と同一場所にあり、桁行方向もほぼ同じであることから、第1A・1B号掘立柱建物と相前後して建てられたと思われる。時期は、出土土器から4世紀代と考えられる。



第164図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
255	土師器	甕	[11.4]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部外面ハケ目後子午内面ハケ目 体部外面ハケ目	P 3 甕土中	10% 煤付着

表5 古墳時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	方位方向	柱間数		面積	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考	
			初×末間	桁×梁(m)		(m)	間隔(m)	梁間(m)	構造	柱形状				平面形
1A	B 6al	N-29°-E	1 × 1	2.46 × 2.52	6.19	2.46	2.52	欄柱	4	円形・楕円形	32 ~ 44	土師器	4世紀代	本跡→SB1B
1B	B 6al	N-29°-E	1 × 1	2.62 × 2.88	7.55	2.62	2.88	欄柱	4	円形・楕円形	34 ~ 50	土師器 土製品	4世紀代	SB1A →本跡
2	B 6al	N-28°-E	1 × 1	4.12 × 3.26	13.43	4.12	3.26	欄柱	4	扇形・楕円形	8 ~ 60	土師器	4世紀代	SI 5 →本跡

### (3) 竪穴遺構

#### 第2号竪穴遺構 (第165・166図)

位置 1区西部のB 3c6区、標高19mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 南コーナー部を掘乱されているが、南西・北東軸4.38m、南東・北西径4.26mで、不整形と推定される。長軸方向はN-53°-Eである。壁は高さ3~14cmで、外傾している。

**底面** やや凹凸があり、踏み固められていない。南側へ傾斜している。

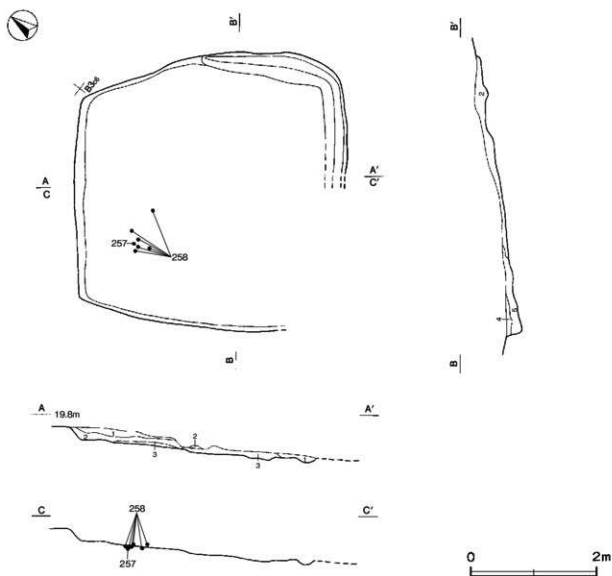
**覆土** 5層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックなどを含む層が不規則な堆積をしており、埋め戻されている。

**土層解説**

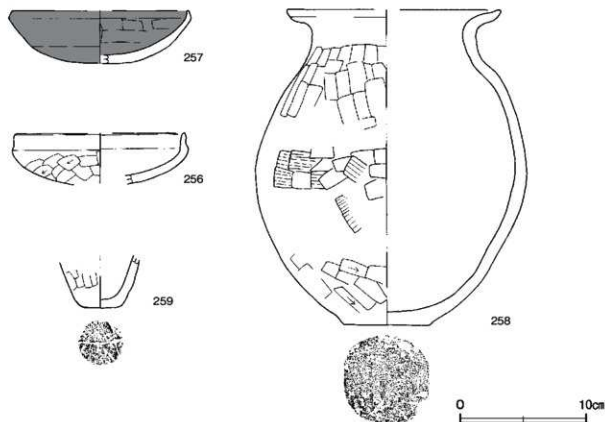
- |         |                         |         |                |
|---------|-------------------------|---------|----------------|
| 1 褐 色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量   | 4 褐 色   | ロームブロック中量      |
| 2 暗 褐 色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 黒 褐 色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 3 赤 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量   |         |                |

**遺物出土状況** 土師器片 113 点 (坏 2, 甕 1, 手捏土器 1, 椀類 15, 甕類 94) が、底面を中心に出土している。そのほか、縄文土器片 138 点 (深鉢), 剥片 3 点が覆土中から出土している。257・258 は破片で底面から出土していることから、埋め戻す前に投棄されたものとみられる。

**所見** 本跡は、底面が踏み固められてはならず、しかも傾斜している。また、竈、柱穴もないことから、堅穴建物としては使用されなかったと思われる、性格は不明である。時期は、出土土器から 6 世紀後葉と考えられる。



第 165 図 第 2 号堅穴遺構実測図



第166図 第2号堅穴遺構出土遺物実測図

第2号堅穴遺構出土遺物観察表 (第166図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
256	土師器	坏	[13.4]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	に灰・赤黒	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面へう積り内面ナデ	覆土中	20%
257	土師器	坏	[14.0]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	に灰・黄緑	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面へう積り内面ナデ 底面を処理	床面	20% 腐付着
258	土師器	甕	[17.0]	25.0	6.6	長石・石英・雲母・繊維	に灰・赤黒	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面上半へう積り内面ナデ 半へう積り内面ナデ	床面	70%
259	土師器	手捏土器	-	(4.1)	3.4	雲母	に灰・黄緑	普通	体部外面指頭押圧。ナデ 体部内面ナデ	覆土中	50%

#### (4) 土坑

今回の調査で、古墳時代の土坑10基を確認した。覆土の堆積状況や遺物の出土状況などが特徴的な8基については、実測図と出土遺物観察表を示し、文章で説明する。出土遺物の遺存状況などの制約から時期判断が困難な2基については、出土遺物、形状、重複関係、覆土の様相などの総合的な所見から当該時代に帰属するものと判断し、規模、形状などについて一覧表で掲載する。

#### 第6号土坑 (第167図)

**位置** 3区北東部のA 6 8区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 長径0.62m、短径0.52mの不整楕円形で、長径方向はN-46°-Eである。底面は平坦である。深さは56cmで、壁はほぼ直立している。

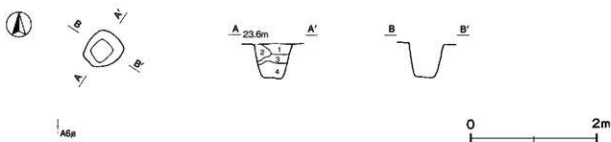
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量  | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |

**遺物出土状況** 土師器片 24 点（高坏 2、甕類 22）が、覆土中から出土している。そのほか、縄文土器片 5 点（深鉢）、弥生土器 4 点（広口壺）が覆土中から出土している。土師器片は、いずれも破片で出土していることから、埋土と共に投棄されたものと思われる。

**所見** 形状から柱穴の可能性はある。時期は、出土土器から 4 世紀代と考えられる。



第 167 図 第 6 号土坑実測図

## 第 306 号土坑（第 168 図）

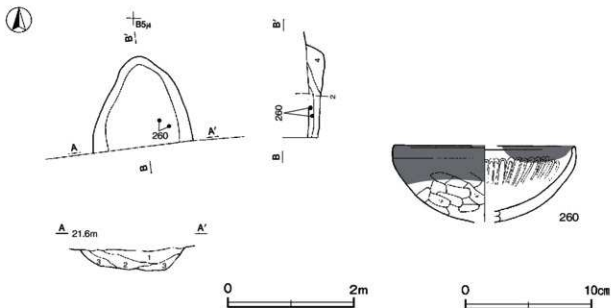
**位置** 1 区南東部の B 5j4 区、標高 21 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 南部が調査区域外へ延びているため、東西径 1.58 m、南北径 1.42 m しか確認できなかった。底面はほぼ平坦である。深さは 32cm で、壁は外傾している。

**覆土** 4 層に分層できる。暗褐色土などがレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

## 土層解説

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量  | 3 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭灰粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量  |



第 168 図 第 306 号土坑・出土遺物実測図



**遺物出土状況** 土師器片7点(坏1, 碗類2, 甕類4)が, 覆土中から出土している。そのほか, 縄文土器片11点(深鉢)が覆土中から出土している。260は覆土上層から破片で出土し, ある程度埋まってから投棄されたものと思われる。

**所見** 性格は不明である。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。

#### 第306号土坑出土遺物観察表(第168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
260	土師器	坏	14.3	6.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 裾状の巻き	覆土上層	40% 保存者

#### 第307号土坑(第169図)

**位置** 1区南東部のB5h3区, 標高22mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第308・318号土坑を掘り込んでいる。

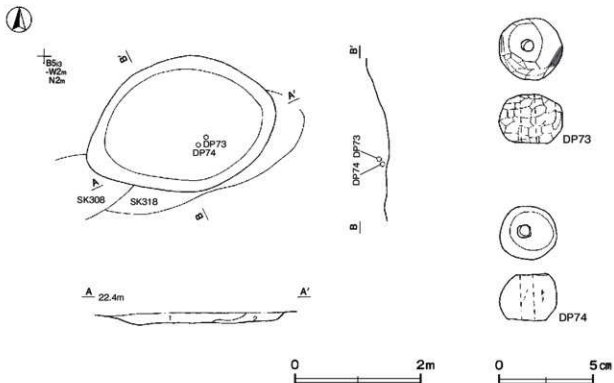
**規模と形状** 長径3.12m, 短径2.16mの楕円形で, 長径方向はN-72°-Eある。底面はほぼ平坦である。深さは16cmで, 壁は外傾している。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を含む層が堆積していることから, 埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量      2 黄褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片96点(碗類4, 甕類92), 土製品2(土玉)が, 覆土中から出土している。DP73・DP74は覆土上層から出土し, 埋土と共に投棄されたものと思われる。



第169図 第307号土坑・出土遺物実測図

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

#### 第307号土坑出土遺物観察表(第169図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP73	土玉	3.3	2.6	07-08	29.28	長石・石英	明赤褐色	表面へうによる面取り 一方からの穿孔	覆土上層	採付者
DP74	土玉	3.1	2.5	0.7	21.66	長石・石英	橙	表面ナメ調整 一方からの穿孔	覆土上層	

#### 第323号土坑(第170図)

位置 1区南東部のB5g4区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第21号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.50mの円形である。底面は平坦である。深さは36cmで、壁はほぼ直立している。

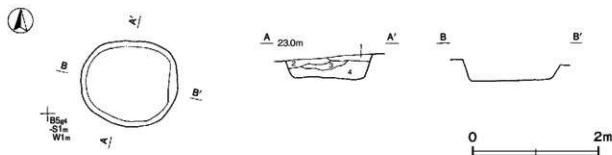
覆土 4層に分層できる。ロームブロックなど含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

- |       |           |       |                |
|-------|-----------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色  | ロームブロック少量      |

遺物出土状況 土師器片36点(甕類)が、覆土中から出土している。すべて破片で、埋土と共に投棄されたものと思われる。

所見 形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第170図 第323号土坑実測図

#### 第324号土坑(第171図)

位置 1区南東部のB5g4区、標高23mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第21号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.44m、短径0.95mの楕円形で、長径方向はN-74°-Wである。底面はほぼ平坦である。

深さは42cmで、壁はほぼ直立している。

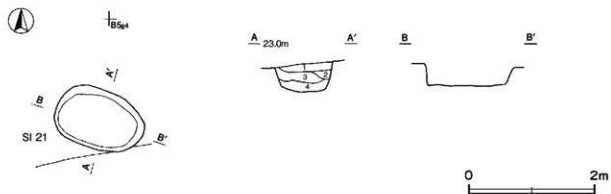
覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量      | 3 褐色  | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片9点(甕類)が、覆土中から出土している。いずれも破片で出土していることから、埋土と共に投棄されたと思われる。

所見 形状や埋め戻されていることから、墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第 171 図 第 324 号土坑実測図

### 第 325 号土坑 (第 172 図)

**位置** 1区中央部のB 4 b0区、標高 24 mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 長径 3.60 m、短径 1.92 mの楕円形で、長径方向は  $N - 62^\circ - E$  である。深さは 32cmで、壁は外傾している。底面はほぼ平坦で、焼土塊が確認できた。底面が焼けていないことから、埋土とともに投棄されたものと思われる。

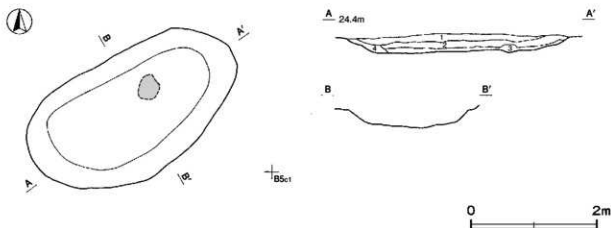
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が堆積していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック中量  |

**遺物出土状況** 土師器片 21 点 (碗類 5、甕類 16)、土製品 1 (支脚) が、覆土中から出土している。すべて破片で、投棄されたものとみられる。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から 6 世紀後葉と考えられる。



第 172 図 第 325 号土坑実測図

### 第 326 号土坑 (第 173・174 図)

**位置** 1区中央部のB 4 d5区、標高 24 mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 長軸 2.66 m、短軸 2.54 m の隅丸方形で、長軸方向は  $N-41^{\circ}-E$  である。底面は平坦である。深さは 40cm で、壁は外傾している。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

**土層解説**

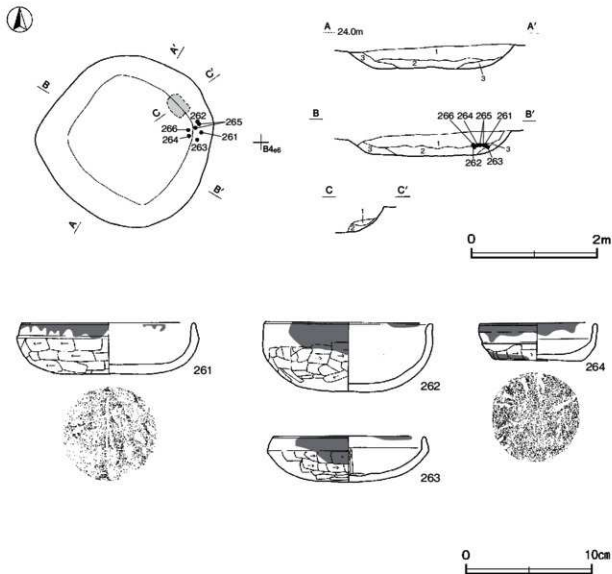
- |       |           |      |           |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |      |           |

**焼土塊土層解説**

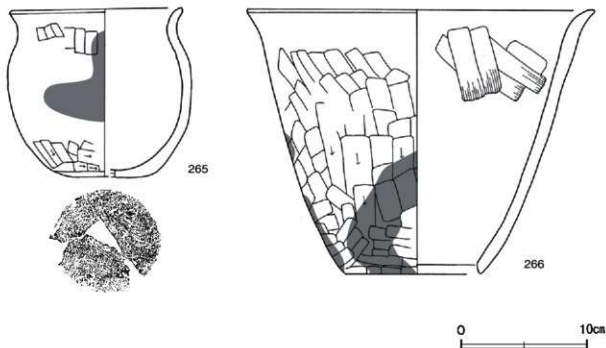
- |        |                    |      |           |
|--------|--------------------|------|-----------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量 | 2 褐色 | ロームブロック中量 |
|--------|--------------------|------|-----------|

**遺物出土状況** 土師器片 39 点（坏 3、小形甕 1、瓶 1、椀類 1、甕類 33）が、覆土中から出土している。第 2 層の上面から焼土塊が検出されている。262～266 は 2 層の上面からまともな形で出土し、第 2 層が堆積してから投棄されたと思われる。これらは煤が付着しており、同一面から出土した焼土塊と何らかの関連があるものとみられる。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から 6 世紀後葉と考えられる。



第 173 図 第 326 号土坑・出土遺物実測図



第 174 図 第 326 号土坑出土遺物実測図

第 326 号土坑出土遺物観察表 (第 173・174 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
261	土師器	坏	13.6	4.1	7.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にひ・黄緑	普通	口縁部外・内面ナテ	体部外面へう張り	内面ナテ	覆土中層 PL30	96% 覆付着
262	土師器	坏	13.2	5.4	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面ナテ	体部外面へう張り	内面ナテ	覆土中層 PL30	96% 覆付着
263	土師器	坏	12.0	3.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナテ	体部外面へう張り	内面着き	覆土中層 PL30	96% 覆付着
264	土師器	坏	9.2	3.0	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にひ・黄緑	良好	口縁部外・内面ナテ	体部外面へう張り	内面ナテ	覆土中層 PL30	96% 覆付着
265	土師器	小形壺	13.3	13.5	[84]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナテ	体部外面へう張り	内面ナテ	覆土中層 PL31	70% 覆付着
266	土師器	瓶	27.5	21.0	10.8	長石・石英・小炭	にひ・黄緑	普通	口縁部外・内面ナテ	体部外面へう張り	内面ハケ目	覆土中層 PL32	96% 覆付着

### 第 340 号土坑 (第 175 図)

位置 1区中央部のB 4c9区、標高 24 mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径 1.44 mほどの円形で、底面は平坦である。深さは 68cmで、壁は直立している。

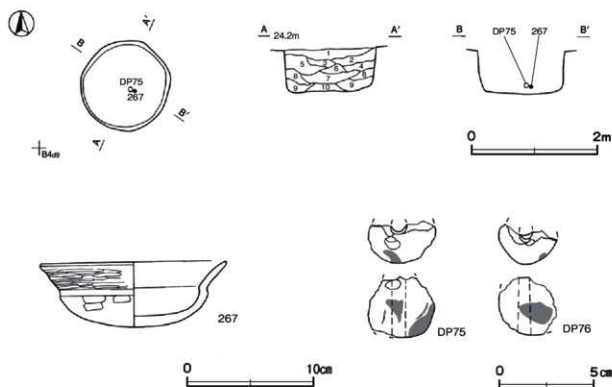
覆土 10層に分層できる。ロームブロックなどを含む暗褐色土などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	6 黒褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ローム粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック多量	10 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 1点 (坏)、土製品 2点 (土玉) が、それぞれ覆土下層から出土し、ある程度埋まってから、埋土と共に投棄されたと思われる。そのほか、縄文土器片 5点 (深鉢) が覆土中から出土している。

所見 位置や形状から、貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から 6世紀前葉と考えられる。



第175図 第340号土坑・出土物実測図

第340号土坑出土物観察表（第175図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
267	土師器	坏	146	5.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面磨き 内面流紋調整	内面ナデ 外面へラナデ	覆土下層	90%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP75	土玉	3.5	3.2	(0.8)	(17.75)	長石・石英	におい橙	表面ナデ調整 一方からの穿孔	一部欠損	覆土下層	採付者
DP76	土玉	(3.1)	(3.0)	(0.7)	(11.83)	長石・石英	橙	表面ナデ調整 一方からの穿孔	一部欠損	覆土中	採付者

表6 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
6	A 6 18	N-46°-E	不整楕円形	0.62 × 0.52	56	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	
306	B 5 j 4	-	-	(1.58) × (1.42)	32	ほぼ平坦	外傾	自然	土師器	
307	B 5 h 3	N-72°-W	楕円形	3.12 × 2.16	16	ほぼ平坦	外傾	人為	土師器 土製品	SK306・318→本跡
318	B 5 h 2	N-65°-E	楕円形	3.08 × 1.74	60	ほぼ平坦	外傾	人為	土師器	本跡→SK307
323	B 5 g 4	-	円形	径1.50	36	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SE21→本跡
324	B 5 g 1	N-74°-W	楕円形	1.44 × 0.95	42	ほぼ平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SE21→本跡
325	B 4 h 0	N-62°-E	楕円形	3.60 × 1.92	32	ほぼ平坦	外傾	人為	土師器	
326	B 4 d 5	N-41°-E	楕円形	2.66 × 2.54	40	平坦	外傾	自然	土師器	
329	B 3 b 1	N-84°-W	[楕円形]	2.04 × [0.88]	10	平坦	外傾	自然	土師器	
340	B 4 c 9	-	円形	径1.44	68	平坦	直立	人為	土師器 土製品	

### 3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟、土器集中地点1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

#### (1) 竪穴建物跡

##### 第9号竪穴建物跡（第176・177図）

**位置** 3区東部のB7b5区、標高21mほどの支谷奥部の斜面部に位置している。

**重複関係** 第1号遺物包含層を掘り込み、第1号土器集中地点が埋まった後に構築されている。

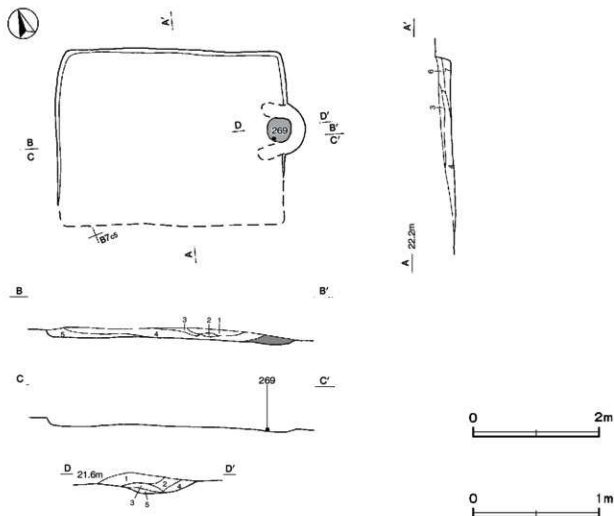
**規模と形状** 長軸3.60m、短軸2.78mの長方形で、主軸方向はN-113°-Eである。壁は高さ4～26cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、あまり踏み固められていない。

**竈** 東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで68cm、燃烧部幅は42cmである。軸部は地山の黒褐色土を基部としている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を掘りくぼめて使用し、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cmほど掘り込まれ、火床部から外傾している。

#### 竈土層解説

- |                              |                                   |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 rome粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 4 黒褐色 粘土ブロック・rome粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 橙褐色 焼土ブロック中量、rome粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック少量、rome粒子微量          |
| 3 暗赤褐色 炭化物少量、rome粒子微量        |                                   |



第176図 第9号竪穴建物跡実測図

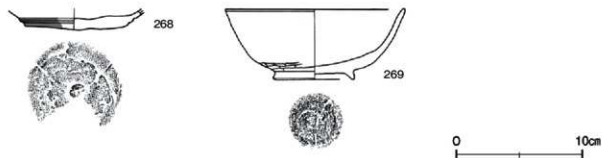
**覆土** 7層に分層できる。ローム粒子・粘土粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                       |         |                       |
|-------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 5 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 6 黒褐色   | ローム粒子微量               |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量             | 7 極暗褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子微量        |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量        |         |                       |

**遺物出土状況** 土師器片30点（坏1、高台付碗1、椀類24、甕類4）が、床面を中心に出土している。そのほか、縄文土器片655点（深鉢）、剥片1点が出土している。269は竈近くの床面から出土している。

**所見** 本跡は、第1号遺物包含層北部の堆積土中に構築されている。このことから、周辺に包含されていたと思われる縄文土器片が多量に混入したり、流れ込んだりしている。時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第177図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
268	土師器	坏	-	(1.7)	7.6	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	20% 煤付着
369	土師器	高台付碗	[140]	5.6	6.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ロタロナデ回転ヘラ切り 体部下端ヘラ削り	底部 竈前面 床面	40%

**第10号竪穴建物跡（第178・179図）**

**位置** 3区東部のB7g3区、標高23mほどの支谷西部の斜面部に位置している。

**重複関係** 第1号遺物包含層を掘り込み、第2号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 東半部は削平されているため、南北軸3.82mで、東西軸は2.66mだけしか確認できなかった。方形あるいは長方形と推定され、主軸方向はN-6°-Eである。遺存している壁は高さ2~18cmで、外傾している。

**床** ほぼ平坦で、竈前面部と中央部が踏み固められている。北東方向へわずかに傾斜している。遺存している壁下には壁溝が巡っている。

**竈** 北壁に付設されている。焚口部から煙道部まで84cm、燃焼部幅は42cmである。袖部は地山の黒褐色土を掘り残して基部としている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を掘りくぼめて使用し、火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ18cmほど掘り込まれ、火床部から外傾している。



遺土層解説

- 1 褐色 romeブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

覆土 3層に分層できる。西側からの流入がみられることから自然堆積である。

土層解説

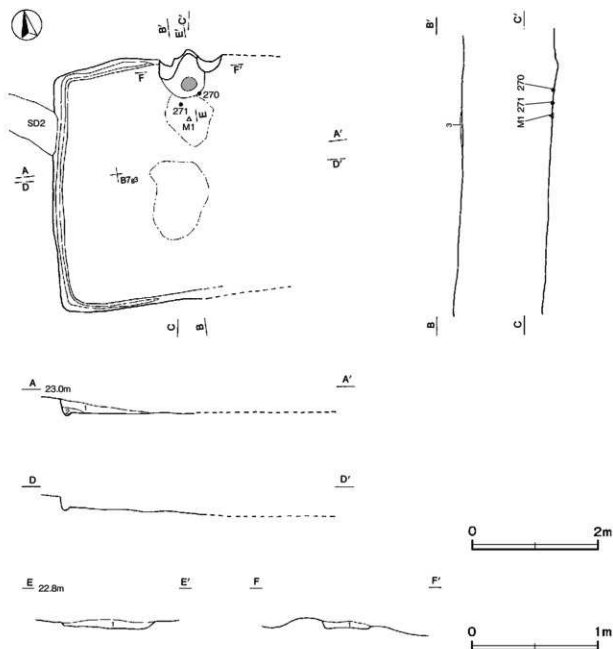
- 1 褐色 romeブロック少量

- 3 極暗褐色 romeブロック少量、焼土ブロック微量

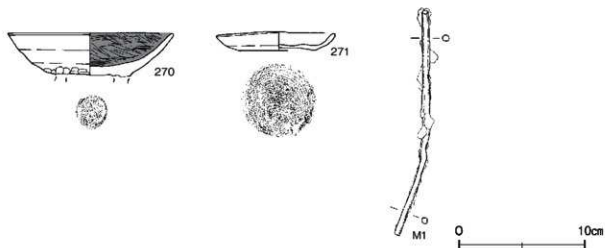
- 2 暗褐色 romeブロック微量

遺物出土状況 土師器片9点(高台付碗1, 小皿1, 碗類3, 甕類4), 鉄製品1点(棒状製品)が, 床面を中心に出土している。そのほか, 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。270・271・M1は竈近くの床面から出土し, 遺棄されたかあるいは投棄されたものと思われる。

所見 本跡は, 第1号遺物包含層西部の堆積土上に構築された竪穴建物跡である。時期は, 出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第178図 第10号竪穴建物跡実測図



第179図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図

第10号竪穴建物跡出土遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
270	土師器	高台付椀	13.0	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部ロクロナデ 高台欠損	竪断面 床面	60% PL33
271	土師器	小皿	9.1	1.5	5.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	竪断面 床面	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	棒状製品 (178)	04-05	04-05	(15.76)		鉄	断面四角 屈曲 紡錘車の軸。	竪断面 床面	

表7 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸×短軸(m)	壁高 (cm)			柱穴	出入口	ピット	伊・重					石蔵穴
9	B 7b5	N-113°-E	長方形	3.60×2.78	4~26	平削	-	-	-	-	1	-	人為	土師器 銅片	10世紀 後葉	第1号土器集中地点→本跡
10	B 7a3	N-6°-E	[方形]	3.82×(2.66)	2~18	ほぼ 平削	-	-	-	-	1	-	自然	土師器 鉄製品	10世紀 後葉	本跡→SD2

## (2) 土器集中地点

## 第1号土器集中地点（第180図）

**位置** 3区東部のB 7b5区、標高21mほどの支谷の斜面部に位置している。

**重複関係** 第1号遺物包含層を掘り込み、本跡が埋まった後、第9号竪穴建物が建てられている。

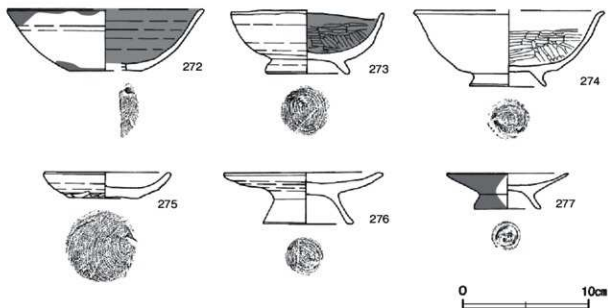
**規模と形状** 第9号竪穴建物跡下の第1号遺物包含層の堆積土である黒色土・極暗褐色土を掘り込んでいるため、規模・形状ともに把握できなかった。

**層序** 地山の上に第1号遺物包含層の第15層（黒色土）、第14層（極暗褐色土）、第13層（黒褐色土）、第9層（黒色土、縄文時代中期の旧表土）が堆積している。第1号遺物包含層の確認面から地山までの厚さは75cmほどである。

**遺物出土状況** 土師器片13点（高台付椀3、小皿1、高台付皿2、椀類3、甕類4）が、第1号遺物包含層の地山上の第15層と第14層から、高低差30cmの間に、まとまりをもって出土している。そのほか、縄文土

器片4点(深鉢)も出土している。

所見 本跡は、第1号遺物包含層北部の堆積土を掘り込んだ遺構の可能性がある。遺構廃絶時に、黒色土で埋められ、土器が投棄されたと思われる。埋め戻した後、第9号堅穴建物が建てられている。本跡の廃絶と第9号堅穴建物が建てられた時間差はさほどないものと考えられる。時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第180図 第1号土器集中地点出土遺物実測図

第1号土器集中地点出土遺物観察表(第180図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
272	土師器	碗	[156]	5.9	[56]	長石・石英・燧石	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	堆積土中	40% 煤付着
273	土師器	高台付碗	[120]	5.0	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面磨き 底部回転糸切り	堆積土中	70% PL33
274	土師器	高台付碗	[150]	6.0	6.0	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	体部外面ロクロナデ 内面磨き 底部回転糸切り	堆積土中	40%
275	土師器	小皿	10.0	2.0	5.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	堆積土中	100% PL33
276	土師器	高台付皿	12.6	4.1	7.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	堆積土中	95% PL33
277	土師器	高台付皿	9.6	2.8	5.2	長石・石英	にぶい黒	普通	体部外・内面ロクロナデ	堆積土中	80% 煤付着

#### 4 鎌倉・室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、整地遺構1か所、方形堅穴遺構1基、土坑16基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### (1) 整地遺構

##### 第1号整地遺構(第181～190図)

位置 1区南部のB4h5区、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第350号土坑を掘り込み、第345号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 石塔部材などがまとまりをもって存在しているロームブロック・山砂などを含む締まりのある暗褐色土の範囲を確認した。北部を攪乱されているため、確認できた範囲は、北東・南西軸6.48m、北西・南東軸6.80mで、平面形は方形と推定される。長軸方向はN-61°-Wである。

**整地の状況** 確認面はほぼ平坦で、確認面から18～36cmほど地山を掘り込み、ロームブロック・黒色土ブロック・山砂を混入させた暗褐色土などを埋土して構築している。埋土は突き固められ、締まりがある。本跡の周辺には、ロームブロック・黒色土ブロック・山砂を含む層が流出しており、当初は高まりをもっていった可能性がある。

**土層解説**

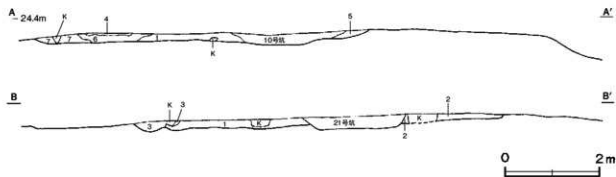
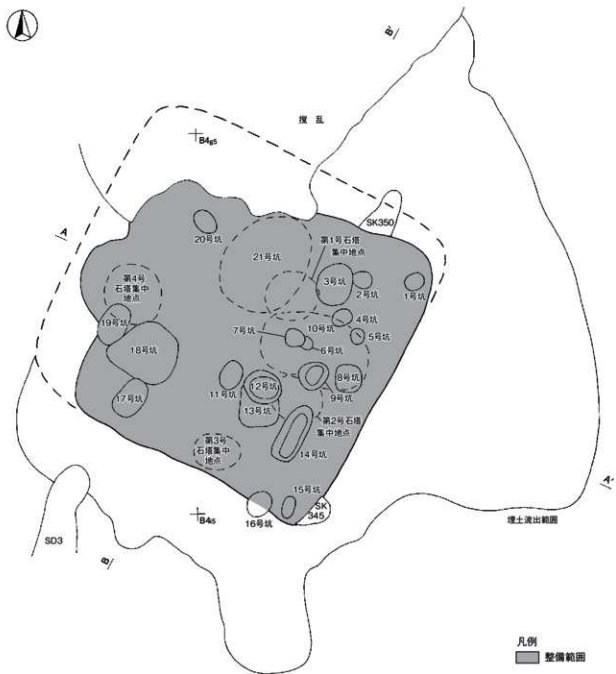
1	暗褐色	ロームブロック・黒色土ブロック中量、山砂少量 (締まりあり)	4	暗褐色	ローム粒子中量、黒色土ブロック少量(締まりあり)
2	暗褐色	ロームブロック中量、黒色土ブロック・山砂少量 (やや締まりあり)	5	暗褐色	ロームブロック中量、山砂微量
3	褐色	ローム粒子多量、黒色土ブロック・山砂少量(締まりあり)	6	褐色	ローム粒子多量、黒色土ブロック・山砂微量
			7	暗褐色	ロームブロック中量、黒色土ブロック少量、山砂微量

**遺構内土坑** 整地土を掘り込んでいる土坑21基を確認した。これらはほぼ全面に分布し、東部と南部に多い。形状は方形のもの5基、長方形のもの3基、円形のもの3基、楕円形のもの10基である。規模は長径が60cm以下のもの10基、60cm以上のもの11基である。確認面からの深さは14～30cmである。13・17・19号坑では、下層にロームブロックや山砂などを混入させた褐色土などを敷いてから石塔部材を横位に置き、同じ土を石塔部材の周囲に充填しているのが観察された。石塔部材や石塔片が出土している土坑は21基のうち18基である。当初は、すべての土坑に石塔部材や石塔片が納められていたと思われる。石塔部材や石塔片が複数出土した土坑は、10・13・14・17～19・21号坑の7基で、長径が60cm以上の規模の大きい土坑である。そのうち、石塔部材や石塔片が4点以上出土している土坑は、10号坑から5点、18号坑から4点、21号坑から9点である。1点だけ出土しているのは、2～8、11・12・15・16号坑の11基である。

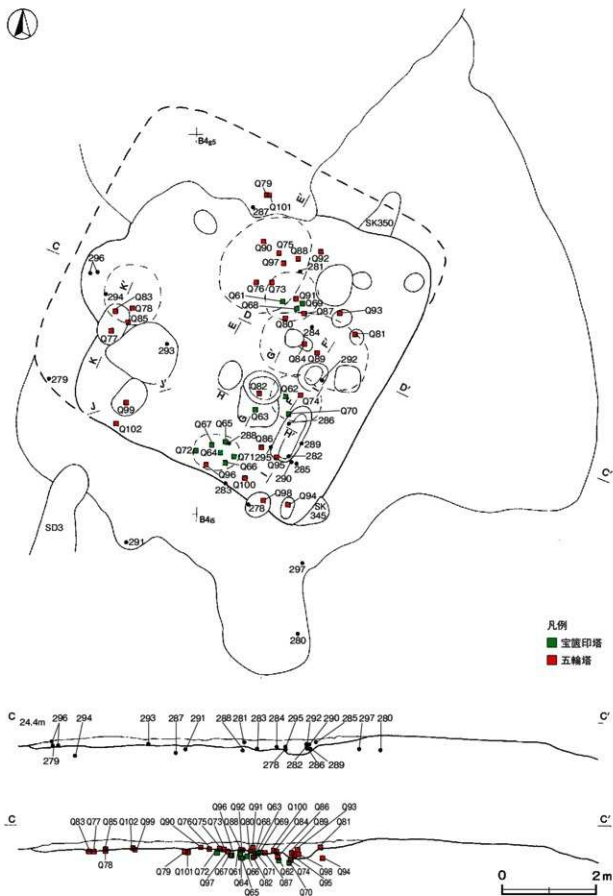
**土層解説(各土坑共通)**

1	暗褐色	ロームブロック・黒色土ブロック中量、山砂少量	5	暗褐色	ローム粒子中量、山砂微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、黒色土ブロック・山砂少量	6	褐色	ロームブロック中量、山砂少量
3	暗褐色	ローム粒子中量、山砂少量、黒色土微量	7	褐色	ロームブロック中量、山砂微量
4	褐色	ローム粒子多量、山砂少量	8	黄褐色	ロームブロック中量、山砂微量

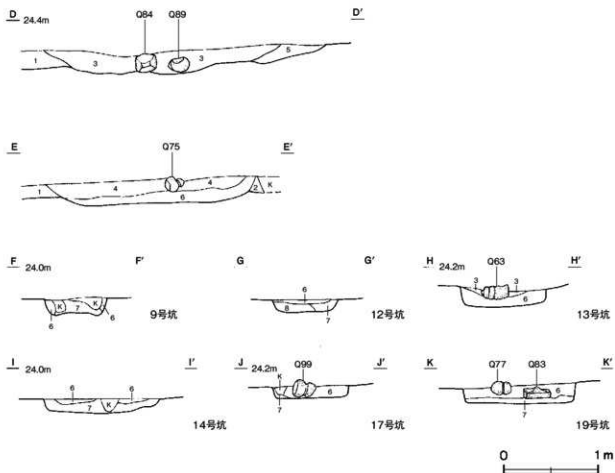
**遺物出土状況** 土師質土器片56点(小皿20, 小皿類36)、陶器片1点(碗)、石製品124点(宝篋印塔部材13, 五輪塔部材29, 石塔片82)、礫・川原石等43点が出土している。そのほか、縄文土器片151点(深鉢)、土師器片39点(椀類1, 甕類38)が出土している。石製品は、すべて石塔部材及び石塔片である。石塔集中出土地点は6か所確認され、その内2か所(10・21号坑)が遺構内土坑である。石塔集中出土地点の位置は東部2か所、南東部1か所、南部1か所、西部1か所、北東部1か所で、土坑同様、東部と南部に多い。石塔部材の多くは、石塔集中出土地点からの出土である。石塔部材の出土状況から石塔集中出土地点も、10・21号坑のように整地地面を掘り込み、石塔部材を納めたものと考えられる。第1号石塔集中出土地点は、中央部からやや東寄りに位置している。確認面からの深さは22cmで、Q61(相輪)・Q68・Q69(塔身)の宝篋印塔部材の中にQ91(水輪)の五輪塔部材が混在している。10号坑は、中央部からやや東寄りに位置している。確認面からの深さ25cmで、Q80(空輪)・Q84(火輪)・Q87・Q89(水輪)と五輪塔部材が出土している。第2号石塔集中出土地点は、中央部から南東寄りに位置している。確認面からの深さは38cmで、Q62(相輪)・Q70(基礎)の宝篋印塔部材とQ74(空風輪)の五輪塔部材が混在している。第3号石塔集中出土地点は、南部に位置している。確認面からの深さは35cmで、Q64(相輪)・Q65・Q66(笠)・Q67(塔身)・Q71・



第 181 图 第 1 号整地遺構実測图 (1)



第182図 第1号整地遺構実測図(2)

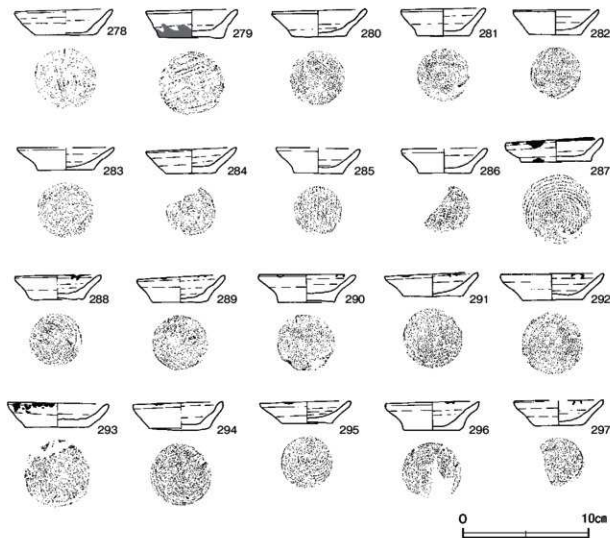


第183図 第1号整地遺構実測図(3)

Q 72 (基礎) の宝篋印塔部材の中に1点だけQ 96 (地輪) の五輪塔部材が混在している。第4号石塔集中出土地点は、西部に位置している。確認面からの深さは22cmで、Q 78 (空風輪)・Q 85 (火輪) の五輪塔部材が出土している。21号坑は、中央部からやや北東寄りに位置している。確認面からの深さは30cmで、Q 73・Q 75・Q 76 (空風輪)・Q 88・Q 90・Q 92 (水輪)、Q 97 (地輪) の五輪塔部材が出土している。そのほか、土坑からは、19号坑からQ 77 (空風輪)・Q 83 (火輪)、4号坑からQ 93 (水輪)、5号坑からQ 81 (空輪)、12号坑からQ 82 (空輪)、13号坑からQ 63 (相輪)、14号坑からQ 95 (地輪)、15号坑からQ 94 (地輪)、16号坑からQ 98 (地輪)、17号坑からQ 99 (地輪) がそれぞれ出土している。土師質土器小皿は全体から出土しており、石塔部材や石塔片と混在して出土しているものと掘方底面から出土しているものが多い。遺構内土坑や石塔集中出土地点から出土しているものは、292が9号坑から、284が10号坑から、282・286が14号坑から、278が16号坑から、293が18号坑から、281が21号坑から、283が第3号石塔集中出土地点から、294が第4号石塔集中出土地点からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡は、第4号溝に沿って削り出しにより形成されている平坦部の西部に位置する。平坦部と第4号溝の確認面との比高は、1mほどである。この平坦部を深さ30cm、一辺7.0mほどの方形に掘り込み、ロームブロックや山砂を混入させた暗褐色土などを突き固めて整地している。当初は、低い基壇状を呈していた可能性がある。本跡からは、石塔集中出土地点も含めると25基の土坑が確認された。大規模な土坑は、径1m以上の規模があり、3～10点ほどの石塔部材がまとまりをもって出土している。規模の小さい土坑にも石塔部材

が納められた後、山砂などを混入させた褐色土などが充填されている。土坑や石塔集中出土地点から出土した石塔部材は、同種類のものが多く、遺跡周辺の石塔部材を場所ごとにまとめて埋納したものと思われる。掘方底面と土坑内から出土した土師質土器は、形態差がなく、ほぼ同時期のものと思われることから、整地地の造成と土坑への石塔の埋納に、時間差は、さほどなかったと考えられる。時期は、出土した土師質土器から16世紀後葉から17世紀前葉と考えられる。

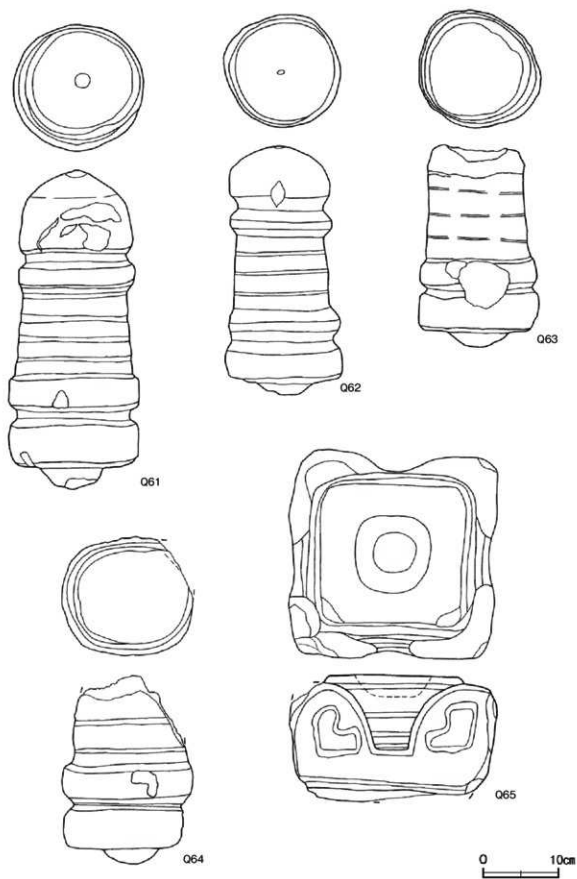


第184図 第1号整地遺構出土遺物実測図(1)

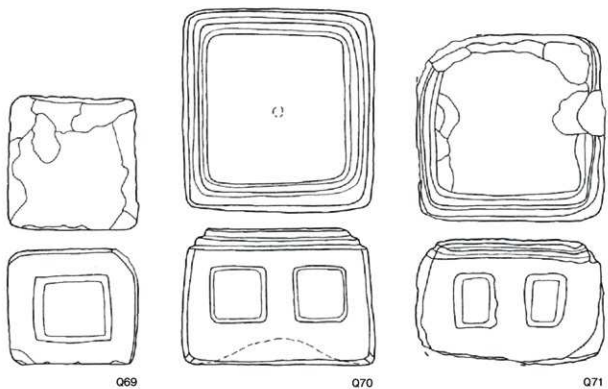
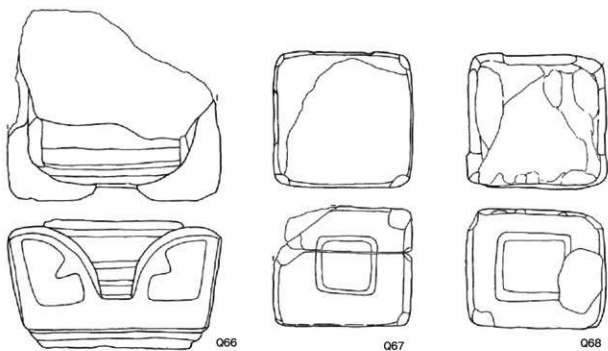
第1号整地遺構出土遺物観察表(第184～190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
278	土師質土器	小皿	7.8	2.1	4.9	長石・石英・黒色塵点	明赤褐色	普通	ロクロナデ 体上げナデ 底部回転糸切り 板目肌 内底面	P 16 埋土中層	95% PL33
279	土師質土器	小皿	7.2	2.3	5.2	雲母・黒色塵点	にぶい黄褐色	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 板目肌 体底面 内面 (うずまき状)	埋土中層	95% PL33 保存着
280	土師質土器	小皿	7.4	2.2	4.4	長石・石英・雲母	にぶい橙褐色	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底面 体上げナデ	内面	70%
281	土師質土器	小皿	6.5	2.2	4.2	長石・石英・雲母	橙褐色	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底面 内面 (うずまき状)	P 21 埋土上層	80% PL33
282	土師質土器	小皿	6.7	2.0	4.0	長石・石英・雲母	橙褐色	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底面 体上げナデ	P 14 底面	80% 油磨付着
283	土師質土器	小皿	(7.6)	1.8	4.4	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底面 内面ロクロナデ (うずまき状)	第3号集中基壇 埋土下層	60%
284	土師質土器	小皿	7.2	2.1	3.9	長石・石英・雲母	橙褐色	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底面 体上げナデ	P 10 埋土中層	60%

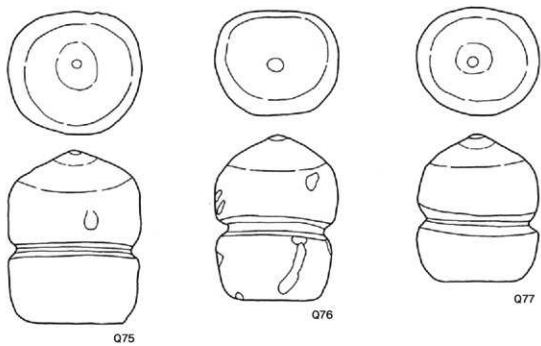
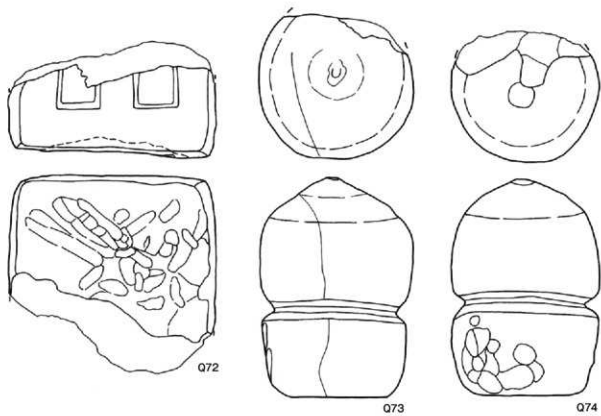




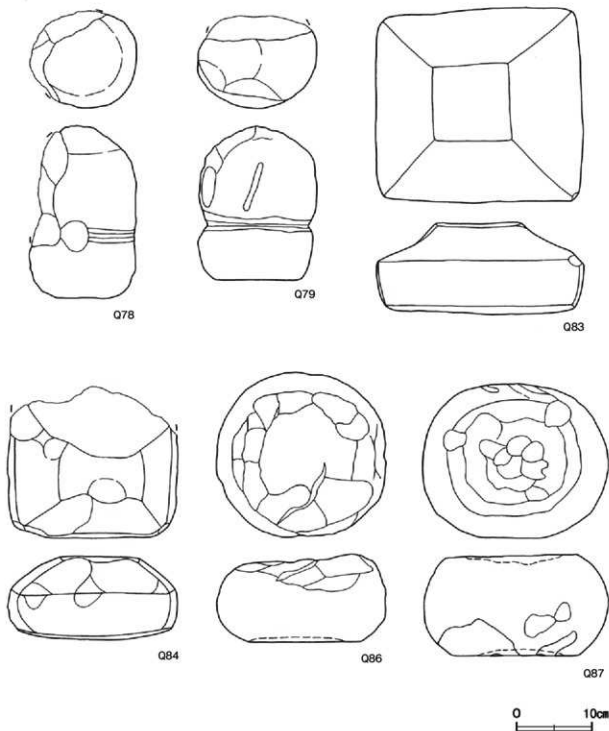
第 185 图 第 1 号整地遺構出土遺物実測図(2)



第186図 第1号整地遺構出土遺物実測図(3)

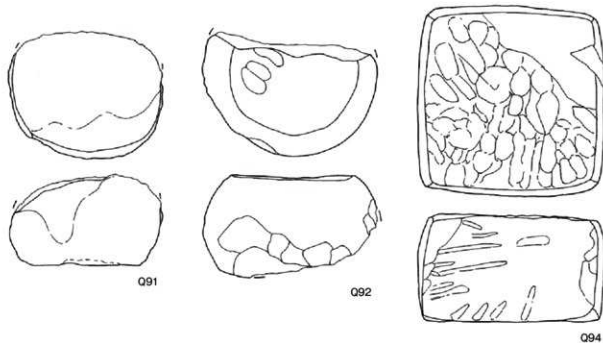
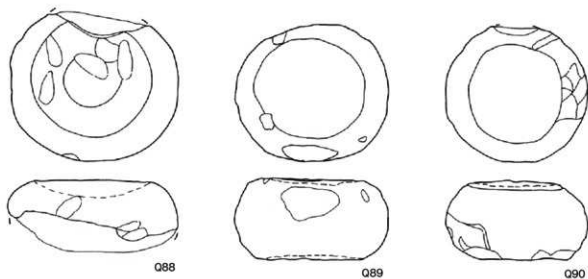


第187图 第1号整地遺構出土遺物実測図(4)



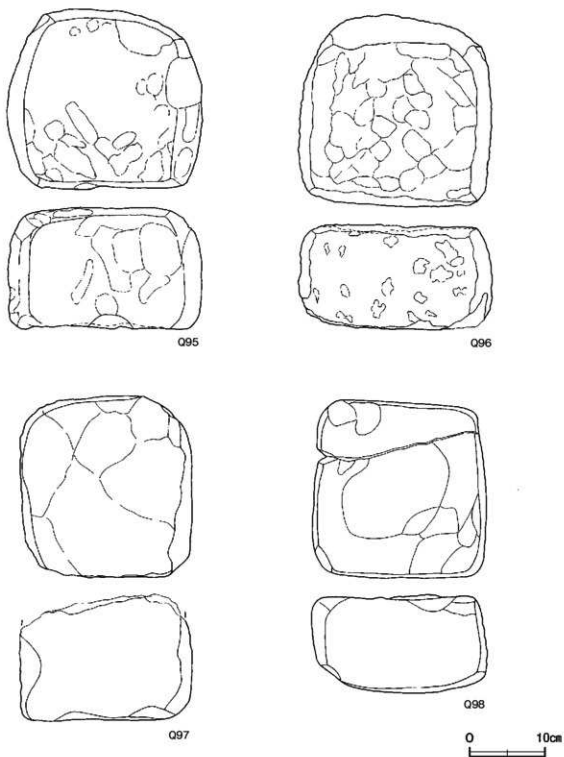
第188図 第1号整地遺構出土遺物実測図(5)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
285	土師質土器	小皿	[6.6]	2.1	3.9	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 板目織 内底面仕上げナデ	埋土上層	50%
286	土師質土器	小皿	[6.8]	2.0	4.0	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ	底面	40%
287	土師質土器	小皿	7.5	1.9	5.6	長石・石英・雲母・黒色塵点	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 体底部内面ロクロ目(うずまき状)	底面	95% PL33 油層付着
288	土師質土器	小皿	6.8	2.0	4.3	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底部内面ロクロ目(うずまき状)	第3号集中地点	95% PL33 油層付着
289	土師質土器	小皿	6.9	2.2	4.4	長石・石英・雲母・黒色塵点	にぶい・褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底部内面ロクロ目(うずまき状)	底面	100% PL33 油層付着



第 189 図 第 1 号整地遺構出土遺物実測図(6)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
290	土師質土器	小皿	7.4	2.2	4.6	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	ロケロナデ 底部回転糸切り 内底面仕上げナ	底面	96% P1, S3 油煙付着
291	土師質土器	小皿	7.3	1.9	4.8	長石・石英・雲母	橙	普通	ロケロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナ	底面	90% P1, S3 油煙付着
292	土師質土器	小皿	8.2	2.1	4.8	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	ロケロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底部内面ロケロ目(うずまき状)	P 9埋土上層	90% P1, S3 油煙付着
293	土師質土器	小皿	8.0	2.0	5.0	石英・雲母	にぶい褐色	普通	ロケロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底部内面ロケロ目(同心円状)	P 18確認面	90% P1, S3 油煙付着
294	土師質土器	小皿	7.0	2.3	4.8	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	ロケロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底部内面ロケロ目(同心円状)	第4集土層底	90% P1, S3 油煙付着
295	土師質土器	小皿	7.0	1.8	4.0	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	ロケロナデ 回転糸切り後ヘラナデ 体底部内面ロケロ目(うずまき状)	埋土中層	90% P1, S3 油煙付着



第190図 第1号整地遺構出土遺物実測図(7)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
296	土師質土器	小皿	7.4	2.3	4.7	長石・雲母	橙	普通	ロクロナデ 回転糸切り後ヘラナデ 体底部内面ロクロ目 (うずまき状)	確認面	60% 油滲付着
297	土師質土器	小皿	[7.0]	2.0	3.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底部ロクロ目 (うずまき状)	底面	60% 油滲付着

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 61	宝塚印塔(石造)	420	173	170	16,300	花崗岩	宝塚部と九輪部のくびれ部はやや深い帯状 底面に押し込み突起	第1号発中地点 底面	PL34
Q 62	宝塚印塔(石造)	330	157	150	10,300	花崗岩	宝塚部と九輪部のくびれ部は浅い「く」の字状 底面に押し込み突起	第2号発中地点 底面	PL34
Q 63	宝塚印塔(石造)	26(6)	163	157	(8,900)	花崗岩	九輪部の溝不明瞭 底面に押し込み突起 宝塚部欠損	P 13 底面	
Q 64	宝塚印塔(石造)	(209)	196	159	(8,100)	花崗岩	九輪部の溝不明瞭 底面に押し込み突起 上半部欠損	第3号発中地点 底面	
Q 65	宝塚印塔(石造)	276	276	167	19,000	花崗岩	隅飾り突起、先端部が丸みをもち外縁 上面に皿状のくぼみ	第3号発中地点 底面	PL34
Q 66	宝塚印塔(石造)	(250)	283	173	(14,000)	花崗岩	隅飾り突起、先端部が丸みをもち外縁 上面3/4欠損	第3号発中地点 底面	PL34
Q 67	宝塚印塔(石造)	186	186	156	(9,600)	花崗岩	四方中央部に窓 角ノミ状欠損	第3号発中地点 底面	PL35
Q 68	宝塚印塔(石造)	180	190	160	(10,000)	花崗岩	四方中央部に窓 上面ノミ状工具による加工痕	第1号発中地点 底面	PL35
Q 69	宝塚印塔(石造)	176	173	153	9,400	花崗岩	四方中央部に窓 角ノミ状工具による面取り	第1号発中地点 埋土下層	PL35
Q 70	宝塚印塔(石造)	266	256	183	26,200	花崗岩	四方に2か所の窓 上面階段状ではほぼ平坦 底面大きいくぼみ	第2号発中地点 底面	PL34
Q 71	宝塚印塔(石造)	246	246	167	(17,100)	花崗岩	四方に2か所の窓 上面階段状ではほぼ平坦 上面・底面一部欠損	第3号発中地点 埋土上層	PL34
Q 72	宝塚印塔(石造)	263	275	(154)	(13,200)	花崗岩	四方に2か所の窓 上面ノミ状工具による加工痕、大きいくぼみ 上半部欠損	第3号発中地点 底面	
Q 73	五輪塔(空襲)	290	203	(193)	(17,100)	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部はやや深い「く」の字状 一部欠損	P 21 埋土下層	PL35
Q 74	五輪塔(空襲)	286	196	173	(14,000)	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部はやや深い「く」の字状 風輪部に加工痕 一部欠損	第2号発中地点 底面	
Q 75	五輪塔(空襲)	226	176	163	11,000	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部は浅い帯状	P 21 埋土中層	PL35
Q 76	五輪塔(空襲)	220	163	140	(7,800)	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部はやや深いU字状 一部欠損	P 21 埋土下層	PL35
Q 77	五輪塔(空襲)	143	163	196	6,400	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部は浅い「く」の字状	P 19 底面	PL35
Q 78	五輪塔(空襲)	226	(143)	(129)	(5,100)	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部は浅い溝状 一部欠損全体摩耗	第4号発中地点 底面	
Q 79	五輪塔(空襲)	223	160	(123)	(5,400)	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部は浅い「く」の字状 一部欠損	北底面	
Q 80	五輪塔(空襲)	(96)	(141)	193	(3,700)	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部は浅い溝状 1/2欠損	P 10 底面	計測のみ
Q 81	五輪塔(空襲)	(125)	(142)	(176)	(4,100)	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部は浅い溝状 風輪部欠損	P 5 埋土中層	計測のみ
Q 82	五輪塔(空襲)	(71)	(120)	(115)	(1,400)	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ部不明瞭 全体摩耗 風輪部欠損	P 12 底面	計測のみ
Q 83	五輪塔(火焼)	260	280	123	13,300	花崗岩	軒先水平で明瞭 屋根内反 四隅丸み 上面はほぼ平坦	P 19 底面	PL36
Q 84	五輪塔(火焼)	(199)	226	113	(6,800)	花崗岩	軒先水平 屋根外縁 隅丸み 溝2か所欠損	P 10 埋土下層	
Q 85	五輪塔(火焼)	(152)	(125)	92	(2,900)	花崗岩	軒先不明瞭 2/3欠損 全体摩耗	第4号発中地点 埋土下層	計測のみ
Q 86	五輪塔(水焼)	220	230	117	(7,800)	花崗岩	上面に浅く大きなくぼみ 加工痕 底部に浅く大きなくぼみ 側面の丸み明瞭 一部欠損	南東部底面	PL36
Q 87	五輪塔(水焼)	206	246	133	(10,500)	花崗岩	上面に大きなくぼみ 加工痕 底部に大きなくぼみ 側面の丸み明瞭 一部欠損	P 10 埋土下層	PL36
Q 88	五輪塔(水焼)	199	226	96	(5,400)	花崗岩	上面に大きなくぼみ 加工痕 底部に大きなくぼみ 側面の丸み明瞭 一部欠損	P 21 底面	
Q 89	五輪塔(水焼)	180	203	107	(5,900)	花崗岩	上面に大きなくぼみ 側面の丸み明瞭 底面に大きなくぼみ 一部欠損	P 10 底面	PL36
Q 90	五輪塔(水焼)	180	190	107	(5,200)	花崗岩	上面はほぼ平坦 側面の丸み明瞭 底面はほぼ平坦 一部欠損	P 21 埋土中層	PL36
Q 91	五輪塔(水焼)	(167)	203	(120)	(5,000)	花崗岩	上面わずかにくぼみ 側面の丸み明瞭 底面大きなくぼみ 上面3/4欠損	第1号発中地点 埋土上層	
Q 92	五輪塔(水焼)	(167)	233	(133)	(6,400)	花崗岩	上面浅く大きなくぼみ 加工痕 側面丸み明瞭 加工痕 底面欠損	P 21 底面	
Q 93	五輪塔(水焼)	(158)	213	(86)	(3,400)	花崗岩	上面にくぼみ 側面の丸み明瞭 底面にくぼみ 一部欠損 全体摩耗	P 4 底面	計測のみ
Q 94	五輪塔(水焼)	250	246	147	19,000	花崗岩	上面はほぼ平坦 ノミ状工具による加工痕 面取り 側面加工痕 底面平坦	P 15 底面	PL36
Q 95	五輪塔(水焼)	236	260	160	(6,500)	花崗岩	上面はほぼ平坦 加工痕 側面加工痕 底面やや深いくぼみ 一部欠損	P 14 底面	PL36
Q 96	五輪塔(水焼)	255	259	139	14,200	花崗岩	上面に浅いくぼみ 加工痕 側面隅丸み 底面はほぼ平坦	第3号発中地点 底面	PL36
Q 97	五輪塔(水焼)	240	226	(167)	(4,800)	花崗岩	上面側縁 側面隅丸み 底面はほぼ平坦	P 21 底面	
Q 98	五輪塔(水焼)	233	233	129	(1,200)	花崗岩	上面一部欠損 面取り 側面隅丸み 底面大きく浅いくぼみ	P 16 底面	
Q 99	五輪塔(水焼)	(160)	(191)	105	(4,000)	花崗岩	上面はほぼ平坦 側面隅丸み 2/3欠損	P 17 底面	計測のみ
Q 100	五輪塔(水焼)	(96)	(154)	106	(2,500)	花崗岩	上面わずかにくぼみ 側面隅丸み 3/4欠損	南部 埋土中層	計測のみ
Q 101	五輪塔(水焼)	(88)	(155)	(98)	(2,300)	花崗岩	側面丸み 底面はほぼ平坦 上半部欠損	北部底面	計測のみ
Q 102	五輪塔(水焼)	(100)	(138)	(80)	(1,700)	花崗岩	側面丸み 底面はほぼ平坦 2/3欠損	南西部 埋土中層	計測のみ

表8 整地遺構内土坑計測表

番号	位置	形状	規 模 (cm)			番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長径	×	短径				深さ	長径	×	短径	深さ
1	東部	円形	42	×	40	-	12	南部	楕円形	78	×	66	14
2	東部	円形	(42)	×	38	-	13	南部	方形	96	×	92	23
3	東部	隅丸長方形	88	×	75	-	14	南部	楕円形	132	×	52	18
4	東部	楕円形	38	×	28	-	15	南部	不整楕円形	45	×	25	-
5	東部	楕円形	40	×	32	-	16	南部	楕円形	64	×	48	-
6	東部	方形	(26)	×	24	-	17	西部	隅丸長方形	85	×	54	14
7	東部	方形	36	×	36	-	18	西部	不整楕円形	132	×	125	-
8	南部	方形	54	×	53	-	19	西部	楕円形	82	×	52	20
9	南部	円形	64	×	62	16	20	北部	楕円形	60	×	42	-
10	東部	不整楕円形	144	×	108	25	21	北東部	不整方長方形	162	×	138	30
11	南部	方形	55	×	54	-							

## (2) 方形竪穴遺構

## 第1号方形竪穴遺構 (第191図)

**位置** 1区南東部のB5j2区、標高22mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第7号溝・第310号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸2.16m、短軸1.78mの隅丸長方形で、長軸方向はN-22°-Eである。壁は高さ76~96cmで、ほぼ直立している。南壁西寄りに出入口施設と思われる施設が設けられているが、攪乱のため、東西軸は0.60m、南北軸は0.55mしか確認できなかった。

**床面** 平坦で、中央部から南部が踏み固められている。中央部から南寄りと西寄りの2か所で、炭化物及び炭化粒子が散乱した範囲を確認した。

**ピット** 3か所。北・南壁中央部を掘り込んだものが1か所ずつ、中央部から北寄りに1か所である。深さはP1が25cm、P2が40cm、P3が33cmで、P1では柱の当たりが確認できた。長軸に並ぶ配置から、P1・P2は主柱穴、P3は補助柱穴と考えられる。P2は南壁際に位置し、中央部へ入り込むようにピットが掘り込まれていることから、出入口施設に伴うピットの可能性もある。

**覆土** 16層に分層できる。多くの層にロームブロック・白色粘土ブロックなどが含まれ、不規則に堆積していることから、埋戻されている。

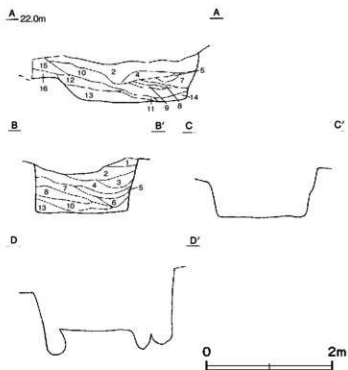
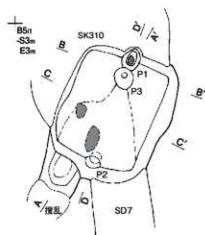
## 土層解説

1 黄褐色	ロームブロック中量	10 灰白色	白色粘土ブロック多量、ローム粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	11 暗褐色	白色粘土ブロック中量、ロームブロック少量
3 黄褐色	ロームブロック少量	12 灰黄褐色	白色粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化物中量
4 にい黄褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量	13 にい黄褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子少量、白色粘土ブロック微量	14 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量	15 にい黄褐色	ロームブロック中量
7 褐灰色	白色粘土ブロック中量、ロームブロック少量	16 暗褐色	ロームブロック少量
8 明黄褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック中量		
9 灰黄褐色	白色粘土ブロック多量、ロームブロック中量		

**遺物出土状況** 縄文土器片2点(深鉢)、土師器18点(甕類)が、覆土中から出土している。いずれも細片であることから、埋土と共に混入したと思われる。

**所見** 時期は、伴う土器が出土していないが、遺構の形状から中世と考えられる。床面が踏み固められており、順踏に出入りが行われた様相が見られることから、住居や倉庫と考えられる。





第191図 第1号方形竪穴遺構実測図

### (3) 土坑

今回の調査で、当時代の土坑16基を確認した。覆土の堆積状況や遺物の出土状況などが特徴的な12基については、実測図と出土遺物観察表を示し、文章で説明する。出土遺物の遺存状況などの制約から、時期判断が困難な4基については、出土遺物、形状、重複関係、覆土の様相などの総合的な所見から当時代に帰属するものと判断し、規模、形状などについて一覧表で掲載する。

### 第300号土坑 (第192図)

**位置** 1区南東部のB5h9区、標高23mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 長径0.68m、短径0.54mの楕円形で、長径方向はN-13°-Eである。底面は平坦である。深さは16cmで、壁は外傾している。

**覆土** 2層に分层できる。ロームブロックを含む層が不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

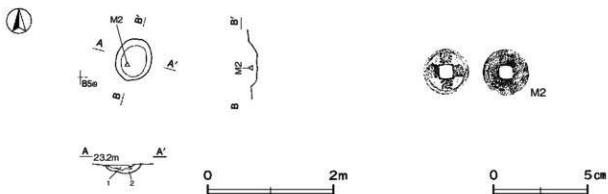
#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 銭貨1枚が、覆土中層から出土している。そのほか、土師器片3点(壺)が覆土中から出土している。

**所見** 時期は出土銭貨から中世と考えられる。性格は不明である。



第192図 第300号土坑・出土遺物実測図

第300号土坑出土遺物観察表(第192図)

番号	種別	銭名	径	孔径	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M2	銭貨	熙寧元寶	2.5	0.7	2.60	銅	1068	北宋 篆書 無背銭	覆土中層	

第301号土坑(第193図)

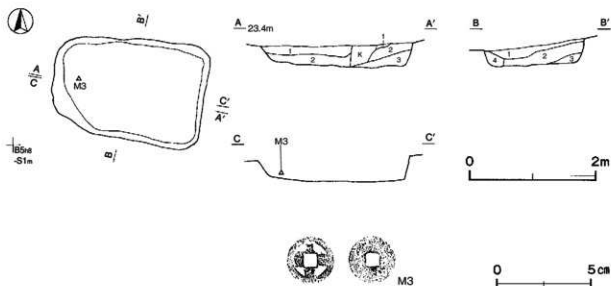
位置 1区南東部のB5h8区、標高23mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長軸2.40m、短軸1.58mの不整長方形で、長軸方向はN-84°-Wである。底面は平坦である。深さは40cmで、西壁は外傾し、東壁は直立している。

覆土 4層に分層できる。すべての層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                  |       |           |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量        | 3 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量 |



第193図 第301号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 銭貨1枚が、覆土中層から出土している。そのほか、縄文土器片2点(深鉢)、土師器片11点(碗類5、甕類6)が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、判定できる出土遺物がないため明確ではないが、形状から中世で、覆土の状況から墓坑の可能性はある。

### 第301号土坑出土遺物観察表(第193図)

番号	種別	銭名	径	孔径	重量	材質	初周年	特徴	出土位置	備考
M.3	銭貨	□	2.5	0.7	2.85	銅	-	真書 無背銭	覆土中層	

### 第303号土坑(第194図)

**位置** 1区南東部のB5g5区、標高23mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 長軸206m、短軸136mの長方形で、長軸方向はN-14°-Eである。底面は平坦で、中央部から南壁際にかけて焼土塊が確認された。焼土塊は底面が焼けていないことから、埋土とともに投げ込まれたものと考えられる。深さは50cmで、壁はほぼ直立している。

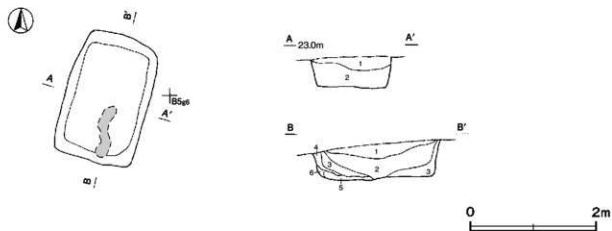
**覆土** 6層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |       |                          |        |                        |
|-------|--------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量   | 4 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量                | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 褐色  | ロームブロック多量、焼土ブロック中量、炭化物少量 | 6 褐色   | ロームブロック中量、焼土ブロック少量     |

**遺物出土状況** 土師器片3点(甕)が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、判定できる出土遺物がないため明確ではないが、形状から中世で、覆土の状況から墓坑の可能性はある。



第194図 第303号土坑実測図

## 第304号土坑 (第195図)

**位置** 1区南東部のB5g8区、標高23mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.34m、短軸1.22mの隅丸方形で、長軸方向はN-80°-Wである。底面は平坦である。深さは38cmで、壁はほぼ直立している。

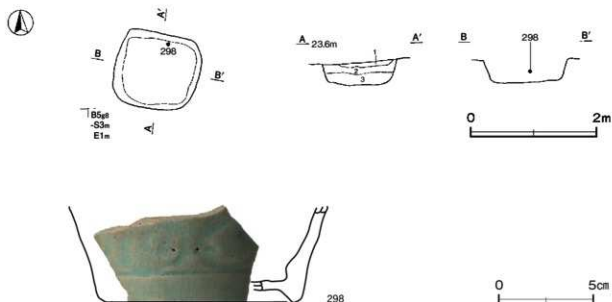
**覆土** 3層に分層できる。すべての層にロームブロックが中量含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量  
2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量  
3 暗褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 青白磁片1点(梅瓶)が、覆土中層から出土している。その他、土師器片3点(甕)が覆土中から出土している。298は、破片で出土していることから、埋土と共に投棄されたものと思われる。

**所見** 出土した青白磁は、伝世の可能性がある。時期は、13世紀以降と考えられる。性格は不明である。



第195図 第304号土坑・出土遺物実測図

## 第304号土坑出土遺物観察表 (第195図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	絵文・特徴ほか	輪軸	産地	出土位置	備考
298	青白磁	梅瓶	-	(5.0)	(10.0)	緻密 明緑白	劃花文 外・内面施軸	青白磁軸	景徳鎮窯	覆土中層	5%

## 第305号土坑 (第196図)

**位置** 1区南東部のB5g8区、標高23mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第6号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸2.25m、短軸1.28mの隅丸長方形で、長軸方向はN-6°-Eである。底面は平坦である。深さは52cmで、壁はほぼ直立している。

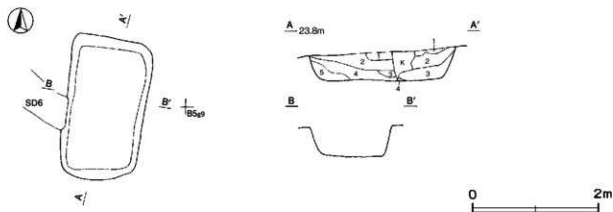
**覆土** 5層に分層できる。すべての層にロームブロックが中量以上含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- |       |           |       |                  |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック多量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色  | ロームブロック中量        |
| 3 明褐色 | ロームブロック多量 |       |                  |

遺物出土状況 土師器片4点(椀類3、甕類1)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、判定できる出土遺物がないため、明確ではないが、形状から中世で、覆土の状況から墓坑の可能性はある。



第196図 第305号土坑実測図

第311号土坑 (第197図)

位置 1区南部のB5jl区、標高21mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第24号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.50m、短軸0.86mの長方形で、長軸方向はN-73°-Wである。底面は平坦である。深さは22cmで、壁は外傾している。

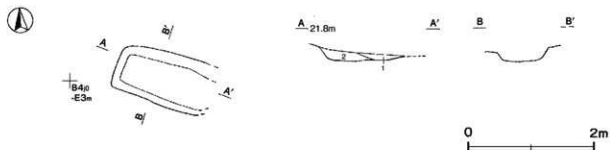
覆土 2層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが中量以上含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- |       |           |       |                      |
|-------|-----------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量 |
|-------|-----------|-------|----------------------|

遺物出土状況 土師器片2点(甕類)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、判定できる出土遺物がないため、明確ではないが、形状から中世で、覆土の状況から墓坑の可能性はある。



第197図 第311号土坑実測図

## 第312号土坑 (第198図)

**位置** 1区南部のB 5j1区、標高21mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第24号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.76m、短径1.44mの不整楕円形で、長径方向はN-55°-Eである。底面はやや凹凸があり、皿状を呈している。深さは22cmで、壁は外傾している。

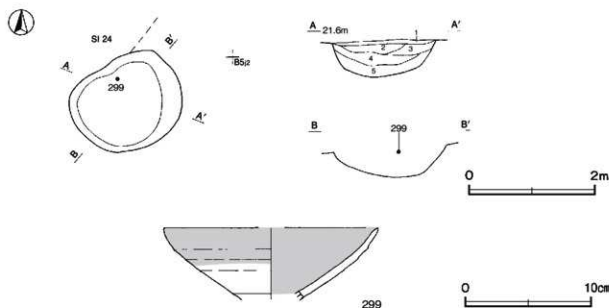
**覆土** 5層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積であることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                      |       |                      |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量            | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量            | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、白色粘土ブロック微量 |       |                      |

**遺物出土状況** 陶器片1点(平碗)が、覆土上層から出土している。そのほか、縄文土器片1点(深鉢)が覆土中から出土している。299は破片で出土していることから、埋土と共に投棄されたものと思われる。

**所見** 時期は、出土陶器から14世紀以降と考えられる。性格は不明である。



第198図 第312号土坑・出土遺物実測図

## 第312号土坑出土遺物観察表 (第198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	総付・特徴ほか	輪軸	産地	出土位置	備考
299	陶器	平碗	17.0	(5.7)	-	黒密・にぶ・黄橙	内・外面施釉	灰軸	瀬戸・美濃	覆土上層	10%

## 第313号土坑 (第199図)

**位置** 1区中央部のB 4g0区、標高22mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第4号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.25m、短軸1.05mの隅丸長方形で、長軸方向はN-14°-Eである。底面は平坦である。深さは48cmで、壁はほぼ直立している。

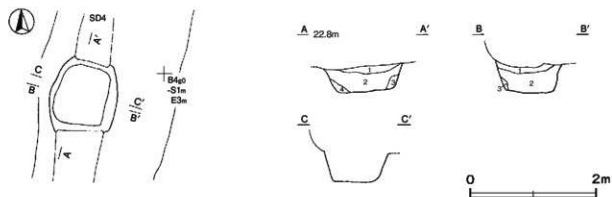
**覆土** 4層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積であることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                      |       |                      |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量            | 3 褐色  | ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量 | 4 灰褐色 | 白色粘土ブロック多量、ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 川原石1点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、判定できる出土遺物がないため、明確はでないが、形状から中世で、覆土の状況から墓坑の可能性はある。



第199図 第313号土坑実測図

**第314号土坑 (第200図)**

**位置** 1区南部のB40区、標高23mほどの台地中央部に位置している。

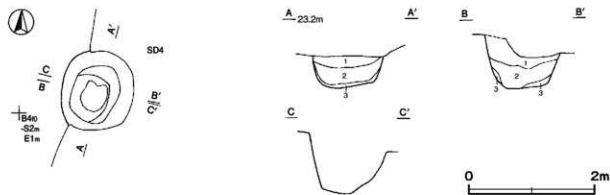
**重複関係** 第4号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.36m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-22°-Eである。底面は平坦である。深さは66cmで、東・南・西側壁はほぼ直立し、北側壁は外傾している。

**覆土** 3層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積であることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                      |      |                      |
|-------|----------------------|------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量            | 3 褐色 | ロームブロック多量、白色粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量 |      |                      |



第200図 第314号土坑実測図

所見 時期は、出土遺物がないため、形状から中世で、明確でないが、覆土の状況から墓坑の可能性はある。

### 第315号土坑（第201図）

位置 1区南部のB4j0区、標高21mほどの台地中央部に位置している。

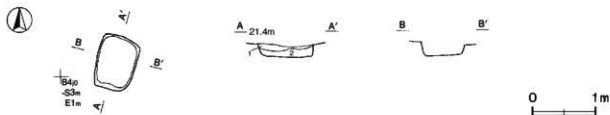
規模と形状 長軸0.90m、短軸0.68mの長方形で、長軸方向はN-16°-Eである。底面は平坦である。深さは20cmで、壁は直立している。

覆土 2層に分層できる。いずれの層にも白色粘土ブロックが含まれ、不規則な堆積であることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 灰黄褐色 白色粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化物 2 濃い黄褐色 ロームブロック・中量白色粘土ブロック、炭化粒子少量

所見 時期は、出土遺物がないため、明確ではないが、形状から中世で、覆土の状況から墓坑の可能性はある。



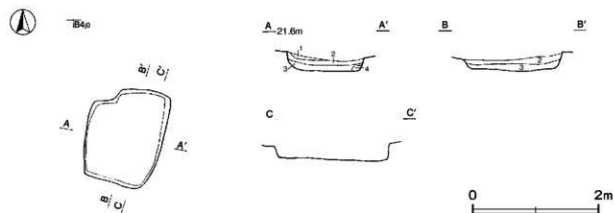
第201図 第315号土坑実測図

### 第317号土坑（第202図）

位置 1区南部のB4j0区、標高21mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長軸1.56m、短軸1.24mの長方形で、北部は幅0.85m、長さ0.20mほど張り出している。長軸方向はN-16°-Eである。底面は平坦である。深さは32cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。いずれの層にも白色粘土ブロックが含まれ、不規則な堆積であることから、埋め戻されている。



第202図 第317号土坑実測図



土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量  
 2 暗褐色 ロームブロック中量、白色粘土ブロック・炭化粒子少量  
 3 褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量、炭化粒子少量  
 4 褐色 白色粘土ブロック多量、ローム粒子少量

所見 時期は、出土遺物がないため明確ではないが、形状から中世で、倉庫の可能性はある。

第 327 号土坑 (第 203 図)

位置 1 区中央部の B 4 d9 区、標高 24 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 26 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部を攪乱されているため、東西軸 1.12 m、南北軸は 0.70 m しか確認できなかったが、隅丸長方形と推定される。長軸方向は N-17°-W である。底面は平坦である。深さは 60 cm で、壁は外傾している。

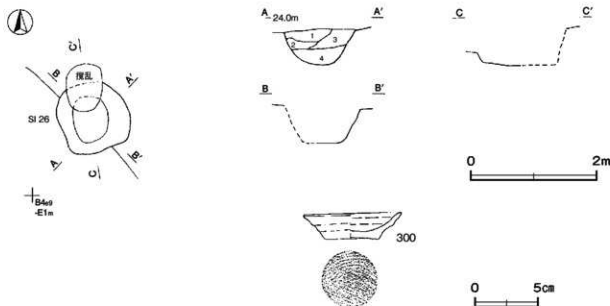
覆土 4 層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積であることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量  
 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量  
 4 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (小皿) が、覆土中から出土している。その他、川原石 2 点が覆土中から出土している。300 は破片で出土していることから、埋土と共に投棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀代と考えられる。遺構の形状や覆土の状況から墓坑の可能性はある。



第 203 図 第 327 号土坑・出土遺物実測図

第 327 号土坑出土遺物観察表 (第 203 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
300	土師質土器	小皿	7.4	2.1	4.4	長石・雲母	にぶ・黄褐色	良好	口ケロノ字 底面回転糸切り	板目面 内底面	覆土中	80%

表9 鎌倉・室町時代土坑一覽表

番号	位置	長短方向	平面形	堀		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
300	B 5 b9	N-13°-E	楕円形	0.65 × 0.54	16	平坦	外傾	人為	鉄貨 土師器	
301	B 5 b8	N-84°-W	不整長方形	2.40 × 1.58	40	平坦	ほぼ直立	人為	鉄貨 土師器	
303	B 5 g5	N-14°-E	長方形	2.06 × 1.36	50	平坦	直立	人為	土師器	
304	B 5 g8	N-80°-E	楕円形	1.34 × 1.22	38	平坦	ほぼ直立	人為	青白磁 土師器	
305	B 5 g8	N-6°-E	楕円長方形	2.25 × 1.28	52	平坦	平坦	人為	土師器	本跡→SD 6
311	B 5 j1	N-73°-W	長方形	1.50 × 0.86	22	平坦	外傾	人為	土師器	SI24→本跡
312	B 5 j1	N-55°-E	不整楕円形	1.76 × 1.44	22	やや凹凸	外傾	人為	陶器 土師器	SI24→本跡
313	B 4 g0	N-14°-E	楕円長方形	1.25 × 1.05	48	平坦	ほぼ直立	人為	川原石	本跡→SD4
314	B 4 g9	N-22°-E	楕円形	1.36 × 1.16	66	平坦	外傾	人為		本跡→SD4
315	B 4 j0	N-16°-E	長方形	0.90 × 0.68	20	平坦	直立	人為		
317	B 4 j0	N-16°-E	長方形	1.56 × 1.24	32	平坦	ほぼ直立	人為		
327	B 4 d9	N-17°-W	楕円長方形	1.12 × (0.70)	60	平坦	外傾	人為	土師質土器 川原石	SI26→本跡
342	B 5 i1	N-68°-W	楕円形	0.88 × 0.52	24	平坦	外傾	人為	土師質土器	SI24→SK33→ 本跡 SI24→本跡→ SK33
343	B 5 i1	N-79°-W	楕円形	0.87 × 0.50	26	平坦	ほぼ直立	人為		SI24→本跡→ SK33
345	B 4 h5	N-52°-W	楕円形	1.74 × 0.82	26	平坦	ほぼ直立	人為		SX1→本跡
350	B 4 g5	N-52°-W	不整楕円形	3.51 × 0.72	44	凹凸	外傾	自然		本跡→SX1

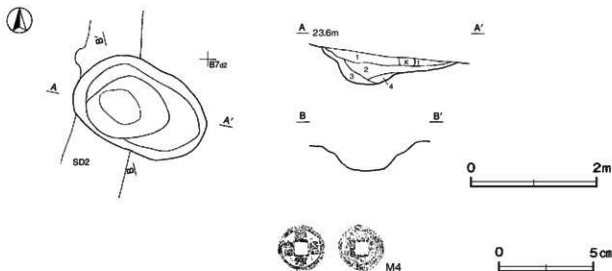
## 5 江戸時代以降の遺構と遺物

江戸時代以降の遺構は、土坑1基、道路跡2条、溝跡7条、柱穴列1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

## (1) 土坑

## 第79号土坑 (第204図)

位置 1区中央部のB7d1区、標高23mほどの台地縁部に位置している。



第204図 第79号土坑・出土遺物実測図

**重複関係** 第2号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径220m、短径138mの楕円形で、長径方向はN-71°-Wである。底面は皿状である。深さは48cmで、壁は段をもち、外傾している。

**覆土** 4層に分層できる。いずれの層もロームブロックを含み、不規則な堆積をしていることから埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色  | ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 銭貨1枚が覆土中から出土している。そのほか、縄文土器片2点（深鉢）、土師器片1点（高台付坏）が、覆土中から出土している。銭貨は出土状況から、埋土と共に投げ込まれたものと思われる。

**所見** 時期は、出土銭貨から17世紀以降と考えられる。性格は不明である。

**第79号土坑出土遺物観察表（第204図）**

番号	種別	残名	径	孔径	重量	材質	初跡年	特徴	出土位置	備考
M4	銭貨	龍水通貫	234	07	260	銅	1636年	残文不明瞭 背無銭	覆土中	

(2) 道路跡

今回の調査で、道路跡2条が確認された。ここでは、土層断面を掲載し、平面図は遺構全体図（付図）に示す。

**第1号道路跡（第205・付図）**

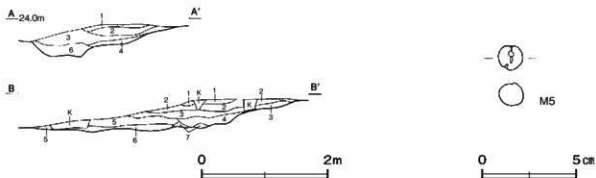
**位置** 1区東部のB5f0区～B5b3区にかけて、標高24mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 第2号道路跡との交差点から、N-62°-Wの方向に直線的に延びている。長さは、321mである。上幅1.0～1.9m、下幅0.6～0.9mで、掘方の深さは25～40cmである。断面形は、南側が流失しているが、土層状況から逆台形であったと推定される。

**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックを混入した構築土で、第1・2層上面は硬化している。

**土層解説**

- |       |                       |       |                  |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量（非常に硬い） | 5 褐色  | ロームブロック少量        |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量（硬い）  | 6 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量             | 7 明褐色 | ロームブロック多量        |
| 4 明褐色 | ロームブロック中量             |       |                  |



第205図 第1号道路跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 構築土中からは、陶器片2点(碗)、磁器片4点(碗)、金属製品1点(鉄砲玉)が出土している。出土土器は細片のため図示できなかった。そのほか、縄文土器片21点、土師器片12点(甕)が出土している。  
**所見** 時期は、出土した陶器片から江戸時代以降と考えられる。

## 第1号道路跡出土遺物観察表(第205図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	鉄砲玉	1.3	1.2	1.3	12.04	鉛	型枠取 わずかに歪み	覆土中	

## 第2号道路跡(第206・付図)

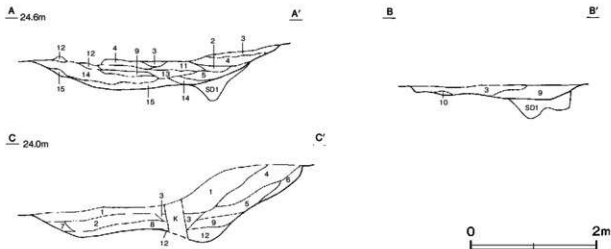
**位置** 1区南東部のB5j9区～2区東部のB6b3区にかけて、標高24mほどの台地中央部に位置している。  
**重複関係** 第1号溝を埋め戻し、第201号土坑を掘り込んでいる。  
**規模と形状** B5j9区から第1号溝跡上の北東方向(N-31°-E)に、直線的に延びている。南端部は調査区外へ延びているため、確認できた長さは31.4mである。上幅2.1～3.7m、下幅1.3～2.6m、掘方の深さ20～45cmである。断面形は、土層状況から逆台形であったと推測される。  
**覆土** 15層に分層できる。ロームブロック、灰黄褐色粘土ブロックなどを混入した構築土で、第2～4・7・10・12層上面は硬化している。

## 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量(やや硬い)						炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、灰黄褐色粘土ブロック・炭化粒子少量(硬い)	9	黄褐色	ロームブロック・灰黄褐色ブロック少量、炭化粒子微量(やや硬い)			
3 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量(硬い)	10	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量(硬い)			
4 におい黄褐色	ロームブロック中量、灰黄褐色粘土ブロック少量(硬い)	11	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量			
5 におい黄褐色	ロームブロック中量、灰黄褐色粘土ブロック少量、炭化粒子微量	12	灰黄褐色	灰黄褐色粘土ブロック中量、ロームブロック少量(硬い)			
6 褐色	ロームブロック、焼土ブロック・炭化粒子少量	13	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			
7 暗褐色	ロームブロック少量(硬い)	14	暗褐色	ロームブロック中量			
8 黄褐色	ロームブロック中量、灰黄褐色粘土ブロック少量	15	黄褐色	ロームブロック中量			

**遺物出土状況** 構築土中から、銭貨片1点が出土している。そのほか、縄文土器片3点が出土している。

**所見** 時期は、第1号溝跡と平行して走向していることから、江戸時代以降と考えられる。



第206図 第2号道路跡実測図

表10 江戸時代以降道路跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	横 幅			断面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
1	B30～B33	N-62°-W	直線	32.1	1.0～1.9	0.6～0.9	25～40	逆台形	外傾	人為	陶器 磁器 鉄砲玉	
2	B39～B63	N-31°-E	直線	33.4	2.1～3.7	1.3～2.6	20～45	逆台形	外傾	人為	鉄貨	SK201・SD1→本誌

(3) 溝跡

今回の調査で、溝跡7条が確認された。ここでは、土層断面を掲載し、平面図は遺構全体図(付図)に示す。

第1号溝跡(第207・付図)

**位置** 1区南東部のB59区から北東方向へB6c3区まで延び、A6j5区で東方向へ屈曲すると推測され、3区東端部のB7b6区まで延びている。標高は22～24mで、台地中央部から縁辺部に位置している。

**重複関係** 第3号堅穴建物跡、第21・55号土坑を掘り込み、第2号道路跡に掘り込まれている。

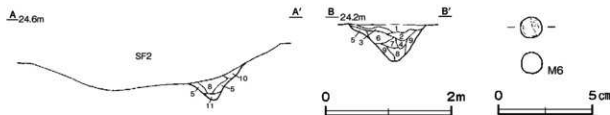
**規模と形状** 西側部分は、第2号道路跡下で確認され、南西端部から7.2mほどのところで、二又に分かれ、12.8mほど延びて、また一条となり、北東方向(N-31°-E)へ直線的に延びて、現生活道路に達する。そのため、屈曲部は確認されなかった。南端が調査区外へ延びているため、確認できた長さは48.2mである。上幅0.85～1.40m、下幅0.25～0.60m、深さ22～46cmである。断面形はU字状で、壁は外傾している。底面の標高差は0.9mで、南部に行くに従って低くなっている。東側部分は、東方向(N-101°-E)へわずかに湾曲して延びている。長さ44.8m、上幅1.05～2.10m、下幅0.15～0.50m、深さ30～65cmである。断面形はU字状で、壁は外傾している。底面の標高差は2.9mで、東部に行くに従って低くなっている。

**覆土** 11層に分層できる。多くの層にロームブロックなどが含まれ、不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- |        |                       |         |                  |
|--------|-----------------------|---------|------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量        | 7 暗 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 8 褐色    | ロームブロック中量        |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量        | 9 暗 褐色  | ロームブロック中量        |
| 4 暗 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量        | 10 黄 褐色 | ロームブロック少量        |
| 5 黒 褐色 | ロームブロック少量             | 11 褐 灰色 | ロームブロック少量        |
| 6 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |         |                  |

**遺物出土状況** 陶器片3点(碗2, 皿1), 磁器片1点(碗), 土師質土器片9点(鍋5, 小皿4), 金属製品1点(鉄砲玉)が、覆土中から出土している。出土土器は、細片のため図示できなかった。そのほか、縄文土器片1275点(深鉢1259, 浅鉢16), 土師器片151点(椀類32, 高坏10, 甕類109), 須恵器片7点(坏2, 甕5)が出土している。



第207図 第1号溝跡・出土遺物実測図

所見 標高が低い方へ延びていることや地籍図の区割りとほぼ一致することから、排水溝を兼ねた区画溝と考えられる。時期は、出土した陶器片から江戸時代以降と考えられる。

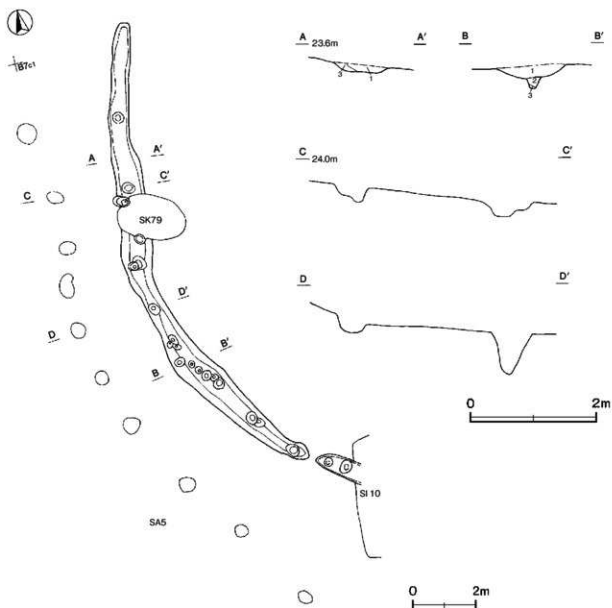
第1号溝跡出土遺物観察表（第207図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M6	鉄砲玉	1.1	1.1	1.1	9.36	鉛	わずかに歪み 表面白色に変化	覆土中	

第2号溝跡（第208・付図）

位置 3区中央部のB7b1区～B7f2区にかけて、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第10号竪穴建物跡を掘り込み、第79号土坑に掘り込まれている。



第208図 第2号溝跡実測図

**規模と形状** B 7 b1区からB 7 b2区に彎曲して延びている。長さ17.6 m、上幅0.55～1.15 m、下幅0.25～0.80 mである。深さは25～45cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。底面にピットが21か所確認された。径20～48cm、深さ15～60cmで、配列は、密集しているところとまばらなところがある。ほとんどが底面に位置することから、本跡と同時に掘られたものと思われる。

**覆土** 3層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 褐色 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量                      3 褐色 色 ロームブロック中量  
2 濃い黄褐色 ロームブロック中量

**所見** 底面のピット列や西に隣接する第5号柱穴列とともに、台地縁辺部にあり、支谷を囲むように彎曲している様相から、平坦部と谷部を区画する溝と考えられる。時期は、第79号土坑に掘り込まれていることから、江戸時代以降と考えられる。

**第3号溝跡（第209・付図）**

**位置** 1区南部のC 4 b3区～B 4 b4区にかけて、標高23 mほどの台地縁辺部に位置している。

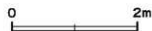
**規模と形状** C 4 b3区から北方向（N - 11° - E）にB 4 b4区まで、直線状に延びている。南端部が調査区外へ延びているため、確認できた長さは16.2 mである。上幅0.85～1.20 m、下幅0.55～0.95 m、深さ10～22 cmである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 褐色 色 ロームブロック・黒色土ブロック中量                      2 褐色 色 ロームブロック中量、黒色土ブロック微量

**所見** 地籍図の区割とはほぼ一致することから、区画溝と考えられる。時期は、伴う土器が出土していないことから、詳細は不明であるが、第1・4号溝跡と走向方向がほぼ同じであることから、同時期の江戸時代以降と考えられる。



第209図 第3号溝跡実測図

**第4号溝跡（第210図）**

**位置** 1区中央部から南部のC 4 a9区～B 5 b2区にかけて、標高22～24 mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第23号竪穴建物跡、第313・314号土坑を掘り込み、第320号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** C 4 a9区から北東方向（N - 26° - E）にB 5 b2区まで、わずかに蛇行しながら延びている。

南端部が調査区外へ延びているため、確認できた長さは42.8mである。上幅1.80～3.05m、下幅0.55～0.90mである。深さは18～42cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。底面の標高差は20mで、南部に行くに従って低くなっている。

**覆土** 5層に分層できる。いずれの層にもロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色  | ローム粒子中量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 褐色  | ロームブロック中量 |       |           |

**遺物出土状況** 陶器片2点(碗1、小皿1)、磁器片1点(碗1)が、覆土中から出土している。出土土器は細片のため図示できなかった。そのほか、縄文土器片7点(深鉢)、土師器片13点(椀類4、甕類9)、須恵器片2点(甕)が出土している。

**所見** 標高が低い方へ延びていることや地籍図の区割りとはほぼ一致することから、排水を兼ねた区画溝と考えられる。時期は、出土した陶器片から江戸時代以降と考えられる。



第210図 第4号溝跡実測図

**第5号溝跡 (第211・付図)**

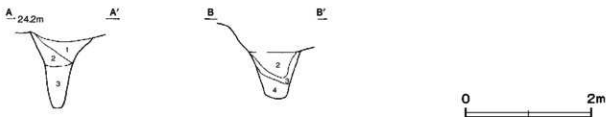
**位置** 1区中央部から北部のB5a3区～A4h8区にかけて、標高24mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 南側部分は、B5a3区から北西方向(N-58°-W)に長さ21.6mほど直線的に延び、A4h8区で屈曲している。北側部分は、A4h8区まで北方向へ延びている。北端部が調査区外へ延びているため、確認できた長さは5.8mである。上幅0.85～1.10m、下幅0.16～0.40m、深さ42～64cmである。断面形はU字状で、壁はほぼ直立している。

**覆土** 4層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 黄褐色 | ロームブロック多量 |



第211図 第5号溝跡実測図



**遺物出土状況** 縄文土器片3点(深鉢)、土師器片2点(甕類)が、覆土中から出土している。

**所見** 地籍図の区割りとほぼ一致することから、区画溝と考えられる。時期は、伴う土器が出土していないことから詳細は不明であるが、近接する第1号道路跡と、同じ走向方向であることから、同時期の江戸時代以降と考えられる。

#### 第6号溝跡 (第212・付図)

**位置** 1区南東部のB5e4区～B5g8区にかけて、標高23mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第305号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** B5e4区からB5g8区までわずかに湾曲して延びている。長さは15.6mである。上幅0.80～1.35m、下幅0.35～0.75m、深さ16～28cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。

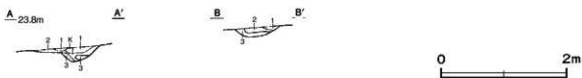
**覆土** 3層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量                      3 黄褐色 ロームブロック中量  
2 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片13点(深鉢)、土師器片3点(椀類1、甕類2)が、覆土中から出土している。

**所見** 第7号溝跡の北側部分と同じ走向方向であることから、区画する溝の可能性はある。時期は、伴う土器がないため、詳細は不明であるが、第7号溝跡と同時期の江戸時代以降と考えられる。



第212図 第6号溝跡実測図

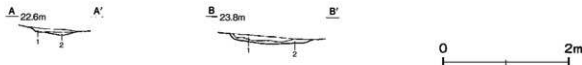
#### 第7号溝跡 (第213・付図)

**位置** 1区南東部のB5j2区～B5f8区にかけて、標高22～23mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第21号竪穴建物跡、第1号方形竪穴遺構、第310号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** B5j2区からB5f8区まで蛇行して、走向を変えている。屈曲部はやや突出している。西側部分の長さは26.6mで、北側部分の長さは、18.6mである。上幅0.85～1.60m、下幅0.50～1.05m、深さ12～28cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。



第213図 第7号溝跡実測図

## 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)、土師器片11点(碗類3・甕類8)が、覆土中から出土している。

所見 第1号道路跡と第2号道路跡が囲む平坦部を区画する溝の可能性ある。時期は、伴う土器がないため、詳細は不明であるが、第1号道路跡と第2号道路跡とはほぼ同じ走向方向であることから、それらと同時期の江戸時代以降と考えられる。

表11 江戸時代以降溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
1	B5j9 ~ B7b6	N-31°-E N-101°-E	L字状	(93.0)	1.05 ~ 2.15	0.15 ~ 0.50	30 ~ 45	U字状	外積 人為	陶器 磁器 土師質土器 鉄器王 土師器	SI 3・SK21・55 →本跡→SF 2	
2	B7b1 ~ B7f2	-	溝曲	17.6	0.55 ~ 1.15	0.25 ~ 0.80	25 ~ 45	溝状	磁葺 人為		SI10 →本跡→ SK79	
3	C4b3 ~ B4b4	N-11°-E	直線	(16.2)	0.85 ~ 1.20	0.55 ~ 0.95	10 ~ 22	溝状	磁葺 人為			
4	C4a9 ~ B5b2	N-26°-E	わずかに 蛇行	(42.8)	1.80 ~ 3.05	0.55 ~ 0.90	18 ~ 42	溝状	磁葺 人為	陶器 磁器 土師器 粗製器	SI23・SK313・314 →本跡→SK330	
5	B5a3 ~ A4a8	N-58°-W	L字状	(27.4)	0.85 ~ 1.10	0.16 ~ 0.40	42 ~ 64	U字状	磁葺 直立	人為	土師器	
6	B5e4 ~ B5f8	-	わずかに 溝曲	15.6	0.80 ~ 1.35	0.35 ~ 0.75	16 ~ 28	溝状	磁葺 人為	土師器	SK305 →本跡	
7	B5j2 ~ B5g8	-	蛇行	45.2	0.85 ~ 1.60	0.50 ~ 1.05	12 ~ 28	溝状	磁葺 人為	土師器	SI21・SH 1・SK310 →本跡	

## (4) 柱穴列

## 第5号柱穴列(第214図)

位置 3区中央部のB 6c0区~B 7g2区にかけて、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 第2号溝跡に沿って、彎曲して延びている。長さは、18.3mである。柱間寸法は、1.9~3.0mである。

柱穴 10か所。長径38~72cm、短径36~66cmの円形または楕円形で、深さは18~78cmである。土層は、すべてロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

## 土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色 ロームブロック少量

5 近い黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

6 明褐色 ロームブロック中量

3 褐色 ロームブロック中量

7 近い褐色 ロームブロック中量

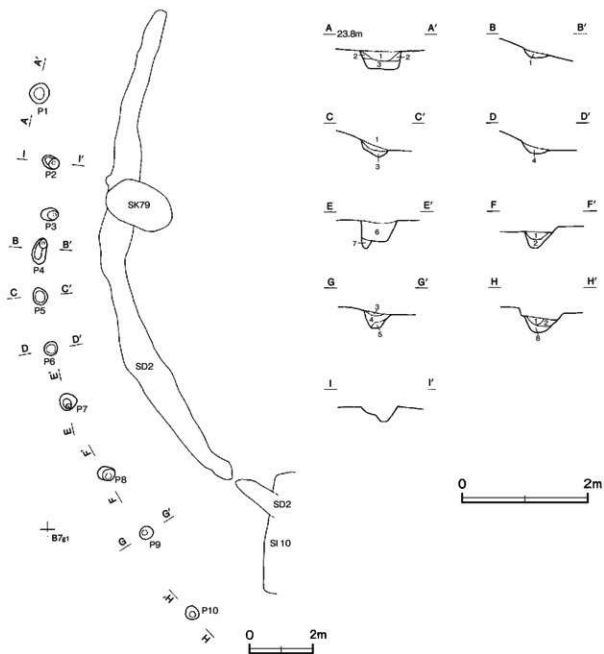
4 黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

8 灰褐色 ロームブロック少量

所見 第2号溝跡に沿っていることや柱間寸法に統一性がないことから、平坦部と谷部を区画する杭列か土止め  
の可能性ある。時期は第2号溝跡と同時期で江戸時代以降と考えられる。

表12 第5号柱穴列ビット一覧表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径	×	短径				深さ	長径	×	短径	深さ
1	B 6c1	楕円形	72	×	60	30	6	B 7e1	円形	44	×	40	10
2	B 7d1	楕円形	56	×	40	28	7	B 7f1	円形	56	×	52	43
3	B 7d1	楕円形	52	×	40	-	8	B 7f1	楕円形	52	×	42	26
4	B 7e0	楕円形	80	×	44	10	9	B 7g1	楕円形	44	×	38	30
5	B 7e0	楕円形	54	×	44	17	10	B 7g2	不整楕円形	44	×	36	25



第 214 図 第 5 号柱穴列実測図

## 6 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明らかでない炭焼窯跡 1 基、土坑 51 基、柱穴列 5 条を確認した。以下、これらの遺構のうち、炭焼窯跡と柱穴列については、文章で記述し、土坑については一覧表を掲載する。

### (1) 炭焼窯跡

#### 第 1 号炭焼窯跡 (第 215 図)

位置 1 区西部の B 2 6 区、標高 20 ~ 21 m の台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 長軸 5.04 m, 短軸 1.36 m の長方形で, 長軸方向は  $N-2^{\circ}-E$  である。壁は高さ 48 ~ 90 cm で, 東西壁はほぼ直立し, 南・北壁は外傾している。底面は地山を利用しており, 北側から南側へ傾斜している。底面と壁面は火熱を受けて硬化している。

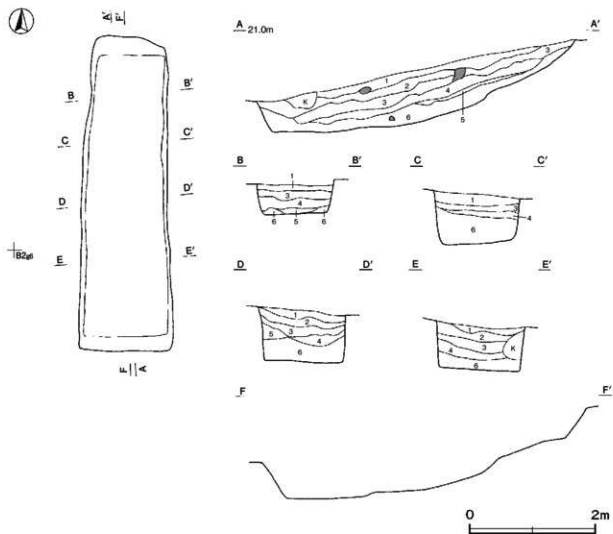
**覆土** 6層に分層できる。多くの層に焼土ブロックや炭化物などが含まれていることから, 埋め戻されている。覆土中の粘土ブロックやロームブロックは, 天井部の部材と思われる。

**土層解説**

- |       |                         |       |                                |
|-------|-------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量        | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量        |
| 2 褐色  | ロームブロック中量               | 6 褐色  | ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量            |       |                                |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |       |                                |

**遺物出土状況** 木炭片 6 点が底面から出土している。そのほか, 覆土中から縄文土器片 2 点 (深鉢) が出土している。

**所見** 燃烧部などは明確ではなかったが, 形態や木炭片が出土したことなどから, 炭焼窯と考えられる。時期は伴う土器がないことから, 不明である。



第 215 図 第 1 号炭焼窯跡実測図

## (2) 土坑

今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑 51 基を確認した。以下、これらの土坑について一覧表を掲載する。

表 13 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 格		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	A 617	N-32°-W	楕円形	0.70 × 0.50	84	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
2	A 618	N-56°-E	楕円形	0.74 × 0.66	56	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
7	A 619	-	円形	0.54 × 0.52	52	平坦	外傾	人為		
17	A 711	-	円形	0.56 × 0.53	48	平坦	外傾	人為	縄文土器	
22	A 712	N-17°-W	楕円形	1.00 × 0.90	12	平坦	外傾	自然		
47	B 619	N-43°-W	楕円形	1.92 × 1.62	36	平坦	外傾	人為	縄文土器	
61	B 616	N-13°-W	[楕円形]	1.24 × [1.04]	44	平坦	内傾	人為		SI 4→本跡
97	B 618	N-78°-W	楕円形	1.00 × 0.88	28	平坦	外傾	人為	縄文土器 土師片鏃	
98	B 618	-	円形	1.22 × 1.14	60	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
115	B 610	N-45°-E	楕円形	1.19 × 0.78	14	平坦	外傾	自然		
145	B 616	-	円形	1.20 × 1.20	67	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
189	B 612	N-84°-W	楕円形	2.68 × 1.30	46	皿状	外傾	人為	縄文土器	
203	B 612	-	円形	0.38 × 0.38	32	平坦	ほぼ直立	人為		
204	B 612	N-55°-W	楕円形	0.70 × 0.51	57	皿状	外傾	人為		SI 5→本跡
207	B 611	-	不整形円形	1.10 × 1.04	66	平坦	外傾	人為	縄文土器	
221	A 519	-	円形	0.82 × 0.76	34	平坦	ほぼ直立	自然		
224	A 618	N-17°-W	楕円形	1.90 × 1.44	108	平坦	直立	人為	縄文土器	
225	A 518	-	円	1.23 × 1.17	75	平坦	直立	人為	縄文土器	
229	B 519	N-28°-E	楕円形	0.88 × 0.72	40	平坦	直立	人為		
230	B 519	-	円形	0.91 × 0.88	42	平坦	直立	人為	縄文土器	
231	B 517	-	円形	1.26 × 1.19	61	平坦	直立	人為	縄文土器	
232	A 516	N-85°-E	楕円形	1.30 × 1.12	100	平坦	直立	人為	縄文土器 土師器	
236	A 515	-	不整形円形	1.16 × 1.08	48	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
253	B 613	N-30°-W	楕円形	0.73 × 0.66	48	平坦	外傾	人為	縄文土器	
260	B 510	-	円形	1.18 × 1.08	41	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
261	B 518	-	楕円形	1.32 × 1.08	36	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
264	A 510	-	円形	1.01 × 1.02	94	平坦	直立	人為	縄文土器	SI16→本跡
265	A 615	N-63°-E	楕円形	1.30 × 1.13	29	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	
267	A 712	N-63°-W	楕円形	2.04 × 1.80	20	平坦	外傾	自然	縄文土器 陶器	SK23→本跡
270	B 613	N-40°-W	[楕円形]	(0.54) × 0.36	12	皿状	外傾	自然		SI15→本跡
271	B 612	N-43°-E	楕円形	0.40 × 0.35	24	平坦	直立	人為	縄文土器 土師器	
276	A 513	N-31°-W	楕円形	0.80 × 0.68	74	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	
278	A 618	N-36°-W	楕円形	0.38 × 0.32	54	平坦	直立	人為	縄文土器	
279	A 711	N-67°-W	楕円形	2.24 × 1.98	50	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	SI 4→本跡
281	B 616	N-25°-W	楕円形	1.38 × 1.14	45	平坦	外傾	人為		SK280→本跡
282	B 616	N-48°-E	[方形]	1.24 × (1.20)	36	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	SK281→本跡
294	A 713	N-13°-E	楕円形	0.54 × 0.36	30	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	
295	A 610	N-48°-E	楕円形	0.52 × 0.44	36	平坦	ほぼ直立	人為		
296	A 713	N-45°-W	楕円形	0.76 × 0.56	50	V字	外傾	人為		
302	B 517	N-78°-E	楕円形	2.18 × 1.84	18	平坦	外傾	自然	土師器	
308	B 512	-	円形	0.92 × 0.88	28	平坦	外傾	自然		SK318→本跡 →SK307

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
310	B 5 i1	N-27-E	[楕円形]	(0.88) × (0.52)	42	平坦	ほぼ直立	人為		SH 1 → 本跡 → SD 7
316	B 4 j0	N-82-W	[長方形]	1.18 × 1.06	19	平坦	直立	人為		
320	B 4 h6	N-18-E	長方形	0.84 × 0.68	22	平坦	ほぼ直立	自然		SD4 → 本跡
322	B 5 f4	N-15-E	[楕円形]	(2.08) × (0.88)	20	平坦	外傾	自然	土師器	SI21 → 本跡
329	B 5 e0	N-59-W	楕円形	0.78 × 0.65	15	平坦	外傾	自然		
330	B 5 d8	N-37-E	楕円形	0.84 × 0.76	26	平坦	外傾	人為	縄文土器	
331	B 4 e9	N-55-W	楕円形	0.81 × 0.52	25	皿状	外傾	人為	縄文土器 土師器	SI26 → 本跡
336	B 2 e6	N-74-E	楕円形	2.85 × 1.29	10	平坦	外傾	自然	縄文土器 銅片	
341	B 4 h8	N-48-E	[長方形]	(0.80) × 0.58	38	平坦	外傾	人為	縄文土器	
351	B 5 g2	N-45-E	楕円形	1.14 × 0.96	22	平坦	直立	人為	縄文土器	

## (3) 柱穴列

## 第1号柱穴列 (第216・217図)

**位置** 3区南部のB 6h7区～B 6h8区にかけて、標高24mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 南東から北西方向4.72mの間に配置された柱穴3か所を確認した。軸方向は、N-59°-Wで、柱間寸法は、2.64mと2.16mである。柱筋は揃っている。

**柱穴** 3か所。平面形は円形または楕円形で、長径24～28cm、短径20～24cm、深さは21～50cmである。掘方の断面形はU字状で、埋め戻されている。

## 土層解説 (各柱穴列共通)

1 明 褐色	ロームブロック中量	5 褐 色	ロームブロック少量
2 におい-黄褐色	ロームブロック中量	6 黒 褐色	ロームブロック少量
3 におい-黄褐色	ローム少量	7 黄 褐色	ロームブロック中量
4 灰 黄 褐色	ロームブロック中量	8 暗 褐色	ロームブロック少量

**所見** 本跡は、調査区に隣接して存在する香取神社境内北側に位置している。軸方向は神社北側境界線とほぼ一致し、また、柱間尺に統一性がないことから、第2～4号柱穴列と同じように、神社北側の境界杭跡が境界に沿った植栽痕の可能性はある。伴う土器が出土していないことから、時期は不明である。

表14 第1号柱穴列ビット一覧表

番号	位置	形状	規 模 (cm)			番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長径	×	短径				深さ	長径	×	短径	深さ
1	B 6 h7	楕円形	28	×	20	50	3	B 6 h8	円形	24	×	24	24
2	B 6 h8	楕円形	26	×	20	21							

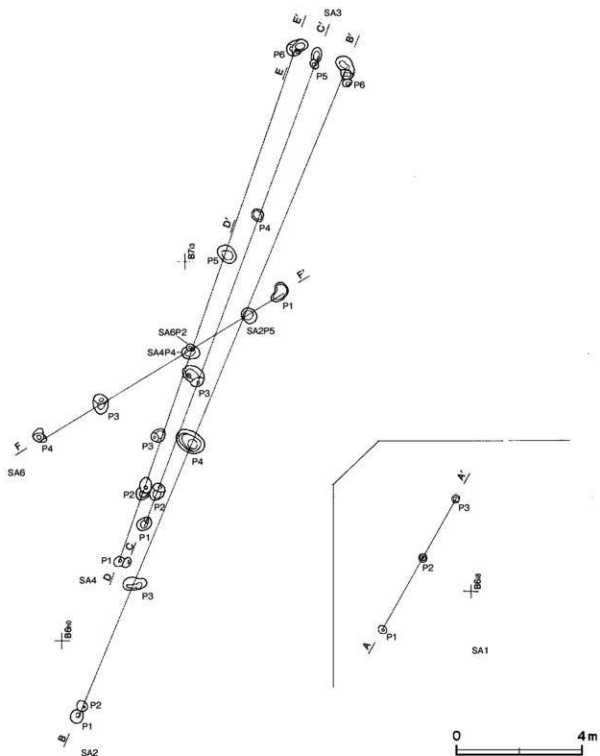
## 第2号柱穴列 (第216・217図)

**位置** 3区南部のB 6h9区～B 7j4区にかけて、標高23～24mの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 南東から北西方向18.32mの間に配置された柱穴6か所を確認した。軸方向は、N-66°-Wで、柱間寸法は、4.80～8.40mである。柱筋は揃っている。

**柱穴** 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径36～92cm、短径32～60cm、深さは9～30cmである。掘方の断面形はU字状で、埋め戻されている。

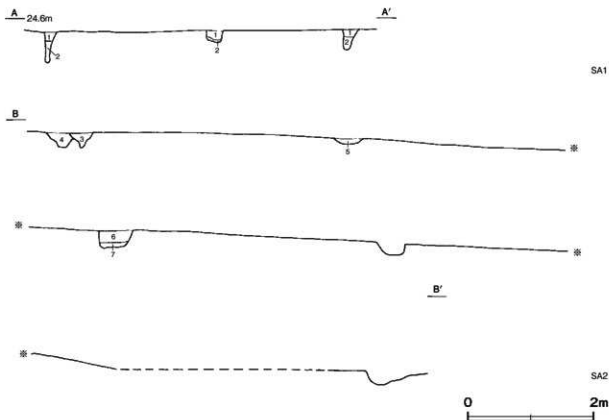
所見 本跡は、調査区に隣接して存在する香取神社境内北側に位置している。軸方向は神社北側境界線とほぼ一致し、また、柱間尺に統一性がないことから、第1・3・4号柱穴列と同じように、神社北側の境界杭跡が境界に沿った植栽痕の可能性はある。伴う土器が出土していないことから、時期は不明である。



第216図 第1～4・6号柱穴列実測図

表15 第2号柱穴列ピット一覧表

番号	位置	形状	規 模 (cm)				番号	位置	形状	規 模 (cm)			
			長径	×	短径	深さ				長径	×	短径	深さ
1	B 6 b9	楕円形	40	×	36	25	4	B 7 i1	楕円形	92	×	60	30
2	B 6 b9	円形	36	×	32	24	5	B 7 i2	円形	48	×	48	18
3	B 6 b6	楕円形	72	×	40	9	6	B 7 j4	楕円形	76	×	46	20



第217図 第1・2号柱穴列実測図

## 第3号柱穴列 (第216・218図)

**位置** 3区南部のB 6 h0区～B 7 i4区にかけて、標高23～24mの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 南東から北西方向15.84mの間に配置された柱穴5か所を確認した。軸方向は、 $N-68^{\circ}-W$ で、柱間寸法は、1.20～5.36mである。柱筋は揃っている。

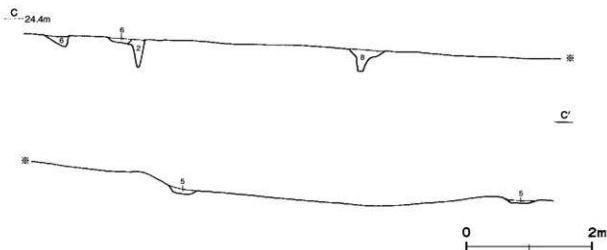
**柱穴** 5か所。平面形は円形または楕円形で、長径36～76cm、短径28～52cm、深さは4～44cmである。掘方の断面形はU字状で、埋め戻されている。

**所見** 本跡は、調査区に隣接して存在する香取神社境内北側に位置している。軸方向は神社北側境界線とほぼ一致し、また、柱間尺に統一性がないことから、第1・2・4号柱穴列と同じように、神社北側の境界杭跡か境界に沿った植栽痕の可能性もある。伴う土器が出土していないことから、時期は不明である。



表16 第3号柱穴列ピット一覧表

番号	位置	形状	規 模 (cm)			番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長径	×	短径				深さ	長径	×	短径	深さ
1	B 6 h0	円形	44	×	40	15	4	B 7 i3	円形	36	×	36	7
2	B 7 h1	楕円形	56	×	44	44	5	B 7 i2	楕円形	62	×	28	4
3	B 6 h0	楕円形	76	×	52	36							



第218図 第3号柱穴列実測図

#### 第4号柱穴列 (第216・219図)

**位置** 3区南部のB 6 h0区～B 7 j4区にかけて、標高23～24 mの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第6号柱穴列に掘り込まれている。

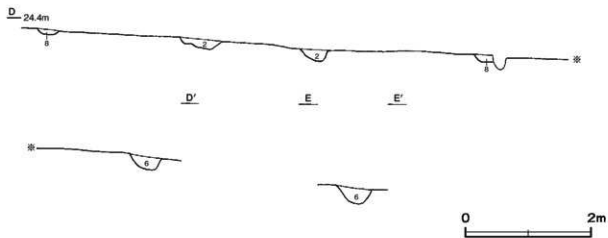
**規模と形状** 南東から北西方向17.20 mの間に配置された柱穴6か所を確認した。軸方向は、N-70°-Wで、柱間寸法は、1.60～6.80 mである。柱筋は揃っている。

**柱穴** 6か所。平面形は楕円形で、長径48～72cm、短径32～48cm、深さは6～25cmである。掘方の断面形はU字状で、埋め戻されている。

**所見** 本跡は、調査区に隣接して存在する香取神社境内北側に位置している。軸方向は神社北側境界線とほぼ一致し、また、柱間尺に統一性がないことから、第1～3号柱穴列と同じように、神社北側の境界杭跡か境界に沿った植栽痕の可能性が有る。伴う土器が出土していないことから、時期は不明である

表17 第4号柱穴列ピット一覧表

番号	位置	形状	規 模 (cm)			番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長径	×	短径				深さ	長径	×	短径	深さ
1	B 6 h0	楕円形	52	×	32	6	4	B 7 i2	楕円形	56	×	46	23
2	B 7 h1	楕円形	68	×	34	17	5	B 7 i3	楕円形	66	×	46	10
3	B 7 i2	楕円形	48	×	40	17	6	B 7 j4	楕円形	72	×	48	25



第219図 第4号柱穴列実測図

## 第6号柱穴列 (第216・220図)

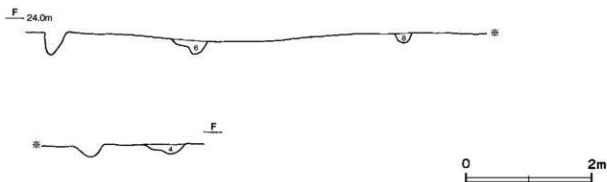
**位置** 3区南部のB 6i2区～B 7g1区にかけて、標高23mの台地縁部に位置している。

**重複関係** 第4号柱穴列を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南東から北西方向9.04mの間に配置された柱穴4か所を確認した。軸方向は、 $N-30^{\circ}-W$ で、柱間寸法は、2.32～3.36mである。柱筋は揃っている。

**柱穴** 4か所。平面形は楕円形で、長径34～64cm、短径24～46cm、深さは12～35cmである。掘方の断面形はU字状で、埋め戻されている。

**所見** 軸方向が台地縁辺方向とほぼ同じで、柱間尺に統一性がないことから、第5号柱穴列と同じように、平坦部と谷部を区画する杭列か土止めの可能性がある。伴う土器が出土していないことから、時期は不明である。



第220図 第6号柱穴列実測図

表18 第6号柱穴列ビット一覧表

番号	位置	形状	規 模 (cm)				番号	位置	形状	規 模 (cm)			
			長径	×	短径	深さ				長径	×	短径	深さ
1	B 7i2	不整楕円形	64	×	40	12	3	B 7h1	楕円形	62	×	46	25
2	B 7i2	楕円形	34	×	24	19	4	B 7g1	楕円形	48	×	40	35

## 第4節 ま と め

### 1 はじめに

今回の調査で、縄文時代の竪穴建物跡7棟、竪穴遺構1基、地点貝塚1か所、土坑54基、遺物包含層1か所、古墳時代の竪穴建物跡12棟、掘立柱建物跡3棟、竪穴遺構1基、土坑10基、平安時代の竪穴建物跡2棟、土器集中地点1か所、鎌倉・室町時代の整地遺構1か所、方形竪穴遺構1基、土坑16基、江戸時代以降の土坑1基、道路跡2条、溝跡7条、柱穴列1条などを確認した。このように、当遺跡では、人々の生活の痕跡が縄文時代前期から江戸時代以降近代まで断続的に残されていた。なかでも、縄文時代中期、古墳時代前期、鎌倉・室町時代については、遺物量が多く、それらは、当地域における編年的位置付けの基準となる好資料と思われる。そこで、当遺跡のそれぞれの時代の土器群などの編年的位置付けを検討し、時期をとらえてみたい。その後、当遺跡の各時期の土地利用状況などを概観することで、まとめとする。

### 2 縄文時代

#### (1) 中期中葉の土器群の時期細分について

本報告書では、中期を5期区分している。初頭、前葉、中葉、後葉、末葉の5期区分であり、関東地方の土器型式では、五領ヶ台式→阿玉台Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ式→阿玉台Ⅲ・Ⅳ式→加曾利EⅠ式→加曾利EⅡ・Ⅲ式→加曾利EⅣ式という5期であり、東北地方の太木7a式→太木7b式→太木8a式・8b式（古段階）→太木8b式（新段階）・9式→太木10式という時期区分に対応している。

また、中期中葉の土器群の時期細分については、当財団では吹野富美夫氏のつくばみらい市前田村遺跡での時期細分<sup>1)</sup>を基準とし、茨城町宮後遺跡<sup>2)</sup>や大洗町千天遺跡<sup>3)</sup>などを報告している。前田村遺跡における中期中葉の時期細分を阿玉台式、勝坂式、中峠式<sup>4)</sup>、大木式、加曾利E式などとの伴出関係についての記述を含めて概説すると、阿玉台Ⅲ式→阿玉台Ⅳ式（古段階）（阿玉台Ⅲ式・勝坂Ⅲ式・太木8a式が伴出しており、中峠式はほとんど認められない）→阿玉台Ⅳ式（新段階）（阿玉台式が客体で、勝坂Ⅲ式・中峠式・太木8a式土器が主体となる）→加曾利EⅠ式（古段階）（加曾利EⅠ式土器が成立し、伴出する土器群がわずかに減少する段階）→加曾利EⅠ式（中段階）（加曾利EⅠ式土器が主体となり、前段階の影響がなくなる段階）→加曾利EⅠ式（新段階）という変遷である。

一方、東関東の中期土器群を中心に研究を進めている塚本師也氏は、大木系の土器、馬高式の影響を受けている会津方面の土器、中峠式、阿玉台Ⅳ式などが出土している栃木県高根沢町上の原遺跡J D - 12号土坑出土土器群<sup>5)</sup>を加曾利EⅠ式最古段階に位置付けると「阿玉台Ⅳ式から加曾利EⅠ式中段階までの土器群変遷が、スムーズに理解できる」<sup>6)</sup>とし、中峠式の伴出を含め、阿玉台Ⅳ式から加曾利EⅠ式への土器群変遷を次のように提示している。

「阿玉台Ⅳ式段階：阿玉台Ⅳ式と中峠式系土器が組成をなす

加曾利EⅠ式古段階：中峠式系土器を主体に、僅かに関東地方東部の加曾利EⅠ式が伴う

加曾利EⅠ式中段階：加曾利EⅠ式中段階の土器に、僅かに中峠式が伴う」

というもので、近年もこの変遷を基に県内の中期中葉の土器群について論考<sup>7)</sup>している。

前田村遺跡での阿玉台Ⅳ式（古段階）は、隆帯に沿って連続爪形文が施されている勝坂式が多いことや

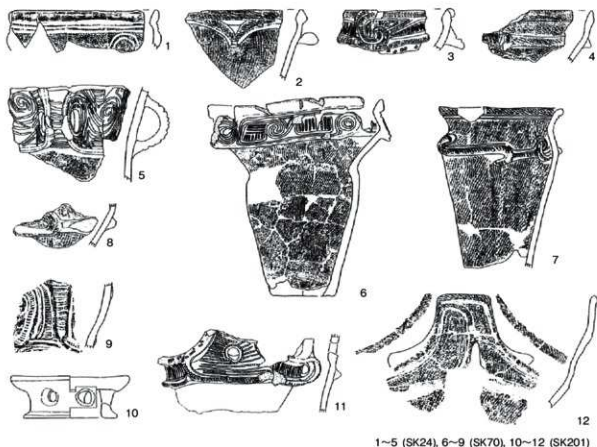
阿玉台Ⅲ式が伴出していることから、阿玉台Ⅲ式の範疇にすべきと考える。阿玉台Ⅳ式新段階としたものが、阿玉台Ⅳ式期の実態と思われる。前田村遺跡の阿玉台Ⅳ式期を組成でみると、阿玉台Ⅳ式は少なく、中峠式と勝坂式の割合が高くなっている状況があり、鬼怒川・小貝川中流域のこの時期の組成をよく示している。このようにとらえると、期中業の関東東部の土器変遷の考えは、吹野氏と塚本氏はほぼ同じとしてよいと思われる。要約すると、関東東部では、前田村遺跡第2550号土坑や上の原遺跡J D-12号土坑などの事例が加曾利EⅠ式古段階に位置付けられ、この時期に加曾利EⅠ式が成立し、中峠式が主体をなしているということである。期中業の時期細分については、本報告書においても二氏の阿玉台Ⅳ式期→加曾利EⅠ式古段階→加曾利EⅠ式中段階という変遷を基準とし、考察していくこととする。

## (2) 期中業の土器様相

期中業の遺構は、竪穴建物跡5棟、土坑40基で、阿玉台Ⅳ式期から加曾利EⅠ式新段階までの4時期に細分される。ここでは、当遺跡のそれぞれの時期の土器様相を述べる。

### 阿玉台Ⅳ式期

本時期の土器群は、第24・44・70・201・213・215・272号土坑出土の土器が該当する。阿玉台式系の土器は、口縁が波状のものと平縁のものがあり、厚さのある隆帯上に縄文が施文されているものが多い。本時期は阿玉台式に伴って、口縁に沿って交互刺突文を持つ中峠遺跡0地点型深鉢<sup>8)</sup>や肩部に縄文施文の横S字状の隆帯が連結する中峠遺跡5次2住型深鉢<sup>9)</sup>類似土器、隆帯に刻み目をもつ勝坂式系の土器なども伴



第221図 阿玉台Ⅳ式期の土器群 (S = 1/6)

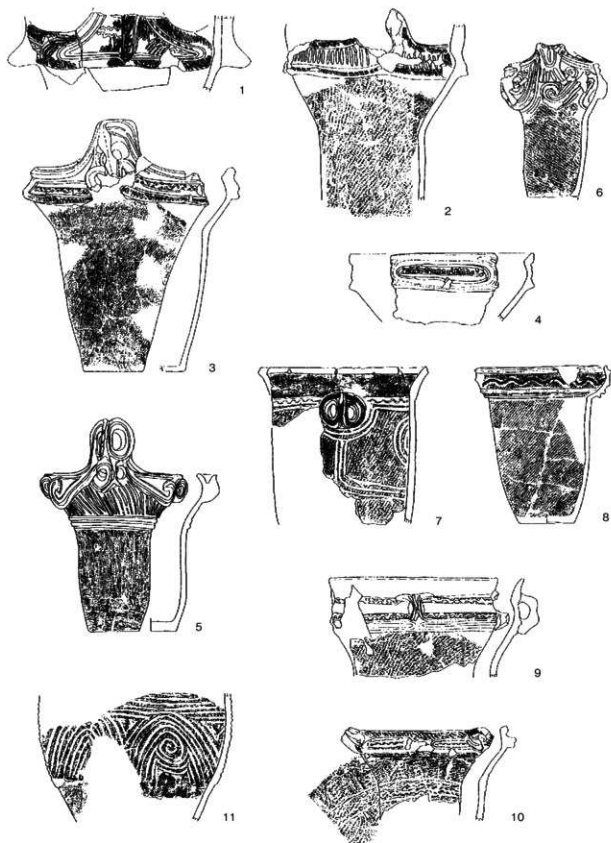
出しており、阿玉台式と中峠式、勝坂式とで組成をなす段階である。第221図6は、口縁部が無文で短く外傾する洋標状口縁を呈し、口頭部の内傾する位置に幅が狭い口縁部文様帯を構成し、眼鏡状把手をもち、隆帯区画に沿って沈線文が巡り、区画内には渦巻文と三叉文が施され、区画間を有節沈線で充填しているものである。洋標状口縁、内傾する位置での幅が狭い口縁部文様帯、眼鏡状把手など、中峠式の特徴を有している。渦巻文、三叉文、有節沈線による充填文など、勝坂式の影響化で成立した中峠式と考える。第201号土坑出土の11の阿玉台式に見られる有節沈線による充填文も勝坂式の阿玉台式への影響と思われる。5は会津方面の影響を受けた浄法寺タイプ<sup>30)</sup>へとつながる土器と思われ、北からの影響を受けた土器も確認されている。また、第201号土坑出土の10の器台(台形土器)は当地域の中期の土器にまれに伴出する土器であり、土器製作のための台、土器を載せるための台などの用途が考えられているものである。

当地域で、本時期の土器に中峠式が伴うことは、小美玉市田木谷遺跡<sup>11)</sup>などが知られていた。その後、土浦市御突遺跡第1号土坑の事例<sup>12)</sup>で確定的となった。第1号土坑の事例は、口縁部に眼鏡状把手と連続爪形文を伴う隆帯区画間に交互刺突文が施されている中峠遺跡0地点型深鉢の文様構成が見られ、胴部に阿玉台式の文様構成である縄文施文の隆帯文が施されている複合土器であり、中峠式と阿玉台式の同時性を証明する土器である。

#### 加曾利E I式古段階

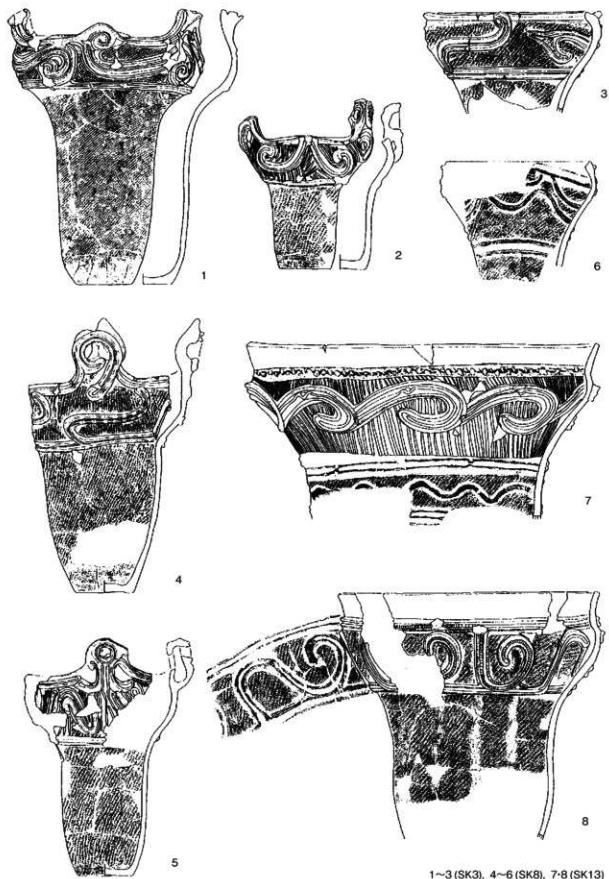
本段階の土器群は、第4・15・20号竪穴建物跡、第10・16・18・21・28・33・45・46・57・68・99・269・274・277・286・293・297・299号土坑出土の土器が該当する。第222図1のように阿玉台式の大波状口縁土器や7のような隆帯上に刻み目をもつ把手、11の胴部上半部に沈線による重直文が施される勝坂式系の土器は、わずかに残るだけとなっている。それらに変わって、当遺跡で主流を占める土器は、3・4・9・10の中峠遺跡0地点型深鉢や5の中峠遺跡6次1住型深鉢<sup>13)</sup>などの中峠式である。2は縄文施文の厚さのある隆帯区画間に沈線文が充填されているもので、阿玉台式を母体として、中峠式の進出に伴い口縁部にだけ隆帯文が残る。頭部以下には地文の縄文だけが施される当地域の加曾利E I式である。6は沈線を伴う隆帯による横S字状文や渦巻文が幅の広い口頭に施され、沈線を伴う中空の把手をもつものである。馬高式系の流れを組む会津方面の土器の影響を受けた浄法寺タイプの土器である。当地域における幅広な口頭部文様帯を有する加曾利E I式の成立に、中峠遺跡6次1住型深鉢とともに影響を与えたと考える。8は幅の狭い内湾する口縁部に隆帯文が施され、頭部以下に地文の縄文だけが施されている坪井上型深鉢<sup>14)</sup>と中峠式からの流れが考えられる土器で、沈線を伴わない隆帯により文様が描出されていることから本時期に位置付けるが、同じ文様構成をとるものは、次段階まで残る。

当地域における坪井上型深鉢と中峠式からの流れが考えられる土器と本段階の土器の出土例は、石岡市代官屋敷遺跡第3号土坑<sup>15)</sup>に見ることができる。代官屋敷遺跡例は、口縁部に縄文施文の厚めの隆帯による横S字状文が連続して貼られる中峠遺跡5次2住型系の土器と口縁部文様帯が狭く内湾する位置に沈線を伴わない隆帯による波状文が施されている坪井上型深鉢が伴出している。また、浄法寺タイプの土器と中峠式の伴出は、石岡市白久台遺跡第471号土坑の事例<sup>16)</sup>がある。第471号土坑の中峠式は、洋標状口縁を呈し、その下に交互刺突文が施され、口縁部に横S字状文が貼られているもので、交互刺突文と横S字状文の間は、沈線文により充填されている。また、同遺跡3号土坑からは、阿玉台式の環状把手をもつものと、交互刺突文と弧状の隆帯文の見られるものが伴出している。このように、当地域の本段階は、加曾利E I式の占める割合はあまり高くなく、中峠式の占める割合が高い段階である。



1-2 (SI 4), 3-4 (SI 15), 5-7 (SK10), 8-11 (SK274)

第 222 図 加曾利 E I 式古段階の土器群 (S = 1/6)



1~3 (SK3), 4~6 (SK8), 7-8 (SK13)

第 223 図 加曾利 E I 式中段階の土器群 (S = 1/6)

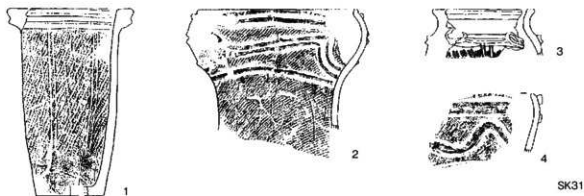
## 加曾利E I 式中段階

本段階の土器群は、第3・16号壺穴建物跡、第3・8・13・23・27・30・39・49・55・217号土坑出土の土器が該当する。第3号土坑出土の第223図1は、4単位の突起をもつ波状口縁を呈し、隆帯区画の口頭部文様帯には、背割隆帯によるクラク文から変化した渦巻文が施され、胴部には地文の縄文だけが施されるものである。1は典型的な加曾利E式で、2の中空の把手をもち、背割隆帯による左右対象の渦文が施されている浄法寺タイプからの流れが考えられる土器と伴出しており、本段階に位置付けられる。この浄法寺タイプ系統の土器と本段階の加曾利E式は、第8号土坑からも伴出している。そのほか、7・8は第13号土坑出土のもので、7は洋椀状口縁を呈し、交互刺突文をもち、口頭部に背割隆帯による「つ」の字状の隆帯が連続して貼られているもので、中峠遺跡6次1住型深鉢の系統である。胴部上位にも文様帯があり、隆帯区画間に隆帯による波状文が施されている。8も中峠遺跡6次1住型深鉢の系統で、口頭部の地文が縄文となっており、横S字状の流れの隆帯文は口頭部の文様帯をつなぐように貼られている。中峠遺跡6次1住例より1段階新しく考えられ、伴出している加曾利E式は幅広い口頭部文様帯に沈線を伴わない隆帯による渦巻文が施されるもので、本段階に位置付けられる。

この中峠遺跡6次1住型深鉢系統のものと同段階の加曾利E式土器は、石岡市三村城跡第18号土坑<sup>17)</sup>からも出土している。三村城跡例は、洋椀状口縁を呈し、口縁に沿って背割隆帯が貼られ、隆帯の一部だけに交互刺突文がみられ、広めの口頭部文様帯には、背割隆帯による円文とクラク文が施され、隆帯間には沈線文により充填されているものである。三村城跡例は交互刺突文が一部だけになっていること、口頭部全体をつなぐように隆帯文が貼られていることなど、中峠遺跡6次1住例よりは、新しいものとする。もう一例の加曾利E式は、波状口縁を呈する口頭部の幅が広いもので、背割隆帯により、口縁と頭部をつなぐようにクラク文が施され、胴部には地文の縄文上に半截竹管による懸垂文が施されているもので、本段階の典型的なものである。このように、当地域における本段階の土器群は、阿玉台式や膳坂式の影響がほとんどなくなり、加曾利E I式が浄法寺タイプや中峠遺跡6次1住型深鉢を取り込み、組成をなしている段階である。

## 加曾利E I 式新段階

本段階の土器群は、第31・35～37・273号土坑出土の土器が該当する。第31号土坑の事例は、当遺跡近くの石岡市東大橋原遺跡第3号土坑<sup>18)</sup>の一括資料で確認された口縁の平緑化、口縁部の文様帯幅の均一化、沈線を伴う隆帯文の多用、胴部に懸垂文以外の文様はあまり見られないことなど、本段階の特徴をよく示している。第224図3の口縁部が無文で外反している甕形の土器は、器形や口縁部を無文帯とする

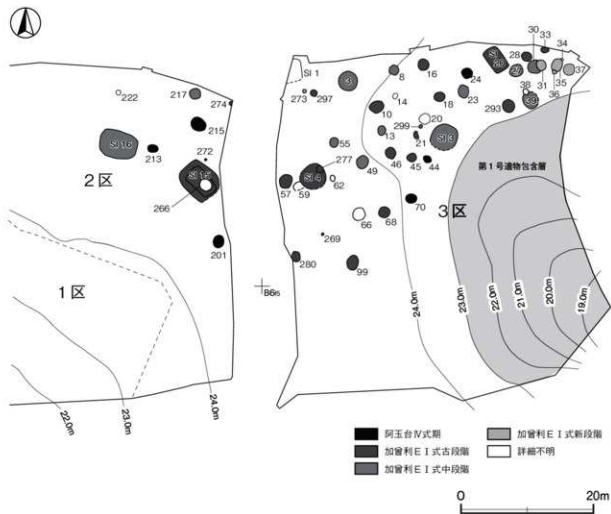


第224図 加曾利E I 式新段階の土器群 (S = 1/6)



ことなど、大木8b式の影響を受けている土器と思われる、東大橋原遺跡第3号土坑の事例と同じように、本段階と大木8b式（古段階）との並行関係を裏付けている。

西関東での本段階の土器の指標である頸部文様帯を無文とするものは、かすみがうら市志筑遺跡第8・9号住居跡<sup>19)</sup>から出土している。平縁で、口縁部の文様は沈線を伴う隆帯により区画され、渦巻文をもつ土器であり、本段階に位置付けられる。



第225図 縄文時代中期中葉の遺構分布図

(3) 中期中葉の集落の構成について

縄文時代中期中葉における当遺跡の集落は、阿玉台IV式期に営み始められる。阿玉台IV式期の遺構は、第24・44・70・201・213・215・272号土坑の7基で、内6基が袋状土坑である。土坑は、貝塚が存在する支谷（第1号遺物包含層）奥部の平坦部縁辺にまばらに分布している。竪穴建物跡は調査区域内では確認されなかったが、調査区域北部の平坦部に存在すると思われる。

加曾利E I式古段階の遺構は、竪穴建物跡は第4・15・20号の3棟、土坑は第10・16・18・21・28・33・45・46・57・68・99・269・274・277・280・293・297・299号の18基で、その内14基が袋状土坑である。竪穴建物跡は、有段の第15号竪穴建物跡が南西端部に位置し、3棟が支谷を取り囲むように位置しており、北東部へ広がるものと思われる。建物の間隔は17～33mほどあり、まばらな観がする。土坑は、竪穴建

物の周辺に多く存在し、建物廃絶までに1棟で5基程度の袋状土坑を造り替えていたようである。

加曾利EⅠ式中段階の遺構は、竪穴建物跡は第3・16号の2棟、土坑は第3・8・13・23・27・30・39・49・55・217号の10基で、その内9基が袋状土坑である。2棟の建物跡は48mと離れており、調査区域の北側の平坦部に本段階の建物が何棟か存在するものと思われる。土坑は、建物跡の北側周辺に多い。本段階の土坑の造り替えも、1棟について5基ほどである。

加曾利EⅠ式新段階の遺構は、第31・35～37・273号土坑の5基で、その内1基が袋状土坑である。竪穴建物は、貝塚が存在する支谷の北側や東側に移るようである。土坑は、支谷奥部の3区北東端部に集中している。本段階は土坑形態が袋状のものから、壁がほぼ直立する円筒形のものへと移る段階と思われる。

### 3. 古墳時代

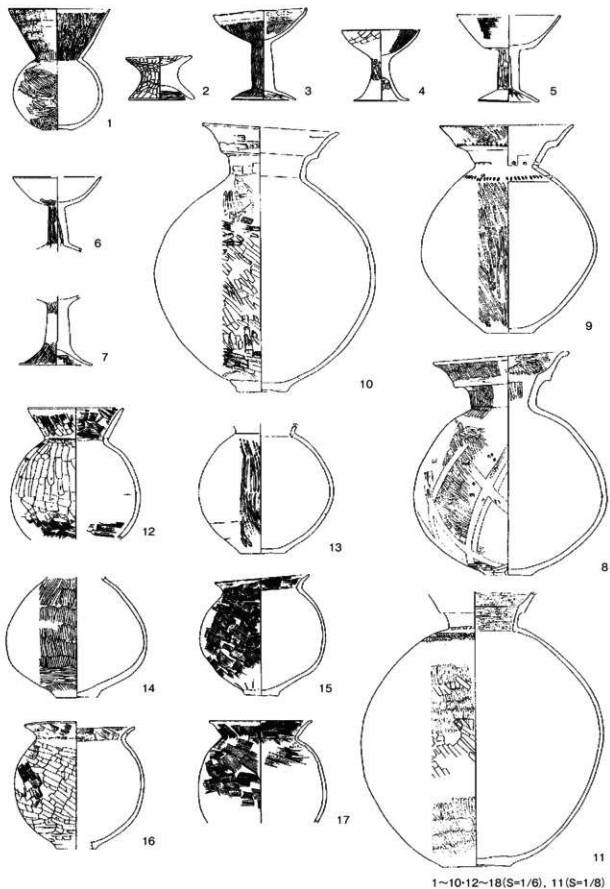
古墳時代前期の遺構は、竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、土坑1基であり、竪穴建物跡から比較的多量の土器群が出土している。ここでは、前期の土器群の編年の位置付けをし、その後、古墳時代全体の集落の構成について述べることとする。

#### (1) 前期土器群の編年の位置付けについて

前期の3棟の竪穴建物跡出土土器群は、土器群の特徴からほぼ同時期のものと考えられる。土器総数は54点で、器種別の数は壺17・小形壺1・甕9・小形甕3・埴2・高坏18・器台3・鉢1である。多いのは壺類・甕類・高坏で、少ないのは器台・埴・鉢で、台付甕は確認されていない。以下、土器の特徴を列記する。

- ア 壺は有段のもの6点、複合口縁のもの5点、単口縁のもの3点である。縄文や沈線文などで裝飾されているものはなく、有段口縁下端と肩部に刻み目が施されるものが1点ある。有段口縁の壺は外反するものが多く、段下端の稜が鋭いものと丸みがあるものがあり、丸みのあるものが多い。複合口縁のものや単口縁のものには赤彩が見られない。
- イ 甕は口縁部がくの字に外反するもので、全面、ハケ目整形されている。体部は長胴のもの3点、丸みのあるもの5点である。小形のものには口縁部が内彎し、受口状のものもある。
- ウ 埴は中形のもの全体によく磨かれており、口径と体部径がほぼ同じものである。小形のもの体部径より口径が広いもので、丸底である。
- エ 高坏は、組成に占める割合が高いことを指摘できる。すべて、脚が高く細い屈折脚で、窓がないものである。中実柱状のものは3点である。坏部は内彎して立ち上がるもので、深さはあまりないものが多い。
- オ 器台は組成に占める割合が低くなっている。3点のうち2点が、器受部に孔をもたないX字状のものである。

前期土器群の特徴は、壺は有段口縁のものがやや多くあり、縄文などで裝飾されているものがないこと、甕は台付甕がなく、平底甕には長胴のもの丸みのあるものがあること、高坏はすべて窓をもたない高く細い屈折脚で、中実柱状のものもあること、器台は少なくX字状のものがあることなどである。これらの特徴は、前期6期区分の4期に位置付けられる小美玉市並木新田台遺跡例<sup>20)</sup>の壺や甕に見られるよ



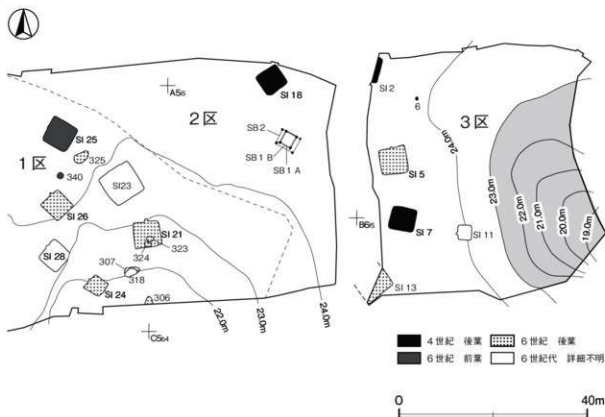
第 226 図 古墳時代前期 5 期の土器 (SI 18)

うな無文化、口唇部の無調整などを受け継いでいるが、有段の壺が多くなっていることやハケ目整形されている平底甕では、丸みのあるものが多いなど、並木新田台遺跡例より後出的な要素と考えられる。さらに、当遺跡の最大の特徴は、18点出土した高坏にあり、並木新田台遺跡の高坏には多様性があったものが、すべて窓のない高く細い屈折脚になっていることである。上述した1～6のような特徴は、土浦市弁才天遺跡<sup>21</sup>においても認められ、弁才天遺跡のこれらの土器群は前期後半と位置付けられている。これらのことから、当遺跡の竪穴建物跡出土の土器群を前期6期区分の5期に位置付け、4世紀後葉と考える。

## (2) 集落の構成について

4世紀後葉の遺構は、第2・7・18号竪穴建物跡の3棟が、第1号遺物包含層がある支谷奥部の平坦部で確認されている。調査区域の北側には平坦部が広がっており、遺跡全体では、もっと建物棟数が増える可能性がある。本時期の集落は、5棟前後でグループを構成していたと考えられる。2号掘立柱建物跡は、第7号竪穴建物跡と第18号竪穴建物跡の間に位置し、桁行、梁行ともに1間である。第1A・1B掘立柱建物跡と同一場所にあり、第1A・1B掘立柱建物と相前後して建てられたと思われる。掘立柱建物は竪穴建物と同時期に機能していた可能性があり、5棟前後で構成される一つのグループを単位集団と呼ぶと、一単位集団に1棟は、第2号掘立柱建物跡のような倉庫的な建物があったのではないかと考える。

6世紀前葉になると再び、集落が営まれ始まる。第25号竪穴建物跡1棟であり、単位集団を構成する建物が調査区域の北側に存在する可能性がある。6世紀後葉になると二つの単位集団が存在するようになる。西側の単位集団は、第23・28号竪穴建物跡を同時期に位置付けると、第21・24・26号竪穴建物跡



第227図 古墳時代の遺構分布図

を含めて5棟で構成されている。5棟の間隔は6～10mほどの距離で、中央の広場を囲むように建てられている。第23号竪穴建物跡は、一辺が7m以上の規模があり、西側の単位集団の中心建物と思われる。東側の単位集団は、第11号竪穴建物跡を同時期に位置付けると、第5・13号竪穴建物跡と合わせて3棟が確認されている。東側の単位集団は、調査区域の南側に広がる可能性があり、西側の集団と同様に、5棟前後で単位集団を構成していたと思われる。建物跡の間隔は、約18mと西側の集団よりは離れている。東側の単位集団では、第13号竪穴建物跡が一辺が7m以上あり、中心建物と思われる。

#### 4 鎌倉・室町時代

##### (1) 整地遺構と石塔の埋納について

第1号整地遺構は、1区南部の傾斜していた台地を削り出しにより形成された平坦部に位置する。平坦部の東端部は南東側に小支谷が入り込んでいるため、段差となっている。段差の東部はほぼ平坦で、その台地は尾根状に南西へ延び、台地端部に高野浜城跡が存在する。後世に、段差に沿って、第4号溝跡が掘られている。平坦部と第4号溝跡の確認面との比高は、南端部で1mほどである。本跡は段差から18mほど西に位置し、一辺70m、深さ30cmほどの方形に掘り込まれ、ロームブロックや山砂を混入させた暗褐色土などを突き固めて整地されているものである。当初は、低い基壇状を呈していた可能性がある。

本跡からは、石塔集中出土地点も含めると25基の土坑が確認された。土坑はほぼ全面に分布し、東部と南部に多い。中央部に径1.9mほどの空白地がある。大規模な土坑は、径1m以上の規模があり、3～10点ほどの石塔部材がまとまりをもって出土している。規模の小さい土坑にも石塔部材が納められた後、大規模な土坑と同じように山砂などを混入させた褐色土などが充填されている。土坑や石塔集中地点から出土した石塔部材は、同種類の部位のものが多く、周辺の石塔部材を場所ごとにまとめて埋納したものである。また、掘方底面や土坑内から出土した土師質土器小皿は、形態差がなく、ほぼ同時期のものと思われることから、整地域造成と土坑への石塔埋納に、時間差はさほどなかったと考えられる。

本跡は、一辺約70mの方形に掘り込みがなされ、埋土は版築状に突き固められていることから、当初は御堂などを建てるための基壇を造成しようとしていた可能性がある。整地域造成直後、何らかの理由があつて変更し、周辺から集められた石塔が出土場所ごとにまとめて、埋納されたと思われる。しかし、第2・3号石塔集中地点では、宝篋印塔の部材に五輪塔の部材が1点だけ混じっていたり、五輪塔の部材だけが出土した21号坑のように、空風輪部と水輪部が3点ずつ出土しながら、火輪部が出土しなかったりしているのは、倒れていた部材を集めただけで、再び造立しようとする意思はなかったと考えられる。小規模な土坑から出土した1点だけの石塔部材や部材片もそのことを示唆しており、整地域内に石塔部材を埋納することを目的としていたようである。このようなことから、本跡は、中央部の径1.9mほどの整地面に小さな御堂を建て、その周辺に先祖が造立した石塔を運び、埋納した遺構と考えられる。

##### (2) 石塔の年代とその時代背景について

本跡からは、石塔の部位が判断できる部材片が42点出土している。上述のように、遺構内土坑から出土した部材が必ずしも一組のものとは限らないが、形状などから組合せを想定し、年代や形状を知ることのできる石塔と当遺跡の石塔を比較し、編年を考えてみたい。

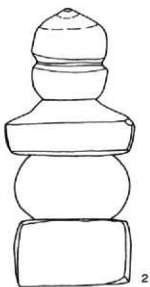
宝篋印塔の部材は12点出土している。部位ごとでは、相輪4点、笠2点、塔身3点、基礎3点である。

第228図1は、遺存状態が良好だった笠を中心に組み合わせを想定したものである。相輪と基礎は第2号石塔集中地点から出土している。基壇は出土していないが、想定される高さは81cmである。各部位の特徴を述べると、相輪は宝珠の突起が明瞭でなく、九輪は3本の沈線で表している。請花や伏鉢に装飾は見られない。笠の軒先と隅飾り突起は一直線上で、わずかに外傾し、軒下には2段の段差をもっている。塔身上部には段差がない。関東地方の宝篋印塔で紀年名があるものと、年代差がよくわかる笠に注目して比較すると、当遺跡の笠の特徴は、軒先と隅飾り突起が一体化し、外側にやや開くもので、神奈川県相模原市の無量光寺文安二年(1445)銘のものより新しく、埼玉県秩父郡長瀬町総持寺天文五年(1536)銘のものに近いものと思われる。当遺跡で組み合わせられた宝篋印塔の年代を16世紀前半頃と考える。

五輪塔の部材は30点出土している。部位ごとでは、空風輪10点、火輪3点、水輪8点、地輪9点である。2は、火輪を中心に組合せを想定したものである。空風輪と火輪は19号坑から出土している。基壇は出土していないが、想定される高さは、60cmである。各部位の特徴を福年の観点となるところを中心に述べる。空輪と風輪のくびれ部は浅いくの字状である。火輪は幅に比べ低く、軒先の反りはみられない。水輪・地輪は、ともに幅に比べ低いことを指摘できる。石岡市周辺では、土浦市戸崎中山遺跡<sup>20</sup>で、古墳を再利用した塚及びその周辺から、五輪塔部材が300点以上出土している。当遺跡のものと戸崎中山遺跡のものを比較すると、戸崎中山遺跡のものは、空風輪はくびれ部が深いL字状で、空輪と風輪が明瞭に区分されているものが多い、火輪は当遺跡のものより高さがあり、軒先の反りも大きいという特徴がある。これら



1 宝篋印塔(Q62-66-69-70)



2 五輪塔(Q77-83-87-94)



は、室町時代中期の五輪塔の特徴<sup>23)</sup>とされ、当遺跡のものより古く考えられる。また、戸崎中山遺跡では、常滑9型式<sup>24)</sup>に比定される壺や大甕などが石塔部材と伴出していることから、15世紀前半頃が石塔造立の上限の時期と考えられる。紀年銘をもつものでは、つくば市北条の八坂神社に、天文六年(1537)の紀年銘がある経筒を格納している五輪塔が知られている。八坂神社例は空風輪のくびれ部が浅い溝状であること、火輪は幅に比べ高さが低いこと、軒の出が浅く反りがみられないこと、水輪・地輪ともに幅に比べ高さが低いことなど、当遺跡のものの特徴が似ているところがある。当遺跡の五輪塔の年代を16世紀中頃とすることができると思われる。

次に、石塔が埋納された整地遺構の造成された年代について考えてみたい。整地遺構掘方底面や整地域内土坑から土師質土器小皿が20点出土し、それらはほとんど形態差がないことから、小皿の編年の位置付けをすることが整地遺構を造成し、石塔を埋納した時期となると考える。小皿の計測値は、口径6.5～8.2cm、器高1.8～2.3cm、底径3.9～5.6cmで、口径が小さく、口径に対して底径が大きい、器高は低いという特徴がある。そのほか、器壁は厚いものが多いこと、内底面は渦巻き状にナデた後、さらに横ナデを施したものが多く、板目状圧痕が見られるものが3点あることなどの特徴を挙げることができる。これらの特徴は田口分類<sup>25)</sup>の「口径に対して器高が低く、E類に比べて底径が大きい」F類に当たる。F類の内底面調整は「幅広い渦巻き状にナデる」ものなどであり、この点も本跡出土の小皿と一致する。F類の出土例として茨城町小幡城跡第1・4号堀跡例<sup>26)</sup>、笠間市六戸城跡第2号池跡、同跡第29号土坑例<sup>27)</sup>などを挙げ、16世紀後葉から17世紀前葉に位置付けている。本跡出土の小皿も小幡城跡例などと同時期に位置付けられ、整地域に石塔が埋納された時期を16世紀後葉から17世紀前葉と考える。

それでは、16世紀代に石塔が造立され、後に、整地域に石塔がなぜ埋納されたか歴史的背景を考えてみたい。当遺跡から南西の台地端部には、高野浜城跡が位置する。高野浜城は、石岡城、三村城、竹原城とともに府中城を本城とする大掾氏の出城と考えられている。16世紀代の大掾氏は、南の小田氏、北の江戸氏との戦いに明け暮れている。16世紀前半の慶幹の代には、小高氏の誘いにのった小田氏に攻められるが、長者原で小田氏を破り、小高氏の居城である小高城を奪取し、行方まで勢力を広げている。水上交通の要衝である霞ヶ浦を守るためにも恋瀬川河口は重要視され、慶幹は三村城を大改修<sup>28)</sup>している。高野浜城も恋瀬川河口を守る拠点として、再整備されたと思われる。そのような時、高野浜城に関連する一族のための墓標や供養塔として造立されたのが、当遺跡の石塔群と思われる。

表19 大掾氏関連年表(16世紀)

年号	できごと	大掾氏当主
享祿 4年(1531)	小田政治と江戸通泰龜子原の戦い(大掾は小田側)	常幹
天文 15年(1546)	小高直幹の誘いに乗った小田政治が慶幹を攻めるが、慶幹は長者原で破り、小高氏の居城小高城を奪取する 三村城改修	慶幹
天文 20年(1551)	慶幹没する	
永祿 6年(1563)	三村合戦で、小田氏治に敗れる	貞国
永祿 7年(1564)	佐竹義昭が小河城より府中城に進駐	貞国
永祿 8年(1565)	佐竹義重の上浦城攻めに貞国出馬	貞国
天正 2年(1574)	小田天庵(氏治)父子の攻略により三村城落城 大掾常春(慶幹次子)死去	貞国
天正 5年(1577)	貞国死去	
	佐竹義重に属して下野小山に出兵	清幹
天正 12年(1584)	佐竹義重に属して上野沼田に出兵	清幹
天正 13年(1585)	江戸重通、片倉に砦を築き、小川城に兵を入れ、府中を攻撃	清幹
天正 14年(1586)	江戸重通、滑川に進攻	
天正 16年(1588)	佐竹義重・義宣父子、江戸・園部氏をたすけて、田余砦を陥落させ、さらに府中を攻略	清幹
天正 18年(1590)	佐竹氏水戸城を奪い、府中を攻略 大掾氏滅亡	清幹
天正 19年(1591)	佐竹義宣、本拠を水戸に移す	
文祿 3年(1594)	太閤検地が実施され、佐竹氏家臣団の知行再編成が行われる	
	府中には佐竹一門の商家が入る	

16世紀後半になると大掾氏は勢力を弱める。天正2年(1574)には、小田氏との戦いで三村城が落城し、天正16年(1588)には、佐竹氏の援けを受けた江戸・關部氏により、田余砦が陥落する。そして、2年後、佐竹氏が江戸氏を追放して水戸城を奪うと、さらに南下し、府中が攻略され、大掾氏は滅亡する。文禄3年(1594)には太閤検地が実施され、石岡地方は佐竹一門の南家の支配下となるのである。

このように、16世紀後半の大掾氏は、度々の戦に負け続け、ついには滅亡に至る。東田中の村は、長い間領主であった大掾氏に変わって、佐竹氏の支配下となったのである。そのような時、村人たちは、小さな御堂を建て、村内の石塔を場所ごとに埋納し、先亡者を供養したと思われる。

## 5 おわりに

今回の調査から得られた成果を、縄文時代、古墳時代、鎌倉・室町時代の三つに分け、述べてきた。それぞれの時代の土器編年が確立しているとは言えないので、本報告書では、編年案を提示することから始めた。その編年案を時間軸に当遺跡の土器を位置付けることで、いくつかの成果が見られた。一つは、縄文時代中期中葉では、当地域は阿玉台式分布の中心地域でありながら、その終末では、勝坂式や中幹式の進出が従来考えていた以上に目立ち、それらが当地域の加曾利E式成立に大きな影響を与えたということがわかったことである。二つ目は、古墳時代前期では、土器の特徴を遺跡ごとに大きく捉え、土器組成の考えなどを入れて編年を考えていくと、一時期で集落を廃絶している遺跡が多いということがわかったことである。当遺跡も一時期で集落を廃絶している。三つ目は、石塔の編年の位置付けについては、紀年銘のあるものが実年代を決める上での大きな手がかりになるということである。共通性が手がかりに年代を位置付け、違いを年代差や地域性と考えたのである。

最後に、本報告書では、当遺跡近くのぜんぶ塚古墳、舟塚山古墳、愛宕山古墳など、集落と墳墓との関係などについて検討していない。当遺跡については、4区の貝塚、5区の縄文時代、及び古墳時代の集落などの報告が残っているので、課題としておきたい。

## 註

- 1) 吹野富美夫 宮崎修士 柴田博行 「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 前田村遺跡G・H・I区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第146集 1999年3月  
吹野富美夫 「前田村遺跡G・H・I区における縄文時代中期中葉の土器様相」『研究ノート』8号 茨城県教育財団1999年6月
- 2) 吹野富美夫 川又清明 野田真直 浅野和久 「宮後遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第188集 2002年3月  
吹野富美夫 和田清典 浅野和久 荒井一郎 駒澤悦郎 「宮後遺跡2 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第240集 2005年3月
- 3) 寺内久水 「千天遺跡 主要地方道大洗友部線道路改良事業内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第384集 2014年3月
- 4) 下総考古学研究会 「中時遺跡調査概要」『下総考古学』6 1976年5月  
下総考古学研究会 「特集」中時式土器の再検討」『下総考古学』15 1998年5月
- 5) 青木健二 「芳賀高根沢工業団地内上の原遺跡発掘調査報告書」栃木県企業局 1981年3月
- 6) 塚本師也 「栃木県南部域の土器と地町土器」『国立歴史民俗博物館研究報告』第120集 2004年3月
- 7) 塚本師也 「田木谷遺跡出土の縄文時代中期中葉の土器について－蘆ヶ浦北岸における中期中葉の土器様相－」『玉里村立史



料館報』Vol.10 2005年3月

塚本師也「田木谷遺跡出土の縄文時代中期中葉の土器について(2) - 縄文中期中葉の霞ヶ浦北岸における土器様相 -」『玉里村立史料館報』Vol.11 2006年2月

塚本師也「茨城県北部における大木7b式期の土器 - 特に七郎内II群土器と所謂スワタイプについて -」『常能台地』16 2009年12月

塚本師也「鬼怒川・小貝川流域の加曾利E1式期の土器 - 田岡城町西原遺跡第61号住居跡出土土器の位置付け -」『茨城県考古学協会誌』第22号 2010年5月など

- 8) 註4) 文献に同じ。幅の狭い口縁部が内湾する位置での文様帯をもつことが特徴。口縁部文様として区画文は少なく、体部には地文の縄文だけが施されることが多いものである。
- 9) 註4) 文献に同じ。平縁で、口縁部に横S字状の隆帯が連続して貼られているもの。阿玉台式後半の粗製土器に関連するものと考えている。
- 10) 塚本師也「浄法寺遺跡」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第196集 栃木県教育委員会 1997年3月
- 11) 橋本勉「田木谷遺跡出土の中期縄文土器」『優良岐考古』第5号 1983年5月
- 12) 小川和博ほか「木田余台I」土浦市遺跡調査会 1991年3月
- 13) 註4) 文献のほか、下総考古学会「(特集) 千葉県松戸市中時遺跡第6次調査の成果」『下総考古学』23 2014年5月
- 14) 鈴木素行「坪井上の伝言 - 久慈川下流域における縄文時代中期中葉の土器群 -」『優良岐考古』第23号 2001年5月  
第251号土坑出土土器で、平縁を呈し、内湾する口縁部文様帯は狭く、横S字状の隆帯が貼られ、頸部には縄文だけが施されている。頸部と胴部は6本の横位の沈線文で区画され、胴部にも沈線文が施されているものである。時期は、伴出した土器から阿玉台式中期と考える。このように、口縁部文様帯の幅が狭く、縄文だけが施されている頸部文様帯をもち、胴部と何本かの沈線文で区画される土器を「坪井上型深鉢」と呼んでいる。
- 15) 小杉山大輔「代官屋敷遺跡発掘調査報告書 - 石岡小学校温水プール建設にともなう調査 -」石岡市教育委員会 2005年3月
- 16) 小川和博「石岡市白久台遺跡の土器」『常能台地』16 2009年12月
- 17) 栗田功「三村城跡 - 一般県道飯岡石岡線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第299集 2008年3月
- 18) 川崎純徳 海老沢ほか「石岡市東大橋原遺跡 - 第1次調査報告 -」石岡市教育委員会 1978年3月
- 19) 山本貴之ほか「常磐自動車道間係埋蔵文化財発掘調査報告書I 志気遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第5集 1980年3月
- 20) 佐々木義則 野坂俊之 海老沢俊「並木新田台遺跡」茨城県美野里町教育委員会 1988年3月
- 21) 北毛君男 福田礼子編「弁才天遺跡・北西原遺跡(第5次調査)」『土浦市総合運動公園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第4集 土浦市教育委員会 2006年3月
- 22) 小竹茂美 浦相敏郎「戸崎中山遺跡 霞ヶ浦環境センター(仮称)整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第218集 2004年3月
- 23) 黒澤彰哉「石岡の石仏」石岡市教育委員会 1996年3月
- 24) 大岡武「県内出土の国産陶器 - 古瀬戸・瀬戸美濃・常滑・瀬美の製品を中心に -」『茨城の中世考古学の最前線』茨城県考古学協会 2011年1月
- 25) 山口勝子「県央・県北のかわらけ - 15世紀 - 17世紀前半を中心として -」, 註24) 文献に同じ。
- 26) 芳賀友博 須賀川正一 杉澤季展「小幡城跡 前新堀遺跡 前新堀B遺跡 諏訪山塚群 轟山塚東関東自動車道水戸線(茨城南IC - 茨城JCT) 建設事業地内埋蔵文化財調査報告書III」『茨城県教育財団文化財調査報告』第314集 2009年3月
- 27) 稲田義弘「新善光寺跡 穴戸城跡 主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第256集 2006年3月
- 28) 志田諱一「石岡の歴史」石岡市史編さん委員会 1984年11月

## 第4章 中津川遺跡

### 第1節 調査の概要

中津川遺跡は、石岡市の南東部、山王川の右岸の標高20～25mの台地中央部から縁辺部に立地している。今回報告するのは、平成25年度に調査した405㎡であり、遺跡の北東部にあたる。当遺跡は縄文時代から江戸時代以降にかけての複合遺跡である。

調査の結果、土坑2基（縄文時代、時期不明各1基）、道路跡1条（江戸時代以降）、溝跡2条（江戸時代以降、時期不明各1条）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に1箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、弥生土器（大口壺）、土師器（甕）、須恵器（坏）、陶器（碗）、瓦、石製品（砥石）などである。

### 第2節 基本層序

平成20・21年度調査区の中央部（E7a1区）にテストピットを設定し、第229図に示すような土層堆積の状況を確認した。土層は8層に分層された。土層の観察結果は以下のとおりである。

第1層は、現耕作土で、層厚は14～24cmである。

第2層は、暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は7～24cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトロームとハードロームブロックを含む層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は4～38cmである。

第4層は、褐色を呈するソフトロームとハードロームブロックを含む層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は4～27cmである。

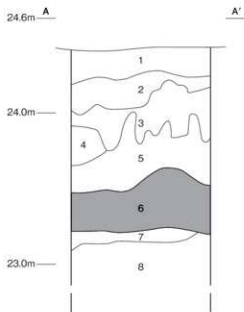
第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は17～48cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともともに強く、層厚は26～40cmである。第2黒色帯と考えられる。

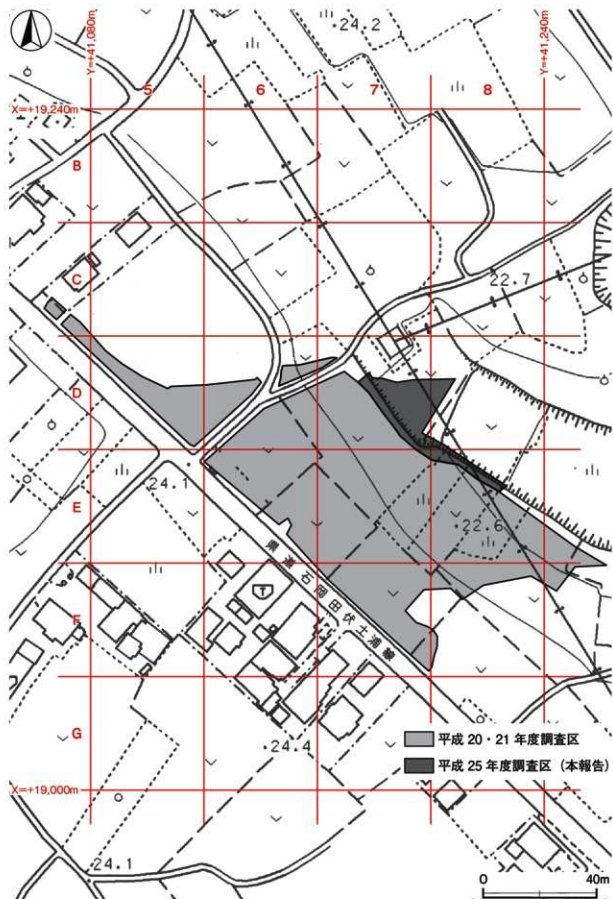
第7層は、褐色を呈するハードローム層で赤城鹿沼軽石（Ag-KP）を含む層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は5～14cmである。

第8層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は44cmまで確認したが、下層は未掘のため不明である。

土坑などの遺構は、第2層上面で確認した。



第229図 基本土層図



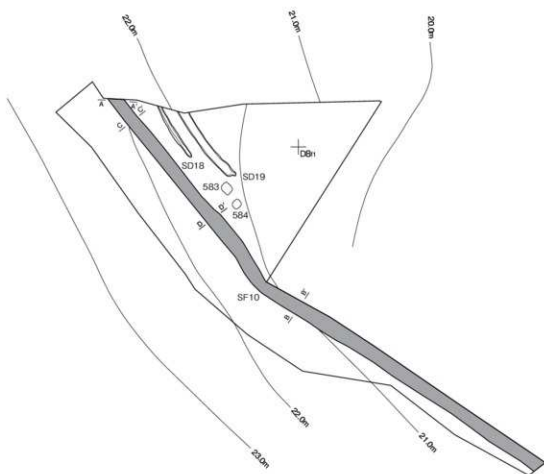
第 230 図 中津川遺跡調査区設定図 (石岡市都市計画図 2,500 分の 1 より作成)



X=+19,160m  
Y=+41,176m  
D7a

D6a

X=+19,160m  
Y=+41,228m  
D6a



X=+19,092m  
Y=+41,176m  
E7a

X=+19,092m  
Y=+41,228m  
E8a



第 231 図 中津川遺跡遺構全体図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑1基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

土坑

##### 第583号土坑（第232図）

**位置** 調査区中央部のD7g9区、標高21mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.18m、短軸0.98mの隅丸長方形で、長軸方向はN-40°-Wである。底面は東側へやや傾斜している。深さは8~10cmで、壁は外傾している。

**覆土** 2層に分層できる。西側からの流れ込みが見られる自然堆積である。

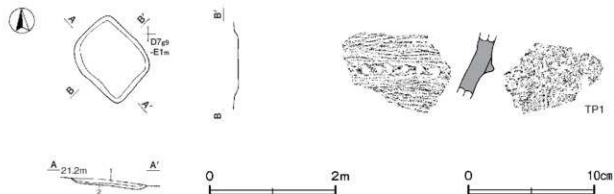
土層解説

1 褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック粒子少量

**遺物出土状況** 覆土中から縄文土器片1点（深鉢）が出土している。周囲から流れ込んだものと見られる。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第232図 第583号土坑・出土遺物実測図

##### 第583号土坑出土遺物観察表（第232図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	外・内面貝殻条痕文 隆起縁上に貝殻微跡による刻み目	覆土中	

#### 2 江戸時代以降の遺構と遺物

当時代の遺構は、道路跡1条、溝跡1条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

##### (1) 道路跡

##### 第10号道路跡（第233図）

**位置** E8d7区-D7d5区にかけて、小支谷に沿った標高21mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 調査区南東端部のE 8 d7区から北西方向(N-56°-W)へ伸び、D 7 9区でわずかに屈曲し、調査区北西端部のD 7 d5区に至っている。確認できた長さは、61.2 mである。硬化している部分から推定される上幅は、1.5～1.9 mで、上面は北東側へ傾斜している。地山は南西側で確認し、構築土は流出しているため、確認できなかった。

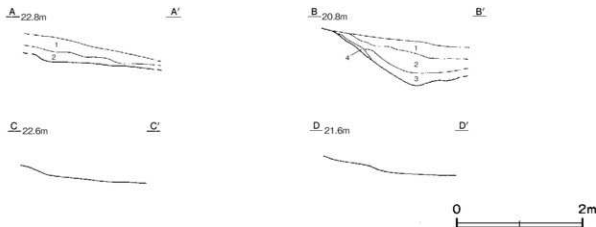
**覆土** 3層に分層できる。南西側からの流れ込みが見られる自然堆積である。1層上部と2層上部は硬化していることから、路面は2面確認でき、構築土流出後、堆積土上面を路面として使用したと思われる。

**土層解説**

- |        |                   |        |         |
|--------|-------------------|--------|---------|
| 1 褐 色  | ロームブロック微量 (全体に硬い) | 3 明 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック微量 (上部に硬い) |        |         |

**遺物出土状況** 陶器片5点(碗4、皿1)、磁器片1点(碗)、瓦質土器片1点(火鉢)、鉄製品1点(釘)が、覆土中から出土している。出土土器は細片のため図示できなかった。そのほか、縄文土器片9点(深鉢)、土師器片6点(甕)、須恵器片2点(甕)が出土している。

**所見** 時期は、出土した陶器から19世紀以降と考えられる。



第 233 図 第 10 号道路跡実測図

(2) 溝跡

第 19 号溝跡 (第 234 図)

**位置** 調査区北部のD 7 9区～D 7 d7区にかけて、標高 21 mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** D 7 9区から北西方向(N-36°-W)へ直線的に延びている。北側が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは 9.80 mである。上幅 1.05～1.20 m、下幅 0.85～1.10 m、深さ 15～25 cmである。断面形は浅い U 字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

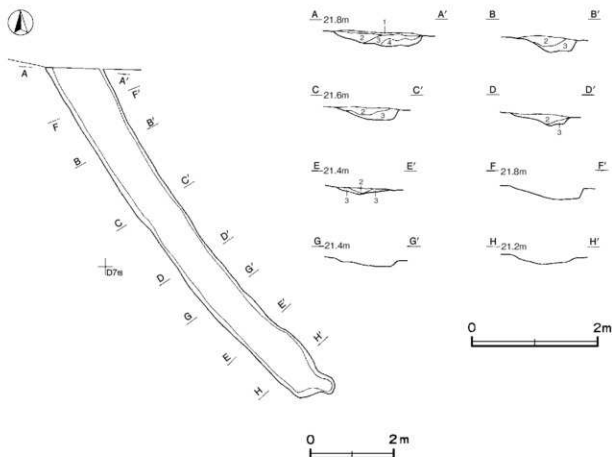
**覆土** 4層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |        |           |       |           |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 灰 褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐 色 | ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 陶器片2点(碗)が、覆土中から出土している。出土土器は細片のため図示できなかった。そのほか、縄文土器片8点(深鉢)が出土している。

所見 走向方向が地籍図の区割りとほぼ一致することから、区画溝と考えられる。時期は、出土した陶器から19世紀以降と考えられる。



第 234 図 第 19 号溝跡実測図

### 3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明らかでない土坑1基、溝跡1条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

#### (1) 土坑

##### 第 584 号土坑 (第 235 図)

位置 調査区中央部の D7g9 区、標高 21m ほどの台地縁部に位置している。

規模と形状 長軸 0.94 m、短軸 0.82 m の隅丸長方形で、長軸方向は  $N - 42^\circ - E$  である。底面は平坦である。深さは 24cm で、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積をしており、埋め戻されている。

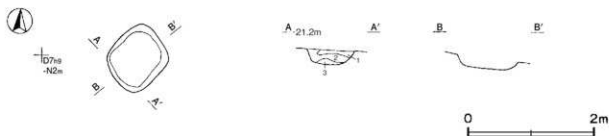
#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ロームブロック少量

2 黒色 ローム粒子少量

所見 出土遺物がなく時期・性格ともに不明である。



第 235 図 第 584 号土坑実測図

## (2) 溝跡

## 第 18 号溝跡 (第 236 図)

**位置** 調査区北部の D7f8 区～D7d7 区にかけて、標高 21m ほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** D7f8 区から北西方向 (N-33'-W) へ直線的に延びている。北側が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは 7.05 m である。上幅 0.45～0.65 m、下幅 0.20～0.35 m、深さ 10～16 cm である。断面形は浅い U 字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

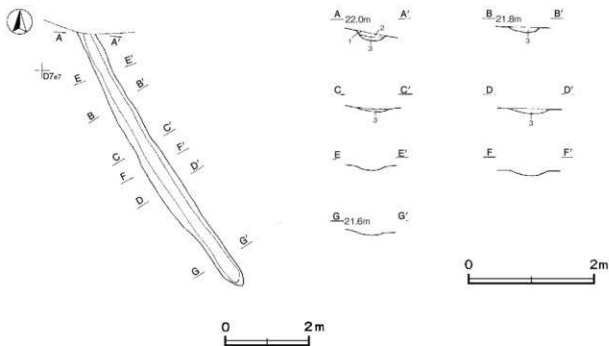
**覆土** 3層に分層できる。西側からの流入が見られる自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量  
2 黒褐色 ロームブロック微量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量

**所見** 走向方向が地籍図の区割りとはほぼ一致することから、区画溝と考えられる。時期は、出土遺物がなく不明である。第 19 号溝跡と走向方向がほぼ同じであるが、詳細は不明である。

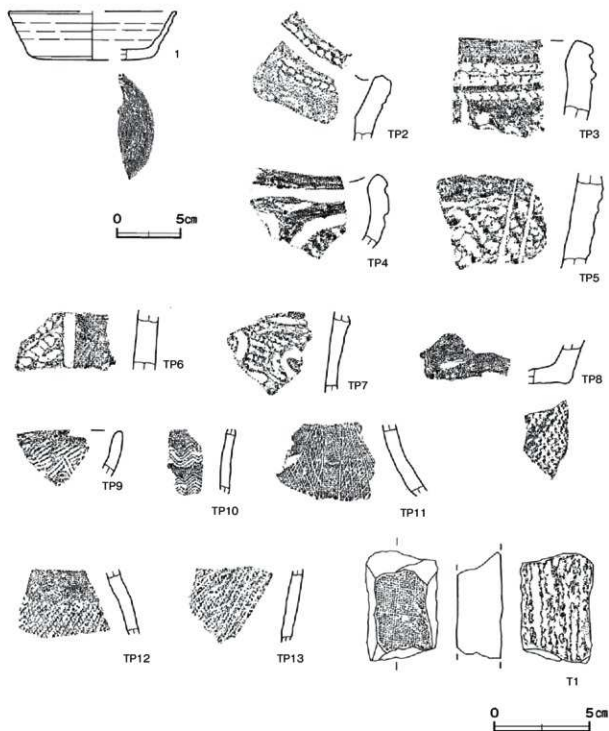


第 236 図 第 18 号溝跡実測図



(3) 遺構外出土遺物 (第 237・238 図)

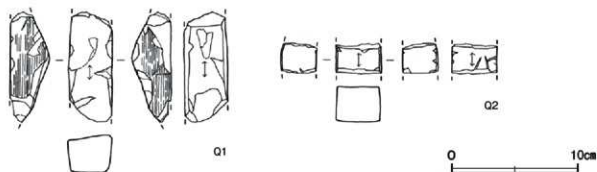
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第 237 図 遺構外出土遺物実測図 (1)

遺構外出土遺物観察表 (第 237・238 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	杯	[132]	3.3	[96]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部下端回転へう開り 底部多方向の開り	表土	37% 黄山層



第238図 遺構外出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	口唇部2列の有節沈線文 口縁に沿って2列の有節沈線文	表土	中期前期
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	口縁に沿って2列の有節沈線文 横位の隆帯に沿って有節沈線文	表土	中期前期
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	横糸文上に沈線を伴う隆帯による区画文	表土	中期後葉
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	横位の隆帯文 体部0段多葉による縄文 平截竹管による懸垂文	表土	中期後葉
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	体部0段多葉による縄文 沈線区画による磨消懸垂文	表土	中期後葉
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	体部半節縄文LR上に沈線による曲線文	表土	後期前期
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐色	底面刷代肌	表土	後期前期
TP 9	弥生土器	広口壺	長石・石英	にぶい橙	新節縄文上に平行沈線による山形文	表土	中期末葉
TP10	弥生土器	広口壺	長石・石英	にぶい橙	頸部7本歯による磨消波状文	表土	後期中葉
TP11	弥生土器	広口壺	長石・石英	にぶい黄褐色	頸部へう状工具による三角文 三角文間斜格子文で光潤	表土	後期中葉
TP12	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	明褐色	頸部無文帯 直面段多葉による縄文施文	表土	後期
TP13	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	付加葉一種(付加2条)による縄文施文	表土	後期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磁石	(8.7)	3.5	3.0	(113.7)	粘板岩	砥面上下2面 側面磨り調整	表土	
Q2	磁石	(2.5)	3.6	2.8	(44.9)	泥岩	砥面上下2面 側面磨り調整	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
T1	平瓦	(5.8)	(3.8)	(2.3)	(68.1)	長石・石英・雲母	褐色	普通	四面布目肌 凸面縄目叩き	表土	

## 第4節 ま と め

今回の調査で、時期が確認できた遺構は、縄文時代早期後葉の土坑1基である。ここでは、縄文時代早期後葉の当遺跡周辺を概観し、まとめとする。

縄文時代早期後葉頃から、地球規模の温暖化が進行し、海面は現在の水準まで上昇して、内海である霞ヶ浦が形成された。そして、貝塚が形成される。当遺跡の近くには、恋瀬川の対岸に三村地蔵窪貝塚<sup>1)</sup>があり、1m以上の厚さがある斜面貝層から、貝類では約80%を占めるハマグリとマガキのほか、ハイガイ、サルボウ、オキシジミ、シオフキなどの鹹水産のものが検出されている。また、魚類としてサメ類、エイ類、クロダイ、サバ類、コチ類など、鳥類・哺乳類として、キジ、ニホンイノシシ、ニホンジカ、アシカ類、ノウサギなども検出されている。時期は早期後葉で、貝殻条痕文系土器が多量に出土している。台地上の地蔵平遺跡では、炉穴が13基確認されている。石岡台地では、恋瀬川の現河口から6kmほど上流に鹹水産の貝塚である染谷高根貝塚<sup>2)</sup>や後生車貝塚<sup>3)</sup>があり、当時の恋瀬川の低地は染谷付近まで海であったと考えられている。石岡台地の遺跡では、当遺跡に隣接している槇堀遺跡<sup>4)</sup>で、早期後葉の炉穴が11基、田島遺跡(南光院地区・南光院下地区)<sup>5)</sup>で前期初頭の堅穴建物跡が3棟確認されている。また、田島遺跡(下地区)の遺物包含層<sup>6)</sup>から前期初頭の遺物が多量に出土している。山王川左岸では、大谷津遺跡<sup>7)</sup>で早期後葉の遺構が、外山遺跡<sup>8)</sup>で早期後葉の茅山式の堅穴建物跡が3棟、それぞれ確認されている。

このように、当地域では、早期後葉頃から集落が営まれ始まっている遺跡が多く見られる。これまでの狩猟や採集の生業の他に、漁労が加わったこの時期に、当地域の人々は内海が望める台地縁辺部に定住し始め、集落を形成するようになるのである。当遺跡も地蔵平遺跡や外山遺跡などと同じように、この時期から集落を営み始めた遺跡と考えられる。

### 註

- 1) 新井秀樹・平岡和夫 『茨城県石岡市地蔵平遺跡・地蔵窪貝塚発掘調査報告書』石岡市教育委員会 1995年3月
- 2) 市毛美津子・海老沢稔・櫻井二郎・川井正一 『石岡市の遺跡 歴史の里の発掘100年史』石岡市教育委員会 1995年3月
- 3) 伊東重敏ほか 『後生車古墳群発掘調査報告書(第2次)』石岡市教育委員会 1987年3月
- 4) 櫻井完介 『槇堀遺跡 一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)事業地内埋蔵文化財調査報告書7』『茨城県教育財団文化財調査報告』第370集 2013年3月
- 5) 小野政美 『田島遺跡(南光院地区・南光院下地区)一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)事業地内埋蔵文化財調査報告書2』『茨城県教育財団文化財調査報告』第287集 2008年3月
- 6) 飯泉達司 『田島遺跡(田島下地区)一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)事業地内埋蔵文化財調査報告書1』『茨城県教育財団文化財調査報告』第253集 2006年3月
- 7) 山本静男 『石岡市都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 兵崎遺跡 大谷津A遺跡 対馬塚遺跡 大谷津B遺跡 大谷津C遺跡 外山遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第13集 1982年3月
- 8) 註7)と同じ

写 真 図 版

東 田 中 遺 跡  
中 津 川 遺 跡



東田中遺跡 縄文時代中期前葉土器集合



平成23年度調査区完掘状況



平成25年度調査区完掘状況

PL2



第3号竖穴建物跡  
完掘状況



第4号竖穴建物跡  
遺物出土状況



第4号竖穴建物跡  
完掘状況

第15号竪穴建物跡  
遺物出土状況



第15号竪穴建物跡  
完掘状況



第16号竪穴建物跡  
完掘状況



PL4



第29号竖穴建物跡  
遺物出土狀況①



第29号竖穴建物跡  
遺物出土狀況②



第29号竖穴建物跡  
完掘狀況





第3号土坑遺物出土状況



第8号土坑遺物出土状況



第10号土坑遺物出土状況①



第10号土坑遺物出土状況②



第10号土坑完掘状況



第16号土坑完掘状況



第18号土坑遺物出土状況



第24号土坑遺物出土状況



第24号土坑完掘状況



第44号土坑完掘状況



第46号土坑遺物出土状況



第46号土坑完掘状況



第49号土坑完掘状況



第55号土坑完掘状況



第68号土坑遺物出土状況



第70号土坑遺物出土状況



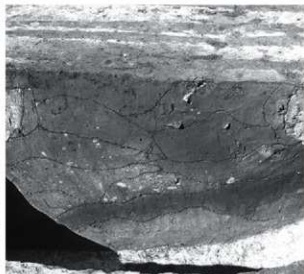
第201号土坑遺物出土状況①



第201号土坑遺物出土状況②



第213号土坑遺物出土狀況



第215号土坑土層断面



第215号土坑完掘狀況



第269号土坑遺物出土狀況



第274号土坑土層断面



第277号土坑完掘狀況

第2号竪穴建物跡  
遺物出土状況



第7号竪穴建物跡  
遺物出土状況①



第7号竪穴建物跡  
遺物出土状況②

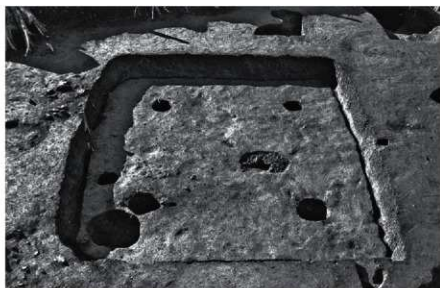




PL10



第7号竖穴建物跡  
炉  
遺物出土状況



第7号竖穴建物跡  
完掘状況



第18号竖穴建物跡  
遺物出土状況①

第18号竪穴建物跡  
遺物出土状況②



第18号竪穴建物跡  
貯藏穴  
遺物出土状況



第18号竪穴建物跡  
完掘状況



PL12



第5号豎穴建物跡  
竈完掘状況



第5号豎穴建物跡  
完掘状況



第11号豎穴建物跡  
完掘状況



第21号竪穴建物跡  
遺物出土状況



第21号竪穴建物跡  
完掘状況



第21号竪穴建物跡  
掘方完掘状況



PL14



第23号竖穴建物跡  
完掘状況



第24号竖穴建物跡  
掘方土层断面



第25号竖穴建物跡  
遺物出土状況①

第25号竪穴建物跡  
遺物出土状況②



第25号竪穴建物跡  
竈完掘状況



第25号竪穴建物跡  
完掘状況



PL16



第26号竖穴建物跡  
遺物出土状況



第26号竖穴建物跡  
完掘状況



第28号竖穴建物跡  
完掘状況

第 323 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 324 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 326 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



PL18



第9号豎穴建物跡  
竈遺物出土狀況



第9号豎穴建物跡  
完掘狀況



第10号豎穴建物跡  
完掘狀況



第1号整地遺構遺物出土状況①



第1号整地遺構遺物出土状況②



第1号整地遺構遺物出土状況③



第1号整地遺構遺物出土状況④



第303号土坑完掘状況



第304号土坑完掘状況





第312号土坑完掘状况



第317号土坑完掘状况



第1号道路跡確認状况



第1号溝跡完掘状况



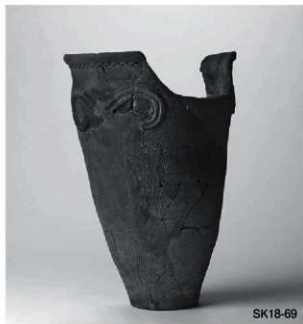
第5号溝跡完掘状况



第1号炭焼窯跡完掘状况













SK13-62



SK13-63

PL26



縄文時代 出土石器















SI 25-245



SK326-266



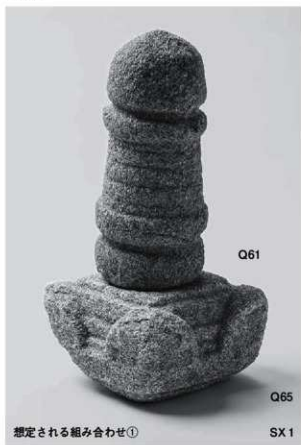
SI 26-254

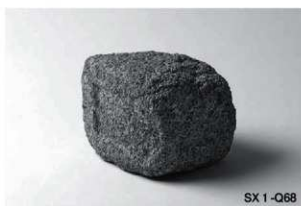
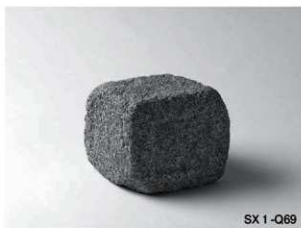


SI 26-253



第10号竪穴建物跡，第1号土器集中地点，第1号整地遺構出土土器









調査区遺構  
確認状況(東部)



調査区遺構  
確認状況(西部)



第583号土坑  
完掘状況



PL38



第10号道路跡  
完掘状況



第18・19号溝跡  
完掘状況



調査区終了状況  
(西部)

## 抄 録

ふりがな	ひがしたなかいせき なかつがわいせき2								
書名	東田中遺跡 中津川遺跡2								
副書名	一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)事業地内埋蔵文化財報告書8								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第407集								
著者名	木村光輝 海老澤稔								
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2016(平成28)年3月18日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
東田中遺跡	茨城県石岡市大字東田中宇宮馬香取地外857の1番地ほか	08205 - 162	36度 10分 17秒	140度 18分 03秒	20 25m	20110701 ～ 20111130 20131001 ～ 20140331	4446㎡  5437㎡	一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)事業に伴う事前調査	
中津川遺跡	茨城県石岡市大字中津川字下富田100の1	08205 - 151	36度 10分 16秒	140度 17分 28秒	20 25m	20140201 ～ 20140228	405㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
東田中遺跡	集落跡	縄文	堅穴建物跡	7棟	縄文土器(深鉢・浅鉢・器台・鈎付土器)、土製品(土器片鉢・耳飾)、石器(打製石斧・磨製石斧・石皿・敲石・磨石・凹石・鏃・搔器・浮子)、石製品(石棒。)				
			堅穴遺構	1基					
	古墳	地点貝塚	1か所						
		土坑	54基						
		遺物包含層	1か所						
	平安	堅穴建物跡	12棟	土師器(坏・鉢・埴・器台・高坏・小形甕・甕・小形甕・甕・瓶・手捏土器)、土製品(舟形。・土玉・管状土鉢・支脚)、石器(磨石・砥石、石製品(管玉))					
		掘立柱建物跡	3棟						
堅穴遺構		1基							
鎌倉	倉町	土坑	10基						
		堅穴建物跡	2棟	土師器(坏・高台付椀・椀・小皿・高台付皿)、鉄製品(棒状製品)					
		土器集中地点	1か所						
葛城	室町	整地遺構	土坑	1基	土師質土器(小皿)、青白磁(梅瓶)、陶器(平碗)、銭貨(熙寧元寶)				
			土坑	8基					
	その他	江戸以降	整地遺構	1か所	土師質土器(小皿)、石製品(宝篋印塔・五輪塔)				
			土坑	1基	金銅製品(鉄砲玉)、銭貨(寛永通寶)				
			遺跡跡	2条					
溝跡	溝跡	7条							
	柱穴列	1条							
時期不明	炭焼窯跡	土坑	1基	縄文土器(深鉢)、弥生土器(広口壺)、石器(磨製石斧・敲石)、鉄製品(板状製品)					
		土坑	51基						
		柱穴列	5条						
中津川遺跡	集落跡	縄文	土坑	1基	縄文土器(深鉢)				
			その他	江戸以降	遺跡跡	1条	陶器(碗)、鉄製品(釘)		
	溝跡	溝跡	1条						
時期不明		土坑	1基	縄文土器(深鉢)、弥生土器(広口壺)、須恵器(坏)、瓦、石器(砥石)					
溝跡	時期不明	土坑	溝跡	1条					
			溝跡	1条					
要約	東田中遺跡は、縄文時代から江戸時代以降にかけて、断続的に土地利用がなされた複合遺跡である。縄文時代中期の堅穴建物跡や袋状土坑から出土した多量の土器群は、当地域の土器様相を知ることのできる好資料である。古墳時代前期の堅穴建物跡からは、削られた状態で有段口縁の壺が4個体出土し、当時の祭壇行為がうかがえる。室町末期の整地域内の土坑からまともな出土した石塔部材は、当地域の人々が先祖を供養するため、埋納したものと考えられる。今回調査した中津川遺跡の調査区域は、集落の周辺地域にあたる。								

## 印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Professional ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS6
	図版作成	Adobe Illustrator CS6
	写真調整	Adobe Photoshop CS6
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類 EPSON ES-G11000
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷	印刷所へは、	Adobe InDesign CS6でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第407集

### 東田中遺跡 中津川遺跡2

一般国道6号千代田石岡バイパス  
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)  
事業地内埋蔵文化財調査報告書B

平成28(2016)年 3月15日 印刷

平成28(2016)年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 佐藤印刷株式会社

〒310-0043 水戸市松が丘2丁目3-23

TEL 029-251-1212

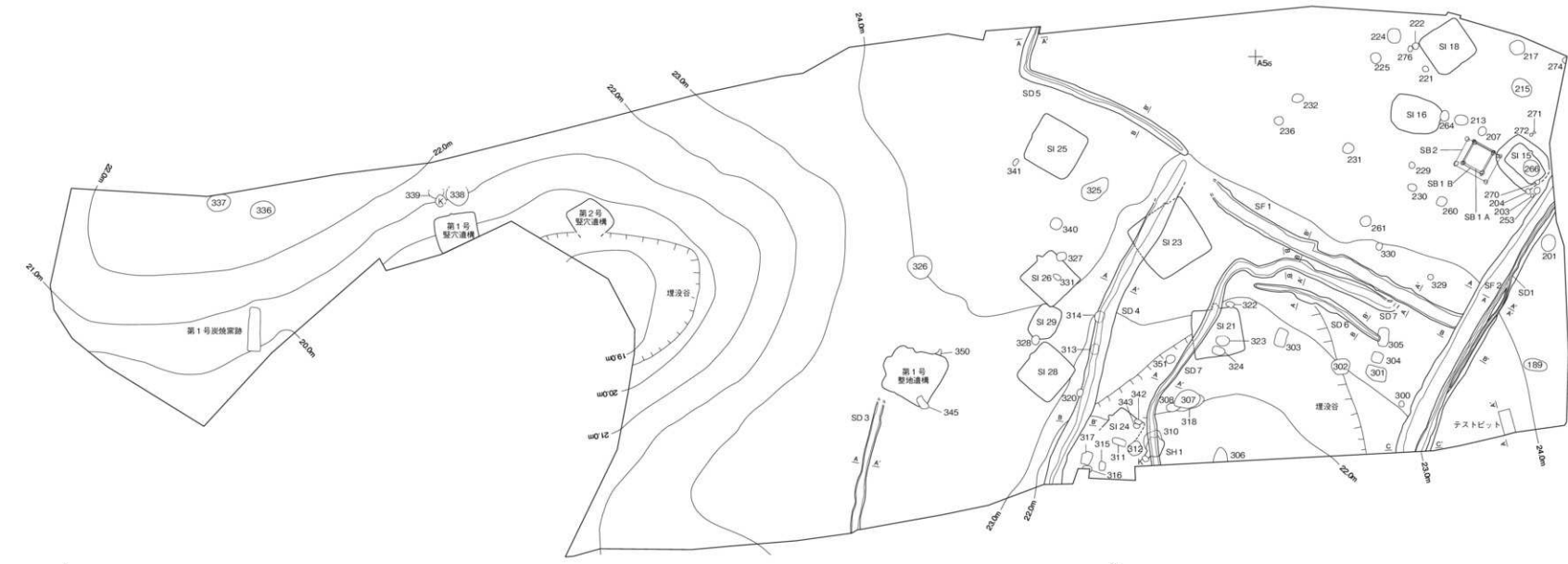
# 付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第407集

東田中遺跡遺構全体図



X=+19,416m Y=+42,000m  
A2<sub>1</sub>

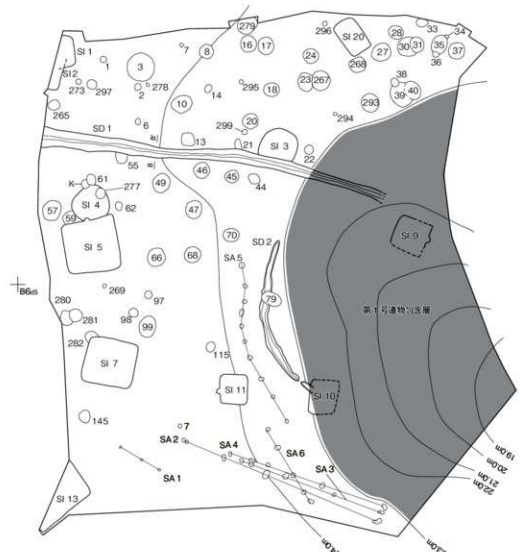


X=+19,344m Y=+42,000m  
C2<sub>1</sub>

C3<sub>1</sub>

X=+19,416m Y=+42,100m  
A5<sub>1</sub>

X=+19,344m Y=+42,100m  
C5<sub>1</sub>



X=+19,344m Y=+42,000m  
C7<sub>1</sub>



付図 東田中遺跡遺構全体図 (『茨城県教育財団文化財調査報告』第407集)